

大学院国際文化研究科
国際文化システム専攻（修士課程）便覧

令和2年度

ACADEMIC YEAR 2020



名桜大学大学院 国際文化研究科
国際文化システム専攻（修士課程）
Graduate School of International Cultural Studies
Department of International Cultural Systems
(Master Program)
Meio University

目 次

1. 国際文化研究科 教育目的・教育目標	1
2. 国際文化研究科 3つのポリシー	1
3. 学則及び諸規程	
(1) 名桜大学学則	5
(2) 名桜大学大学院学則	19
(3) 名桜大学学位規則	39
(4) 名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）規程	46
(5) 名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）倫理委員会規程	56
(6) 名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）の学位論文審査及び最終試験に関する取扱要項	60
(7) 名桜大学大学院国際文化研究科修士論文 執筆要領	65
(8) 名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）研究生規程	66
(9) 名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）長期履修学生規程	69
(10) 欠席及び成績評価の対象等に関する申合せ	73
(11) 暴風雨時の授業の取り扱いに関する申合せ	79
(12) 名桜大学大学院学生研究支援補助金支給内規	80
(13) 名桜大学大学院奨学金規程	81
(14) 名桜大学の授業料免除及び徴収猶予取扱規程	84
(15) 名桜大学附属図書館利用規程	87
(16) 名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻修士課程委員会規程	91
(17) 名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）の領域主任会議に関する申し合せ	93
4. 授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要, シラバス	
(1) 授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要	
①共通科目	95
②言語文化教育研究領域	96
③社会制度政策教育研究領域	101
④経営情報教育研究領域	104
⑤観光環境教育研究領域	108
⑥健康科学教育研究領域	112
(2) シラバス	
①共通科目	115
②言語文化教育研究領域	121
③社会制度政策教育研究領域	161
④経営情報教育研究領域	175
⑤観光環境教育研究領域	201
⑥健康科学教育研究領域	217
5. 履修モデル, 沖縄県内4大学の人文社会科学系大学院間単位互換協定 名桜大学大学院教員名簿, 建物配置図	
(1) 履修モデル	233
(2) 沖縄県内4大学の人文社会科学系大学院間単位互換協定	234
(3) 名桜大学大学院国際文化研究科 教員名簿	235
(4) 建物配置図	237

国際文化研究科
国際文化システム専攻
(修士課程)

教 育 目 的 的 標 一
教 育 目 標 一
3 つ の ポ リ シ ー

1. 国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程） 教育目的・教育目標

(1) 教育目的

広い視野に立って精深な学識を授け、高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力及び専攻分野における研究能力を養うことを目的とする。

(2) 教育目標

名桜大学大学院国際文化研究科修士課程では、グローバル化、情報化が進展する国内外における諸課題の解決に必要な高度に専門的知識と広い視野を持つ人材を養成する。

- (1) 高度の専門職業人の養成
- (2) 高度の研究能力を有する教育・研究者の養成
- (3) 地域の産業及び社会文化の振興の諸課題に的確にかつ柔軟に対応できる人材の養成

2. 国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程） 3つのポリシー

(1) ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与方針）

国際文化研究科は、以下の能力を身につけた大学院生に修士（国際文化学）の学位を授与します。

- (1) 豊かな教養，深い専門性，高い倫理性に支えられた高度な研究能力
- (2) 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるため生涯学習力
- (3) 自由な発想で課題を発見し，批判的・論理的に思考し，解決する力
- (4) 多様な文化と視点を理解・尊重し，自らの意見を明晰に表現する力

(2) カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与方針）であげた能力を育成するため，以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

- (1) 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性に支えられた高度な研究能力を育成できるカリキュラムを編成する。
- (2) 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
- (3) 全ての学生を対象として、修士論文の中間評価を行うとともに、修士論文審査に合格することを修了の条件とする。

- (4) 国際的かつ学際的な広い視野と洞察力を持って問題を解決するために、総合的・科学的に取り組むことができる高度な能力を養うことを目的として、「共通科目」及び以下の各領域の「教育研究領域科目」を配置する。

【言語文化教育研究領域】

沖縄と日本に加え、環太平洋地域（アジア、中南米、北米地域）の言語と文化を探求する人材を養成するための科目等を配置する。

【社会制度政策教育研究領域】

グローバル化、情報化が進展する国内・国際社会において、広い視野と洞察力を持って問題を解決する人材を養成するための科目等を配置する。

【経営情報教育研究領域】

グローバルな立場から地域社会や国際社会問題を俯瞰的・客観的に分析し、地域の経済、産業、情報化を担う人材を養成するための科目等を配置する。

【観光環境教育研究領域】

観光に関する学術的な研究を通じて、沖縄をはじめとする諸地域が直面する問題に総合的かつ科学的に取り組む人材を養成するための科目等を配置する。

【健康科学教育研究領域】

国際的かつ学際的な視野と人間の健康に関する総合的な知識・技能を養うとともに、自立的・創造的な高度の研究に取り組む人材を養成するための科目等を配置する。

(3) アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）の教育目標を達成するために、本研究科に入学を希望する人には以下のことを求めます。

- (1) 強い研究意欲を有し、何事にも主体的に取り組む姿勢を持っていること。
- (2) 専門分野の基本的な研究手法を活用し、現代社会の課題を正確に理解・分析したうえで、その結果を様々な方法で創造的に表現できること。
- (3) 本研究科教育課程で学ぶために必要な基本的知識・技能を有すること。

なお、各教育研究領域では次のような人材を求める。

【言語文化教育研究領域】

言語を中心とする人間の文化に関する独創的な研究を計画し遂行することを目的とし言語や文化の領域でグローバルな視点から貢献できる人材

【社会制度政策教育研究領域】

グローバル化が進展する現代社会を背景にして、国内諸問題に関心を寄せ、歴史、政治、経済、法律、国際関係などの視点から究明し、その解決策を提言する政策立案者、研究者を目指す人材

【経営情報教育研究領域】

専門的職業人として地域の経済、産業、情報化、人材育成に貢献できる高い研究意欲を有する人材

【観光環境教育研究領域】

観光を文化、亜熱帯性・海洋性・島嶼性に関する環境、政治経済の視点から研究するために観光学についての基盤となる知識を有する人材

【健康科学教育研究領域】

人間の健康とスポーツの諸科学についての基本的な理解と、今後の展開について考究し、地域社会や国際社会の健康に関して健康科学の視点から学術的に探究できる人材

学則及び諸規程

授業科目名・単位数・担当教員
名・授業科目の概要、シラバス

シラバス
共通科目

シラバス
言語文化

シラバス
社会制度

シラバス
経営情報

シラバス
観光環境

シラバス
健康科学

履修モデル・県内4大学の大学院間単位
互換協定・大学院教員名簿・建物配置図

第1章 総則

第1節 目的

(目的)

第1条 本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき深く専門の学芸を教授研究し、幅広い知識を授け、世界の文化の進展と人類の平和に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

第2節 組織

(学群及び学部)

第2条 本学に次の学群及び学部（以下「学部等」という。）を置く。

国際学群

人間健康学部

2 前項の学部等に置く学科等及びその入学定員、編入学定員、収容定員は、次のとおりとする。ただし、編入学定員は3年次定員とする。

学群・学部	学類・学科	入学定員	編入学定員	収容定員
国際学群	国際学類	280人	15人	1150人
人間健康学部	スポーツ健康学科	95人	5人	390人
	看護学科	80人	5人	330人
計		455人	25人	1870人

3 前項に規定する国際学群の入学定員中15人は外国人留学生とする。

(大学院)

第2条の2 本学に大学院を置く。

2 大学院に関する規程は、別に定める。

(助産学専攻科)

第2条の3 本学に助産学専攻科を置く。

2 助産学専攻科に関する規程は、別に定める。

(附属図書館)

第3条 本学に附属図書館を置く。

2 附属図書館に関し必要な事項は、別に定める。

第3条の2 本学に附属研究所を置く。

2 附属研究所に関し必要な事項は、別に定める。

(事務局)

第4条 本学に事務局を置く。

2 事務局の組織に関し必要な事項は、別に定める。

第3節 職員

(職員)

第5条 本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及びその他必要な職員を置く。

2 職制に関し必要な事項は、別に定める。

(学長)

第5条の2 学長は、校務をつかさどり、職員を統督する。

(副学長)

第5条の3 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

2 副学長に関し必要な事項は、別に定める。

第4節 教育研究審議会及び教授会

(教育研究審議会)

第6条 本学の教育研究に関する重要事項を審議するため、教育研究審議会を置く。

2 教育研究審議会の運営に関する規定は、別に定める。

(教授会)

第6条の2 本学の学部等に教授会を置く。

2 教授会の組織及び運営に関する事項は、別に定める。

第5節 学年、学期及び休業日

(学年)

第7条 本学の学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第8条 学年を次の2学期に分け、学期ごとに授業科目を開設し、第15条に定めるところにより単位の認定を行う。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年の3月31日まで

2 学長は、前項の学期の期間を必要に応じて変更することができる。

(休業日)

第9条 休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日及び土曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律178号）に規定する休日

(3) 沖縄県慰霊の日 6月23日

(4) 創立記念日 12月21日

- (5) 夏季休業 8月1日から9月30日まで
 - (6) 冬季休業 12月21日から翌年1月4日まで
 - (7) 春季休業 3月1日から3月31日まで
- 2 学長は、前項の休業日を必要に応じて変更することができる。
 - 3 臨時休業日は、その都度学長が定める。
 - 4 休業日の期間中でも必要な実習その他を課することができる。

第2章 修業年限及び在学期間

(修業年限)

- 第10条 本学の修業年限は、4年とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、学生が職業を有している等の事情により、修業年限を越えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、支障のない場合に限り、その計画的な履修（以下「長期履修」という。）を認めることができる。
 - 3 長期履修の取扱いに関する細則は、別に定める。

(在学期間)

- 第11条 学生は、修業年限の2倍を超えて在学することができない。
- 2 前項の規定に関わらず、第23条の規定により入学した者は、4年を超えて在学することができない。
 - 3 第1項の規定に関わらず、第24条第1項及び第25条第1項の規定により入学した者は、入学後の在学すべき年数の2倍を超えて在学することができない。

第3章 教育課程

(教育課程の編成方針)

- 第12条 本学は、学部等及び学科等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、学部等及び学科等ごとに体系的な教育課程を編成するものとする。

(人材養成の目的)

- 第12条の2 学部等の人材養成の目的を次のとおり定める。

(1) 国際学群・国際学類

平和・自由・進歩の建学の精神に基づいた幅広い教養と国際的な言語文化、情報及び観光分野で活躍できる有為な人材を養成する。

(2) 人間健康学部

平和・自由・進歩の建学の精神に基づいた幅広い教養と調和のとれた知・徳・体をそなえた人材及び心身の健康を支援する有為な人材を養成する。

ア スポーツ健康学科

人間の「こころ」と「からだ」を科学的に研究し、人格の尊重、生命の尊厳を指導できる資質をそなえた健康支援の人材を養成する。

イ 看護学科

人間としての尊厳・健康に生きる権利を擁護し、自己評価能力・自己教育力を身につけ、広く社会に貢献できる看護職者を養成する。

(教育研究上の目的)

第12条の3 学部等の教育研究上の目的を次のとおり定める。

(1) 国際学群・国際学類

地域の自然と文化及び歴史的、地理的、社会的背景を基礎に、グローバル化する国際情勢に対応して、学際的、理論的、実践的及び比較的研究を通じ、その応用を展開する。

(2) 人間健康学部

ア スポーツ健康学科

人間理解、健康理解を基礎として、食生活・栄養、運動・スポーツ、心理、社会福祉、保健・医療の幅広い視点に立った多面的角度から「スポーツと健康」を探求・究明する。

イ 看護学科

地域に根ざしたケアリング文化を発掘・継承・発展させ、人類の健康増進に務め且つ看護学のグローバルな発展に寄与することを目的に教育研究活動を推進する。

(授業科目の名称及び単位数等)

第13条 本学における授業科目の名称並びに単位数は別表1から別表4のとおりとする。

- 2 授業科目は、必修科目、選択科目及び自由科目とする。
- 3 外国人留学生対象の外国語教育科目の種類及び単位数は、別表5のとおりとする。
- 4 卒業に必要な単位数は、別表6-1及び別表6-2のとおりとする。

(単位の計算方法)

第14条 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業及び授業時間外に必要な学修を考慮し、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
 - (3) 講義又は演習及び実験、実習又は実技の二つ以上の方法で構成される授業科目については、上記(1)及び(2)を勘案し、16時間から45時間をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目については、必要な学修の成果を考慮して、単位数を定めることができる。

(単位の授与)

第15条 授業科目を履修した者には、試験及び出席状況その他によって認定の上、単位を与える。

(成績評価)

第16条 授業科目の成績は、秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)及び不可(59点以下)の5種類の評語をもって表し、秀、優、良及び可を合格とし不可を不合格とする。ただし、実習の場合は、合格又は不合格の評語をもって表すことができる。

(授業日数)

第17条 学年の授業日数は、定期試験の日数も含め、35週にわたることを原則とする。

第4章 入学，編入学，転入学及び再入学

(入学)

第18条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、再入学及び外国人学生の入学については、学期の始めとすることができる。

(入学資格)

第19条 本学の入学資格は、次のとおりとする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有する者として認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定(以下「旧検定」という。)に合格した者を含む。)
- (7) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、当該者をその後に入学させる大学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (9) 大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

(入学志願手続)

第20条 入学を志願する者は、所定の期日までに入学願書に入学検定料及び別に定

める書類を添えて願出しなければならない。

(入学者の選抜)

第21条 入学志願者に対しては、選抜試験を行う。

(入学手続及び入学許可)

第22条 選抜試験の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、誓約書、保証書その他必要な書類を提出しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(編入学)

第23条 編入学の入学資格は、次のとおりとする。

(1) 大学を卒業した者又は大学に2年以上在学し60単位以上を修得した者

(2) 短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者

(3) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第92条の3に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了し又は卒業した者

2 編入学を志願する者は、所定の期日までに編入学願書に編入学検定料及び別に定める書類を添えて願出しなければならない。

3 編入学志願者に対しては、選抜試験を行う。

4 選抜試験の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、誓約書、保証書その他必要書類を提出しなければならない。

5 学長は、前項の編入学手続を完了した者に編入学を許可する。

(転入学)

第24条 他の大学に在学中の者で、本学に転入学を志願する者がいるときは、欠員のある場合に限り、学長は、相当年次に入学を許可することができる。

2 転入学を希望する者は、現に在学する大学の学長の許可書を願書に添付しなければならない。

3 前2項に定めるもののほか、転入学に関し必要な事項は別に定める。

(再入学)

第25条 次の各号の一に該当する者で、同一学科に再入学を志願する者がいるときは、学長は、相当年次に入学を許可することができる。

(1) 第28条による退学者

(2) 第29条第5号、第6号及び第7号の規定により除籍された者

2 前項に定めるもののほか、再入学に関し必要な事項は別に定める。

第5章 休学、復学、退学、除籍、転学部等、転学科及び転学

(休学)

第26条 病気その他の理由により修学を中止しようとする者は、医師の診断書又は理由書を添えて願出、学長の許可を得て休学することができる。

- 2 学長は、病気その他の理由により修学が不相当と認められる者に対して、必要な期間休学を命ずることができる。
- 3 休学期間は、当該学期又は学年の終わりまでとする。ただし、特別の理由があるときは、休学期間を延長することができる。
- 4 休学期間は通算して4年を超えることはできない。
- 5 前項の規定に関わらず、第23条の規定により入学した学生の休学期間は、通算して2年を超えることはできない。
- 6 第4項の規定に関わらず、第24条第1項及び第25条第1項の規定により入学した学生の休学期間は、入学後の在学すべき年数を超えることができない。
- 7 休学期間は、第10条に規定する修業年限及び第11条に規定する在学期間に算入しない。

(復学)

第27条 休学期間を満了した者、又は休学期間満了前にその理由が消滅した者は、所定の期日までに願い出、学長の許可を得て復学することができる。

- 2 病気による休学者が復学しようとするときは、医師の診断書を添付するものとする。

(退学)

第28条 退学しようとする者は、学長の許可を得なければならない。

(除籍)

第29条 次の各号の一に該当する者は、学長が、これを除籍する。

- (1) 長期間にわたり行方不明の者
- (2) 在学期間を超えた者
- (3) 第26条第4項、第5項及び第6項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- (4) 病気その他の理由により、成業の見込みがないと認められる者
- (5) 休学期間満了後督促してもなお所定の手続きをしない者
- (6) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (7) 卒業に要する最終学年を除く一学年の修得単位(第35条により認定された単位は除く。)が16単位未満の者

(転学部等)

第30条 本学の学生で、他の学部等への転出(以下「転学部等」という。)を志望する者があるときは、学長は、相当年次に転学部等を許可することができる。

- 2 前項に規定するもののほか、転学部等については、別に定める。

(転学科)

第30条の2 本学の学生で、転学科を志願する者があるときは、学長は、相当年次に転学科を許可することができる。

- 2 前項に規定するもののほか、転学科については、別に定める。

(転学)

第31条 本学の学生で他の大学へ入学又は転入学しようとする者は、学長の許可を

得なければならない。

第6章 卒業及び学位

(卒業)

第32条 本学に第10条に規定する修業年限在学し、第13条第4項に規定する単位を修得した者には、学長が卒業を認定する。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修)

第33条 学長は、教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第34条 学長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項に与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位の認定)

第35条 学長は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学等において履修した授業科目について修得した単位(第39条及び第40条の規定により履修した単位を含む。)を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 学長は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第33条第1項及び第2項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(教員の免許状授与の所要資格の修得)

第35条の2 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)の定めるところに従い、別表7の授業科目を履修し、単位を修得しなければならない。

2 本学において当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、別表8に掲げるとおりとする。

(学位)

第36条 本学を卒業したものには、学士の学位を授与する。

2 学位に関し必要な事項は、別に定める。

第7章 学費

(学費及びその他の納入金)

第37条 本学の学費は、諸納入金の種類及び額等については、公立大学法人名桜大学学費及び諸納入金に関する規程の定めるところによる。

第8章 研究生、科目等履修生、委託生、特別聴講学生及び聴講生

(研究生)

第38条 本学において、特定の専門事項について研究しようとする者があるときは、教育研究に支障のない場合に限り、学長は、当該学部等の教授会の議を経て研究生として入学を許可することができる。

2 研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第39条 本学において、授業科目の履修を希望する者があるときは、教育に支障のない場合に限り、学長は、当該学部等の教授会の議を経て科目等履修生として入学を許可することができる。

2 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

(委託生)

第40条 本学に、官庁、公共団体その他の団体より委託生受け入れの要請があるときは、教育に支障のない場合に限り、学長は、当該学部等の教授会の議を経て委託生として入学を許可することができる。

2 委託生に関し必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第41条 他の大学等との協議に基づき、当該大学等の学生に授業科目の履修を認めることができる。

2 前項の規定により授業科目の履修が認められた学生は、特別聴講学生と称する。

(聴講生)

第41条の2 学外者が本学の授業科目の聴講を希望する場合、学長は、聴講生として受け入れることができる。

2 聴講生に関し必要な事項は、別に定める。

第9章 公開講座

(公開講座)

第42条 大学の教育を広く社会に開放し、生涯学習に対する要望に応えるとともに、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

第10章 賞罰

(表彰)

第43条 学生として表彰に価する行為があった者は、学長は、これを表彰する。

(懲戒)

第44条 学生が、本学の規則に違反し、または学生としての本分に反する行為があったときは、学長は、これを懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、訓告、停学又は退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
- (3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第11章 寄宿舍

(寄宿舍)

第45条 本学に寄宿舍を置く。

2 寄宿舍に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この学則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成10年3月27日）

1 この学則は、平成10年4月1日から施行する。

2 平成10年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成11年3月26日）

1 この学則は、平成11年4月1日から施行する。

2 平成11年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成12年3月29日）

- この学則は、平成12年4月1日から施行する。
- 改正後の第2条第2項の規定にかかわらず、国際学部の国際文化学科、経営情報学科及び観光産業学科の平成12年度から平成14年度までの収容定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	平成12年度	平成13年度	平成14年度
国際学部	国際文化学科	470人	470人	465人
	経営情報学科	470人	470人	465人
	観光産業学科	470人	470人	465人
計		1410人	1410人	1395人

- 平成12年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。
- 改正後の第37条の3及び別表5の規定は、平成12年4月1日を休学及び入学の始期とする者から適用する。

附 則（平成13年3月28日）

- この学則は、平成13年4月1日から施行する。
- 平成13年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成14年3月29日）

- この学則は、平成14年4月1日から施行する。
- 平成14年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成14年7月31日）

この学則は、平成14年7月31日から施行し、改正後の第37条の2及び第37条の4の規定は、平成14年4月1日から適用する。

附 則（平成15年3月28日）

- この学則は、平成15年4月1日から施行する。
- 平成15年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成16年3月28日）

- この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 平成16年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成17年3月29日）

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 平成17年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成18年3月29日）

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成18年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成19年3月27日）

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 平成19年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成20年3月27日）

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成20年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成20年11月28日）

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成21年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成22年3月4日）

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成23年1月26日）

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成23年9月28日）

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成24年10月24日）

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成25年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成25年10月24日）

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成26年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成26年9月27日）

- 1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成27年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成27年3月28日）

- 1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 国際学部国際文化学科，経営情報学科，観光産業学科は，平成27年3月31日をもって廃止する。

附 則（平成27年9月30日）

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成28年9月27日）

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成28年12月21日）

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成29年9月29日）

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 平成30年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成30年3月29日）

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 平成30年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（平成31年2月15日）

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成31年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則（令和2年2月17日）

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 令和2年3月31日に在学する者には、改正後の第13条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この学則は、名桜大学学則（以下「本学学則」という。）第2条の2第2項の規定に基づき、名桜大学大学院（以下「大学院」という。）に関し必要な事項を定める。

(大学院の目的)

第2条 本大学院は、広い視野に立って精深な学識を授け、高度の専門性を要する職業等に必要高度の能力及び専攻分野における研究能力を養うことを目的とする。

(養成する人材)

第2条の2 大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）は、グローバル化、情報化が進展する国内外における諸課題の解決に必要な高度に専門的知識と広い視野を持つ人材を養成する。

- (1) 高度の専門職業人の養成
- (2) 高度の研究能力を有する教育・研究者の養成
- (3) 地域の産業及び社会文化の振興の諸課題に的確にかつ柔軟に対応できる人材の養成

2 大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）は、高度の外国語運用能力を駆使し、沖縄（琉球）・アジアと（ハワイを含む）南北アメリカに特化した環太平洋の地域文化の研究を行い、地域社会や国際社会において活躍できる研究者の養成を目指す。

- (1) 高度の普遍的な研究能力を有する研究者の養成
- (2) 地域の社会文化振興の諸課題に的確かつ柔軟に対応できる研究者の養成

3 大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）は、地域に根ざし地域の健康問題を創造的に解決していく卓越した看護実践能力の育成と看護現象の解明を目的とした研究能力の開発、看護の新たな価値の創出を目指す人材を養成する。

- (1) 高度の専門職業人の養成
- (2) 高度の研究能力を有する教育・研究者の養成

(自己評価等)

第3条 前条の目的を達成するため、大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価し、公表する。

- 2 前項の点検及び評価を行うに当たっては、同項の趣旨に則して適切な項目を設定するとともに、適当な体制を整えて行う。
- 3 自己点検及び評価に関し必要な事項は、別に定める。

(研究科及び専攻)

第4条 大学院に、次の研究科及び専攻を置く。

- (1) 国際文化研究科 国際文化システム専攻 (修士課程)
- (2) 国際文化研究科 国際地域文化専攻 (博士後期課程)
- (3) 看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)

2 研究科に関し、必要な事項は別に定める。

(入学定員及び収容定員)

第5条 大学院の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

研究科・専攻	課程	入学定員	収容定員
国際文化研究科 国際文化システム専攻	修士課程	6人	12人
国際文化研究科 国際地域文化専攻	博士後期課程	2人	6人
看護学研究科看護学専攻	修士課程	6人	12人

第2章 教員組織等

(教員組織)

第6条 大学院における研究の指導は、原則として本学専任教授が行い、授業は、教授、准教授、講師又は助教が担当する。ただし、必要がある場合は、兼任教員が担当することができる。

2 大学院に客員教授を置くことができる。客員教授に関し必要な事項は、別に定める。

(教育職員と事務職員の連携と協働)

第6条の2 本学大学院は、教育研究活動等の組織的かつ効果的な運営を図るため、教育職員と事務職員との適切な役割分担の下で連携体制を確保し、協働して職務を行うものとする。

第3章 運営組織

(大学院委員会)

第7条 大学院に、名桜大学大学院委員会 (以下「委員会」という。) を置く。

2 委員会は、学長が招集し、その議長となる。

3 学長に事故あるとき又は欠けたときは、委員会においてあらかじめ選出された者が招集しその議長となる。

(委員会の構成)

第8条 委員会の構成は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
 - (2) 副学長
 - (3) 研究科長
 - (4) 学群長、学部長
 - (5) 附属図書館長
 - (6) 総合研究所長
 - (7) 大学院研究科を担当する専任の教授のうちから選出された者 5名
- 2 前項第7号の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
 - 3 前項第7号の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
 - 4 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。
 - 5 委員会の議事は、委員会の議を経て、学長が決定する。
 - 6 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を求めることができる。

(委員会の審議事項)

第9条 委員会は、次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学及び課程の修了に関すること。
 - (2) 学位の授与に関すること。
 - (3) 教育課程の編成に関すること。
 - (4) 大学院担当教員の教育研究業績審査に関すること。
 - (5) その他学長が必要とする教育研究に関する重要事項に関すること。
- 2 委員会は、前項に規定するもののほか、次の事項を審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。
 - (1) 大学院に係る学則及び規程等に関すること。
 - (2) 大学院の点検及び評価に関すること。
 - (3) 大学院の授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究に関すること。
 - (4) 大学院に係る人事、予算、行事及び施設整備等に関すること。
 - (5) 履修方法に関すること。
 - (6) 学生の身分及び賞罰に関すること。
 - (7) 試験、成績判定及び論文審査に関すること。
 - (8) その他大学院に関する重要事項

(研究科長)

第10条 大学院に研究科長を置き、大学院研究科を担当する教授のなかから学長が指名し、理事長に推薦するものとする。

- 2 研究科長は、各専攻の運営を総括する。
- 3 研究科長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(研究科委員会)

第11条 大学院に研究科委員会を置く。

- 2 研究科委員会の組織及び運営に関し、必要な事項は別に定める。

第12条 削除

第4章 学年、学期、休業日及び授業時間

(学年等の準用)

第13条 大学院の学年、学期及び休業日については、本学学則第7条から第9条の規定を準用する。

第5章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第14条 大学院の標準修業年限は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 修士課程 2年
- (2) 博士後期課程 3年

- 2 前項の規程にかかわらず、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を越えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを申し出たときは、支障のない場合に限り、その計画的な履修（以下「長期履修」という。）を認めることができる。
- 3 長期履修の取扱いに関する細則は、別に定める。

(在学年限)

第15条 大学院における在学年限は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 修士課程は4年を超えることはできない。
- (2) 博士後期課程は6年を超えることはできない。

第6章 入学、休学、復学、転学、留学、退学及び除籍等

(入学の時期)

第16条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、特別の必要があり、かつ教育上支障がないと委員会が認めるときは、学期の始めとすることができる。

(入学資格)

第17条 大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 学校教育法第83条（昭和22年法律第26号）に定める大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (6) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育法における16年の課程を修了したとされる者に限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 大学院において個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等の学力があると認められた者で、22歳に達したもの
- (10) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと委員会が認める者
- (11) その他、委員会が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

2 大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総合決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者

(6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(7) 文部科学大臣の指定した者

(8) 大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの

3 大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 看護系大学を卒業した者

(2) 看護系以外の大学を卒業し、看護師、保健師、助産師のいずれかの免許を有する者

(3) 看護系の大学を卒業した者と同等以上の学力があると本研究科が認めた者

(4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者

(5) 専修学校の専門課程で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者

(6) 文部科学大臣が指定した者（昭和28年文部省告示第5号）

（入学志願）

第18条 大学院に入学を志願する者は、入学願書及び所定の書類に入学検定料を添えて、指定の期日までに手続きをしなければならない。

（入学者の選抜）

第19条 入学志願者に対しては、選抜を行い、委員会の議を経て学長が合格者を決定する。

2 前項の選抜は、学力検査、出身大学の調査書、健康診断書等を総合して行うものとする。

3 前項の選抜の方法、時期、内容等については、その都度定める。

（入学手続き及び入学許可）

第20条 合格の通知を受けた者は、所定の期日までに保証人連署の誓約書、身上調書等を提出するとともに、第44条に定める入学金及び授業料等を納入しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に対して入学を許可する。ただし、入学科又は授業料の免除を願い出た者については、その未納にかかわらず入学を許可することができる。

（再入学）

第21条 学長は、第26条の規定による退学者で、再入学を志願する者については、相当年次に入学を許可することができる。

（転入学）

第22条 学長は、他の大学院の学生で転入学を志願する者については、欠員のある場合に限り、相当年次に入学を許可することができる。

2 転入学を希望する者は、現に在学する他大学院研究科長の許可書を願書に添付するものとする。

る。

(休学)

第23条 病気その他止むを得ない理由により3か月以上修学することができない者は、休学願に医師の診断書、その他の理由書を添えて休学することができる。

2 学長は、病気その他の理由により、修学することが適当でないと認められる者については、休学を命ずることができる。

(休学期間)

第24条 休学期間は、当該学期又は学年の終わりまでとする。ただし、特別の理由があるときは、休学期間を延長することができる。

2 休学期間は、通算して次の各号に定める年数を超えることはできない。

(1) 修士課程 2年

(2) 博士後期課程 3年

3 休学期間は、第15条に定める在学年限には算入しない。

(復学)

第25条 休学期間を満了した者、又は休学期間満了前にその理由が消滅した者は、所定の期日までに願い出て学長の許可を得て復学することができる。なお、第23条第2項の休学でその理由が消滅した者は、学長の許可を得て復学することができる。

2 病気による休学者が復学しようとするときは、医師の診断書を添付するものとする。

(退学)

第26条 大学院を退学しようとする者は、退学願を提出して、学長の許可を得なければならない。

(転学)

第27条 他の大学院に転学しようとする者は、転学願を提出し、学長の許可を得なければならない。

(留学)

第28条 学長は、外国の大学院へ留学を希望する者については、留学願を提出させ、留学を許可することができる。

2 前項による留学は、外国の大学院の在学期間1年に限り、本学における在学期間に算入することができる。

3 留学に関し必要な事項は、別に定める。

(除籍)

第29条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

(1) 第15条に定める在学年限を超えた者

(2) 第24条第2項に定める休学期間を超えて、なお修学できない者

- (3) 病気その他の理由により、成業の見込がないと認められる者
- (4) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (5) 休学及び休学延長の許可を得ない者
- (6) 長期間にわたり行方不明の者

2 前項により除籍された者は、原則として再入学をすることはできない。

第7章 教育課程及び履修方法等

(教育課程の編成方針)

第30条 大学院は、当該大学院、研究科長及び専攻の教育研究上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）の計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。

(授業及び研究指導)

第30条の2 大学院の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行う。

(教育の内容等の改善のための組織的な研修等)

第30条の3 大学院は、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るため組織的な研修及び研究を実施する。

(授業科目及び単位数)

第31条 大学院研究科における授業科目及び単位数は、別表1のとおりとする。

(授業の方法)

第31条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うことができるものとする。

2 本学大学院は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができるものとする。

3 本学大学院は、第一項の授業を、外国において履修させることができるものとする。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても同様とする。

4 本学大学院は、文部科学大臣が別に定めるところにより、第一項の授業の一部を校舎及び付属施設以外の場所で行うことができるものとする。

(単位の計算基準)

第32条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の各号の基準によって単位数を計算する。

- (1) 講義・演習については、毎週1時間15週の教室内の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習等の授業については、毎週2時間15週の実験又は、実習をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、学位論文、その他の学修等の授業科目及び公の資格試験等による認定を受けた者については、これらの学修の成果を評価して適切な単位を授与することができる。

(成績評価基準等の明示等)

第32条の2 大学院は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示する。

2 大学院は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対しその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。

(履修方法)

第33条 大学院の授業科目の履修方法等については、別に定める。

(教育方法の特例)

第34条 大学院は、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行う。

(他の大学院における授業科目の履修等)

第35条 学長は、教育上有益と認めたときは、他の大学院（外国の大学院を含む。以下同じ。）との協議に基づき、学生に当該大学院の授業科目を履修させることができる。

2 前項により、履修した授業科目については、10単位を超えない範囲で大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす。

3 第1項の履修期間は、在学期間に含まれるものとする。

4 他の大学院で履修できる授業科目の種類、単位数及び履修方法等については、別に定める。

(入学前の既取得単位等の認定)

第36条 学長は、教育上有益と認めるときは、学生が大学院に入学する前に大学院（他の大学院を含む。以下同じ。）において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を入学後の大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項により修得したものとみなす単位数は、再入学及び転入学の場合を除き、大学院において修得した単位以外のものについては、第35条によりみなす単位数と合わせて10単位を超えないものとする。

(他の大学院等における研究指導)

第37条 教育上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等との協議に基づき、学生に当該大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けさせることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

第8章 課程の修了要件

(単位の認定)

第38条 履修科目の単位修得の認定は、試験又は研究報告により担当教員が行うものとする。

2 試験又は研究報告等の成績により合格した者には、所定の単位を与える。

(成績の評価)

第39条 成績の評価は、優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）及び不可（59点以下）とし、優、良、可を合格とする。

(課程の修了要件)

第40条 国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）の修了要件は、大学院に2年以上在学し、講義科目22単位以上、演習科目8単位、合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 前項において、大学院の目的に応じ適当と認められたときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

3 国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）の修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、共通科目2科目4単位、専門科目2科目4単位以上、研究指導科目6科目12単位を修得し、かつ必要な研究指導を受け、研究論文1編以上が査読付学術誌において掲載、又は受理された上で博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することとする。

4 看護学研究科看護学専攻（修士課程）の修了要件は、大学院に2年以上在学し、共通科目14単位以上、専門科目4単位以上、演習・研究科目12単位、合計30単位以上を修得し、修士論文を提出して、審査及び最終試験に合格することとする。

(修士論文の審査及び最終試験)

第41条 修士論文及び最終試験の合否は、審査会の報告に基づき研究科委員会が決定する。

2 最終試験は、所定の単位を取得し、かつ修士論文を提出した者について口述又は筆記試験によって行う。

(博士論文の審査及び最終試験)

第41条の2 博士論文及び最終試験の合否は、審査会の報告に基づき研究科委員会が決定する。

2 最終試験は、所定の単位を取得し、かつ博士論文を提出した者について口述又は筆記試験によって行う。

(学位の授与)

第42条 大学院修士課程の課程を修了した者には、修士の学位を授与する。

2 大学院博士後期課程を修了した者には、博士の学位を授与する。

3 学位に関し必要な事項は、別に定める。

第9章 教育職員免許状

(教育職員免許状授与の所要資格の取得)

第43条 大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）において、中学校教諭専修免許状又は高等学校教諭専修免許状の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所要の単位を取得しなければならない。

2 大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）において、当該所要資格を取得できる教育職員の免許状の種類は、次の表に掲げるとおりとする。

研究科	専攻	教育職員免許状の種類	免許教科
国際文化研究科	国際文化システム専攻	中学校教諭専修免許状	英語
		高等学校教諭専修免許状	英語・商業

3 前項に定める教育職員の免許状を取得するために必要な科目は別表2に掲げるとおりとする。

第10章 入学検定料、入学金及び授業料等

(入学金及び授業料等)

第44条 本学の学費、諸納入金の種類及び額等については、公立大学法人名桜大学学費及び諸納入金に関する規程の定めるところによる。

第11章 特別聴講学生、特別研究生、科目等履修生等及び外国人特別学生等

(特別聴講学生)

第45条 学長は、特定の授業科目を履修しようとする他の大学院の学生があるときは、当該大学院との協議に基づき、その履修を認めることができる。

2 前項により授業科目の履修を認められた学生は、特別聴講学生と称する。

(特別研究学生)

第46条 学長は、研究指導を受けようとする他の大学院の学生があるときは、当該大学院との協議に基づき、その受入れを認めることができる。

2 前項により受入れた学生は、特別研究学生と称する。

(科目等履修生)

第47条 学長は、大学院の学生以外の者で、大学院が開設する一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、科目等履修生として入学を許可し、単位を与えることができる。

(研究生)

第48条 学長は、大学院において特定の専門事項について研究しようとする者があるときは、研究生として入学を許可することができる。

(委託研究生)

第49条 学長は、官公庁、外国政府、地方自治体等の学外機関から大学において特定の授業科目の履修及び研究指導の委託があったときは、大学院学生の教育研究に支障のない範囲で、委託研究生として入学を許可することができる。

2 委託研究生は、その履修した授業科目について試験を受けることができる。

3 前項の試験を受け合格した者には、成績を記載した証明書を交付することができる。ただし、単位は授与しない。

(外国人特別学生)

第50条 学長は、外国人で大学院に志願する者があるときは、選考の上、入学を許可することができる。

2 外国人特別学生については、定員外とすることができる。

3 外国人特別学生の選考方法については、別に定める。

第12章 賞罰

(表彰)

第51条 学生として表彰に値する行為があった者は、学長がこれを表彰する。

2 表彰の選考基準については、別に定める。

(懲戒)

第52条 学長は、学生が大学院の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為があったときは、これを懲戒する。

2 前項の懲戒は、訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者

(2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者

(3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第13章 奨学制度

(奨学制度)

第53条 学生の研究を奨励するため、奨学制度を設ける。

2 奨学制度に関し、必要な事項は、別に定める。

第14章 雑則

(準用規定)

第54条 この学則に定めるもののほか、大学院の学生に関し、必要な事項は、本学学則及びその他の学部諸規定を準用する。

2 前項において、この学則に準用する場合は、「学部」を「大学院」と「教授会」を「委員会」とそれぞれ読み替えるものとする。

附 則

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

2 平成16年3月31日に在学する者には、改正後の第31条の規定にかかわらず従前の規定を適用する。

附 則 (平成16年7月30日)

この学則は、平成16年9月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年3月29日)

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年3月27日)

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成20年3月27日)

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年3月27日)

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年12月24日)

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成25年1月23日）

この学則は、平成25年1月23日から施行する。

附 則（平成26年2月27日）

この学則は、平成26年4月1日から施行し、改正後の第8条は平成25年4月1日から適用する。

附 則（平成26年9月27日）

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月28日）

この学則は、平成27年4月1日から施行する。ただし、平成27年3月31日までに在学する者には、改正後の第29条第1号の規定を適用する。

附 則（平成27年9月30日）

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 改正前の第8条第1項第7号に掲げる者の任期は、平成28年3月31日までとする。
- 3 平成28年3月31日に在学する者には、改正後の第31条の規定に関わらず従前の規定を適用する。

附 則（平成29年3月29日）

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月31日に在学する者には、改正後の第31条の規定に関わらず従前の規定を適用する。

附 則（平成30年6月29日）

- 1 この学則は、平成30年6月29日から施行する。
- 2 平成28年4月1日以後に入学した者は、改正後の別表1の単位数を適用する。

附 則（平成31年2月15日）

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成31年3月31日に在学する者には、改正後の第31条の規定に関わらず従前の規定を適用する。

附 則（令和2年3月27日）

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 令和2年3月31日に在学する者には、改正後の第31条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

別表1 (第31条関係)

【国際文化研究科国際文化システム専攻(修士課程)】授業科目及び単位数

科目区分	授 業 科 目 名	単 位 数	
		必修	選択
共通科目	人文科学特論		2
	政策科学特論		2
	社会心理学特論		2
	環境科学特論		2
	健康科学特論		2
	学術研究方法特論	2	
教育研究領域科目	言語文化教育研究領域	言語文化研究演習Ⅰ	4
		言語文化研究演習Ⅱ	4
		言語学特論Ⅰ	2
		言語学特論Ⅱ	2
		英文学特論	2
		米文学特論	2
		アメリカ詩特論	2
		アメリカ小説特論	2
		地域言語学特論Ⅰ	2
		地域言語学特論Ⅱ	2
		英文法特論	2
		英語音声学特論	2
		英語教授法特論Ⅰ	2
		英語教授法特論Ⅱ	2
		英語教育評価特論	2
		リサーチ方法特論	2
		理論言語学特論	2
		第2言語習得特論	2
		教育学特論	2
		比較教育文化思想特論	2
		東南アジア文化特論	2
		中南米文化特論	2
		日本古典文学特論	2
		日本近代文学特論	2
		日本史特論	2
		沖縄地域文化研究特論	2
		琉球歴史学特論	2
		琉球文学特論	2
		中琉関係史基礎特論	2
		琉球・沖縄文化特論序説	2
		琉球精神文化特論	2
		言語文化特別講義Ⅰ	2
言語文化特別講義Ⅱ	2		

科目区分		授 業 科 目 名	単 位 数	
			必修	選択
教育研究領域科目	社会制度政策研究領域	社会制度政策研究演習Ⅰ		4
		社会制度政策研究演習Ⅱ		4
		国際政治特論Ⅰ		2
		国際政治特論Ⅱ		2
		地域開発政策特論		2
		都市政策特論		2
		地方自治特論		2
		地域活性化特論		2
		経済政策特論		2
		国際経済特論		2
		産業政策特論		2
		公法学特論		2
		東アジア地域特論		2
		国際協力・ボランティア特論		2
		社会制度政策特別講義Ⅰ		2
		社会制度政策特別講義Ⅱ		2
教育研究領域科目	経営情報教育研究領域	経営情報研究演習Ⅰ		4
		経営情報研究演習Ⅱ		4
		経営戦略特論		2
		比較経営学特論		2
		産業組織特論		2
		小集団心理学特論		2
		人的資源管理特論		2
		経営活動情報特論		2
		e-ビジネス特論		2
		情報交流特論		2
		情報知能特論		2
		情報・通信技術特論		2
		会計学特論		2
		マーケティング特論		2
		経営情報特別講義Ⅰ		2
		経営情報特別講義Ⅱ		2

科目区分		授 業 科 目 名	単 位 数	
			必修	選択
教育研究領域科目	観光環境教育研究領域	観光環境研究演習Ⅰ		4
		観光環境研究演習Ⅱ		4
		観光開発特論		2
		観光政策特論		2
		観光文化特論		2
		観光資源特論		2
		観光市場分析特論		2
		観光調査法特論		2
		ホテル実務特論		2
		異文化接触特論		2
		島嶼開発特論		2
		島嶼文化特論		2
		島嶼生態学特論		2
		エコツーリズム特論		2
		観光環境特別講義Ⅰ		2
観光環境特別講義Ⅱ		2		
教育研究領域科目	健康科学教育研究領域	健康科学研究演習Ⅰ		4
		健康科学研究演習Ⅱ		4
		グローバル・ヘルス特論		2
		健康心理学特論		2
		健康栄養学特論		2
		社会福祉学特論		2
		地域保健学特論		2
		健康・スポーツ指導特論		2
		伝統武道特論		2
		スポーツトレーニング・コーチング特論		2
		ヘルスプロモーション・ウェルネス特論		2
		スポーツ文化特論		2
		バイオメカニクス特論		2
		健康科学特別講義Ⅰ		2
		健康科学特別講義Ⅱ		2

【看護学研究科看護学専攻（修士課程）】授業科目及び単位数

科目区分		授 業 科 目 名	単 位 数	
			必修	選択
共通科目	共通必修科目	看護理論	2	
		看護学研究方法論Ⅰ	2	
		看護学研究方法論Ⅱ	2	
共通科目	共通選択科目	沖縄のケアリング文化		1
		看護教育学		2
		看護倫理学		1
		看護管理学		2
		コンサルテーション論		2
		ヘルスプロモーション論		2
		包括的健康アセスメント		2
		健康栄養学		2
		病態生理学		2
		英語講読		2
専門科目	基盤看護学分野	基盤看護学特論Ⅰ		2
		基盤看護学特論Ⅱ		2
	臨床看護学分野	臨床看護学特論Ⅰ		2
		臨床看護学特論Ⅱ		2
演習・研究科目	専門演習	4		
	特別研究	8		

【国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）】授業科目及び単位数

科目区分	授業科目名	単位数	
		必修	選択
共通 科目	国際地域文化総合演習Ⅰ	2	
	国際地域文化総合演習Ⅱ	2	
専門科目	琉球・沖縄文化特論		2
	琉球文学特論		2
	南島民俗文化特論		2
	中国琉球関係史特論		2
	アメリカ環境文学特論		2
	中南米地域文化特論		2
	東アジア地域文化特論		2
	東南アジア地域文化特論		2
	言語学特論		2
	英語教育特論		2
	現代沖縄教育特論		2
アジア太平洋国際関係特論		2	
研究指導科目	特別演習Ⅰ	2	
	特別演習Ⅱ	2	
	特別演習Ⅲ	2	
	特別演習Ⅳ	2	
	特別演習Ⅴ	2	
	特別演習Ⅵ	2	

別表 2 (第 4 3 条関係)

【国際文化研究科国際文化システム専攻 (修士課程)】教職免許に関する教科科目

専攻	専修免許状	授業科目名	単位数	
			必修	選択
国際文化システム専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 (英語)	言語学特論 I		2
		言語学特論 II		2
		英文学特論		2
		米文学特論		2
		地域言語学特論 I		2
		地域言語学特論 II		2
		英文法特論		2
		英語音声学特論		2
		英語教授法特論 I		2
		英語教授法特論 II		2
		英語教育評価特論		2
		リサーチ方法特論		2
		理論言語学特論		2
		第 2 言語習得特論		2
		異文化接触特論		2
中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 (商業)	地域開発政策特論		2	
	地域活性化特論		2	
	経済政策特論		2	
	国際経済特論		2	
	産業政策特論		2	
	経営戦略特論		2	
	比較経営学特論		2	
	産業組織特論		2	
	人的資源管理特論		2	
	経営活動情報特論		2	
	e-ビジネス特論		2	
	情報交流特論		2	
	会計学特論		2	
	マーケティング特論		2	
	観光市場分析特論		2	

(趣旨)

第1条 この規則は、学位規則（昭和28年文部省令第9号）第13条、名桜大学学位規則第36条第2項及び名桜大学大学院学則第42条第2項の規定に基づき、名桜大学（以下「本学」という）が行う学位授与の手続き及び方法に関する必要な事項を定める。

（学士の学位授与の要件）

第2条 学士の学位授与は、本学を卒業した者に対し行う。

（修士の学位授与の要件）

第3条 修士の学位の授与は、本学大学院修士課程（以下「修士課程」という。）を修了した者に対し行う。

（博士の学位授与の要件）

第4条 博士の学位の授与は、本学大学院博士後期課程（以下「博士後期課程」という。）を修了した者に対し行う。

（学位論文の提出）

第5条 修士の学位論文は、研究科長（修士課程）に提出する。

2 博士の学位論文は、研究科長（博士後期課程）に提出する。

第6条 提出する学位論文は、1編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

第7条 研究科委員会は、審査のため必要があるときは、論文の抄訳及びその他の資料の提出を求めることができる。

第8条 受理した論文は、返付しない。

（審査の付託）

第9条 研究科長は、第5条第1項及び第2項の規定より学位論文を受理したときは、研究科委員会に審査を付託しなければならない。

第10条 研究科委員会は、学位論文の審査を付託されたときは、審査会を設置し、審査させるものとする。

2 審査会は、3人以上の審査委員をもって組織する。

3 審査会は、学位論文の審査のほか最終試験、又は学力の確認を行う。

4 研究科委員会は、学位論文の審査に当たって必要があるときは、他の大学院又は研究所等の教員等に審査の協力を求めることができる。

（最終試験）

第11条 最終試験は、学位論文審査終了後、学位論文を中心として口述又は筆記試験によって行う。

(審査の確認)

第12条 学位論文の審査及び最終試験又は学力の確認は、その在学期間中に終了しなければならない。

(研究科委員会への報告)

第13条 審査会は、学位論文の審査及び最終試験又は学力の確認を終了したときは、その審査要旨に意見を付して、最終試験又は学力の確認の成績とともに、文書で研究科委員会に報告しなければならない。

(研究科委員会の議決)

第14条 研究科委員会は、前条の報告に基づいて審議し、学位授与の可否を議決する。

2 前項の議決は、出席委員の3分の2以上の賛成がなければならない。

(学長への報告)

第15条 研究科長は、研究科委員会が前条第1項の議決をしたときは、学位論文の審査要旨、最終試験又は学力の確認の成績を添えて議決の結果とともに、文書で学長に報告しなければならない。

(学位の授与)

第16条 学長は、前条の報告に基づき、学位授与の可否を決定し、授与すべき者には、所定の学位記を交付し、授与できない者には、その旨を本人に通知する。

2 学長は、前項によって学位を授与したときは、研究科長に通知する。

(専攻分野の名称)

第17条 学位を授与するに当たっては、専攻分野の名称を付記する。

2 専攻分野の名称は次の表のとおりとする。

(学士の専攻分野の名称)

学群・学部	学類・学科	名称
国際学群	国際学類	国際文化学 経営情報学 観光産業学
人間健康学部	スポーツ健康学科	スポーツ健康学
	看護学科	看護学

(修士の専攻分野の名称)

研究科	専攻	名称
国際文化研究科	国際文化システム専攻	国際文化
看護学研究科	看護学専攻	看護学

(博士の専攻分野の名称)

研究科	専攻	名称
国際文化研究科	国際地域文化専攻	国際地域文化

(学位の名称)

第18条 本学において学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、「名桜大学」と付記しなければならない。

(学位授与の取消し)

第19条 学位を授与された者が、その名誉を汚す行為があったとき又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、学士にあっては教授会、修士及び博士にあっては大学院委員会の議を経て、学位の授与を取消し、学位記を返付させ、かつ、その旨を公表する。

2 教授会又は大学院委員会において前項の議決をする場合は、学士にあっては教授会規則第5条第2項の規定、修士及び博士にあっては学位規則第14条第2項の規定を準用する。

(学位記の様式)

第20条 学位記の様式は、学士にあっては別紙様式1-1、様式1-2、修士にあっては別紙様式2-1、様式2-2、博士にあっては別紙様式3-1のとおりとする。

(補則)

第21条 この規則で定めるもののほか、学位に関し必要な事項は、学士にあっては学長、修士及び博士にあっては研究科長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成13年4月1日から施行する。
2 この規則施行前に授与された学士の学位は、この規則に基づき授与されたものと見なす。

附 則

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。
2 平成19年3月31日に在学する者には、改正後の第16条第2項の規定にかかわらず従前の規定を適用する。

附 則

1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
2 平成23年3月31日に在学する者には、改正後の第16条第2項の規定にかかわらず従前の規定を適用する。

附 則

1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。
2 平成26年3月31日に在学する者には、改正後の第16条第2項の規定にかかわらず従前の規定を適用する。

附 則

1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。

2 平成31年3月31日に在学する者には、改正後の第17条第2項の規定にかかわらず従前の規定を適用する。

様式1-1

(国際学群を卒業した場合)

第 号	年 月 日	名 桜 大 学 長 氏 名 印	する 学士（ ）の学位を授与	本学国際学群 課程を修めたので卒業を認定し	本学国際学群 国際学類所定の	之 大 名 印 学 桜	年 月 日	氏 名	学 位 記

用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とする

様式1-2

(人間健康学部を卒業した場合)

第 号	年 月 日	名 桜 大 学 長 氏 名 印	する 学士（ ）の学位を授与	本学人間健康学部 課程を修めたので卒業を認定し	本学人間健康学部 学科所定の	之 大 名 印 学 桜	年 月 日	氏 名	学 位 記

用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とする

様式2-1

(修士課程を修了した場合)

国 研 修 第 号	名 桜 大 学 長 氏 名 印	年 月 日	する で 修 士 （ ） の 学 位 を 授 与 す る	審 査 及 び 最 終 試 験 に 合 格 し た の の 学 位 を 授 与 す る	所 定 の 単 位 を 修 得 し 学 位 論 文 の の 学 位 を 授 与 す る	本 学 大 学 院 国 際 文 化 研 究 科 の の 学 位 を 授 与 す る	専 攻 の 修 士 課 程 に お い て の の 学 位 を 授 与 す る	本 学 大 学 院 国 際 文 化 研 究 科 の の 学 位 を 授 与 す る	之 大 名 印 学 桜	氏 名	年 月 日 生	学 位 記

用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とする。

様式2-2

(修士課程を修了した場合)

看 研 修 第 号	名 桜 大 学 長 氏 名 印	年 月 日	する で 修 士 （ ） の 学 位 を 授 与 す る	審 査 及 び 最 終 試 験 に 合 格 し た の の 学 位 を 授 与 す る	所 定 の 単 位 を 修 得 し 学 位 論 文 の の 学 位 を 授 与 す る	本 学 大 学 院 看 護 学 研 究 科 の の 学 位 を 授 与 す る	専 攻 の 修 士 課 程 に お い て の の 学 位 を 授 与 す る	本 学 大 学 院 看 護 学 研 究 科 の の 学 位 を 授 与 す る	之 大 名 印 学 桜	氏 名	年 月 日 生	学 位 記

用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とする。

国 研 博 第 号	名 桜 大 学 長 氏 名 印	年	月	日	本学大学院国際文化研究科 専攻の博士後期課程において 所定の単位を修得し学位論文の 審査及び最終試験に合格したの で博士（ ）の学位を授与 する	大名 之 印 学 桜	氏 名	年 月 日 生	学 位 記

用紙の大きさは、日本工業規格 A3 とする。

名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）規程

（趣旨）

第1条 この規程は、名桜大学大学院学則（平成13年4月1日制定。以下「学則」という。）第4条第2項の規定に基づき、国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）に関し必要な事項を定めるものとする。

（専攻）

第2条 国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）（以下「研究科（修士課程）」という。）に次の教育研究領域を置く。

教育研究領域
言語文化
社会制度政策
経営情報
観光環境
健康科学

（授業科目及び単位数）

第3条 研究科（修士課程）における授業科目及び単位数は、別表1のとおりとする。

（指導教員）

第4条 学生の研究及び論文指導（以下「研究指導」という。）のため、指導教員を置く。

- 2 指導教員は、研究指導を行う専任の教授をもって充てる。ただし、必要があるときは、名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻修士課程委員会（以下「修士課程委員会」という。）の認めた専任の上級准教授をもって充てることができる。
- 3 指導教員は、学生の研究を指導し、併せて学生の授業科目の履修等に適切な助言を行う。
- 4 学生は、入学後所定の期日までに指導教員及び研究題目を定め、研究科長（修士課程）に届け出なければならない（別紙様式第1号）。
- 5 指導教員の変更は、原則として認めない。ただし、特別の事情が生じた場合に限り、修士課程委員会の議を経て変更を認めることができる（別紙様式第2号）。

（教育方法の特例）

第5条 研究科（修士課程）における授業及び研究指導は、修士課程委員会が教育上特に必要があると認める場合に限り、別に指定する特定の時間又は時期に行うことができる。

（履修方法）

第6条 学生は、入学した年度の最初の登録時に、学習する教育研究領域（以下「領域」という。）を選択しなければならない。

- 2 履修に当たっては、第3条別表1により共通科目、領域の選択科目、他の領域の科目及び看護学研究科の共通選択科目から合計30単位以上履修しなければならない。

（科目履修手続）

第7条 学生は、各学期の始めに履修しようとする授業科目を所定の様式により研究科長（修士課程）に届けなければならない。

- 2 各領域の演習科目は、1年次又は2年次の学期始めに登録するものとする。
- 3 1年次における履修単位は、26単位以上を目標とする。
- 4 休業期間等に臨時に開設される科目の履修については、そのつど科目の登録を行うものとする。
- 5 学生は、指導教員の履修指導のもとに科目の登録及び履修を行うものとする。

(他の大学院における授業科目の履修等)

第8条 学長は、指導教員が必要と認めたときは、学則第35条に定めるところにより、他の大学院の授業科目を履修させることができる。

- 2 前項により修得した単位は、10単位を超えない範囲で第6条第2項の領域の履修指定科目以外の選択科目、他の領域の科目及び看護学研究科の共通選択科目の履修とみなして修了に必要な単位として取り扱う。

(単位の認定)

第9条 各授業科目の単位修得の認定は、試験又は研究報告書により担当教員が行う。

- 2 病気その他のやむを得ない理由により、試験を受けることができなかつた者については、追試験を行うことができる。
- 3 追試験の時期は別に定める。
- 4 試験を受けて不合格になつた者についての再試験は行わない。

(成績の評価)

第10条 試験又は研究報告書の成績評価は、優、良、可、不可とし、優、良、可を合格とする。

(修士論文の提出)

第11条 修士論文に関する日程は、次の表に掲げるとおりとする。なお、学生が論文題目及びその概要並びに論文を研究科長（修士課程）に提出する場合は、指導教員の承認を得るものとする。

事 項	時 期
論文題目の提出	1年次後学期第8週目
論文概要	1年次後学期終了時
論文中間発表	2年次前学期終了時 7月
論文提出	3月修了予定者にあつては12月 9月修了予定者にあつては6月

- 2 論文審査及び最終試験は、修了に必要な科目をすべて修得した者、又は修得見込みの者について行う。
- 3 学則第40条第1項ただし書による在学期間の特例並びに同条第2項による特定の課題についての研究成果の審査による場合は、第1項の規定によらないことができる。

(修了要件)

第12条 研究科（修士課程）の修了要件は、大学院に2年以上在学し、研究科（修士課程）所定の科目を30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 前項の規定において、大学院の目的に応じ適当と認められたときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

(教職課程)

第13条 教育職員免許取得希望者のため、教職課程を置く。

2 研究科(修士課程)において取得できる免許状の種類は、次に掲げるとおりとする。

研究科	専攻	教育職員免許状の種類	免許科目
国際文化研究科	国際文化システム専攻 (修士課程)	中学校教諭専修免許状	英語
		高等学校教諭専修免許状	英語・商業

3 免許状の取得には、次の2つの条件を充たさなければならない。

- (1) 修士の学位を有すること、又は大学院に在学し、30単位以上を修得すること。
- (2) 英語(中学・高校)又は商業(高校)の一種免許状を取得済であること。

4 修得すべき科目、単位等は、別表2のとおりとする。

(補則)

第14条 この規程に定めるもののほか、研究科(修士課程)に関し必要な事項は、修士課程委員会の議を経て研究科長(修士課程)が別に定める。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

2 平成16年3月31日に在学する者には、改正後の第3条の規定にかかわらず、従前の規定を適用する。

附 則(平成16年7月30日)

この規程は、平成16年9月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成18年3月29日)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月27日)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成21年1月21日)

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成22年2月17日)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成27年9月16日)

1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。

2 平成28年3月31日に在学する者には、改正後の第3条の規程に関わらず、従前の規程を適用す

る。

附 則（平成29年2月15日）

- 1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月31日に在学する者には、改正後の第3条の規程に関わらず、従前の規程を適用する。

附 則（平成31年1月18日）

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成31年3月31日に在学する者には、改正後の第3条の規定に関わらず、従前の規定を適用する。

別表1 (第3条関係)

授業科目及び単位数

科目区分	授業科目名	配当年次	単位数		講義・演習	備考
			必修	選択		
共通科目	人文科学特論	1・2		2	講義	必修を含め、6単位以上履修すること。
	政策科学特論	1・2		2	講義	
	社会心理学特論	1・2		2	講義	
	環境科学特論	1・2		2	講義	
	健康科学特論	1・2		2	講義	
	学術研究方法特論	1	2		講義	
教育研究領域科目	言語文化教育研究領域	言語文化研究演習Ⅰ	1	4	演習	言語文化研究演習Ⅰ，言語文化研究演習Ⅱを含め、24単位以上履修すること。 うち、6単位は他の領域及び看護学研究科の共通選択科目から履修することができる。ただし、看護学研究科の共通選択科目の履修は上限を4単位とする。
		言語文化研究演習Ⅱ	2	4	演習	
		言語学特論Ⅰ	1・2	2	講義	
		言語学特論Ⅱ	1・2	2	講義	
		英文学特論	1・2	2	講義	
		米文学特論	1・2	2	講義	
		アメリカ詩特論	1・2	2	講義	
		アメリカ小説特論	1・2	2	講義	
		地域言語学特論Ⅰ	1・2	2	講義	
		地域言語学特論Ⅱ	1・2	2	講義	
		英文法特論	1・2	2	講義	
		英語音声学特論	1・2	2	講義	
		英語教授法特論Ⅰ	1・2	2	講義	
		英語教授法特論Ⅱ	1・2	2	講義	
		英語教育評価特論	1・2	2	講義	
		リサーチ方法特論	1・2	2	講義	
		理論言語学特論	1・2	2	講義	
		第2言語習得特論	1・2	2	講義	
		教育学特論	1・2	2	講義	
		比較教育文化思想特論	1・2	2	講義	
		東南アジア文化特論	1・2	2	講義	
		中南米文化特論	1・2	2	講義	
		日本古典文学特論	1・2	2	講義	
		日本近代文学特論	1・2	2	講義	
		日本史特論	1・2	2	講義	
		沖縄地域文化研究特論	1・2	2	講義	
		琉球歴史学特論	1・2	2	講義	
琉球文学特論	1・2	2	講義			
中琉関係史基礎特論	1・2	2	講義			
琉球・沖縄文化特論序説	1・2	2	講義			
琉球精神文化特論	1・2	2	講義			
言語文化特別講義Ⅰ	1・2	2	講義			
言語文化特別講義Ⅱ	1・2	2	講義			

科目区分	授業科目名	配当年次	単位数		講義・演習	備考	
			必修	選択			
教育研究領域科目	社会制度政策研究領域	社会制度政策研究演習Ⅰ	1		4	演習	社会制度政策研究演習Ⅰ，社会制度政策研究演習Ⅱを含め，24単位以上履修すること。 うち、6単位は他の領域及び看護学研究科の共通選択科目から履修することができる。ただし、看護学研究科の共通選択科目の履修は上限を4単位とする。
		社会制度政策研究演習Ⅱ	2		4	演習	
		国際政治特論Ⅰ	1・2		2	講義	
		国際政治特論Ⅱ	1・2		2	講義	
		地域開発政策特論	1・2		2	講義	
		都市政策特論	1・2		2	講義	
		地方自治特論	1・2		2	講義	
		地域活性化特論	1・2		2	講義	
		経済政策特論	1・2		2	講義	
		国際経済特論	1・2		2	講義	
		産業政策特論	1・2		2	講義	
		公法学特論	1・2		2	講義	
		東アジア地域特論	1・2		2	講義	
		国際協力・ボランティア特論	1・2		2	講義	
社会制度政策特別講義Ⅰ	1・2		2	講義			
社会制度政策特別講義Ⅱ	1・2		2	講義			
教育研究領域科目	経営情報教育研究領域	経営情報研究演習Ⅰ	1		4	演習	経営情報研究演習Ⅰ，経営情報研究演習Ⅱを含め，24単位以上履修すること。 うち、6単位は他の領域及び看護学研究科の共通選択科目から履修することができる。ただし、看護学研究科の共通選択科目の履修は上限を4単位とする。
		経営情報研究演習Ⅱ	2		4	演習	
		経営戦略特論	1・2		2	講義	
		比較経営学特論	1・2		2	講義	
		産業組織特論	1・2		2	講義	
		小集団心理学特論	1・2		2	講義	
		人的資源管理特論	1・2		2	講義	
		経営活動情報特論	1・2		2	講義	
		e-ビジネス特論	1・2		2	講義	
		情報交流特論	1・2		2	講義	
		情報知能特論	1・2		2	講義	
		情報・通信技術特論	1・2		2	講義	
		会計学特論	1・2		2	講義	
		マーケティング特論	1・2		2	講義	
経営情報特別講義Ⅰ	1・2		2	講義			
経営情報特別講義Ⅱ	1・2		2	講義			

科目区分	授 業 科 目 名	配当 年次	単位数		講義・演習	備 考
			必修	選択		
教育研究領域科目	観光環境研究演習Ⅰ	1		4	演習	観光環境研究演習Ⅰ, 観光環境研究演習Ⅱを含め, 24単位以上履修すること。 うち、6単位は他の領域及び看護学研究科の共通選択科目から履修することができる。ただし、看護学研究科の共通選択科目の履修は上限を4単位とする。
	観光環境研究演習Ⅱ	2		4	演習	
	観光開発特論	1・2		2	講義	
	観光政策特論	1・2		2	講義	
	観光文化特論	1・2		2	講義	
	観光資源特論	1・2		2	講義	
	観光市場分析特論	1・2		2	講義	
	観光調査法特論	1・2		2	講義	
	ホテル実務特論	1・2		2	講義	
	異文化接触特論	1・2		2	講義	
	島嶼開発特論	1・2		2	講義	
	島嶼文化特論	1・2		2	講義	
	島嶼生態学特論	1・2		2	講義	
	エコツーリズム特論	1・2		2	講義	
	観光環境特別講義Ⅰ	1・2		2	講義	
	観光環境特別講義Ⅱ	1・2		2	講義	
教育研究領域科目	健康科学研究演習Ⅰ	1		4	演習	健康科学研究演習Ⅰ, 健康科学研究演習Ⅱを含め, 24単位以上履修すること。 うち、6単位は他の領域及び看護学研究科の共通選択科目から履修することができる。ただし、看護学研究科の共通選択科目の履修は上限を4単位とする。
	健康科学研究演習Ⅱ	2		4	演習	
	グローバル・ヘルス特論	1・2		2	講義	
	健康心理学特論	1・2		2	講義	
	健康栄養学特論	1・2		2	講義	
	社会福祉学特論	1・2		2	講義	
	地域保健学特論	1・2		2	講義	
	健康・スポーツ指導特論	1・2		2	講義	
	伝統武道特論	1・2		2	講義	
	スポーツトレーニング・コーチング特論	1・2		2	講義	
	ヘルスプロモーション・ウェルネス特論	1・2		2	講義	
	スポーツ文化特論	1・2		2	講義	
	バイオメカニクス特論	1・2		2	講義	
	健康科学特別講義Ⅰ	1・2		2	講義	
健康科学特別講義Ⅱ	1・2		2	講義		
□修了要件の30単位のうち、6単位は他の領域及び看護学研究科の共通選択科目から履修することができる。						

別表2 (第13条関係)

教職免許に関する教科科目

専攻	専修免許状	授業科目名	単位数		必要単位数
			必修	選択	
国際文化システム専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 (英語)	言語学特論Ⅰ 言語学特論Ⅱ ○英文学特論 ○米文学特論 地域言語学特論Ⅰ 地域言語学特論Ⅱ ○英文法特論 ○英語音声学特論 ○英語教授法特論Ⅰ ○英語教授法特論Ⅱ ○英語教育評価特論 ○リサーチ方法特論 理論言語学特論 第2言語習得特論 異文化接触特論		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	○印を含め24単位以上履修すること。
	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 (商業)	地域開発政策特論 地域活性化特論 ○経済政策特論 国際経済特論 産業政策特論 ○経営戦略特論 ○比較経営学特論 産業組織特論 人的資源管理特論 ○経営活動情報特論 e-ビジネス特論 ○情報交流特論 会計学特論 ○マーケティング特論 観光市場分析特論		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	○印を含め24単位以上履修すること。

研究指導教員届

年 月 日

名桜大学大学院

国際文化研究科長(修士課程) 殿

国際文化研究科 国際文化システム専攻(修士課程)

学生番号

氏 名 印

研究指導教員を下記のとおりお届けします。

記

研究 題 目	
指 導 教 員	印

注 指導教員の承認を得て、入学年度の所定の期日までに研究科長(修士課程)に届けなければならない。

名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）倫理委員会規程
（平成31年4月1日制定）

（目的）

第1条 この規程は、名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）（以下「研究科（修士課程）」という。）で行われる人間を対象とする研究（以下「研究」という。）に関し必要な事項を定めることにより、当該研究において、人間の尊厳と人権が尊重され、社会の理解を得た適切な研究の実施を確保することを目的とする。

（委員会の設置及び開催）

第2条 前条の目的を達成するため、名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）倫理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、研究科長（修士課程）からの審査依頼をもって開催する。

（審議事項）

第3条 委員会は、第1条の目的に基づき、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 研究における倫理のあり方に関わる基本的事項について調査し、審議する。
- (2) 研究科（修士課程）の学生から申請された研究等に関わる研究計画書の倫理上の審議を行う。

（審査）

第4条 委員会は、前条第2号について次のとおり学生の申請に基づき審査を行う。ただし、委員会が必要と認める時は、学生から申請のない場合でも審査の対象とする。

- (1) 審査対象
研究科（修士課程）の学生が実施する研究等とする。
- (2) 申請者
申請者は、研究科（修士課程）の学生とする。

（組織）

第5条 委員会は、次の各号に掲げる委員を持って構成する。

- (1) 研究科長（修士課程）
- (2) 各教育研究領域主任
- (3) 研究科長（修士課程）が特に必要と認める者若干人

（任期）

第6条 委員の任期は、当該職にある期間とする。ただし、第3号に掲げる委員の任期については、1年とする。

2 委員に欠員が生じた場合は、これを補充しその任期は前任者の残任期間とする。

（委員長）

第7条 委員会に委員長を置き、委員長は研究科長（修士課程）とする。

2 委員長に事故があるとき又は欠けたときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第8条 委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 議決は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。
- 4 委員会が必要と認めた場合は、申請者又は第三者を出席させ、申請の内容についての説明又は意見を聴くことができる。
- 5 委員会の議事については、記録を作成し、保存するものとする。

(公表)

第9条 前条第5項の記録は、委員会が特に必要であると認めるときは、公表することができる。この場合においては、プライバシーの保護に十分留意するほか、審議記録のうち申請のあった研究に関わる部分については、その学生の同意を得るものとする。

(報告義務)

第10条 審査を経た研究を中止したときは、申請者は速やかに委員会に報告しなければならない。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、研究科（修士課程）の議決による。

(その他)

第12条 この規程の施行について必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

(別紙様式第1号)

研究倫理審査申請書

令和 年 月 日提出

名桜大学大学院

国際文化研究科長 (修士課程) 殿

国際文化研究科 国際文化システム専攻 (修士課程)

学生番号

氏 名 印

申請承認者 (指導教員)

職 名

氏 名 印

* 申請受付番号 _____

1 審査対象	研究実施計画
2 研究課題名	
3 研究の目的	(研究目的に至るまでの経緯、研究の背景を含めて記載すること)
4 研究予定期間	(データ収集期間を含む研究終了までの時間) 令和 年 月から令和 年 月
5 研究等の概要	(研究データ収集に要する手続き等の研究方法を含める)

6 研究等の対象及び実施場所

(対象者数や対象者の条件、予定している施設の条件等を記載する。施設名は入れない。)

7 研究等における倫理的・社会的観点の配慮について

(1) 研究の対象となる個人の人権の擁護

(2) 研究の対象となる者に理解を求め、同意を得る方法

(対象者への説明と同意をどのように行うのかを記載する)

(3) 研究によって生ずる当該個人への不利益および危険性の予測

(4) その他(判断能力の乏しい対象者への対処など)

(5) 研究の教育、学術、社会への貢献度(公表の方法も含む)

8 本研究計画の危険性等について(該当するものに○を記入すること)

(1) 研究対象者に対して最小限の危険(日常生活や日常的な医学検査で被る身体的、心理的、社会的危害の可能性の限界を超えない危険であって、社会的に許容される種類のものをいう)を超える危険を含まない研究計画

(2) (1) 以外の研究計画

(3) ヒトゲノム・遺伝子解析に関する研究

- 注意事項1. 審査対象となる関連書類(研究計画書、依頼文、同意書、調査用紙、質問紙、インタビューガイドなど)写しを添付すること
2. *欄は記載しないこと
 3. 記載については適宜、欄を広げてかまわない

名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）の学位論文審査及び最終試験に関する取扱要項

（趣旨）

第1条 この要項は、名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）の学位論文（以下「論文」という。）の審査及び最終試験の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（論文の提出）

第2条 論文を提出することができる者は、所定の授業科目について30単位以上を修得した者又は修得見込みの者とする。

2 論文の審査を受けようとする者は、学位論文審査願（様式第1号）に学位論文作成要領（別表）による論文正本1部、副本2部、計3部及び論文要旨（様式第2号）3部を添えて、12月27日（9月修了予定者については、6月30日）までに指導教員を経て研究科長（修士課程）に提出しなければならない。

（審査方法）

第3条 研究科長（修士課程）は、受理した論文の審査を名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻修士課程委員会（以下「修士課程委員会」という。）に付託する。

2 修士課程委員会は、論文の審査を付託されたときは、各論文ごとに審査会を設置し、その審査に当たらせる。

3 審査会は、3人以上の審査委員をもって構成し、指導教員を主査とする。

4 主査は、当該論文の審査及び最終試験を総括する。

（最終試験）

第4条 最終試験は、論文の審査終了後、審査会が論文を中心として口述又は筆記試験によって行う。

（報告）

第5条 審査会は、論文の審査及び最終試験の結果を、学位論文審査及び最終試験の結果報告書（様式第3号）により、研究科長（修士課程）に報告する。

2 研究科長（修士課程）は、審査会の報告を修士課程委員会に諮り、最終試験の合否を議決するとともにその審議結果を学長に報告する。

附 則

この要項は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成18年2月15日）

この要項は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成31年1月16日）

この要項は、平成31年4月1日から施行する。

学位論文作成要領

- 1 規格は、A4版（21cm×29.7cm）とする。
- 2 表紙・裏表紙は、A4版の表紙（白厚紙）を使用する。
 - (1) 表紙は次の事項を記載する。

（横書きの表紙）

論文題目 年度 名桜大学大学院 国際文化研究科 専攻（ <u>修士課程</u> ） 氏名

（縦書きの表紙）

論文題目 年度 名桜大学大学院 国際文化研究科 専攻（ <u>修士課程</u> ） 氏名

- (2) 表紙の年度は学年度とし、西暦を用いる。

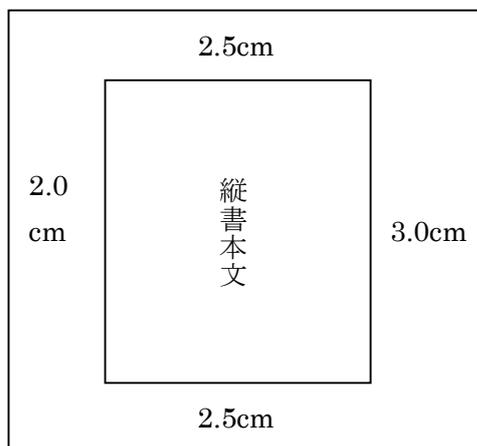
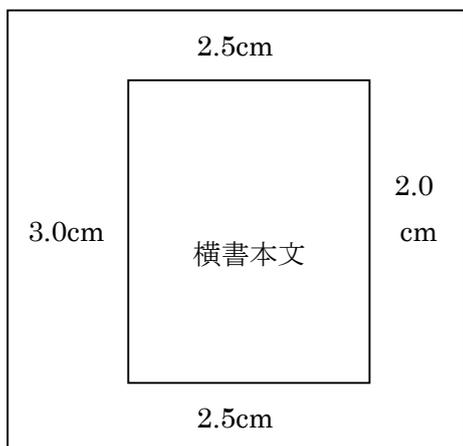
3 本文

- (1) 横書き又は縦書きにする。
- (2) 論文の字数は、原則として20,000字以上とする。但し、外国語の場合は原則として40,000語以上とする。
- (3) ページ数を記入し、目次を作成する。

4 製本

横書きの場合は左とじ、縦書きの場合は右とじとし、クリップとじにする。

5 本文紙面の余白は次のとおりとする。



指導教員 認 印	
-------------	--

学 位 論 文 審 査 願

年 月 日

名桜大学大学院
国際文化研究科長（修士課程） 殿

国際文化研究科 _____
国際文化システム専攻（修士課程） _____
教育研究領域名 _____
学生番号 _____
氏 名 _____ 印

この度名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）の学位論文審査及び最終試験に関する取扱要項第2条の規定に基づき、下記のとおり学位論文を提出しますので、審査くださるよう関係書類を添えてお願いします。

記

論文題目

--

名桜大学大学院
国際文化研究科長（修士課程） 殿

学位論文審査委員

主 査 _____ 印
 委 員 _____ 印
 委 員 _____ 印
 委 員 _____ 印
 委 員 _____ 印

学位論文審査及び最終試験の結果報告書

この度、審査会として、学位論文の審査及び最終試験を終了しましたので、その結果について、名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）の学位論文審査及び最終試験に関する取扱要項第5条に基づき、下記のとおり報告します。

記

研究科・専攻	国際文化研究科 国際文化システム専攻（修士課程）		教育研究領域	
指導教員				
学生番号	氏名			
成績評価	学位論文	合格 不合格	最終試験	合格 不合格
論文題目				
審査要旨				
評価項目	評点		評価項目	評点
テーマ設定	/5		分析	/5
既存の知見・背景の理解	/5		成果・結論	/5
研究方法と分析の視点	/5		総合評価・その他	/5
評定合計				/30

I 書式

1 本文について

- 1) 論文は横書きとする
- 2) 論文の冒頭に日本語の「要約」及び英語の「Abstract」を付ける。
- 3) 原稿をワープロ等で作成する場合は、A4版の用紙に、和文：40字×30行、英文：ダブルスペース、左右マージンを3cm、25行程度にする。本文中の引用説明は（著者又は編者、頁）に入れる。図表などは本文中に組み込む。
- 4) 英語論文の場合、現代英語以外の文には、イタリック体で表示し英訳を付ける。
- 5) 注は脚注（footnote）ではなく endnote として参考文献の前にまとめる。
- 6) ページは本文、注、参考文献のすべてについて、通し番号を打つ。
- 7) 見出しは、「章」「節」...ではなく、数字表記とする。

表記例

I
 1
 1)
 (1)
 i
 i)
 (i)

2 和文の文献目録について

- 1) 和文の文献については、論文は「 」、書名は『 』に入れる。
- 2) 和文の参考文献のみの場合、著者名により五十音順に配列する。

3 英文の文献目録について

- 1) 文献は、書名（thesisを含む）、雑誌名には通常の capitalization を用い、各単語は冠詞、前置詞等を除き大文字で始める。書名、雑誌名はイタリック体で記す。
- 2) 同一著者の文献が2点以上ある場合は年代順に並べる。2点目以降も、著者名と雑誌名は省略しない。

4 原則として人文系は MLA、社会・自然系は APA スタイルを準用する。

5 上記によりがたい場合は、領域主任会議と協議し、それぞれの領域における学会誌等の執筆要領により作成することができる。

参 考 文 献 表 記 例

古瀬幸弘 1994 『ワープロここが不思議』 講談社
 杉本武 1992 「正規表記によるプレーン・テキストの検索」 『日本語学』
 11巻8号 明治書院

MLA Kuno, Susumu., *Functional Syntax*. Chicago: U of Chicago P, 1987.
 APA Lewis, M., Stranger, C. & Sullivan, M. W. 1989, "Deception in 3-year-olds." *Developmental Psychology* 25, pp. 435-443

名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）研究生規程

（趣旨）

第1条 この規程は、名桜大学大学院学則（平成13年4月1日制定。以下「大学院学則」という。）第48条に規定する国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）（以下「研究科（修士課程）」という。）の研究生に関し必要な事項を定めるものとする。

（入学資格）

第2条 研究生として入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 前号と同等以上の学力を有すると認められた者

（事前協議）

第3条 研究生として入学を志願する者（以下「志願者」という。）は、予め指導を受けたい教員（以下「指導教員」という。）と協議し、指導の承諾を受けなければならない。

2 指導教員は、特別な事情のある場合を除き、志願者と面接を行い、その結果、指導教員となることを承諾した場合は、承諾書（兼）推薦書を志願者に交付するものとする。

（出願書類）

第4条 志願者は、次の書類を提出しなければならない。

- (1) 研究生願書
- (2) 履歴書
- (3) 学力判定に必要な書類
 - ア 出身大学又は大学院の卒業／修了（見込み）証明書
 - イ 出身大学又は大学院の成績証明書及び研究業績目録
- (4) 指導教員の承諾書（兼）推薦書
- (5) 大学院進学希望調査
- (6) 経費支弁調書（外国人留学生のみ）
- (7) 日本語能力又は英語能力の証明書（本学卒業生を除く外国人留学生のみ）
- (8) 所属長の承認書（在職中の者のみ）
- (9) その他、研究科長（修士課程）が必要と認める書類

（研究生の選考）

第5条 研究生の選考は、名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻修士課程委員会（以下「修士課程委員会」という。）が行う。

2 選考は、原則として書類審査により行う。

3 前項の規定に関わらず、必要と認められる場合は、面接、学力試験等を課することができる。

（入学手続き及び入学許可）

第6条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに入学の手続きを行わなければならない。

2 学長は、前項の手続きを完了した者に研究生として入学を許可する。

(入学の時期)

第7条 研究生の入学時期は、学期の始めとする。

(研究生の在学期間)

第8条 研究生の在学期間は、1年以内とする。

2 研究生が在学期間終了後、なお引き続き研究の継続を希望するときは、在学期間終了日の30日前までに次に掲げる書類により修士課程委員会の議を経て研究科長（修士課程）の許可を受けなければならない。

(1) 研究生研究継続許可願

(2) 官公署又は会社等に在職している者は、その所属長の承認書

第9条 研究生の検定料、入学料及び授業料の額は、公立大学法人名桜大学学費等及び諸納入金規程の定めるところによる。但し、前条第2項の規定による研究継続の場合は、検定料及び入学料は徴収しない。

2 実験及び実習等に要する経費は、別に負担させることができる。

(研究指導・授業科目の履修等)

第10条 研究生は、毎週、指導教員が指定した日時に研究指導を受けなければならない。

2 指導教員が必要と認めた場合は、学群・学部又は研究科（修士課程）の授業科目担当教員の承諾を得て、当該授業科目を聴講生として履修することができる。但し、聴講生としての履修料は免除する。

3 授業科目の履修において単位の修得を希望する場合は、科目等履修生として登録し、規定の履修料を支払わなければならない。

4 前項の規定により科目等履修生として履修した研究科（修士課程）の授業科目については、履修した者が研究科（修士課程）の正規学生として入学した場合は、大学院学則第36条の規定に従い、研究科（修士課程）の修了単位として認定を申請することができる。但し、認定される単位は10単位までとし、演習科目は申請できないものとする。

(研究指導、授業科目の履修に関する外国人留学生の特例)

第11条 外国人留学生は、前条に規定する研究指導及び授業科目の履修について、1週間につき合計して10時間（7コマ）以上の学修を行わなければならない。

(施設等の利用)

第12条 研究生は、指導教員及び各施設管理者の承認を得て、学内の施設及び設備を利用することができる。

(研究計画書・研究成果報告書の提出)

第13条 研究生は、指導教員の指示に従い、研究計画書及び研究成果報告書を研究科長に提出しなければならない。

(研究証明書、研究修了証書等)

第14条 研究科長（修士課程）は、研究期間を終えた者から申し出があったときは、研究課題

及び研究期間を記載した研究証明書を交付することができる。

2 学長は、修士課程委員会の審査により、相当の成績があると認められた者に研究修了証書を授与する。

3 前項の審査は、指導教員の申請により開始する。

(検定料、入学料及び授業料の取扱い)

第15条 既納の検定料及び入学料は還付しない。

2 授業料の取扱いについては、名桜大学学則第37条から第37条の4の規定を準用する。

(学内規則等の準用)

第16条 研究生については、この規程に定めるもののほか、学内規則等を準用する。

(補則)

第17条 この規程に定めるもののほか、研究生に関し必要な事項は、修士課程委員会の議を経て研究科長（修士課程）が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年3月1日から施行する。

附 則（平成27年5月20日）

この規程は、平成27年5月20日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則（平成31年1月16日）

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）長期履修学生規程
（平成31年4月1日制定）

（趣旨）

第1条 この規程は、名桜大学大学院学則（平成13年4月1日制定）第14条第3項の規定に基づき、名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）（以下「研究科（修士課程）」という。）における長期履修の取扱に関し必要な事項を定める。

（長期履修学生）

第2条 職業を有している等の事情により、修業年限を越えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを申し出た学生で、大学院国際文化研究科国際文化システム専攻修士課程委員会（以下「修士課程委員会」という。）の議を経て研究科長（修士課程）が長期履修を認めた学生を長期履修学生として在学を認める。

2 研究科長（修士課程）は、長期履修を認めた場合は、当該学生に対し「長期履修学生証明書」を交付する。

（長期履修期間）

第3条 長期履修期間は、3年を超えてはならない。

（長期履修の要件）

第4条 長期履修は、職業を有している等の事情で授業科目の受講が著しく制限され、学生生活でも就業等の必要から学業専念が困難であると認められること、又はやむを得ない事情を有していることを要件とする。

（長期履修の申出）

第5条 長期履修希望の申出は、原則として入学手続時に行うものとする。

（手続）

第6条 長期履修を希望する者は、次に掲げる書類を研究科長（修士課程）に提出するものとする。

(1)長期履修申請書（様式第1号）

(2)在職証明書（様式第2号）

(3)その他必要な書類等

（履修期間の変更）

第7条 長期履修学生の履修期間の変更、若しくは第4条の要件を満たして長期履修が必要と認められる学生の履修期間の変更は、変更に正当な理由があり、また研究科（修士課程）の在籍者数が収容定員を越えない範囲内である場合に変更を認めることができる。

2 前項によって履修期間を変更しようとする学生は、一年次後期終了までに申請を行うこととする。但し、変更は1回限りとする。

（授業料）

第8条 長期履修学生が1年間に納入する授業料は、入学金を除き、学則に定める2

年間に納入すべき総額を長期履修期間で除した額とする。

- 2 履修計画を超えて在学する場合は、長期履修学生でない学生が納入する授業料額を納入するものとする。

(履修)

- 第9条 長期履修学生は、履修計画及び研究計画に従い、計画的な履修を行わなければならない。

(補則)

- 第10条 この規程の改廃は、修士課程委員会の議を経て学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成29年度入学者は、第7条第2項の規定に関わらず、履修期間の変更を認めることができるものとする。

長期履修申請書

令和 年 月 日

名桜大学大学院

国際文化研究科長（修士課程） 殿

所 属 国際文化研究科 国際文化システム専攻（修士課程）

氏 名 _____ ㊟

生年月日 _____ 年（昭和・平成 _____ 年） 月 日生

住 所 _____

下記の理由により，長期履修を希望しますので，ご承認をお願いします。

記

【長期履修を希望する理由】

在 職 証 明 書

本 籍 地 _____

現 住 所 _____

氏 名 _____

生 年 月 日 西 暦 _____ 年（昭和・平成 _____ 年） _____ 月 _____ 日生

職 名 _____

採用年月日 西暦 _____ 年（昭和・平成 _____ 年） _____ 月 _____ 日

上記のものが、在職していることを証明します。

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

所 属 先 _____

所属長氏名 _____ ⑩

(趣旨)

第1条 この申し合わせは、本学における授業等の欠席及び期末試験等の受験資格等について定める。

(授業への出席及び欠席、公欠届提出期限及び学修)

第2条 学生は登録した科目の授業に常に出席しなければならない。

2 やむを得ず欠席する場合は、原則として事前に欠席届(別紙様式1)を担当教員に提出しなければならない。

3 病気又はその他の理由で1週間以上欠席する場合は、医師の診断書(又は写し)又は欠席理由書(別紙様式2)を添えるものとする。

4 次の事由による欠席については、これを「公欠席」として許可し、通常の欠席とはしない。ただし、第1号、第2号、第3号、第4号及び第7号の場合は事前に、また第5号及び第6号の場合は事由後、1週間以内に公欠席願(別紙様式3)を提出しなければならない。また、公欠席願の提出は、第5号及び第6号を除き学期末試験期間が始まる前の、講義が行われる日の最終日を提出期限とする。

(1) 教育課程としての実習等

(2) 本学、沖縄県及び国を代表して参加する競技会等(県レベル大会以上)

(3) 資格試験の受験、大学等が企画する就職活動(合同企業説明会など)

(4) 就職試験の受験(受験票がない場合は、大学指定様式を提出する)

(5) 忌引

一親等は7日以内(休日等を含む)

二親等は5日以内(休日等を含む)

(6) 学校保健安全法施行規則で定められた感染症

(7) その他本学が正当と認めた事由

5 前項第1号、第2号、第3号及び第4号の公欠席は、沖縄県内の場合は当該期日のみ、また、沖縄県外の場合は往復に係る必要最小日数(往路1日、復路1日を含む)を許可する。

6 授業担当教員は、第2条第4項の各号に掲げる公欠席があった場合、当該学生に対し必要な学修を課すものとする。

(公欠席と手続き)

第3条 公欠席となる事由等については、別表のとおりとする。

2 公欠席は、各科目とも学期中に、授業回数の2回までとする。

3 公欠席は、原則として学生本人が願い出るものとするが、集団で行う実習又は遠征等の場合

は、実習担当教員又はその団体を代表する者が一括で願い出ることができる。(別紙様式4)

(成績評価の対象)

第4条 成績評価の対象者は、原則として授業時間の3分の2以上出席した者とする。

(不正行為)

第5条 学期末試験において、次の各号の一に該当する行為を行った者は、当該学期に履修している全ての授業科目の成績評価を「不可」とする。

- (1) 受験を他人に代行させた者
- (2) 不正行為により答案を作成した者
- (3) 不正に他人の答案作成を助けた者
- (4) 試験監督者の注意又は指示に従わない者

(改廃)

第6条 この申合せの改廃は、全学教務委員会の議を経て学長が定める。

附 則

この申合せは、平成6年7月27日から施行し、平成6年4月1日から適用する。

附 則

この申合せは、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この申合せは、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この申合せは、平成20年12月4日から施行する。

附 則

この申合せは、平成22年6月10日から施行する。

附 則

この申合せは、平成23年3月1日から施行する。

附 則 (平成26年2月17日)

この申合せは、平成26年4月1日から施行する。

附 則 (平成28年1月27日)

この申合せは、平成28年4月1日から施行する。

附 則 (平成28年12月26日)

この申合せは、平成28年12月26日から施行し、平成28年9月28日から適用する。

欠 席 届

授業担当教員

殿

学類・学科名 _____

学 生 番 号 _____

氏 名 _____

電 話 番 号 _____

次のとおり、授業を欠席することになりましたので、届け出いたします。

欠席日	令和 年 月 日 令和 年 月 日	欠席の期間 (長期欠席の場合)	自:令和 年 月 日 至:令和 年 月 日
授業科目		クラス	
欠席理由 (長期欠席は様式2)			

備考1 この届出は、受講科目ごとに担当教員に提出すること。

2 病気その他の理由で1週間以上欠席する場合は、医師の診断書(写も可)又は欠席理由書(別紙様式2)を添付する。

欠 席 理 由 書

氏 名 _____

学 生 番 号 _____

欠席の期間が1週間をこえますので、その理由について次のとおり説明します。

欠席の期間	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日
欠席の理由 (詳細に)	<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

公 欠 席 願

名桜大学長 殿

学類・学科名 _____

学 生 番 号 _____

氏 名 _____

電 話 番 号 _____

次のとおり「公欠席」として、授業を欠席させていただきますようお願いします。

欠席日	令和 年 月 日 令和 年 月 日	欠席の期間 (長期欠席の場合)	自:令和 年 月 日 至:令和 年 月 日
授業科目		クラス	
欠席理由:			

備考1 届出が許可された場合は、学部長名で受講科目ごとに担当教員に通知される。

2 公欠席は、1科目で1学期内に2回まで認められる。

3 別表を参考にして公欠席の理由を証明する関係書類等を添付すること。また事後の報告が条件に場合もあります。公欠席に該当しない場合は、通常の欠席になります。

この願い出を『公欠席』として (許可 不許可) してよいか伺います。

学群・学部長	事務局長	教務部長	課 長	係 長	主 任	係 員

公 欠 席 願 頁

名桜大学長 殿

科目担当教員又は

団体代表者氏名 _____

電話番号 _____

別紙名簿の学生の実習（遠征）について、「公欠席」として、授業を欠席させていただきますようお願いいたします。

実習（遠征）の名称	
期 間	令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日
備 考	

備考1 届出が許可された場合は、学群長・学部長名で受講科目ごとに担当教員に通知される。

2 公欠席は、1科目で1学期内に2回まで認められる。

3 別表を参考にして公欠席の理由を証明する関係書類等を添付すること。また事後の報告が条件となる場合もあります。公欠席に該当しない場合は、通常の欠席になります。

この願い出を『公欠席』として（ 許可 不許可 ）してよいか伺います。

学群・学部長	事務局長	教務部長	課 長	係 長	主 任	係 員

別表（第3条関係）

「公欠席」対象項目と手続き等

公欠席対象項目	事前手続き	添付資料	対象者	備考
教育課程の実習等				
教育実習	○	計画表	3・4年次	対象限定
インターンシップ	○	計画表	〃	対象限定
学外セミナー等	○	計画表	1～4年次	単位認定の対象のセミナー等
課外活動				
対外競技大会等	○	大会要項	競技者 マネージャー	県大会以上(本学、県及び国代表)、個人戦でも可能
就職活動				
企業訪問活動	○	計画表(写)	4年次	事後に報告書提出
就職の翼	○	実施要項	3・4年次	
合同企業説明会	○	開催案内	4年次	対象説明会限定:就職室指定、会場で確認
採用試験の受験	○	受験票(写)	〃	
資格取得試験	○	受験票(写)	1～4年次	
忌引	*○		1～4年次	*事後でも良い
感染症*		診断書、又は 感染したことが 確認できる書類	1～4年次	*学校保健安全法施行規則で定められた感染症。 事後に診断書等を添付し申請。
その他				
ボランティア活動	○	計画書	1～4年次	事後に報告書提出
学校・行政機関の派遣要請	○	派遣依頼等	〃	
災害派遣	○	計画書(写)	〃	事後に報告書提出
裁判(証人)	○	関係資料	〃	
事件・事故等	*○		〃	*緊急時は電話、事後提出可

暴風時の講義等の取り扱いに関する申合せ

(平成6年7月27日制定)

(趣旨)

第1条 この申合せは、暴風時における講義等の取り扱いに関し、必要な事項を定める。

(暴風警報発令の場合の講義等の取り扱い)

第2条 暴風による事故の発生を防止するため、暴風雨時の場合の講義等の取り扱いは次の各号のとおりとする。

- (1) 午前7時現在、暴風警報（以下「警報」という。）が発令されている場合（沖縄本島の一部に警報が発令されている場合も含む。）は、午前中の講義等は休講とする。ただし、午前10時までに警報が解除された場合は、3時限目から講義等を行う。
- (2) 午前10時までに警報が解除されない場合は、当該日の全ての講義等を休講とし、構内への入構を禁ずる。
- (3) 講義中に警報が発令された場合は、直ちに講義等を中止する。
- (4) その他、この取り扱い以外に緊急事態が生じた場合は、学長は、速やかに適切な措置をとる。

附 則

この申合せは、平成6年7月27日から施行する。

附 則（平成24年6月27日）

この申合せは、平成24年6月27日から施行する。

名桜大学大学院学生研究支援補助金支給内規

(平成28年2月2日制定)

(趣旨)

第1条 この内規は、名桜大学大学院(以下「大学院」という。)の正規学生(以下「学生という。’)を対象とした研究支援補助金に関する事項を定め、大学院における研究の促進を図ることを目的とする。

(補助金支給対象者)

第2条 補助金支給対象者は前条に定めた者とし、休学者は除く。

(補助の対象)

第3条 学生に対する補助の対象は次の各号に該当し、かつ、研究に直接関係する費用のみとする。

- (1) 書籍、資料及び消耗品等
- (2) 調査及び学会発表に要する旅費交通費

(補助金額等)

第4条 学生への研究支援補助金額は、大学院運営費に計上された当該年度予算の範囲内とする。

- 2 学生への補助金額は別途、申請要項に定める。
- 3 前条にかかる費用は、事前に受け取ることはできない。

(申請方法)

第5条 補助金の申請は年度内に2回行うことができる。

- 2 申請は指導教員の承認を経て、研究科長へ行う。
- 3 申請の期限について、1回目は9月30日、2回目は2月の第2金曜日までに行うこととする。
- 4 申請にかかる詳細事項については、別途、申請要項に定める。

(審査及び支給金額の決定)

第6条 補助金審査及び支給金額に関し、研究科委員会において決定する。

(支給方法)

第7条 前条で決定された補助金額の支給方法は別途、申請要項に定める。

(補則)

第8条 この内規の改廃は、教育研究審議会の議を経て、学長が決定する。

附 則 (平成28年2月2日)

1. この内規は、平成28年4月1日から適用する。
2. 平成27年度以前に入学した長期履修学生についても、本規程を適用する。

(目的)

第1条 この規程は、名桜大学大学院に在学する学生のうち、学業、人物ともに優秀な学生（以下「奨学生」という。）に対し、奨学金を給付することによって勉学を奨励することを目的とする。

(奨学金の種類)

第2条 奨学金の種類及び年額は次のとおりとする。

- (1) 大学院一般奨学金：24万円
- (2) 大学院留学生奨学金：24万円

(奨学生の種類)

第3条 奨学生の種類及び対象は次のとおりとする。

- (1) 大学院一般奨学生：学業・人物ともに優秀であり、かつ経済的理由により修学が困難であると認められる者。
- (2) 大学院留学生奨学生：留学生のうち学業・人物ともに優秀で勉学に意欲があり、かつ経済的理由により修学が困難であると認められる者。

(募集の時期)

第4条 奨学生の募集は、原則として学年の始めにこれを行う。

(出願書類)

第5条 奨学生を志願する者は、次の書類を指定された期日までに提出しなければならない。

- (1) 奨学生願書
- (2) 所得証明書

※申込者本人の収入（定職収入、アルバイト収入、奨学金収入、その他収入等）を証明するもの。

(奨学生の選考基準)

第6条 学業成績は、次の表により換算した平均点が2.5以上の者とする。ただし、1年次の学生については、入学試験の成績を考慮する。

区分	成績評価				
		優	良	可	不可
4段階評価		A	B	C	F
4段階評価		100～80点	79～70点	69～60点	59点以下
5段階評価	秀	優	良	可	不可
5段階評価	S	A	B	C	F
5段階評価	A	B	C	D	F
5段階評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下
評価ポイント	3	3	2	1	0

(計算式)

(「評価ポイント3の単位数」×3) + (「評価ポイント2の単位数」×2) + (「評価ポイント1の単位数」×1) + (「評価ポイント0の単位数」×0) ÷ 総登録単位数

2 前項の表の成績評価にない評価(「認定」「合格」)などは含まない。

3 経済的理由及び人物評価については、書類審査及び面接に基づき選考する。

(奨学生の選考)

第7条 奨学生の選考は、領域主任会議が行う。

2 領域主任会議が必要と認めたときは、面接を行う。

(奨学生の決定)

第8条 奨学生は、領域主任会議の議を経て学長が決定する。

2 学長は、前項により決定した奨学生を理事会に報告するとともに、学内に公示し、かつ本人に通知しなければならない。

3 奨学生の決定通知を受けた者は、所定の誓約書を連帯保証人連署のうえ、学長に提出しなければならない。

(奨学金の財源)

第9条 奨学金は、名桜大学の教育研究奨励基金規程の定めるところにより、基金の果実及び寄附金をもってその財源とする。

(奨学生の数)

第10条 奨学生の人数は、財源の範囲以内で決定する。

(身分の取消)

第11条 学長は、奨学生が次の各号の一に該当するときは、研究科委員会の議を経て奨学生の身分を取り消すことがある。

(1) 学業成績又は性行が不良となったとき。

(2) 奨学金を必要としなくなったとき。

(3) 奨学生としての責務を怠り、奨学生として適当でないと認められたとき。

(4) 休学又は、除籍・退学・懲戒処分を受けたとき。

(5) 傷病等により、成業の見込みがないとき。

(6) 願書等の提出書類に虚偽の記載をしたとき。

(奨学金の返還)

第12条 奨学生が前条の規程によりその身分を失ったときは、当該年度に支給した奨学金の全額又はその一部を返還させることができる。

(補則)

第13条 この規程に定めるもののほか、奨学金に関し必要な事項は、教育研究審議会の議を経て理事長が別に定める。

附 則

この規程は、平成15年2月27日から施行する。

附 則（平成18年2月15日）

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成20年11月19日）

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成22年3月17日）

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

名桜大学の授業料免除及び徴収猶予取扱規程

(平成6年7月27日制定)

(趣旨)

第1条 名桜大学（以下「本学」という。）の授業料の免除及び徴収猶予については、この規程の定めるもののほか、公立大学法人名桜大学学費等及び諸納入金規程に関する規程及び留学生授業料減免実施要項に定めるところによる。

(対象)

第2条 授業料の免除及び徴収猶予は、本学の学群、学部学生及び大学院生（以下「学生」という。）を対象とする。

(申請)

第3条 授業料の免除又は徴収猶予を受けようとする者（本人が行方不明の場合は保証人等を含む。以下同じ。）は、学長に申請しなければならない。

(免除等の許可)

第4条 授業料の免除は、選考機関の議を経て学長が許可する。ただし、第6条及び徴収猶予に係る第9条及び第10条については、選考機関の議を経ることなく学長の許可により行うものとする。

2 選考機関は、学生サポート委員会をもって充てる。

(経済的理由による場合の授業料免除)

第5条 経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、対象学生の学業成績が優秀で、原則として最短在学期間で卒業又は修了できる見込みがあると判断される場合は、授業料を免除することができる。

2 前項の規定により授業料の免除を受けようとする者は、所定の期日までに、次の書類を学長に提出しなければならない。

(1) 授業料免除申請書（様式第1号）

(2) 経済的理由による納付困難な事情を認定するに足りる学生又は当該学生の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）の居住地の市区町村長の発行する証明書（様式第2号）ただし、公立大学法人名桜大学学費等及び諸納入金に関する規程第2条第6項に規定する外国人留学生（以下「留学生」という。）は不要とする。

(3) その他本学が必要と認める書類

3 第1項に規定する授業料の免除は、各期ごとに許可するものとし、免除の額は、当該期分の授業料についてその全額、半額又は3分の1とする。

4 留学生を対象とする免除は授業料及び入学金とし、その実施については別に定める。

(行方不明により除籍した場合の授業料免除)

第6条 行方不明により除籍した場合は、未納の授業料の全額を免除することができる。

(災害等による授業料免除)

第7条 次の各号の一に該当する特別な事情により納付が著しく困難であると認められる場合は、当該事由の発生した日の属する期の翌期に納付すべき授業料等を免除することができる。

- (1) 授業料の各期ごとの納期前6ヶ月以内において、学資負担者が死亡した場合
- (2) 授業料の各期ごとの納期前6ヶ月以内において、学生又は学資負担者が風水害等の災害を受けた場合
- (3) 前2号に準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合

2 前項の規定により授業料の免除を受けようとする者は、所定の期日までに授業料の納入期限までに、次の書類を学長に提出しなければならない。

- (1) 授業料免除申請書(様式第1号)
- (2) 授業料の納付が困難な事情を認定するに足りる学生又は学資負担者の居住地の市区町村長の発行する証明書(様式第2号)ただし、留学生は不要とする。
- (3) 前項第1号に該当する場合は死亡証明書、同項第2号に該当する場合は学生又は学資負担者の居住地の市区町村長の発行する罹災証明書
- (4) その他本学が必要と認める書類

3 第1項に規定する授業料の免除は、各期ごとに許可するものとし、免除の額は、当該期分の授業料についてその全額又は半額とする。

(授業料の未納により除籍した場合の授業料免除)

第8条 授業料等の未納により除籍した場合は、未納の授業料等の徴収を免除することができる。

(授業料の徴収猶予)

第9条 授業料の徴収猶予の取扱については、公立大学法人名桜大学学費等及び諸納入金に関する規程の定めるところによる。

(徴収猶予中退学した場合)

第10条 授業料の徴収猶予を許可されている学生に対し、その願い出により退学を許可した場合は、月割計算により、退学の翌月以降に納付すべき授業料を免除することができる。

(許可の取消)

第11条 授業料の免除又は徴収猶予許可後、その理由が消滅し、又は申請について虚偽の事実が判明した場合においては、選考機関の議を経て学長がこれを取り消すものとする。

2 前項の規定によりその許可を取り消された者は、次の各号によりそれぞれ授業料を納付しなければならない。

- (1) 理由の消滅により許可を取り消された者は、取り消しの日の属する月から月割計算による額
- (2) 申請について虚偽の事実が判明したことにより許可を取り消された者は、当該期分に係る免除された全額

(申請時期)

第12条 第5条第2項及び第7条第2項に規定する所定の期日とは、つぎのとおりとする。

前学期 4月1日～4月15日

後学期 10月1日～10月15日

(補則)

第13条 この規程の改廃は、教育研究審議会の議を経て理事長が定める。

2 この規程に定めるもののほか、授業料等の免除及び徴収猶予の実施に関する必要な事項は、学生サポート委員会の議を経て学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成6年7月27日から施行し、平成6年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年2月2日から施行し、平成15年度後学期から適用する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年3月23日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月8日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月23日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成26年9月4日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則 (平成28年2月2日)

この規程は、平成28年2月2日から施行する。

(趣旨)

第1条 この規程は、名桜大学附属図書館管理規則第6条の規定に基づき、名桜大学附属図書館(以下「図書館」という。)の利用に関する必要な事項を定める。

(利用者)

第2条 図書館を利用することができる者(以下「利用者」という。)は、名桜大学(以下「本学」という。)の学生及び職員並びに図書館長(以下「館長」という。)が特に認めた者とする。

(利用者証)

第3条 利用者には図書館利用者証(以下「利用者証」という。)を交付する。

2 利用者は、図書館を利用する際には、利用者証を常に携帯しなければならない。

(開館時間)

第4条 図書館の開館時間は、別表1に掲げるとおりとする。ただし、館長は、必要と認めるときは、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第5条 図書館の休館日は次の各号に掲げるとおりとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、臨時に開館することができる。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178条)に規定する休日
- (3) 立記念日
- (4) 12月29日から翌年1月3日まで
- (5) 館長が特に必要があると認めた日

(利用者の遵守事項)

第6条 利用者は、図書館内では次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 図書館資料は、所定の場所で閲覧すること
- (2) 所定の場所以外で喫煙及び飲食はしないこと
- (3) 閲覧室では静粛にすること
- (4) その他他人の迷惑になる行為をしないこと
- (5) 係員の指示に従うこと

(貸出)

第7条 図書の貸出冊数及び貸出期間は、別表2のとおりとする。

2 館長は、前項の規定にかかわらず、必要と認めるときは、図書及び雑誌の貸出冊数及び貸出期間を変更することができる。

(貸出禁止)

第8条 次の各号に掲げる図書館資料の貸出は行わない。ただし、館長が特に許可した場合はこ

の限りでない。

- (1) 貴重書
- (2) 参考図書
- (3) 聴覚資料等
- (4) その他館長が特に指定した資料

(返却)

第9条 貸出を受けた者は、借用中の図書館資料を貸出期間内に返却しなければならない。

2 館長は、必要と認めたときは、貸出期間内であっても返却を求めることができる。

3 館長は、貸出期間を超過して返却した者に対し、返却した日から、超過した日数に相当する期間の貸出を停止することができる。

(即時返却)

第10条 貸出を受けた者は、退職、休職、卒業、休学、停学、退学等をしたときは、直ちに借用中の図書館資料を返却しなければならない。

(図書館資料の複写)

第11条 図書館資料の複写利用については、別に定める。

(参考調査)

第12条 利用者は、次の各号に掲げる参考調査を依頼することができる。

- (1) 学術文献の書誌的調査
- (2) 学術雑誌の所在調査
- (3) 研究機関・研究者等の調査

(相互利用)

第13条 利用者は、他の図書館等が所蔵する図書館資料を利用する必要があるときは、あつせんを依頼することができる。

2 前項の相互利用に要する費用は、利用者の負担とする。

3 利用者は、相互利用により他の図書館等（以下、「貸出館」という。）から借受けた資料の利用方法については、貸出館の指示に従うものとする。

第14条 館長は、他の図書館等から図書館資料の利用について依頼があったときは、支障のない限り利用させることができる。

(弁償)

第15条 利用者は図書館資料、施設等を損傷し、又は紛失したときは、弁償しなければならない。

2 前項にかかわらず、利用者は、相互利用によって借受けた資料を損傷し、又は紛失したときは、貸出館の指示に従うものとする。

(利用の制限)

第16条 館長は、この規程に違反した者に対しては、図書館の利用を制限し、又は禁止することができる。

(補則)

第17条 この規程に定めるもののほか、図書館の利用に関し、必要な事項は、館長が別に定める。

(改廃)

第18条 本規程の改廃は図書館運営委員会の議を経て館長が行う。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年11月13日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

別表 1 (第4条関係)

区 分	開 館 時 間
平 日	8時45分から22時まで 8時45分から24時まで※看護学科棟内図書室。22時以降の利用は学内者に限る。
土 曜	12時から18時まで
春季、夏季、冬季 の休業日	8時45分から17時まで

別表 2 (第7条関係)

資料 区分	学 生・ 事務職員		大学院生・ 教育職員		学 外 者	
	貸出冊数	貸出期間	貸出冊数	貸出期間	貸出冊数	貸出期間
図 書	5冊以内	2週間 以内	10冊 以内	4週間 以内	2冊以内	2週間 以内

名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻修士課程委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、名桜大学大学院学則（平成13年4月1日制定）第11条第2項に基づき、名桜大学国際文化研究科国際文化システム専攻修士課程委員会（以下「修士課程委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 修士課程委員会は、国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）（以下「研究科（修士課程）」という。）の専任の教授をもって組織する。

2 修士課程委員会が必要と認めたときは、専任の上級准教授及び准教授を修士課程委員会の構成員とすることができる。

(審議事項)

第3条 修士課程委員会は、次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学及び課程の修了に関する事。
- (2) 学位の授与に関する事。
- (3) 教育課程の編成に関する事。
- (4) 大学院担当教員の教育研究業績審査に関する事。
- (5) その他学長が必要とする教育研究に関する重要事項に関する事。

2 修士課程委員会は、前項に規定するもののほか、次の事項を審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べるることができる。

- (1) 履修方法に関する事。
- (2) 学生の身分及び賞罰に関する事。
- (3) 試験、成績判定及び論文審査に関する事。
- (4) 研究科（修士課程）の点検及び評価に関する事。
- (5) その他研究科（修士課程）に関する事。

(研究科委員会の招集及び議長)

第4条 研究科長（修士課程）は、修士課程委員会を招集し、その議長となる。

2 修士課程委員会は、原則として毎月1回定例会議を開くものとする。ただし、必要がある場合には臨時に会議を開くことができる。

3 研究科長（修士課程）は、修士課程委員会構成員の3分の1以上の者から特定の事項を議題とする修士課程委員会開催の求めがある場合には、速やかに会議を開催しなければならない。

(議事)

第5条 修士課程委員会は、会員の過半数の出席がなければ、議事を開き議決することはできない。

2 修士課程委員会の議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 第1項及び第2項の定めにかかわらず、人事及び学位授与に関する議事を審議する場合は、修士課程委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議決は、出席者の3分の2以上の賛成を要する。

(意見の聴取)

第6条 修士課程委員会は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め意見を聞くことができる。

(修士課程委員会の議事録)

第7条 修士課程委員会に、議事をそなえ、会議の日時、場所、出席者及び議事の概要を整理記載する。

2 議事録は、会議毎に議長及び議長の指名する会員2人の署名を受けるものとする。

(庶務)

第8条 修士課程委員会の庶務は、教務課において処理する。

(補則)

第9条 この規程に定めるもののほか、修士課程委員会の運営に関し、必要な事項は修士課程委員会が別に定める。

2 この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て、学長が行う。

附 則 (平成27年3月25日)

この規程は、平成27年4月1日から施行する。ただし、平成27年3月25日以前に開催された研究科委員会の議事については、この規程により審議したものとみなす。

附 則 (平成28年1月21日)

この規程は、平成28年4月1日から施行する。ただし、平成28年1月21日以前に開催された研究科委員会の議事については、この規程により審議したものとみなす。

附 則 (平成31年1月18日)

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）の領域主任会議に関する申合せ

（目的）

第1条 この申合せは、名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）規程（平成13年4月1日制定）第14条の規定に基づき、名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）（以下「研究科（修士課程）」という。）の5領域に主任及び領域主任会議を置き、職務及び選考に関し必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第2条 領域主任会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 国際文化研究科長（修士課程）
- (2) 各領域主任

（選考）

第3条 領域主任の選考は、研究科長（修士課程）が指名し、名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻修士課程委員会（以下「修士課程委員会」という。）の承認を得るものとする。

（任期）

第4条 領域主任の任期は、研究科長（修士課程）の任期の範囲内で研究科長（修士課程）が定める。

（審議事項）

第5条 領域主任会議は、研究科長（修士課程）の諮問に応じ、次の事項を審議調整する。

- (1) 研究科（修士課程）運営の連絡調整に関すること。
- (2) 予算概算に関すること。
- (3) 奨学生の選考に関すること。
- (4) 特別聴講学生及び特別研究学生に関すること。
- (5) 研究科（修士課程）のFD活動に関すること。
- (6) その他研究科（修士課程）の事務執行に関する必要事項

（会議の招集及び代理）

第6条 研究科長（修士課程）は、会議を招集し、その議長となる。

2 研究科長（修士課程）が不在の場合は、あらかじめ研究科長（修士課程）が指名した者が職務を代行する。

（意見の聴取）

第7条 議長は、必要に応じ関係職員を会議に出席させ、意見を聴取することができる。

（定例会）

第8条 会議は、毎月第2水曜日を定例会とする。ただし、特別の事情があるときは、会議

開催の日時を変更することができる。

2 研究科長（修士課程）は、必要があるときは臨時に会議を招集することができる。

（庶務）

第9条 領域主任会議の庶務は、教務課において処理する。

（補則）

第10条 この申し合わせの改廃は、修士課程委員会の議を経て研究科長（修士課程）が行う。

附 則（平成15年5月21日）

1 この申し合わせは、平成15年5月21日から施行し、平成15年4月1日から適用する。

2 すでに選考された領域主任及び職務は、この規定に基づき行われたものとみなす。

附 則（平成22年3月17日）

1 この申し合わせは、平成22年4月1日から施行する。

2 すでに選考された領域主任及び職務は、この規定に基づき行われたものとみなす。

附 則（平成26年2月20日）

1 この申し合わせは、平成26年4月1日から施行する。

2 すでに選考された領域主任及び職務は、この規定に基づき行われたものとみなす。

附 則（平成28年7月20日）

この申し合わせは、平成28年7月20日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則（平成31年1月16日）

この申し合わせは、平成31年4月1日から施行する。

授業科目名・単位数・担当教員名・ 授業科目の概要、シラバス

授業科目名・単位数・担当教員
名・授業科目の概要、シラバス

シラバス
共通科目

シラバス
言語文化

シラバス
社会制度

シラバス
経営情報

シラバス
観光環境

シラバス
健康科学

履修モデル・県内4大学の大学院間単位
互換協定・大学院教員名簿・建物配置図

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（共通科目）

領域	授業科目名	単位数	担当教員名	授業科目の概要
共通科目	人文科学特論	2	李 鎮榮	この講義は文化人類学的思考の特色や枠組みを紹介する。大きく人間の営みを人・自然・超自然に分け、各分野における文化人類学の考え方を紹介する。「文化」とは人を取り巻く最も重要な環境であり、人類学的思考の生産性について講義していく。講義に際して講義形式は最小限に留め、受講生による発表と活発な議論を取り入れる。
	政策科学特論	2	高嶺 司	本特論は、過去数十年の急速な経済成長を背景に、国際社会における存在感を増しているアジア太平洋諸国（日本、米国、カナダ、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシア、オーストラリア、ニュージーランド、ASEAN、南太平洋島嶼国）の国際関係を政策科学的に考察する。より具体的には、アジア太平洋地域の複雑でダイナミックな国際関係を、政治外交、経済協力、開発援助、地域機構、安全保障、民主化、社会変動、感染症対策といった多角的な視点より分析し、21世紀の地球社会におけるアジア太平洋地域の役割と機能、さらには、その限界を科学する。
	社会心理学特論	2	木村 堅一	本講座では、大学院での修士論文の執筆に役立つ社会心理学の「研究法」に焦点を当てる。社会心理学を学ぶ前提として、1) 科学とは何か、2) 経験とは何か、3) 経験と行動の科学に挑戦する理由とは何か、を理解することで社会心理学を学ぶ理由を明確化し全ての受講生が社会心理学の研究の営みの中に身を置いて考えることを教育目標とする。
	環境科学特論	2	田代 豊	環境は、人間による場所性を伴った世界の認識の一つである。そして、環境科学は我々を取り巻く環境の理解を助けるためのものであるが、それは常に人間の何らかの価値観や問題意識を前提とし、認識をする主体である人間自身に対する理解をも含有するものである。この授業では、場所の理化学的側面と人間の心理的側面の複合によって認識される景観としての環境の一面に関し、それを理解する概念と分析手法について、演習的要素を取り入れながら講義する。
	健康科学特論	2	小川 寿美子	本講義では、大学院の共通科目として、単に知識を提供したり開設を加えたりするだけでなく、各章で取り上げている問題を受講者が自分の健康問題として考え行動してもらうことを重視する。更に、講義の一部は英語で「健康科学」を考える機会を設けることにより、他言語での学びを通じ、大学院の教養レベルの基礎的知識を多角的に習得できるようにする。
	学術研究方法特論	2	担当教員代表 国際文化研究科長 ※オムニバスで実施	修士課程における初期段階の研究テーマの設定、参考文献の収集、研究倫理、基本的な研究方法である質的研究方法と量的研究方法、基本的な学術論文作成方法等について学習し、研究デザインを完成させる。

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（言語文化教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	授業科目の概要
言語文化教育研究領域	言語文化研究演習Ⅰ	4	メーガン クックルマン	修士論文作成に向けての指導を行う。研究の意味研究者のありようなどをまずは議論する。それから、プロポーザルの作成に向けた基礎的なリサーチ、資料収集、先行研究の調査・分析、文献一覧作成、テーマを選択するための学生による報告と双方向のディスカッションを中心とした指導を行う。
	言語文化研究演習Ⅰ	4	渡慶次 正則	研究テーマを決定し、実証的データを収集できるようにする。修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に備える。
	言語文化研究演習Ⅰ	4	住江 淳司	まず、修士のテーマを定める。そのテーマに即した先行研究に関する文献を集める方法から始め、図書館のレファレンスコーナーを活用する。演習Ⅰでは研究史を作成ところまでを指導する。
	言語文化研究演習Ⅰ	4	中村 浩一郎	理論言語研究の対象としての言語、特に日本語と英語の統語構造、意味解釈についての知識を習得する。
	言語文化研究演習Ⅰ	4	嘉納 英明	①修士論文のテーマを設定し、そのテーマに関係する先行研究（文献）を集め、分析的に読む。 ②研究方法の検討と確定、資料収集を進める。 ③主にディスカッションを通して、論文全体の構想をつくり、修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に備える。
	言語文化研究演習Ⅰ	4	李 鎮榮	①修士論文のテーマを設定し、そのテーマに関係する先行研究（文献）を集め、分析的に読む。 ②研究方法の検討と確定。 ③主にディスカッションを通して、論文全体の構想をつくり、修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に備える。 ④執筆生産者としての基本的な素養を身につける。
	言語文化研究演習Ⅱ	4	メーガン クックルマン	言語文化研究演習Ⅰに引き続き、修士論文作成の指導を行う。テーマのさらなる絞込み、方法論の確定、参考・引用文献一覧の厳密な検討、資料収集、先行研究の批判的、論文執筆を、双方向のディスカッションを中心とした指導を行う。
	言語文化研究演習Ⅱ	4	渡慶次 正則	修士論文のリサーチ・プロポーザルを完成させ、中間発表を経て、修士論文を完成させることを目的とする。
	言語文化研究演習Ⅱ	4	住江 淳司	修士論文の研究史を完成させ、中間発表を経て、修士論文を完成させることを最終目的とする。
	言語文化研究演習Ⅱ	4	中村 浩一郎	論文概要に基づいて修士論文を執筆し、中間発表会を経て、完成させるまで指導を行う。
言語文化研究演習Ⅱ	4	嘉納 英明	言語文化研究演習Ⅰに引き続き、修士論文の作成を指導する。 修士論文中間発表を経て、修士論文を完成させることを最終目的とする。	

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（言語文化教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	講義概要
言語文化教育研究領域	言語学特論Ⅰ	2	中村 浩一郎	言語における基本的な考え方を理解し、言語現象に対するアプローチ方法を学ぶ。 理論研究の対象としての言語に関する知識、あるいは理論言語学の分野で問題になる様々な現象の中からテンス・アスペクト現象を取り上げ、日本語動詞のアスペクトを分析する。
	言語学特論Ⅱ	2	中村 浩一郎	理論言語学の分野で問題になる様々な現象の中からテンス・アスペクト現象を取り上げ、分析する。 言語理論、特に意味論における基本的な考え方を理解し、言語現象に対するアプローチ方法を学ぶ。
	英文学特論	2	中川 僚子	英文学の主要な時代を代表するイギリスの文学作品の選集を学習する。
	米文学特論	2	メーガン クックルマン	This course will explore in detail both the conventions and experimentations in English fiction writing. The course will focus on American short fiction from the 19th to the 20th century, considering authors from various socio-cultural backgrounds, including indigenous writers, and writing across multiple genres. Considerations will be given to narrative style, cultural and historical context, the ways that narrative can be used to make political statements, and graphic fiction.
	米詩特論	2	メーガン クックルマン	This course will focus on 20th and 21st century American poetry. Part of the course will explore the texts and contexts associated with the Modernism of the early 20th century, with attention to different avant-garde poetics, World War I verse, and poetry out of the Harlem Renaissance. In the Post-War (WWII) poetry, attention will be given to the role of the subject, as the confessional "I" and the language-dependent subject of the Language Poets. In the 21st century, the situated, intersectional, identity-based poetic subject will be considered, along with new forms of online and media-based poetry.
	米小説特論	2	メーガン クックルマン	This course will explore in detail both the conventions and experimentations in English fiction writing. The course will focus on American short fiction from the 19th to the 20th century, considering authors from various socio-cultural backgrounds, including indigenous writers, and writing across multiple genres. Considerations will be given to narrative style, cultural and historical context, the ways that narrative can be used to make political statements, and graphic fiction.
	地域言語学特論Ⅰ	2	石原 昌英	琉球諸島で話されている地域言語（琉球諸語とその下位方言）が消滅に危機に瀕していることについて考察する。具体的には、1) なぜ消滅の危機に陥ったのか。2) どのように復興するのか。3) なぜ復興するのか。4) 他の言語との比較。 を通して消滅の危機に瀕した言語の現状把握と言語復興の研究について学ぶ。
	地域言語学特論Ⅱ	2	仲原 穰	社会言語学的視点から特定言語の多様性について研究する。地域社会、年齢、職業、集団、地位、性別、教養、親密度等の要因で言語がどのように変化するかが中心的な話題となる。また、複数の言語が接触することによって起こる現象にも触れる。

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（言語文化教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	講義概要
言語文化教育研究領域	英文法特論	2	中村 浩一郎	英語の文法に関する専門的かつ網羅的な内容の文献を読み、英文法の諸問題を検討する。
	英語音声学特論	2	川原 繁人	英語音声学に関する様々な問題を検討し、専門的な知識を身につける。
	英語教授法特論 I	2	与那覇 恵子	英語教授法に関わる分野についての知識と理解を深め、特に英語を母語としない学習者を対象とした英語教授法に焦点をあてる。第二言語教育や外国語教育の歴史を振り返るなかで、時代を代表する教授法について、及び教授法の発展について学び、今日幅広く受け入れられている教授法について理解を深める。また、同時に英語の4技能を向上させるための過去、現在の教授法について、さらに評価法や教材、授業方法、シラバスなど具体的項目について学習する。教材は英語で書かれた教材を使用し、授業は殆ど英語で行われる。
	英語教授法特論 II	2	与那覇 恵子	英語教授法に関わる分野についての知識と理解を深め、特に英語を母語としない学習者を対象とした英語教授法に焦点をあてる。第二言語教育や外国語教育の歴史を振り返るなかで、時代を代表する教授法について、及び教授法の発展について学び、今日幅広く受け入れられている教授法について理解を深める。また、同時に英語の4技能を向上させるための過去、現在の教授法について、さらに評価法や教材、授業方法、シラバスなど具体的項目について学習する。教材は英語で書かれた教材を使用し、授業は殆ど英語で行われる。
	英語教育評価特論	2	渡慶次 正則	4技能の評価方法を中心に、評価の妥当性や信頼性、実用性を話し合う。教室や教室外における現在の評価の問題（issues）を取り上げる。
	リサーチ方法特論	2	渡慶次 正則	社会科学や人文科学における質的研究と量的研究の基礎的な知識と技能を身に付け、リサーチプロポーザル完成の支援をするリサーチの概論コース。修士論文の構成や論文作成上の留意点を話し合う。
	理論言語学特論	2	中村 浩一郎	理論研究の対象としての言語に関する知識・関心を深めるために、世界の諸言語の様々な現象について検討する。
	第2言語習得特論	2	渡慶次 正則	過去の研究成果から次の点を学ぶ。 (1) 第2言語がどのような過程で習得され、どんな種類のインプットやインタラクションが習得につながるのか (2) 社会的な要因と第2言語習得についての研究成果を学ぶ。 (3) 第2言語習得の個人差はどのようにして生じるか。
	教育学特論	2	嘉納 英明	戦後日本の教育学研究の基礎的な文献を分析的に読み進めながら、特に、「問題・論争」となった点について受講生の「発表」を行ってもらい、それをもとに討議を行う。占領下の沖縄の教育（制度）問題も視野に入れる。
	比較教育文化思想特論	2	嘉納 英明	本講義では、人間の成長・発達に大きな影響を及ぼす教育的営みについて考える。教育という営みは、社会全体の諸事象と密接に関わるものであるから、講義の内容は、まず現代に至るまでの社会における子ども観の変容を概観する。次に、近代の公教育確立以降の教育制度改革と教育権利論、生涯学習社会の到来を導いたラングランの思想を読み解き、今後の日本教育の進むべき方向を考える。

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（言語文化教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	講義概要
言語文化教育研究領域	東南アジア文化特論	2	坪井 祐司	東南アジアを中心にアジアの文化事象について論じる。文化事象のどの部分に焦点を当てるかは受講者の興味関心による。当面は、言語を使った表現、詩、演劇、芸能などを扱う。「読む文学」というより「聞く文学」「語る文学」「見る文学」であるから、毎回必ず視聴覚教材を使う。もちろん、参加学生の興味と研究上の必要から話し合っただけのテーマを選択することもある。
	中南米文化特論	2	住江 淳司	ラテンアメリカは、日本から地理的に最も遠いという理由で馴染みの浅い地域でありました。しかし、世界的に見た場合そのプレゼンスは大きいものです。たとえば経済の規模は東アジアに匹敵しますし、混血社会は対立をはらみながらも人間社会の一つのあるべき姿を代表としています。今日の民族的、宗教的な地域紛争の解決のモデル地域になる可能性を含んでいるかも知れません。また、ラテンアメリカは数多くの独創性に富んだ思想、文学、芸術を生む舞台でもあります。政治、経済、社会研究においても多くの優れた成果を生み出してきました。つまり、我々はラテンアメリカから多くのことを学びえるのです。
	日本古典文学特論	2	小番 達	『平家物語』の注釈的作業を通して、本文分析・批評、受容と享受、資料調査など古典文学研究の基礎的な方法を修得する。また、歴史や思想史など近接学問領域の研究成果にも学びながら、中世文化の体系、とりわけ〈知〉の体系の一端を把握する。
	日本近代文学特論	2	小嶋 洋輔	日本近現代文学、とくに第二次世界大戦後の文学における「代表作」（本講義では短篇＝芥川賞受賞作中心）を取り上げ、その「研究方法」について学ぶ。とくに、作品が生成された背景を知る「方法」及び、作品の一文字一文字を読む「方法」を知る。小説作品とは書かれた同時代社会の問題が色濃く表れているものであり、社会制度の変遷を小説から読み解くこともその目的とする。具体的には、扱う作品に対して「発表」を行ってもらい、それをもとにして討議を行うものである。
	日本史特論	2	屋良 健一郎	日本史を学ぶ上で重要なことは、史料を読解すること、史料に基づいて思考することである。この講義では、史料をどのように読み、どのような史実（あるいは仮説）を導き出せるのかを考える。
	沖縄地域文化研究特論	2	照屋 理	現在、沖縄の伝統文化として三線音楽や琉球舞踊、ハーリー（肥龍舟）やエイサーなどがよく挙げられる。本島北部地域では、安田のシヌグ、塩屋のウンガミ、各地のウシデークなどといった無形民俗文化財が挙げられよう。これらは実は近世あるいはそれ以前の古琉球期における農耕、漁撈、航海等に関わる儀礼もしくは派生した文化とされる。古琉球・近世期から続く文化が多く散見される現代沖縄・奄美諸島地域を研究するに重要なアプローチの一つとして、各地で伝承されている古謡や民謡・まじない、説話（伝説やむかし話）などの口頭伝承の解析、あるいはムラ芝居や儀礼舞踊などの民俗芸能の解析がある。古琉球・近世期における人々の様々な活動や心情を活写した口頭伝承や民俗事象を読み解くことなしには、そこから今につながる現代沖縄の地域文化研究は覚束ないものとなる。本特論では、特に沖縄本島北部地域の口頭伝承および民俗事象に焦点を当て、底流する地域の諸相を汲み上げる為の基本的な分析方法を身につけることを目指す。なお、受講生には主体性を求める。

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（言語文化教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	講義概要
言語文化教育研究領域 教育研究領域科目	琉球歴史学特論	2	屋良 健一郎	琉球王国は、日本の歴史の中の地域史として位置づけることは出来ない。東アジア全域にわたって交易した独立国家であった。この講義では、中国をはじめとする東アジア全域との交易の歴史を、「歴代宝案」という外交文書を解読しながら理解する方法をとる。
	琉球文学特論	2	照屋 理	琉球とは、かつて琉球国があった時代とその地域を意味する。琉球文学とは、基本的に琉球国時代に琉球国内で生まれ、育まれた文学を意味する。具体的に挙げると、オモロ（『おもろさうし』）に代表される呪術文学、奄美・沖縄・宮古・八重山地域で歌い継がれている古謡や琉歌に代表される叙事・抒情文学、そして組踊に代表される劇文学等である。本特論では、日本の文学大系にはない、独特の特徴を持つ琉球文学について体系的に研究する。なお、研究の主体は学生であることを念頭において受講すること。
	中琉関係史基礎特論	2	赤嶺 守	琉球・沖縄の歴史的なターニングポイントは、同時に東アジア社会全体の構造的変動というターニングポイントに重なっている。授業では、そうした東アジア社会の一員としての琉球・沖縄社会における歴史的諸相を詳しく考察する。
	琉球・沖縄文化特論序説	2	波照間 永吉	琉球語を母語とする奄美・沖縄・宮古・八重山地域は“琉球文化圏”と呼ばれ、歴史的に、日本や中国、東南アジアなど周辺諸国との交流によって、個性的な文化を育んできた。例えば、この地域には、ニライカナイ（海の彼方の万物の淵源の地）という海上他界の観念があるが、同時に、オボツカグラなどの天上他界観もある。さらには地下他界観を有する地域もあり、現実的にはこれらが重層しているといえる。これらの他界観を元に御嶽信仰と呼ばれる固有信仰が発達しているわけであるが、これらの他界観と固有信仰・民俗文化がどのように展開しているかを見定めることは、琉球・沖縄文化と日本および周辺地域の文化との比較研究のために不可欠なことである。本講座では、これら琉球文化圏で創造・享受されてきた文学（首里王府編『おもろさうし』〈1531～1623〉など）を素材として、この地域の人々が有する他界観・神観念などの民俗文化と想念世界について考えていく。
	琉球精神文化特論	2	山里 純一	南島（奄美・沖縄）の民俗文化について、まじない、星と風、信仰習俗などを主たるテーマとして取り上げる。特有の精神風土に根ざしたまじない習俗について、文献史料の発掘とフィールドワークの成果を活かし、中国・日本との比較も視野に入れながら考察する。また南島の地理的環境がもたらす天文・自然と人々の暮らしについて、さらに中国・日本などの外来文化が受容され独自の展開を見せる民俗文化についても見ていく。
	言語文化特別講義Ⅰ	2		言語文化教育研究領域が提供する授業科目以外で、当領域に該当又は類似する科目を特別講義として開講する。
	言語文化特別講義Ⅱ	2		言語文化教育研究領域が提供する授業科目以外で、当領域に該当又は類似する科目を特別講義として開講する。

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（社会制度政策教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	授業科目の概要
社会制度政策教育研究領域	社会制度政策研究演習Ⅰ	4	高嶺 司	修士論文の作成へ向けた準備段階のセミナーで、修士論文のタイプ、作成目的、研究を進める上での予見できる問題点、主題の選定、研究計画（リサーチ・プロポーザル）、論文の構成、論文の書式などについて、関連文献やディスカッションを用いながら学ぶ。
	社会制度政策研究演習Ⅱ	4	高嶺 司	修士論文の完成へ向けたセミナーで、社会制度政策研究演習Ⅰで終了した作業を踏まえ、修士論文の総仕上げと校正を行う。
	国際政治特論Ⅰ	2	高嶺 司	過去30年間、政治経済から文化や科学や環境に至るあらゆる領域において、グローバリゼーションと称される「地球規模のスケールをともなった相互接続」が顕著となってきている。本講義では、グローバリゼーション(Globalization)をキーワードに国際政治経済の動向と問題点を深く考察する。具体的には、地域統合、国際貿易と金融、安全保障、民主化と人権、貧困と開発、環境問題、NGO運動、情報通信革命、テロリズム、捕鯨問題、文明の衝突といった問題に焦点をあてながら現代の国際情勢を解説する。
	国際政治特論Ⅱ	2	高嶺 司	21世紀の時代を生きる私たちは、次から次へと発生する国際問題についてどのように理解し、また、どのように対処すべきなのか。こうした問いを念頭に、本特論では、私たちが現在の国際問題を理解するための有効な手段としての「国際政治理論」、及び、そうした問題にどのように対処し、平和で繁栄しかつ住みやすい国際社会を実現するための政策を作る上で重要な「国際政治の分析アプローチ」を講義テーマごとに詳しく解説する。
	地域開発政策特論	2	宮城 敏郎	経済のグローバル化、高度情報化（IT革命）の急速な進展に伴って地域の経済環境は大きく変化しており、従来の中央集権的タテワリ行政システムの中で地域の開発政策を考えるのは困難である。 本講義においてはこうした状況を踏まえ、経済的自立の条件とは何か、産業集積のメカニズムとは、競争優位を創出するためには何が必要か等、地域の視点（「地方の時代」）から経済の発展について考えていく。後半は実際に沖縄振興開発計画等にふれつつ、開発政策が沖縄の経済的自立にどう影響しているかについて考察していく。
	都市政策特論	2	高嶺 晃	都市計画（まちづくり）の「基本理論」をもとに「事例視察」を相互に行い計画と実例を実感させる、また、時代のニーズによる「まちづくりの変遷」等から「計画論」と「実現性」の紹介。「まちづくりのプレゼンテーション」の作成をセミナー方式により行う。

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（社会制度政策教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	講義概要
社会制度政策研究領域	地方自治特論	2	大城 渡	本講義では、地方政府とも言われる地方公共団体（以下「自治体」という）について、「地方自治特論」という講義名称のもとで、日本国憲法による地方自治体の保障の意義、自治体の仕事・（これは一般に「事務」といわれる）とこれを行う組織の仕組みや特徴、自治体の仕事の中でも特に重要な役割をもっている条例制定の問題、自治体における住民の地位や権利の種類や内容について、それぞれの制度趣旨・制度内容を明らかにするという観点から、講述していきたい。これらのことを学ぶことを通じて、地方の政治・行政への理解を一層深めることができるようにしたい。
	地域活性化特論	2	宮平 栄治	各地域の経済条件は異なっており、地域活性化においても他地域とは異なる手法が必要である。一般的な地域活性化策を踏まえ地域の特性を加味した地域活性のあり方が必要である。本講義においては、地域特性を踏まえつつ、地域の概念と活性化の概念についての経済理論、マーケティング論およびわが国や諸外国の地域活性化策の推移から把握し、地域活性化についての概念と政策を確定することである。
	経済政策特論	2	宮平 栄治	経済政策は、他の経済学分野と違い、極めて現実的課題を扱う。例えば、自然科学においては実験等を通じてデータを収集し、再生可能な情報を、他の社会科学においてはアンケート等を通じてデータを収集し、再生の可能性が高い情報を得、理論構築と展開を行うが、経済政策では実験を行い、失敗をする事はできない。この点を踏まえ、この講義では、経済政策の決定に関する諸課題を扱い、日本および世界経済の診断を行なう。
	国際経済特論	2	宮城 和宏	この授業は、国際経済の基本概念について学ぶことを目的としています。テーマは大別して、国際貿易に関するものと国際金融及び外国為替に関するものに分かれます。授業ではこれらについて幅広く包括的に学習することになります。なお、この講義を受講することにより、受講者が国際経済に関する新聞やニュース記事等の内容が以前よりも容易に理解できるようになることが期待されます。なお、以下のシラバスの内容は完全なものではなく、授業の進展度や学生の理解度に応じて若干の変更もありえることに留意してください。
	産業政策特論	2	宮城 和宏	後発国が産業を生成・発展させ先進国に追いつくためには、市場の失敗等により、市場メカニズムを利用するだけでは難しいことが東アジアの経験より明らかになっています。この講義では、日本を始めとする東アジア各国が先進国へ移行する過程で採用してきた産業政策や先進国でも行われている産業政策について勉強していく予定です。また「沖縄振興体制」下の政府からの補助金の仕組みや制度の役割等についても触れていきます。

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（社会制度政策教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	講義概要
社会 制度 政策 研究 領域 科目	公法学特論	2	大城 渡	本科目では、主として国や地方公共団体が法に基づき実施している施策や制度等（例えば、受講生の研究関心も参考にしながら、その法的ありようの評価について賛否が分かれていたり、あるいは、その法的あり方について根本的な議論がなされていたりするもの等を積極的に採り上げてみたい）について、担当教員が指示あるいは提供する関連文献を事前に講読し、受講生の発表・報告を基にして、公法学的観点から検討・考察する。また、公法学に関する学術論文等をできる限り多く読み解く経験を積むことによって、将来の学術論文執筆に際しての作法習得にも資したい。
	東アジア地域特論	2	菅野 敦志	本講義は東アジア地域の社会・文化変容に着目しつつ、当該地域における国民形成―「上からの国民化」―が持つ特徴を、教育政策や言語政策を含む広義の意味での文化政策の観点から論じる。本講義が対象とする東アジア地域とは、主に中華圏の社会と地域とするが、中国だけではなく、台湾や香港といった“周縁”的な地域を沖縄との比較の視座において検討することで、周辺からの地域研究とその手法について考える糸口としたい。
	国際協力・ボランティア特論	2	小川 寿美子	地球上から貧困と紛争をなくすために、国際協力は必須の活動である。その現状と動向を組織・分野別に整理し、新しい課題に取り組むための方途をさぐる。また人間の根源的な支えあい（サブシステンス）の理念を基盤に、国際ボランティア活動の定着化、システム化について考える。 It is available to provide the lecture in English, if it is strongly requested.
	社会制度政策特別講義Ⅰ	2		社会制度政策研究領域が提供する授業科目以外で、当領域に該当又は類似する科目を特別講義として開講する。
	社会制度政策特別講義Ⅱ	2		社会制度政策研究領域が提供する授業科目以外で、当領域に該当又は類似する科目を特別講義として開講する。

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（経営情報教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	授業科目の概要
経営情報教育研究領域	経営情報研究演習 I	4	アリ ファテヘルム F	情報システム構築と活用（Webアプリケーション、計算知能、ネットワーク等）に関する研究を行う。
	経営情報研究演習 I	4	宮平 栄治	経営情報研究演習 I では、修士号学位請求論文に必要なテーマ選定、研究方法、参考文献収集の仕方、批判的読解および発表の方法を学ぶ。
	経営情報研究演習 I	4	金城 亮	本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。修士論文執筆に備えて関連研究等の幅広いリサーチを行い、理論的枠組みの強化をはかる。同時に、修士論文研究に使用する妥当性・信頼性の高い調査尺度や実験課題等の収集／開発を行うために、予備的なデータ収集を実施する。さらに、種々の統計分析手法に関する理解を深めることを目的とする。
	経営情報研究演習 I	4	中里 収	本演習では、音声対話・表情・ジェスチャーといったコミュニケーションに関する現象を扱う。前半は主に文献研究、発表練習などを行う。後半はシステム設計、プログラミング技法、システム評価などについて演習する。
	経営情報研究演習 I	4	木村 堅一	本演習は、社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て、それらの先行研究の読解・分析、仮説の発展、研究目的と手法の選択、行動の数量化、仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で、各自で研究計画を決定、実行を指導する。
	経営情報研究演習 I	4	田邊 勝義	本演習は、情報処理分野における情報検索、画像処理、医療情報処理の研究活動に焦点を当て、先行研究の文献講読、課題抽出、テーマ選定、研究目的、研究方法の検討を行い、計画を策定し、研究活動を行う。
	経営情報研究演習 I	4	仲尾次 洋子	本演習では、会計分野（財務会計や国際会計）における文献研究を行うとともに、修士論文の作成方法を修得する。
	経営情報研究演習 II	4	アリ ファテヘルム F	修士論文作成に向けた研究とその成果を発表し、修士論文を完成させる。
	経営情報研究演習 II	4	宮平 栄治	研究演習 II では研究演習 I で学んだ理論的枠組みから修士論文テーマに関する論文を作成する。修士論文の作成に当たって常に理論的枠組みのどの部分を体系立てているのかという全体と部分を意識し、また、現実との比較を通して、理論の限界を認識するとともに、理論化できない諸現象へのアプローチ方法も学ぶ。
経営情報研究演習 II	4	金城 亮	本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。当分野の研究演習 I を履修済みであることを前提としている。本演習では研究演習 I において設定したテーマと予備分析に基づき、実証科学的アプローチによってデータを収集・分析し、修士論文にまとめることを課題とする。また、研究成果について少なくとも3回の報告発表（テーマ発表・中間発表・最終発表）を義務づける。	

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（経営情報教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	講義概要
経営情報教育研究領域	経営情報研究演習Ⅱ	4	中里 収	本演習では、音声対話・表情・ジェスチャーといった、コミュニケーションに関する現象を扱う。 コミュニケーションシステムの開発を題材にし、研究方法や論文執筆の手順を習得する。 前半はシステム設計、システム評価実験などの演習を行い、後半は修士論文の執筆法を演習する。
	経営情報研究演習Ⅱ	4	木村 堅一	本演習は、経営情報研究演習Ⅰに引き続き、社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て、それらの先行研究の読解・分析、仮説の発展、研究目的と手法の選択、行動の数量化、仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で、各自で研究計画を決定、実行を指導する。
	経営情報研究演習Ⅱ	4	田邊 勝義	本演習では、経営情報研究演習Ⅰ（田邊ゼミ）に引き続き、各自の研究テーマの学術的必要性、研究背景、研究課題、研究計画に基づき実験を行い、データを収集・分析し、考察した研究成果を修士論文にまとめる。研究の進捗状況について適宜報告し、ディスカッションを通じて、より完成度の高い研究成果としてまとめることを目指す。
	経営情報研究演習Ⅱ	4	仲尾次 洋子	本演習では、研究演習Ⅰで学んだ理論的枠組みをベースに修士論文を作成する。
	経営戦略特論	2	林 優子	この講義では、基本的な経営戦略に関する理論を体系的に理解することを目的として進めている。企業を取り巻く環境は常に変化し続けているため、その中での採るべき戦略も変化・進化をしていると考えられる。そこで基本的な論点を踏まえながら、企業競争や企業革新を遂げていくための戦略とはどのようなものかを研究していく。
	比較経営学特論	2	宮城 敏郎	経営学は企業の戦略・組織・行動を分析する際に、企業の経済的合理性すなわち企業の目的は利潤の追求であるという「資本の理論」を軸に分析してきた。たとえば、R.H. コースは「企業と市場」論において企業は取引費用を節約するために市場でなされていた取引を組織化したと述べた。また、O.E. ウイリアムは階層的組織の優位性が市場メカニズムより優れている点を挙げ、A.D. チャンドラーは近代大企業の成立と発展において内部組織が市場メカニズムより優越していることを歴史的分析によって明らかにした。しかし、比較制度分析の視点に立てば、アングロ・アメリカン・モデルが唯一無二の最適組織とは言えない。経済システムには多様性があり、歴史的経路と社会の制度体系に依存することは明らかである。 本講義では企業・市場（経済システム）・社会システムという総合的視点と比較経営学的視点に立ち、各国の企業組織について考察していく。

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（経営情報教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	講義概要
経営情報教育研究領域	産業組織特論	2	宮平 栄治	産業組織特論は、カルテルや独占企業などの競争市場の弊害の対策や理論化から誕生しています。そのため現実志向的で政策思考的な学問分野である。理論面では、ミクロ経済学、計量経済学やゲーム理論の知識を利用して産業組織や企業行動を分析する。
	小集団心理学特論	2	金城 亮	本特論では、集団、特に継続的な対面的相互作用のある「小集団」のダイナミクスに焦点をあてた議論を展開する。講義計画の前半では、小集団のグループ・ダイナミクス研究において、重要な諸変数を扱った研究事例をレビューする。後半はクラスで選定したテーマに沿って、実際の研究計画を策定し、データ収集ならびに統計分析を行なう演習を実施する。それらを通して、効果的な集団活動のあり方について検討する。
	人的資源管理特論	2	金城 亮	この講義科目では、人的資源をいかに管理するかというテーマに関して、人的資源管理論および組織行動論の見地から問題を発見・考察すると同時に、効果的な管理方法を学習する。さらに産業組織心理学の知見に基づき、ワーク・モチベーションや組織コミットメントなど被雇用者の観点からみた人的資源管理の課題を検討する。また、組織の情報化に伴って変化しつつある人事情報管理についても考察を深める。
	経営活動情報特論	2	田邊 勝義	情報化社会における企業経営のかかえる課題と解決策を考察する。毎回ある課題をとりあげ、その課題に関する資料を講読してまとめを発表し、意見交換する形式および最近のトピックの中から選定した題材を調べ、発表し意見交換する。
	e-ビジネス特論	2	田邊 勝義	インターネットをインフラとしたビジネスが一般化してきており、ビジネスの形態が変わってきた。本講義では、インターネットビジネスの基礎からオンライン・ビジネスへの参入方法、Webマーケティング、e-ビジネス、e-コマースの背景にあるテクノロジー等を学ぶと共に、インターネットにおけるビジネスモデルについて考察していく。
	情報交流特論	2	中里 収	本講では、人間同士の音声対話および人とコンピュータとの音声対話について研究する。 前半は文献購読を中心に、対話に関する理論やコンピュータでデータを処理する方法を学習する。 後半は、分析のテーマを設定し、実際に対話データを収集・分析してみる。 人が対話している場面で、音声情報や視覚情報がどのように利用されているかを研究する。
	情報知能特論	2	アリ ファテヘルリム F	計算機による知識情報処理の基本的考え方、方法論、応用、更なるその論文等の読みとまとめについて学ぶ。
	情報・通信技術特論	2	アリ ファテヘルリム F	Theoretical and experimental design of telecommunication and data communication systems are discussed. Standards for systems and networks, and regulations governing various issues in telecommunication sectors are explained. Legal issues related to applications are also investigated.

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（経営情報教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	講義概要
経営情報教育研究領域 教育研究領域科目	会計学特論	2	仲尾次 洋子	企業活動や投資活動のグローバル化に伴い、企業の業績を国際的に比較可能にするためのグローバルスタンダードとしてIFRS（国際財務報告基準）の導入が必要とされている。本講義では、IFRSを念頭に置きながら、英文財務諸表の読み方について学び、財務諸表分析のケーススタディを行う。
	マーケティング特論	2	平敷 徹男	本講の主眼は、マーケティング概念の理解をもとに、ボーダーレスに展開されるマーケティング問題の考察にある。否応なく、国際競争に巻き込まれるグローバル化時代における各種組織のマーケティング問題を実践に即しつつ、理論的・体系的に学ぶ。また文化、経済、政治的環境等々国内マーケティングと違う複雑な環境下におけるマーケティングの展開を国・地域間の共生を視野に入れて考えてみたい。
	経営情報特別講義 I	2		経営情報教育研究領域が提供する授業科目以外で、当領域に該当又は類似する科目を特別講義として開講する。
	経営情報特別講義 II	2		経営情報教育研究領域が提供する授業科目以外で、当領域に該当又は類似する科目を特別講義として開講する。

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（観光環境教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	授業科目の概要
観光環境教育研究領域	観光環境研究演習Ⅰ	4	新垣 裕治	<p>新たな観光の分野としてエコツーリズム (Ecotourism) が世界的に注目を浴びている。日本では‘90年になり一般的に使われるようになってきた用語で、一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り・学び、自然・文化の保護・保全と地域の振興に寄与する観光形態」と理解される体験型の観光を示す概念である。沖縄県では、1996年に日本初の西表島エコツーリズム協会が設立、その後‘99年には日本で2番目の東村エコツーリズム協会が設立され、エコツーリズムの取組みが比較的早くから起こった先進地域と捉えられている。しかし、現状としてはエコツーリズムの導入（エコツアー実施）による環境の悪化等様々な問題が顕在化し、必ずしもいい状態であるとは言えない。本演習では、このような様々な現状の分析や課題・問題を解決するための調査研究を主に環境の側面から行うことを目的として行われる。</p>
	観光環境研究演習Ⅰ	4	大谷 健太郎	<p>本演習のテーマは「地域における望ましい観光のあり方」であり、地域振興やまちづくりの中で観光を位置づけ、政策立案ができる能力を身に付ける。そのためには、観光学はもちろん、基本的な経済学の知識が必要であり、統計分析ができる能力や政策科学の学習も必要である。さらに、問題を細微にわたって分析できることと、常に広い視野を持ってポイントを押さえることも要求される。</p> <p>したがって、本演習では、理論と実践の意味連関を重視し、フィールドワークによって実践力を身に付け、単なるレポートや論文でない、「生きた」方策が論理的に組み上げられるように訓練する。また、論文の基本的なルールからはじまり、構成や引用、先行研究のまとめ方など修士論文に必要な基礎力もあわせて指導する。</p>
	観光環境研究演習Ⅱ	4	新垣 裕治	<p>観光環境演習Ⅰで行ってきた内容を充実発展させ修士論文としてまとめることを目的として行われる。</p>
	観光環境研究演習Ⅱ	4	大谷 健太郎	<p>演習Ⅰに引き続き、同様のテーマで修士論文を執筆する。演習Ⅰで得た内容を発展させ修士論文にまとめ上げることを最終的な目標とする。</p> <p>また、修士論文の途中経過をまとめ、学会発表などに投稿する論文の指導も併せて行い、論文に必要な基礎力もあわせて指導する。</p>
	観光開発特論	2	大谷 健太郎	<p>観光開発は、地域振興を目的とした観光政策であるので、本講義では公共の利益を重視した公共政策的アプローチを採用する。したがって、観光開発の目的を社会的厚生を最大化とし、観光開発が経済社会や環境、文化に与える影響をはじめとする開発と地域の関係に重点を置き、望ましい開発の理念と手法の説明を中心として講義を進める。</p> <p>本講義では、まず、国内的・国際的に汎用性のある観光開発の概念や仕組みを総論的に学ぶ。その後、方法論として観光開発の計画評価に必要な社会的費用便益分析や多基準分析、地域計画実践の際の需要予測手法や多変量解析手法などについての考え方を説明し、具体的事例を用いながら評価方法の技術的側面の理解をめざす。</p>

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（観光環境教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	講義概要
観光環境教育研究領域	観光政策特論	2	大谷 健太郎	近年、観光基本法を全面的に改正し、インバウンド・ツーリズムの推進や地域活性化などをキーワードにして観光立国推進基本法が施行された。観光による地域活性化の目的は、国および地域の魅力増大によって来訪者が増加し、観光の地域経済的社会的効果を最大化することであり、その効果を予測および検証する政策評価の過程が重要である。 本講義では、第一に国内外における観光政策立案方法と事例を概観する。その後、政策立案に関わる事前評価および政策実行の効果に関わる事後評価の政策マネジメントサイクルを理解し、地域の活性化を目的とした観光政策の評価手法の講義を行う。
	観光文化特論	2	許 点淑	本講義では、観光という人間行為の本質的なトピックを文化と関連づける研究成果に学びながら、前半では、観光と文化に関する理論的枠組みのディスカッションを中心に、後半では、世界の地域別事例研究から観光と文化の有機的動態を読み取っていくものである。
	観光資源特論	2	許 点淑	観光資源には自然景観などの自然資源と文化的・社会的資源の人文資源に大別できる。本講義は主として後者に「文化」の視点からスポットを当てる。有形・無形観光資源の歴史の変遷とそれを取り巻く社会変化を連動させながら、世界各地の事例から観光資源のへの人類学的意味づけを行なうものである。
	観光市場分析特論	2	朴 在徳	本講義では、観光市場分析のために必要な基礎理論として、行動科学や経営学等のマーケティング基礎知識と市場分析の諸方法を理解し、観光・ホスピタリティ産業やリゾートなどの市場分析へ応用するための方法を学ぶ。日本における国内観光と海外観光に関する観光市場の現状と動向、観光産業と観光関連産業や観光地などの動向等、観光統計データに解説を加えながら、その分析手法について理解する。
	観光調査法特論	2	朴 在徳	本講義では、観光データの解析のために必要な諸分析技法として、特に多変量解析 (Multivariate Analysis) 等の基礎知識を理解し、それをツールとして観光・ホスピタリティ研究分野へ応用するための方法を学ぶ。統計学上の理論よりも、むしろ調査分析への利用方法に慣れることを目的とする。
	ホテル実務特論	2	黒江 浩紹	沖縄の観光業の発展と、その中核であるホテル業がどのように変化し発展してきたかを学びながら、グローバルな視点から、優位性、問題点を大学院生と論じていきたい。 その中で、ホテル業のマネジメントスキル、オペレーションスキルを講義していきたい。
	異文化接触特論	2	李 鎮榮	構造主義の観点から、「他者」について概観し、異質なものととの接触により起きる文化変容と受講生の日常と「異化」について講義する。また、「他者との接触」を通して人起こりうる化学反応について、沖縄の問題と絡めて考察する。

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（観光環境教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	講義概要
観光環境教育研究領域	島嶼開発特論	2		Welcome to my special lecture on island sustainability focusing on islands of Okinawa. Upon completing this class, students should be able to learn various concepts and tools or model cases to analyze the current issues facing island sustainability such as socio-economic development and environmental conservation, work-life balance, sustainable community, sustainable agriculture, sustainable tourism, networking and human resources development and sustainable policies and management. Learn actual methods and practices of sustainability through visiting local communities, industry, typical tourism sites and public authorities. Construct your own sustainable models or arguments based on data / interviews/case studies. You are requested to present your field research findings and in-depth analysis toward the end of class. You are requested to submit a quality term paper at the end of this semester. This course aims at three Es, namely, Empowerment, encouragement, and Enjoyment.
	島嶼文化特論	2	李 鎮榮	日本の周辺に位置する沖縄県のような島嶼社会の場合、中央に対する求心力と「外」に対する遠心力の両方の力が作用している。島嶼社会は規範文化から「周辺の位置」にいただけでなく、市場経済においても中央の支配を受けやすい。沖縄のような島嶼群からなる社会が持つローカルティニー性について学習し、どういう開発の仕方が望ましいのか考察していく。
	島嶼生態学特論	2	新垣 裕治	島に棲息する生物と環境の関連、あるいは生物同士の関わりを生物の適応・進化・多様性などの観点から扱う分野が島嶼生態学である。本講義では、島嶼県である沖縄を島嶼生態学の観点から捉え、生物・自然・環境等の特徴を明らかにしていく。また、これら特徴は沖縄の観光資源としても極めて重要であるので、観光との関連についても言及を試みる。
	エコツーリズム特論	2	新垣 裕治	エコツーリズムとは、一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り、学び、自然・文化の保護・保全と地域振に貢献する観光形態」と理解される。エコツーリズムは従来の観光の反省に立って考えられた観光の一形態であり、これまでの観光のイメージを大きく変える可能性を持っている。 本講義では、エコツーリズムの概念、ツアー事例、エコツーリズム資源と構成要素等を通してエコツーリズムへの現状についての理解を深め、これを基にエコツーリズムの課題について考察していく。

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（観光環境教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	講義概要
教育研究領域科目	観光環境特別講義 I	2		観光環境教育研究領域が提供する授業科目以外で、当領域に該当又は類似する科目を特別講義として開講する。
	観光環境特別講義 II	2		観光環境教育研究領域が提供する授業科目以外で、当領域に該当又は類似する科目を特別講義として開講する。

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（健康科学教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	授業科目の概要
健康科学研究教育領域	健康科学研究演習Ⅰ	4	小川 寿美子	“健康とは何か”を広く考える学問である公衆衛生学を広く捉える力を養うことを目標とする。初年次である演習Ⅰでは、論理的な文章力と文献の読解力を養うための基礎固めをするため、論理的な日本語を書く技術の修得と、人間健康科学、とりわけ公衆衛生学や国際保健に関する数多くの論文、資料を精読し、多方面からの知識を涵養する。
	健康科学研究演習Ⅰ	4	平野 貴也	我が国ではスポーツ・レジャー・レクリエーションの普及振興において、指導者の多様なかわり方が求められている。演習Ⅰではまずスポーツ・レジャー・レクリエーション研究の動向について理解する。さらに文献ベースでの検討を進めると同時に、スポーツ・レジャーレクリエーションの普及振興もしくはコーチング現場での課題や問題点を見つける。問題点や課題を解決するための技法について調べ、学び、実践し、課題解決のための方法を探究する。
	健康科学研究演習Ⅱ	4	小川 寿美子	最終年次である演習Ⅱでは、論理的な文章力と文献の読解力を養うための基礎固めをするため、論理的な英語を書く技術の修得と、人間健康科学、とりわけ公衆衛生学や国際保健に関する数多くの論文、資料を精読し、多方面からの知識を涵養する。併せて、修士論文の執筆を完成させる。
	健康科学研究演習Ⅱ	4	平野 貴也	演習Ⅱではこれまで研究を進めてきたテーマに基づき、スポーツ・レジャー・レクリエーションの普及振興、スポーツ指導、コーチングに関する論文、文献を数多く精読する。研究計画を作成し、調査、分析を行い、修士論文を完成させる。発表と論議を通じてリサーチ力とプレゼンテーション力、実践力の向上を図る。
	グローバル・ヘルステ論	2	小川 寿美子	グローバルヘルスは、グローバルな規模の健康課題であり、各国の考え方や関心事を超越するものである。国境を超える健康問題や、グローバルな政治的及び経済的な影響を取り上げ、またそれについて研究する公衆衛生、疫学、医学、人口学、医療人類学、医療経済学、開発経済学、政治学、社会学などからなる複合的な学問領域を指し、様々な学問領域から、国際的コンテクストにおける健康の決定要因や配分を学ぶ。 It is available to provide the lecture in English, if it is strongly requested.
	健康心理学特論	2	宮城 政也	現代社会における健康問題に関する心理学的な究明ならびに健康教育や健康政策の策定などの心理学的役割について教授する。
	健康栄養学特論	2	新城 澄江	食事の意義、食と健康の関係、わが国ならびに諸外国における食の現状・課題と健康問題、健康・栄養政策、食生活指針などについて考究する。さらに、食品の安全・安心、食を選択する能力を培い科学的根拠に基づいた正しい食生活実践のために、四群点数法について学習する。また、沖縄の食文化に触れ長寿との関連で学習を深める。

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（健康科学教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	授業科目の概要
健康科学研究領域	社会福祉学特論	2		現代社会には、子育て、障害者や高齢者の生活、雇用や労働をめぐる諸問題の他、多様な形態の暴力（虐待、DV、自殺）など、憲法第25条が規定する「健康で文化的な最低限度の生活」を脅かす状況が深刻である。本講義では、さまざまな形で健康な生活が疎外されがちな状況にある人々を理解するとともに、すべての人の健康で文化的な生活を創造するために必要な普遍的な価値（values）と地域における実践（practice）のあり方について考察する。
	地域保健学特論	2	吉川 千恵子	健康・ウエルネス、ヘルスプロモーションの概念を基礎として、地域社会・生活・文化から生ずる健康問題や、現在、国の健康政策として展開している「健康日本21（第2次）」が沖縄県や市町村でどのように実践されているか、各健康レベルとライフサイクルの視点から考究する。また、地方自治体における健康政策づくり、保健計画策定・施策化と予算のしくみ、それに対応する地域保健医療活動のエレメントやツールを理解し、人々の健康支援などにおいて総合的企画者・協働的実践者の視点から、地域保健医療システムの開発に参画する。さらに教育研究者としての生きる知識と技法を会得し、沖縄の地域における実践例から保健医療問題と解決策を考察する。
	健康・スポーツ指導特論	2	高瀬 幸一	健康指導やスポーツ指導の現場においては、専門的な知識を如何にして効果的に伝えるかが重要になる。今日の健康科学やスポーツ科学の進歩はめまぐるしいものがあり、「健康科学やスポーツ科学」に関する正しい理論・知識を習得し、それを実践していく手法（スキル）を身につけることが必要となる。 また、超高齢化社会の今日、一般健常者や中・高齢者などの運動未経験者の健康・体力特性に視点を置いた運動指導は、十分になされているとは言い難い現状がある。 本特論は、日進月歩する分野における最新の理論を論じながら、日本における健康・スポーツ理論について考察する。
	伝統武道特論	2	盧 姜威	この授業科目において、武道に内在する日本文化の本質を理解し、スポーツと異なる日本伝統武道の特質の理解を深めていくと同時に、武道全般にわたる基礎知識を的確に把握する。その上、沖縄伝統空手の歴史的変遷について考察していく。
	スポーツトレーニング・コーチング特論	2	平野 貴也	種目特性に応じたパフォーマンス向上のためのトレーニングのあり方とコーチングの原則やコーチング理論と方法論について理解し、競技選手はもちろん、ジュニアから高齢者まで生涯を通じての健康で生き生きとした生活を送るためのトレーニング指導・指導方法について学ぶ。テーマを設定し、テーマに関する文献を読み、効果的にトレーニング・コーチングを行うための問題解決法や評価法を取り上げて検討を加えるとともに、実践事例を踏まえながらトレーニング・コーチングについてディスカッションを行う。

授業科目名・単位数・担当教員名・授業科目の概要（健康科学教育研究領域）

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	講義概要
健康科学教育研究領域	ヘルスプロモーション・ウェルネス特論	2	野崎 康明	より幸福で充実した人生を目標とするウェルネス概念を中心として、ヘルスプロモーション・ウェルネス論の歴史と概念を学び、実習を通してより深く理解し、各自がよりよい健康生活プログラムの作成が可能となる能力を習得することを目指す。
	スポーツ文化特論	2	大峰 光博	本科目は、スポーツ文化特論の内容を提供する。2011年6月にスポーツ基本法が公布され、「スポーツは、世界共通の人類の文化である。」と明記された。スポーツに対する社会的な期待は大きい一方で、2018年にはスポーツ界の不祥事がマスメディアにおいて大きく取り上げられた。本授業ではスポーツ文化の功罪について、哲学と歴史の観点から検討する。スポーツ文化論の知見を提示しつつ、現在進行形で生じているスポーツの諸問題についてディスカッションを行う。
	バイオメカニクス特論	2	玉城 将	本科目はバイオメカニクス特論の内容を提供する。本授業では動きを力学的に定量化することの意義と方法について実践的を通して学ぶ。スポーツ選手の卓越した技術を説明する力学的メカニズム、運動傷害を引き起こす動作要因など、身体運動を力学的に分析することで初めて明らかになる有用な事実は多い。バイオメカニクスは、そのような動きの力学的な分析を扱う学問である。本授業では演習を通してバイオメカニクスの分析方法の習得を目指すと同時に、運動指導におけるバイオメカニクスの意義を理解する。
	健康科学特別講義Ⅰ	2		健康科学教育研究領域が提供する授業科目以外で、当領域に該当又は類似する科目を特別講義として開講する。
	健康科学特別講義Ⅱ	2		健康科学教育研究領域が提供する授業科目以外で、当領域に該当又は類似する科目を特別講義として開講する。

シラバス

(共通科目)

科目名	人文科学特論			担当教員: 李 鎮榮							
科目名(英語)	Advanced Course of Humanity			メールアドレス: j.lee@meio-u.ac.jp 研究室電話番号: 0980-51-1091							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	前期	5	研 213	火・金 15:00-17:00						
<p>1. 授業の概要</p> <p>この講義は文化人類学的思考の特色や枠組みを紹介する。大きく人間の営みを人・自然・超自然に分け、各分野における文化人類学の考え方を紹介する。「文化」とは人を取り巻く最も重要な環境であり、人類学的思考の生産性について講義していく。講義に際して講義形式は最小限に留め、受講生による発表と活発な議論を取り入れる。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>人間の営みの様々な側面を深く体系的に理解することにより、個人のインスピレーションによるのではなく、科学的な思考が自然とできるようになってもらいたい。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 自己紹介と方針、予備知識のチェック、発表の分担者を決める。 第2週 文化人類学と人間の多様性 第3週 文化人類学の理論(社会進化論・伝播論) 第4週 文化人類学の理論(機能主義・構造機能主義) 第5週 適応と文化(狩猟採集・遊牧) 第6週 適応と文化(農耕と焼畑) 第7週 人間の行為と文化の脈絡 第8週 Sex & Gender 第9週 言語 第10週 言語と記号 第11週 言語人類学の広がり 第12週 文化を学ぶことと Culture Code 第13週 Gender-Role, Socialization 第14週 社会化とその後の生活 第15週 総括</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 Nanda, Cultural Anthropology, wadsworth (非専攻者のための概論書)。研究室所蔵 Roger.Keesing, Introduction of Cultural Anthropology (専攻者のための概論書)。図書館所蔵 その他、言語人類学と構造人類学関係の図書については最初の時間に目録を提供する。</p> <p>【参考文献】 一般的な研究書(課題により適宜紹介する)</p> <p>5. 準備学習 事前に課題を適宜紹介する。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>発表内容と授業への貢献度</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>レポート(発表など)</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし</p>						発表内容と授業への貢献度	50点	レポート(発表など)	50点	合計	100点
発表内容と授業への貢献度	50点										
レポート(発表など)	50点										
合計	100点										

科目名	政策科学特論			担当教員：高嶺 司	
科目名(英語)	Policy Science			メールアドレス：t.takamine@okinawa-ct.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1226	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	研 503	月：4 限目、火：2 限目
<p>1. 授業の概要</p> <p>本特論は、過去数十年の急速な経済成長を背景に、国際社会における存在感を増しているアジア太平洋諸国（日本、米国、カナダ、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシア、オーストラリア、ニュージーランド、ASEAN、南太平洋島嶼国）の国際関係を政策科学的に考察する。より具体的には、アジア太平洋地域の複雑でダイナミックな国際関係を、政治外交、経済協力、開発援助、地域機構、安全保障、民主化、社会変動、感染症対策といった多角的な視点より分析し、21世紀の地球社会におけるアジア太平洋地域の役割と機能、さらには、その限界を科学する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>アジア太平洋地域の複雑でダイナミックな国際関係とそれに伴う諸課題を、政策科学の視点から考察し理解する能力を養うことを目的とする。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 はじめにー概念としてのアジア太平洋 第 2 週 アジア太平洋地域の国際関係 第 3 週 アジア太平洋経済協力(APEC)と経済統合 第 4 週 アセアン地域フォーラム(ARF)と安全保障 第 5 週 日本のアジア太平洋外交 第 6 週 中国の政治外交と東アジア共同体構想 第 7 週 ロシアの政治外交と北方領土問題 第 8 週 韓国の政治外交と朝鮮半島問題 第 9 週 北朝鮮の核開発問題と 6 カ国協議 第 10 週 台湾の政治外交と中台関係 第 11 週 オーストラリアの政治外交 第 12 週 東南アジア諸国連合(ASEAN)と地域主義 第 13 週 ベトナムとミャンマーの社会構造変動と民主化 第 14 週 ニュージーランドと太平洋諸島フォーラム(PIF) 第 15 週 まとめ</p> <p>4. テキスト</p> <p>【テキスト】 特定の教科書は定めず、講義にそって参考文献や参考資料を配布する。</p> <p>【参考文献】 下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力ーその新しい潮流』有斐閣選書 2012年 高橋哲哉・山影進編『人間の安全保障』東京大学出版会 2010年 大庭三枝著『アジア太平洋地域形成への道程』ミネルヴァ書房 2004年 川口浩・渡辺昭夫編『太平洋国家オーストラリア』東京大学出版会 1988年 J. Baylis, S. Smith and P. Owens (eds.), <i>The Globalization of World Politics</i>, 2008. S. Smith, A. Hadfield, T. Dunne (eds.), <i>Foreign policy: Theories, Actors, Cases</i>, 2008.</p> <p>5. 準備学習 特になし。</p> <p>6. 成績評価の方法 課題レポート：50点 ディスカッション：50点 合計：100点</p> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					

科目名	社会心理学特論			担当教員：木村 堅一	
科目名(英語)	Social Psychology			メールアドレス：k.kimura@meio-u.ac.jp	
				研究室電話番号：0980-51-1205	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	10	研310	月曜日 3時限目 火曜日 3時限目
<p>1. 授業の概要</p> <p>本講座では、大学院での修士論文の執筆に役立つ社会心理学の「研究法」に焦点を当てる。社会心理学を学ぶ前提として、1) 科学とは何か、2) 経験とは何か、3) 経験と行動の科学に挑戦する理由とは何か、を理解することで社会心理学を学ぶ理由を明確化し全ての受講生が社会心理学の研究の営みの中に身を置いて考えることを教育目標とする。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>科学全般、特に社会心理学的な研究を行う上で必要な方法論に関する基本的な知識と技能を理解できる。自らの修士論文における研究計画の立案において、得られた知識を活用できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1回 コース紹介</p> <p>第2回 科学とは何か(第1章 その1) 認識の方法としての科学</p> <p>第3回 科学とは何か(第1章 その2) 科学的な研究方法、行動と経験の研究とは</p> <p>第4回 科学についての方法(第2章 その1) 観察、相関、実験</p> <p>第5回 科 についての方法(第2章 その2) 論理と推論、評価、コミュニケーション</p> <p>第6回 仮説を発展させる(第3章 その1) 論理的に仮説をつくる</p> <p>第7回 仮説を発展させる(第3章 その2) アイディアを得る</p> <p>第8回 数的表現による行動の記述(第4章 その1) 測定と統計</p> <p>第9回 数的表現による行動の記述(第4章 その2) 記述統計</p> <p>第10回 推測統計(第5章 その1) 確率と分布</p> <p>第11回 推測統計(第5章 その2) 仮説検証、t検定</p> <p>第12回 仮説を検討する(第6章 その1) 変動の種類</p> <p>第13回 仮説を検討する(第6章 その2) 統計的仮説検証と内的妥当性</p> <p>第14回 統制(第7章 その1) 無作為化、実験計画での統制</p> <p>第15回 統制(第7章 その2) 実験の論理での統制、前期のまとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>W. J. レイ(著) 岡田 圭二(訳) 2013 改訂エンサイクロペディア心理学研究方法論 北大路書房</p> <p>高根正昭 1979 創造の方法学(講談社現代新書 553) 講談社</p> <p>南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編) 2001 心理学研究法入門 東京大学出版会</p> <p>5. 準備学習</p> <p>指定した範囲について、テキスト・参考文献を通読し、重要な用語については定義を書きだしておくこと。</p> <p>予め指定された担当範囲についてレジメを作成すること。</p> <p>学習内容について、自らの修士論文に関連した具体例を用意しておくこと。</p> <p>6. 成績評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義への取り組み(50点)：講義での発表と資料作成、質疑応答、積極的な参加 課題レポートの提出(50点)：1つの章を要約し、授業の中での議論を踏まえ、研究課題を設定、報告。 合計(100点) <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

科目名	環境科学特論			担当教員：田代 豊							
科目名(英語)	Advanced Environmental Science			メールアドレス：tashiro@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1086							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	前期	10	研 207	火・木曜 14:45～15:45						
<p>1. 授業の概要</p> <p>地球環境における様々な問題は、世界の政治や経済の動向と複雑に関連し、各地の社会に様々な影響を与えている。本科目ではこうした地球環境に関する主要な話題として、プラスチックごみ問題、地球温暖化問題、水資源問題について概説し、受講生による発表と相互のディスカッションによって理解を深めるものである。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>地球環境問題を自然科学および社会科学の面から理解し、環境を科学的に見ることを理解する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 科目の概要の説明</p> <p>第 2 週 プラスチックごみ問題をめぐる国際的な動向について①</p> <p>第 3 週 プラスチックごみ問題をめぐる国際的な動向について②</p> <p>第 4 週 プラスチックごみ問題をめぐる国際的な動向について③</p> <p>第 5 週 プラスチックごみ問題をめぐる国際的な動向について④</p> <p>第 6 週 中間まとめ</p> <p>第 7 週 地球温暖化問題について①</p> <p>第 8 週 地球温暖化問題について②</p> <p>第 9 週 地球温暖化問題について③</p> <p>第 10 週 地球温暖化問題について④</p> <p>第 11 週 中間まとめ</p> <p>第 12 週 水資源問題をめぐる国際的な動向について①</p> <p>第 13 週 水資源問題をめぐる国際的な動向について②</p> <p>第 14 週 水資源問題をめぐる国際的な動向について③</p> <p>第 15 週 総合討論</p> <p>4. 参考文献</p> <p>『地球白書 2006-2007』ワールドウォッチ研究所編、ワールドウォッチジャパン発行</p> <p>『三峡ダムと日本』鷺見一夫著、築地書館発行</p> <p>『京都議定書をめぐる国際交渉』浜中裕徳編、慶応義塾大学出版会発行</p> <p>『「レジ袋」の環境経済政策』舟木賢徳著、リサイクル文化社発行</p> <p>5. 準備学習</p> <p>配布資料の次回授業該当部分を精読しておくこと。地球環境に関する最近の話題を議論のテーマに取り入れるので、新聞などにより基本的な情報を常時得るようにしておくこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table> <tr> <td>授業への取り組み</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>自然科学の基本的な素養があり、過去に環境科学に関連する講義を履修したことがあること。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						授業への取り組み	50点	レポート	50点	合計	100点
授業への取り組み	50点										
レポート	50点										
合計	100点										

科目名	健康科学特論			担当教員：小川 寿美子	
科目名(英語)	Advanced Course of Health Science			メールアドレス：sumiko@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	4	研 608	研究室前に掲示

1. 授業の概要

人々の健康を守る人間社会の営みを、医療者や専門家に任せておけばよいという時代はもう終わった。自分のからだ
と心の主人公はやはり自分であり、よき医療者を得たり、医療者との良い関係を保ったり、保健医療を浴したり、環境
や社会をより健康的に変えていったりするのも、保健医療の利用者・消費者である一般の人々の責任と行動に負うところ
が益々大きくなってきている。

本講義では、大学院の共通科目として、単に知識を提供したり開設を加えたりするだけでなく、各章で取り上げている
問題を受講者が自分の健康問題として考え行動してもらうことを重視する。更に、講義の一部は英語で「健康科学」
を考える機会を設けることにより、他言語での学びを通じ、大学院の教養レベルの基礎的知識を多角的に習得できるよ
うにする。

It is available to provide the lecture in English, if it is strongly requested.

2. 到達目標

本特論を通じて、受講生は、これらの学びの過程をそれぞれポートフォリオ（本科目を学ぶ過程で得た知識、スキル、
成果の達成過程を示すファイル）にまとめる作業を通じて、体系的な知識の構築手法を学ぶ。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 健康とは何か
- 第 2 週 現代社会の心の病
- 第 3 週 ストレスと対処
- 第 4 週 食生活と健康
- 第 5 週 フィットネスとウエイトコントロール
- 第 6 週 タバコとアルコールと薬物
- 第 7 週 愛しあう関係
- 第 8 週 成熟とエイジング
- 第 9 週 死と死にゆくこと
- 第 10 週 慢性疾患と事故とその予防
- 第 11 週 感染症の再興とその予防
- 第 12 週 医療における行動と選択
- 第 13 週 ヘルスケアシステムとマンパワー
- 第 14 週 環境と健康
- 第 15 週 試験

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

「生き方としての健康科学」山崎喜比古・朝倉隆司 編，有信堂，2011年（第5版）2,800円

【参考文献】

「Life and health care」Yoko Watanabe, Sanshusha, 2002年

「CLIL 英語で学ぶ健康科学-CLIL Health Sciences」笹島茂，他，三修社，2013年

「人々を健康にするための戦略」蛭名玲子，ライフ出版社 2013年

5. 準備学習

各週に出される課題、宿題をすること

6. 成績評価の方法

授業での活動状況	50点
課題レポート	50点
合計	100点

7. 履修の条件

公衆衛生学特論を受講中もしくは受講済みであること。

8. その他

同演習を通じて得た分析技法を用い、科学的根拠に基づく修士論文を執筆してほしい。

科目名	学術研究方法特論		担当教員：国際文化研究科長：中村 浩一郎（代表者） メールアドレス： 研究室電話番号：
科目名(英語)	Academic Research Method		
単位数	受講年次	開講学期	登録人数
2	1	前期	平成28年度以降入学者全員(平成28年度以降入学生必修科目)

1. 授業の概要

修士課程における初期段階の研究テーマの設定、参考文献の収集、研究倫理、基本的な研究方法である質的研究方法と量的研究方法、基本的な学術論文作成方法等について学習し、研究デザインを完成させる。

2. 到達目標

- (1) 問題性があり、焦点化された、学術的に重要性のある研究テーマを設定することができる。
- (2) 参考文献の収集方法、文献管理、論文への引用方法について学ぶ。
- (3) 質的研究方法と量的研究方法の基礎について学び、自らの研究に活用する。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 修士課程の説明、修士研究の意義 (担当：研究科長、各教育研究領域主任) 4/13 (月)
- 第2週 研究(学際的視点を含む)とは何か、研究生活 (担当：研究科長) 4/20 (月)
- 第3週 研究テーマと研究の目的 (担当：渡慶次正則 教授) 4/27 (月)
- 第4週 参考文献の検索と管理① (担当：図書館長) 5/4 (月)
- 第5週 参考文献の検索と管理② (担当：図書館長) 5/11 (月)
- 第6週 修士論文の作成方法 (APA, MLA 他) と論文の一般的な形 (担当：研究科長、演習指導教員) 5/18 (月)
- 第7週 量的研究方法 (SPSS の活用方法を含む) (担当：金城亮 教授) 5/25 (月)
- 第8週 質問紙の構成 (担当：金城亮 教授) 6/1 (月)
- 第9週 質的研究方法① (担当：鈴木啓子 副学長) 6/8 (月)
- 第10週 質的研究方法② (担当：小川寿美子 教授) 6/15 (月)
- 第11週 ミックスメソッドとサンプリング (無作為法と特定目的法) (担当：渡慶次正則 教授) 6/22 (月)
- 第12週 歴史的研究等の方法 (担当：住江淳司 教授) 6/29 (月)
- 第13週 研究倫理と剽窃 (担当：大城渡 教授) 7/6 (月)
- 第14週 発表 (担当：研究科長、演習指導教員) 7/13 (月)
- 第15週 発表 (担当：研究科長、演習指導教員) 7/20 (月)

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜紹介

【参考文献】

適宜紹介

5. 準備学習

リサーチ・ペーパーと発表は事前に準備をして授業に参加する。

6. 成績評価の方法

授業レポート：50点

発表：25点

研究デザイン(テーマ、理由、目的、調査方法)：25点

合計：100点

7. 履修の条件

なし

8. その他

- ・論文作成の書式については、基本的に指導教員の指示に従う(但し、統一した形式を用いる事)
- ・各講師の課す授業レポートを提出すること。

シラバス

(言語文化教育研究領域科目)

class		言語文化研究演習 I			担当教員: Meghan Kuckelman Beverage	
科目名 (英語)		Seminar In Language and Culture			E-mail: m.kuckelman@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	学部棟	研究室	オフィスアワー
2	1	通年	1~2		404	Tu 1 Tu 4

The class will be held Thursdays, 3rd period (13:00-14:30).

Class content

This course will introduce students to the principles and methods of graduate-level research and writing in English literary studies.

Class objectives

- Students will conduct independent research on a topic selected in consultation with the advisor and present the results of that research.
- Students will write a conference-length paper explaining the results of the research and presenting an original argument about the topic.
- Students will develop plans for a Master's thesis in English literature.

Class schedule

Class 1-2: Introductions

Class 3-4: Independent Research (Consultation in 404 if necessary)

Class 5: Presentation of Research

Class 6-7: Independent Research (Consultation in 404 if necessary)

Class 8: Presentation of Research

Class 9-13: Independent Writing (Consultation in 404 if necessary)

Class 14: Presentation

Class 15: Review

Textbook

Will vary according to student.

Assessment

Presentation and Discussion: 50 points

Conference Paper: 50 points

Total: 100 points

Note

- This course will be conducted entirely in English, including all reading, writing, and discussion.

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：渡慶次 正則			
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp 研究室電話番号：0980-51-1235			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー		
2	1	通年	5	研 512	月曜日 6 時限		
<p>1. 授業の概要 研究テーマを決定し、実証的データを収集できるようにする。修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に備える。</p> <p>2. 到達目標 (1) 研究テーマを決定する。 (2) データの収集方法と分析方法を決定する。 (3) 修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に十分に備える。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>(前期)</p> <p>第1週 オリエンテーション</p> <p>第2週 リサーチの種類や果たす役割や重要性について テーマについて考える</p> <p>第3週 リサーチ・デザインについて</p> <p>第4週 質的研究について (1)</p> <p>第5週 質的研究について (2)</p> <p>第6週 量的研究について (1)</p> <p>第7週 量的研究について (2)</p> <p>第8週 テーマの選択について</p> <p>第9週 テーマの決定</p> <p>第10週 リサーチ・プロポーザル下書き(データ収集方法)</p> <p>第11週 リサーチ・プロポーザル下書き作成 (データ分析方法)</p> <p>第12週 リサーチ・プロポーザル下書き作成 (文献)</p> <p>第13週 リサーチ・プロポーザル下書き作成 (文献)</p> <p>第14週 リサーチ・プロポーザル下書き作成 (序論)</p> <p>第15週 リサーチ・プロポーザル下書き完成、テーマ発表の準備</p> </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <p>(後期)</p> <p>第1週 オリエンテーション</p> <p>第2週 文献研究の発表 (1)</p> <p>第3週 文献研究の発表 (2)</p> <p>第4週 データ収集方法の検討</p> <p>第5週 データ収集方法の決定</p> <p>第6週 データ収集の準備</p> <p>第7週 データ収集と倫理</p> <p>第8週 文献発表 (3)</p> <p>第9週 文献発表 (4)</p> <p>第10週 文献発表 (5)</p> <p>第11週 データ収集</p> <p>第12週 データ収集</p> <p>第13週 データ収集</p> <p>第14週 データ収集</p> <p>第15週 1年次発表の準備と評価</p> </td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 特になし。 【参考文献】 随時指定</p> <p>5. 準備学習 事前に演習で発表する課題を指導教員に送付する。</p> <p>6. 成績評価の方法 リサーチ・プロポーザルやゼミへの取り組みで評価。</p> <p>7. 履修の条件 事前に研究テーマについて概ね指導教員と相談をしておく。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						<p>(前期)</p> <p>第1週 オリエンテーション</p> <p>第2週 リサーチの種類や果たす役割や重要性について テーマについて考える</p> <p>第3週 リサーチ・デザインについて</p> <p>第4週 質的研究について (1)</p> <p>第5週 質的研究について (2)</p> <p>第6週 量的研究について (1)</p> <p>第7週 量的研究について (2)</p> <p>第8週 テーマの選択について</p> <p>第9週 テーマの決定</p> <p>第10週 リサーチ・プロポーザル下書き(データ収集方法)</p> <p>第11週 リサーチ・プロポーザル下書き作成 (データ分析方法)</p> <p>第12週 リサーチ・プロポーザル下書き作成 (文献)</p> <p>第13週 リサーチ・プロポーザル下書き作成 (文献)</p> <p>第14週 リサーチ・プロポーザル下書き作成 (序論)</p> <p>第15週 リサーチ・プロポーザル下書き完成、テーマ発表の準備</p>	<p>(後期)</p> <p>第1週 オリエンテーション</p> <p>第2週 文献研究の発表 (1)</p> <p>第3週 文献研究の発表 (2)</p> <p>第4週 データ収集方法の検討</p> <p>第5週 データ収集方法の決定</p> <p>第6週 データ収集の準備</p> <p>第7週 データ収集と倫理</p> <p>第8週 文献発表 (3)</p> <p>第9週 文献発表 (4)</p> <p>第10週 文献発表 (5)</p> <p>第11週 データ収集</p> <p>第12週 データ収集</p> <p>第13週 データ収集</p> <p>第14週 データ収集</p> <p>第15週 1年次発表の準備と評価</p>
<p>(前期)</p> <p>第1週 オリエンテーション</p> <p>第2週 リサーチの種類や果たす役割や重要性について テーマについて考える</p> <p>第3週 リサーチ・デザインについて</p> <p>第4週 質的研究について (1)</p> <p>第5週 質的研究について (2)</p> <p>第6週 量的研究について (1)</p> <p>第7週 量的研究について (2)</p> <p>第8週 テーマの選択について</p> <p>第9週 テーマの決定</p> <p>第10週 リサーチ・プロポーザル下書き(データ収集方法)</p> <p>第11週 リサーチ・プロポーザル下書き作成 (データ分析方法)</p> <p>第12週 リサーチ・プロポーザル下書き作成 (文献)</p> <p>第13週 リサーチ・プロポーザル下書き作成 (文献)</p> <p>第14週 リサーチ・プロポーザル下書き作成 (序論)</p> <p>第15週 リサーチ・プロポーザル下書き完成、テーマ発表の準備</p>	<p>(後期)</p> <p>第1週 オリエンテーション</p> <p>第2週 文献研究の発表 (1)</p> <p>第3週 文献研究の発表 (2)</p> <p>第4週 データ収集方法の検討</p> <p>第5週 データ収集方法の決定</p> <p>第6週 データ収集の準備</p> <p>第7週 データ収集と倫理</p> <p>第8週 文献発表 (3)</p> <p>第9週 文献発表 (4)</p> <p>第10週 文献発表 (5)</p> <p>第11週 データ収集</p> <p>第12週 データ収集</p> <p>第13週 データ収集</p> <p>第14週 データ収集</p> <p>第15週 1年次発表の準備と評価</p>						

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：住江 淳司	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：j.sumie@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1228	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	2	研 505	火2・木1

1. 講義内容
まず、修士論文のテーマを定める。そのテーマに即した先行研究に関する文献を集める方法から始め、図書館のレファレンスコーナーを活用する。演習 I では研究史を作成させるところまでを指導する。

2. 到達目標
研究史を完成させることを、まず演習 I の到達目標とする。

3. 講義予定

第 1 週	オリエンテーション	第 1 6 週	1 次資料の探索指導 3
第 2 週	文献探索指導 1	第 1 7 週	1 次資料の探索指導 4
第 3 週	文献探索指導 2	第 1 8 週	3 次資料の探索指導 1
第 4 週	文献探索指導 3	第 1 9 週	3 次資料の探索指導 2
第 5 週	文献探索指導 4	第 2 0 週	3 次資料の探索指導 3
第 6 週	文献探索指導 5	第 2 1 週	3 次資料の探索指導 4
第 7 週	文献探索指導 6	第 2 2 週	研究史の作成 1
第 8 週	修士論文テーマ発表の準備	第 2 3 週	研究史の作成 2
第 9 週	テーマ発表の際の指摘事項確認	第 2 4 週	研究史の作成 3
第 1 0 週	2 次資料の分析 1	第 2 5 週	研究史の作成 4
第 1 1 週	2 次資料の分析 2	第 2 6 週	研究史の作成 5
第 1 2 週	2 次資料の分析 3	第 2 7 週	研究史の作成 6
第 1 3 週	2 次分析の資料 4	第 2 8 週	研究史と小括の作成 1
第 1 4 週	1 次資料の探索指導 1	第 2 9 週	研究史と小括の作成 2
第 1 5 週	1 次資料の探索指導 2	第 3 0 週	研究史と小括の作成 3

4. テキスト・参考文献
【テキスト】
平野 健一郎 『国際文化論』 東京大学出版会、2008 年。
【参考文献】
特になし。

5. 準備学習
事前に演習で発表する課題を指導教員に送付する。

6. 評価方法
論文作成段階における出来具合で評価する。具体的には、オリジナリティ、研究史の完成度、本文の構成、注記の付け方、参考文献の完成度にそれぞれ 20 点の割合で評価する。

7. 履修要件
中南米の文化事象に関することをテーマにしていること。
先行研究の外国語（ポルトガル語、スペイン語、英語）文献を読めるだけの語学力が必要である。

8. その他
特になし。

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1224	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	2	501	月曜日 6 時限、木曜日 6 時限

1. 授業の概要

理論言語研究の対象としての言語、特に英語の法助動詞の意味、機能、使用場面、統語構造などについての知識を習得する。

2. 到達目標

修士論文で取り上げる内容を決定し、論文概要を作成する。

3. 授業の計画と内容

前学期

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 英語の現在・過去時制
- 第 3 週 英語の進行相 (1)
- 第 4 週 英語の進行相 (2)
- 第 5 週 過去をどう表現するか (1)
- 第 6 週 過去をどう表現するか (2)
- 第 7 週 未来をどう表現するか (1)
- 第 8 週 可能性のある修士論文のテーマ
- 第 9 週 修士論文テーマ計画発表会にむけて
- 第 10 週 未来をどう表現するか (2)
- 第 11 週 法助動詞 (1)
- 第 12 週 法助動詞 (2)
- 第 13 週 法助動詞 (3)
- 第 14 週 法助動詞 (4)
- 第 15 週 前期のまとめと後期への展望

後学期

- 第 1 週 言語の類型論的時制分析 (1)
- 第 2 週 言語の類型論的時制分析 (2)
- 第 3 週 言語の類型論相分析 (1)
- 第 4 週 言語の類型論相分析 (2)
- 第 5 週 言語の類型論的モダリティー分析(1)
- 第 6 週 言語の類型論的モダリティー分析 (2)
- 第 7 週 修士論文のテーマ決定に向けて (1)
- 第 8 週 修士論文のテーマ決定に向けて (2)
- 第 9 週 修士論文のテーマ決定に向けて (3)
- 第 10 週 修士論文のテーマ決定に向けて (4)
- 第 11 週 リサーチ・ペーパーとしての修士論文 (1)
- 第 12 週 リサーチ・ペーパーとしての修士論文 (2)
- 第 13 週 リサーチ・ペーパーとしての修士論文 (3)
- 第 14 週 論文概要作成 (1)
- 第 15 週 論文概要作成 (2)

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

- ① Leech, Geoffrey N. (2004) *Meaning and the English Verb*, Third edition, Routledge.
- ② Declerck, Renaat (1991) *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*, Kaitakusha

【参考文献】

講義中に随時紹介するが、主なものを挙げておく。

- ① Comrie, Bernard (1976) *Aspect*, Cambridge University Press.
- ② Comrie, Bernard (2008) *Tense*, Cambridge University Press.
- ③ Coates, Jennifer (2015) *The Semantics of Modal Auxiliaries*, Routledge.

5. 準備学習

毎回の授業でテキストの担当範囲を決め、内容を要約し問題点を指摘するので、予め準備しておくこと。

6. 成績評価の方法

クラスでのプレゼンテーション	40 点
期末報告レポート (この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する)	40 点
修士論文研究計画テーマ発表会	10 点
論文概要発表会	10 点
	合計 100 点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：嘉納 英明			
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：kano@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1233			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー		
4	1	通年	3	研 510	火 3、木 3		
<p>1. 授業の概要</p> <p>①修士論文のテーマを設定し、そのテーマに関係する先行研究（文献）を集め、分析的に読む。 ②研究方法の検討と確定、資料収集を進める。 ③主にディスカッションを通して、論文全体の構想をつくり、修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に備える。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>①研究テーマを決定する。 ②テーマに関する資料を収集し、分析方法を決定する。 ③修士論文の概要を作成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(前期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 学術論文とは何か 第 3 週 修士論文とは何か 第 4 週 研究テーマの定め方① 第 5 週 研究テーマの定め方② 第 6 週 テーマの絞り方① 第 7 週 テーマの絞り方② 第 8 週 文献探索指導① 第 9 週 文献探索指導② 第 10 週 文献探索指導③ 第 11 週 テーマの決定 第 12 週 研究方法の決定 第 13 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成 第 14 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成 (序論) 第 15 週 テーマ発表の準備</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(後期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 修士論文テーマ発表会のふりかえり 第 3 週 文献研究の発表① 第 4 週 文献研究の発表② 第 5 週 資料収集方法の検討 第 6 週 資料収集方法の決定 第 7 週 資料収集の報告① 第 8 週 資料収集の報告② 第 9 週 文献研究の発表③ 第 10 週 文献研究の発表④ 第 11 週 資料収集と分析 a 第 12 週 資料収集と分析 b 第 13 週 資料収集と分析 c 第 14 週 1年次発表の準備① 第 15 週 1年次発表の準備②</p> </td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献 随時指定。</p> <p>5. 準備学習 事前に演習で報告する課題を指導教員に提出する。</p> <p>6. 成績評価の方法 リサーチ・プロポーザル、ゼミへの取り組みで評価します。</p> <p>7. 履修の条件 事前に、研究関心やテーマについて指導教員と相談をしておく。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						<p>(前期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 学術論文とは何か 第 3 週 修士論文とは何か 第 4 週 研究テーマの定め方① 第 5 週 研究テーマの定め方② 第 6 週 テーマの絞り方① 第 7 週 テーマの絞り方② 第 8 週 文献探索指導① 第 9 週 文献探索指導② 第 10 週 文献探索指導③ 第 11 週 テーマの決定 第 12 週 研究方法の決定 第 13 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成 第 14 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成 (序論) 第 15 週 テーマ発表の準備</p>	<p>(後期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 修士論文テーマ発表会のふりかえり 第 3 週 文献研究の発表① 第 4 週 文献研究の発表② 第 5 週 資料収集方法の検討 第 6 週 資料収集方法の決定 第 7 週 資料収集の報告① 第 8 週 資料収集の報告② 第 9 週 文献研究の発表③ 第 10 週 文献研究の発表④ 第 11 週 資料収集と分析 a 第 12 週 資料収集と分析 b 第 13 週 資料収集と分析 c 第 14 週 1年次発表の準備① 第 15 週 1年次発表の準備②</p>
<p>(前期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 学術論文とは何か 第 3 週 修士論文とは何か 第 4 週 研究テーマの定め方① 第 5 週 研究テーマの定め方② 第 6 週 テーマの絞り方① 第 7 週 テーマの絞り方② 第 8 週 文献探索指導① 第 9 週 文献探索指導② 第 10 週 文献探索指導③ 第 11 週 テーマの決定 第 12 週 研究方法の決定 第 13 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成 第 14 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成 (序論) 第 15 週 テーマ発表の準備</p>	<p>(後期)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 修士論文テーマ発表会のふりかえり 第 3 週 文献研究の発表① 第 4 週 文献研究の発表② 第 5 週 資料収集方法の検討 第 6 週 資料収集方法の決定 第 7 週 資料収集の報告① 第 8 週 資料収集の報告② 第 9 週 文献研究の発表③ 第 10 週 文献研究の発表④ 第 11 週 資料収集と分析 a 第 12 週 資料収集と分析 b 第 13 週 資料収集と分析 c 第 14 週 1年次発表の準備① 第 15 週 1年次発表の準備②</p>						

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：李 鎮榮	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：j.lee@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1091	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	5	研 213	月 3、木 3

1. 授業の概要

- ①修士論文のテーマを設定し、そのテーマに関する先行研究（文献）を集め、分析的に読む。
- ②研究方法の検討と確定。
- ③主にディスカッションを通して、論文全体の構想をつくり、修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に備える。
- ④執筆生産者としての基本的な素養を身につける。

2. 到達目標

- ①テーマに関する資料を収集し、分析方法を決定する。
- ②前期までに論文の顔である序論を完成し、後期までに本文の作成に取り組む。

3. 授業の計画と内容

(前期)

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 学術論文とは何か
- 第 3 週 修士論文とは何か
- 第 4 週 研究テーマの定め方①
- 第 5 週 研究テーマの定め方②
- 第 6 週 テーマの絞り方①
- 第 7 週 テーマの絞り方②
- 第 8 週 文献探索指導①
- 第 9 週 文献探索指導②
- 第 10 週 文献探索指導③
- 第 11 週 テーマの決定
- 第 12 週 研究方法の決定
- 第 13 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成
- 第 14 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成 (序論)
- 第 15 週 テーマ発表の準備

(後期)

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 修士論文テーマ発表会のふりかえり
- 第 3 週 文献研究の発表①
- 第 4 週 文献研究の発表②
- 第 5 週 資料収集方法の検討
- 第 6 週 資料収集方法の決定
- 第 7 週 資料収集の報告①
- 第 8 週 資料収集の報告②
- 第 9 週 文献研究の発表③
- 第 10 週 文献研究の発表④
- 第 11 週 資料収集と分析 a
- 第 12 週 資料収集と分析 b
- 第 13 週 資料収集と分析 c
- 第 14 週 1年次発表の準備①
- 第 15 週 1年次発表の準備②

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

櫻井哲夫『近代の発明』、福井勝義『認識と文化』など随時紹介する。

【参考文献】

随時紹介する。

5. 準備学習

文献を徹底的に読み、理解しておくこと。

6. 成績評価の方法

達成度、論文のプロポーザル、貢献度を見て判断する。

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

class		言語文化研究演習II			担当教員： Meghan Kuckelman Beverage	
科目名 (英語)		Seminar In Language and Culture			E-mail: m.kuckelman@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	学部棟	研究室	オフィスアワー
2	2	通年	1~2		404	Tu 1 Tu 4

The class will be held Thursdays, 3rd period (13:00-14:30).

Class content

This course will introduce students to the principles and methods of graduate-level research and writing in English literary studies.

Class objectives

- Students will conduct independent research on a topic selected in consultation with the advisor and present the results of that research.
- Students will write a conference-length paper explaining the results of the research and presenting an original argument about the topic.
- Students will develop plans for a Master's thesis in English literature.

Class schedule

Class 1-2: Introductions
 Class 3-4: Independent Research (Consultation in 404 if necessary)
 Class 5: Presentation of Research
 Class 6-7: Independent Research (Consultation in 404 if necessary)
 Class 8: Presentation of Research
 Class 9-13: Independent Writing (Consultation in 404 if necessary)
 Class 14: Presentation
 Class 15: Review

Textbook

Will vary according to student.

Assessment

Presentation and Discussion: 50 points
 Conference Paper: 50 points
 Total: 100 points

Note

- This course will be conducted entirely in English, including all reading, writing, and discussion.

科目名	言語文化研究演習Ⅱ			担当教員：渡慶次 正則			
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp 研究室電話番号：0980-51-1235			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー		
2	2	通年	5	研512	月曜日 6時限		
<p>1. 授業の概要 修士論文のリサーチ・プロポーザルを完成させ、中間発表を経て、修士論文を完成させることを目的とする。</p> <p>2. 到達目標 (1) 修士論文中間発表や最終発表に備える。 (2) 修士論文を完成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(前期)</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 データの収集方法と分析方法について</p> <p>第3回 データ収集開始及び経過報告</p> <p>第4回 データ収集と経過報告</p> <p>第5回 データ収集終了</p> <p>第6回 データの分析</p> <p>第7回 データの分析</p> <p>第8回 調査方法の下書き</p> <p>第9回 調査結果の下書き</p> <p>第10回 文献の下書き</p> <p>第11回 文献の下書き</p> <p>第12回 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (1)</p> <p>第13回 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (2)</p> <p>第14回 中間発表の準備</p> <p>第15回 講義のまとめ</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(後期)</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 中間発表の反省</p> <p>第3回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第4回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第5回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第6回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第7回 序論の完成</p> <p>第8回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第9回 修士論文のスタイル確認</p> <p>第10回 結論の下書き</p> <p>第11回 最終的な修正と推敲</p> <p>第12回 最終的な修正と推敲</p> <p>第13回 最終的な修正と推敲</p> <p>第14回 最終的な修正と推敲</p> <p>第15回 修士論文全体の推敲、完成</p> </td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 特になし。 【参考文献】 随時指定</p> <p>5. 準備学習 事前に修士論文の原稿を指導教員に送付する。</p> <p>6. 成績評価の方法 修士論文とその作成過程で総合的に評価。</p> <p>7. 履修の条件 言語文化研究演習Ⅰを終了する事。</p> <p>8. その他 特になし</p>						<p>(前期)</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 データの収集方法と分析方法について</p> <p>第3回 データ収集開始及び経過報告</p> <p>第4回 データ収集と経過報告</p> <p>第5回 データ収集終了</p> <p>第6回 データの分析</p> <p>第7回 データの分析</p> <p>第8回 調査方法の下書き</p> <p>第9回 調査結果の下書き</p> <p>第10回 文献の下書き</p> <p>第11回 文献の下書き</p> <p>第12回 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (1)</p> <p>第13回 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (2)</p> <p>第14回 中間発表の準備</p> <p>第15回 講義のまとめ</p>	<p>(後期)</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 中間発表の反省</p> <p>第3回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第4回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第5回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第6回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第7回 序論の完成</p> <p>第8回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第9回 修士論文のスタイル確認</p> <p>第10回 結論の下書き</p> <p>第11回 最終的な修正と推敲</p> <p>第12回 最終的な修正と推敲</p> <p>第13回 最終的な修正と推敲</p> <p>第14回 最終的な修正と推敲</p> <p>第15回 修士論文全体の推敲、完成</p>
<p>(前期)</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 データの収集方法と分析方法について</p> <p>第3回 データ収集開始及び経過報告</p> <p>第4回 データ収集と経過報告</p> <p>第5回 データ収集終了</p> <p>第6回 データの分析</p> <p>第7回 データの分析</p> <p>第8回 調査方法の下書き</p> <p>第9回 調査結果の下書き</p> <p>第10回 文献の下書き</p> <p>第11回 文献の下書き</p> <p>第12回 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (1)</p> <p>第13回 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (2)</p> <p>第14回 中間発表の準備</p> <p>第15回 講義のまとめ</p>	<p>(後期)</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 中間発表の反省</p> <p>第3回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第4回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第5回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第6回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第7回 序論の完成</p> <p>第8回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第9回 修士論文のスタイル確認</p> <p>第10回 結論の下書き</p> <p>第11回 最終的な修正と推敲</p> <p>第12回 最終的な修正と推敲</p> <p>第13回 最終的な修正と推敲</p> <p>第14回 最終的な修正と推敲</p> <p>第15回 修士論文全体の推敲、完成</p>						

科目名	言語文化研究演習Ⅱ			担当教員：住江 淳司																																																													
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：j.sumie@meio-u.ac.jp																																																													
				研究室電話番号：0980-51-1228																																																													
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																																												
4	2	通年	2	研505	火2・金2																																																												
<p>1. 授業の概要 修士論文の研究史を完成させ、中間発表を経て、修士論文を完成させることを最終目的とする。</p> <p>2. 到達目標 修士論文を完成させ、口頭試問に合格できる準備を行う。</p> <p>3. 講義予定</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週</td> <td>オリエンテーション</td> <td>第16週</td> <td>1次資料の探索指導3</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>文献探索指導1</td> <td>第17週</td> <td>1次資料の探索指導4</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>文献探索指導2</td> <td>第18週</td> <td>3次資料の探索指導1</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>文献探索指導3</td> <td>第19週</td> <td>3次資料の探索指導2</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>文献探索指導4</td> <td>第20週</td> <td>3次資料の探索指導3</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>文献探索指導5</td> <td>第21週</td> <td>3次資料の探索指導4</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>文献探索指導6</td> <td>第22週</td> <td>本文の作成1</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>修士論文テーマ発表の準備</td> <td>第23週</td> <td>本文の作成2</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>テーマ発表の際の指摘事項確認</td> <td>第24週</td> <td>本文の作成3</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>2次資料の分析1</td> <td>第25週</td> <td>本文の作成4</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>2次資料の分析2</td> <td>第26週</td> <td>注記の作成5</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>2次資料の分析3</td> <td>第27週</td> <td>注記の作成6</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>2次分析の資料4</td> <td>第28週</td> <td>参考文献と小括の作成1</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>1次資料の探索指導1</td> <td>第29週</td> <td>参考文献と小括の作成2</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>1次資料の探索指導2</td> <td>第30週</td> <td>修士論文の最終チェック3</td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 小池洋一著 『図説ラテンアメリカ』、日本評論社、1999年。</p> <p>【参考文献】 国本伊代・中川文雄編著 『ラテンアメリカ研究への招待』、新評論、1997年。</p> <p>5. 準備学習 事前に演習で発表する課題を指導教員に送付する。</p> <p>6. 評価方法 論文作成上の各段階の進捗状況で評価する。 具体的には、研究史の出来具合、構成、理論面の構築度、注記、参考文献などそれぞれに20点の割合で評価する。</p> <p>7. 履修要件 中南米の文化事象に関することをテーマにしていること。 中南米の文化を扱うには、必要な外国語[ポルトガル語。スペイン語、英語]の読解力に関する知識があること。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						第1週	オリエンテーション	第16週	1次資料の探索指導3	第2週	文献探索指導1	第17週	1次資料の探索指導4	第3週	文献探索指導2	第18週	3次資料の探索指導1	第4週	文献探索指導3	第19週	3次資料の探索指導2	第5週	文献探索指導4	第20週	3次資料の探索指導3	第6週	文献探索指導5	第21週	3次資料の探索指導4	第7週	文献探索指導6	第22週	本文の作成1	第8週	修士論文テーマ発表の準備	第23週	本文の作成2	第9週	テーマ発表の際の指摘事項確認	第24週	本文の作成3	第10週	2次資料の分析1	第25週	本文の作成4	第11週	2次資料の分析2	第26週	注記の作成5	第12週	2次資料の分析3	第27週	注記の作成6	第13週	2次分析の資料4	第28週	参考文献と小括の作成1	第14週	1次資料の探索指導1	第29週	参考文献と小括の作成2	第15週	1次資料の探索指導2	第30週	修士論文の最終チェック3
第1週	オリエンテーション	第16週	1次資料の探索指導3																																																														
第2週	文献探索指導1	第17週	1次資料の探索指導4																																																														
第3週	文献探索指導2	第18週	3次資料の探索指導1																																																														
第4週	文献探索指導3	第19週	3次資料の探索指導2																																																														
第5週	文献探索指導4	第20週	3次資料の探索指導3																																																														
第6週	文献探索指導5	第21週	3次資料の探索指導4																																																														
第7週	文献探索指導6	第22週	本文の作成1																																																														
第8週	修士論文テーマ発表の準備	第23週	本文の作成2																																																														
第9週	テーマ発表の際の指摘事項確認	第24週	本文の作成3																																																														
第10週	2次資料の分析1	第25週	本文の作成4																																																														
第11週	2次資料の分析2	第26週	注記の作成5																																																														
第12週	2次資料の分析3	第27週	注記の作成6																																																														
第13週	2次分析の資料4	第28週	参考文献と小括の作成1																																																														
第14週	1次資料の探索指導1	第29週	参考文献と小括の作成2																																																														
第15週	1次資料の探索指導2	第30週	修士論文の最終チェック3																																																														

科目名	言語文化研究演習Ⅱ			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1224	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
2	2	通年	1	501	月曜日 6 時限、木曜日 6 時限

1. 授業の概要

論文概要に基づいて修士論文を執筆し、完成させるまで指導を行う。

2. 到達目標

日本語の助詞に対する理解を深化すると共に、中国における日本語指導，特に助詞指導のあり方を見直し、理論言語学的枠組みによる日本語研究に基づいて、日本語助詞のより効果的な指導法を考案することを目標とする。

3. 授業の計画と内容

前学期

- 第 1 回 オリエンテーション：演習Ⅰの振り返り
- 第 2 回 先行研究の批判的検討 (1)
- 第 3 回 先行研究の批判的検討 (2)
- 第 4 回 先行研究の批判的検討 (3)
- 第 5 回 先行研究の批判的検討 (4)
- 第 6 回 更なるデータ収集、アンケート (1)
- 第 7 回 更なるデータ収集、アンケート (2)
- 第 8 回 更なるデータ収集、アンケート (3)
- 第 9 回 データの分析 (1)
- 第 10 回 データの分析 (2)
- 第 11 回 データの分析 (3)
- 第 12 回 修士論文の主な主張決定 (1)
- 第 13 回 修士論文の主な主張決定 (2)
- 第 14 回 中間発表会にむけて (1)
- 第 15 回 中間発表会にむけて (2)

後学期

- 第 1 回 修士論文作成 (1)：章構成
- 第 2 回 修士論文作成 (2)：先行研究批判
- 第 3 回 修士論文作成 (3)：テーマ確認
- 第 4 回 修士論文作成 (4)：新たな主張
- 第 5 回 修士論文作成 (5)：考えられる反論
- 第 6 回 修士論文作成 (6)：主張の強化
- 第 7 回 修士論文作成 (7)：主張の更なる検証
- 第 8 回 修士論文作成 (8)：データ検討
- 第 9 回 修士論文作成 (9)：データ確認
- 第 10 回 修士論文作成 (10)：1 章完成
- 第 11 回 修士論文作成 (11)：2 章完成
- 第 12 回 修士論文作成 (12)：3 章完成
- 第 13 回 修士論文作成 (13)：序論・結論完成
- 第 14 回 修士論文確認：参考文献、注釈確認
- 第 15 回 修士論文最終確認、提出

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

授業において適宜紹介する。

【主要参考文献】

- ① Kuno, Sumumu (1973) *The Structure of the Japanese Language*. Cambridge, MA: MIT Press.
- ② Shibatani, Masayoshi, Shigeru Miyagawa, Hisashi Noda (2017) *Handbook of Japanese Linguistics*. Berlin, Mouton De Gruyter.
- ③ 野田尚史(1996) 『「は」と「が」』東京：くろしお出版

5. 準備学習

毎回の授業で修士論文執筆の進捗状況を確認するので、確実かつ着実に進めておくこと。

6. 成績評価の方法

クラスでの修士論文執筆の経過報告	20 点
修士論文の内容と最終審査	40 点
最終発表会	40 点
	合計 100 点

7. 履修の条件

言語文化研究演習Ⅰを履修済みであること。

8. その他

特になし。

科目名	言語文化研究演習Ⅱ			担当教員：嘉納 英明	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：kano@meio-u.ac.jp	
				研究室電話番号：0980-51-1233	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	3	研 510	火3・木3

1. 授業の概要

言語文化研究演習Ⅰに引き続き、修士論文の作成を指導する。
修士論文中間発表を経て、修士論文を完成させることを最終目的とする。

2. 到達目標

- ①修士論文中間発表や最終発表に備える。
- ②修士論文を完成する。

3. 授業の計画と内容

(前期)

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 資料の収集方法と分析方法について
- 第 3 週 資料収集開始及び経過報告
- 第 4 週 資料収集と経過報告
- 第 5 週 資料収集の総括
- 第 6 週 資料の分析①
- 第 7 週 資料の分析②
- 第 8 週 資料調査の下書き①
- 第 9 週 資料調査、文献の下書き
- 第 10 週 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲①
- 第 11 週 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲②
- 第 12 週 修士論文中間発表の準備①
- 第 13 週 修士論文中間発表の準備②
- 第 14 週 修士論文中間発表の準備③
- 第 15 週 演習Ⅱ (前期) のまとめ

(後期)

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 修士論文中間発表のふりかえり
- 第 3 週 修士論文の執筆と検討①
- 第 4 週 修士論文の執筆と検討②
- 第 5 週 修士論文の執筆と検討③
- 第 6 週 序論の完成
- 第 7 週 修士論文の執筆と検討④
- 第 8 週 修士論文の執筆と検討⑤
- 第 9 週 修士論文の執筆と検討⑥
- 第 10 週 修士論文の執筆と検討⑦
- 第 11 週 最終的な修正と推敲 a
- 第 12 週 最終的な修正と推敲 b
- 第 13 週 最終的な修正と推敲 c
- 第 14 週 修士論文全体の推敲
- 第 15 週 修士論文全体の推敲、完成

4. テキスト・参考文献

随時指定

5. 準備学習

事前に修士論文の原稿（各章、各節）を指導教員に提出する。

6. 成績評価の方法

修士論文の内容とその作成過程で総合的に評価する。

7. 履修の条件

言語文化研究演習Ⅰを修了していること。

8. その他

特になし。

科目名	言語学特論 I			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Special Lectures in Linguistics I			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1224	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	2-3	研 501	月曜日 6 限、木曜日 6 限
<p>1. 授業の概要 言語における基本的な考え方を理解し、言語現象に対するアプローチ方法を学ぶ。 理論研究の対象としての言語に関する知識、あるいは理論言語学の分野で問題になる様々な現象の中から形態論・語形成を取り上げ、日本語と英語比較対照に基づく形態論的現象を分析する。</p> <p>2. 到達目標 理論言語学研究に関する方法論を身につけ、様々な言語、特に日本語と英語の形態論的諸現象に注目し、関心と理解を深める。</p> <p>3. 授業の計画と内容 第 1 週 オリエンテーション：語形成の基礎概念 (1) 第 2 週 語形成の基礎概念 (2) 第 3 週 非対格性と動詞分類 (1) 第 4 週 非対格性と動詞分類 (2) 第 5 週 非対格性と動詞分類 (3) 第 6 週 V-V 型複合動詞 (1) 第 7 週 V-V 型複合動詞 (2) 第 8 週 V-V 型複合動詞 (3) 第 9 週 V-V 型複合動詞 (4) 第 10 週 V-V 型複合動詞 (5) 第 11 週 V-V 型複合動詞 (6) 第 12 週 V-V 型複合動詞 (7) 第 13 週 V-V 型複合動詞 (8) 第 14 週 V-V 型複合動詞 (9) 第 15 週 V-V 型複合動詞 (10) 第 16 週 まとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房 【主要参考文献】 大石強 (1988)『形態論』開拓社 それ以外も必要に応じて授業中に提示する。</p> <p>5. 準備学習 毎回の授業で指名された受講者が担当範囲を要約し、問題点を指摘するので、各自準備をしておくこと。</p> <p>6. 成績評価の方法 クラスでのプレゼンテーション 50 点 期末報告レポート (この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する) 50 点 合計 100 点</p> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					

科目名	言語学特論II			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Special Lectures in Linguistics II			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1224	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	2-3	研 501	月曜日 6 限, 木曜日 6 限
<p>1. 授業の概要 言語における基本的な考え方を理解し、言語現象に対するアプローチ方法を学ぶ。 理論研究の対象としての言語に関する知識、あるいは理論言語学の分野で問題になる様々な現象の中から形態論・語形成を取り上げ、日本語と英語比較対照に基づく形態論的現象を分析する。</p> <p>2. 到達目標 言語理論研究、特に意味論研究に関する方法論を身につけ、様々な言語、特に日本語と英語の形態論的諸現象に注目し、関心と理解を深める。</p> <p>3. 授業の計画と内容 第 1 週 N-V 型複合語 (1) 第 2 週 N-V 型複合語 (2) 第 3 週 N-V 型複合語 (3) 第 4 週 N-V 型複合語 (4) 第 5 週 「VN する」構文 (1) 第 6 週 「VN する」構文 (2) 第 7 週 「VN する」構文 (3) 第 8 週 「VN する」構文 (4) 第 9 週 「VN する」構文 (5) 第 10 週 「VN する」構文 (6) 第 11 週 モジュール形態論 (1) 第 12 週 モジュール形態論 (2) 第 13 週 モジュール形態論 (3) 第 14 週 モジュール形態論 (4) 第 15 週 モジュール形態論 (5) 第 16 週 まとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房 【主要参考文献】 大石強 (1988) 『形態論』開拓社 それ以外にも必要に応じて授業中に提示する。</p> <p>5. 準備学習 毎回の授業で指名された受講者が担当範囲を要約し、問題点を指摘するので、各自準備しておくこと。</p> <p>6. 成績評価の方法 クラスでのプレゼンテーション 50 点 期末報告レポート (この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する) 50 点 合計 100 点</p> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					

科目名	英文学特論			担当教員：中川 僚子	
科目名(英語)	English Literature			メールアドレス： 研究室電話番号：	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期			

1. 講義内容
小説の流れを中心として、18世紀以降のイギリス文学史を学ぶ。それぞれの時代の代表的作家・作品を、対比的に取り上げて、その特徴を確認しながら作家・作品に親しみ、イギリス文学の流れを通史的に理解する。

2. 到達目標
 ■原文からの抜粋を通して、文学作品を読みこむ力を伸ばす。
 ■基本的な文学用語を理解する。
 ■主要な作家・作品の学習を通して、イギリス文学の流れを理解する。

3. 授業の計画と内容
 第1週 何のために英文学史を学ぶか。
 第2週 世界に乗り出すイギリス—*Robinson Crusoe* と *Gulliver's Travels*
 第3週 書簡文学とパロディ作品—*Pamela* と *Shamela*
 第4週 メタフィクションの先駆け—*Tristram Shandy* と *Northanger Abbey*
 第5週 シンデレラ物語の現実—Jane Austen の小説
 第6週 最後のゴシックロマンス、最初のSF小説—*Frankenstein*
 第7週 ヴィクトリア朝の美術と文学
 第8週 ヴィクトリア朝作家(1)—the Brontë sisters
 第9週 ヴィクトリア朝作家(2)—Charles Dickens と George Eliot
 第10週 ヴィクトリア朝作家(3)—Thomas Hardy と Henry James
 第11週 モダニスト作家(1)—Joseph Conrad
 第12週 モダニスト作家(2)—D. H. Lawrence と Virginia Woolf
 第13週 モダニズム作家(3)—James Joyce と Samuel Beckett
 第14週 明治期の翻訳文学
 第15週 現代の英語作家
 第16週 まとめと振り返り

4. テキスト・参考文献
 【テキスト】
 講読課題は事前に提供する。
 【参考文献】
 授業内で適宜紹介する。

5. 準備学習
 ・講読課題となった原作からの抜粋は、必ず事前に学習し、意味を確認しておくこと。
 ・発表課題については、授業開始時に指示する。

6. 成績評価の方法
 ■講義への参加 20点
 ■小テスト(文学用語等) 10点
 ■リスポンスペーパー(4) 40点
 ■発表 30点
 合計 100点

7. 履修の条件
特になし。

8. その他

class	class	米文学特論			担当教員 : Meghan Kuckelman Beverage	
	科目名 (英語)	Survey of American Literature			E-mail: m.kuckelman@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	学部棟	研究室	オフィスアワー
					404	Tu 4 Th 3

Class content

This course will explore in detail both the conventions and experimentations in English fiction writing. The course will focus on American short fiction from the 19th to the 20th century, considering authors from various socio-cultural backgrounds, including indigenous writers, and writing across multiple genres. Considerations will be given to narrative style, cultural and historical context, the ways that narrative can be used to make political statements, and graphic fiction.

Class objectives

Students will be able to:

- identify common narrative techniques and articulate the impact of those techniques on the story's theme
- identify and discuss the impact of innovations and experimentations in narrative
- using research, articulate the cultural contexts influencing the text, both from a theoretical and historical perspective
- write and give a conference-style presentation on a piece of literature

Class schedule

Class 1: Introductions

Class 2: "The Tell-Tale Heart" by Edgar Allen Poe—first person narration, American Romanticism, psychological horror

Class 3: "A Rose for Emily," by William Faulkner—American Gothic, modernism,

Class 4-5: "Sweat" by Zora Neale Hurston—African-American fiction, use of local dialect, treatment of women's domestic lives, Black culture

Class 6-7: Critical Reading: "The God in the Snake, the Devil in the Phallus: Biblical Revision and Radical Conservatism in Hurston's 'Sweat'" by Catherine Carter—Critical approaches to literature

Class 8: "Never Marry a Mexican" by Sandra Cisneros—Mexican American fiction, borderlands identity, feminist issues

Class 9: "Night Women," by Edwidge Danticat—Haitian-American fiction, motherhood, feminist issues, sex work

Class 10: "The Constellation of Angels" by Anita Endrezze—American Indian fiction, Native issues, feminism

Class 11: "Who's Political Here?" by Lee Maracle—American Indian fiction, feminism, radical politics and motherhood

Class 12: "Happy Endings," by Margaret Atwood—Canadian fiction, metafiction, gender issues

Class 13: "Miss Furr and Miss Skeene" by Gertrude Stein—American fiction, experimental prose, Queer studies

Class 14-15: selections from *Fun Home* by Alison Bechdel—American memoir, graphic narrative, Queer Studies

Class 16: Conclusions

Textbook

Photocopies will be provided by the instructor.

Assessment

Participation 30 points

- Students will be expected to offer comments and interpretations of the text; ask questions about literary features, context, and language; and to propose topics and themes for each day's discussion

Conference Style Presentation 30 points

- Students will each give a 15-minute presentation about any text from Class 7-Class 15. The presentation should offer an interpretation of the text based on research of 1-2 secondary texts. The student should outline the researched text and apply it to the primary text in order to make the interpretation.

Conference Paper 40 points

- Students will revise the conference presentation, using the ensuing discussion and comments, into a 10-page Conference Paper.

Total: 100 points

Note

- This course will be conducted entirely in English, including all reading, writing, and discussion.
- Students who take this course should be comfortable with written and spoken English communication.

class	class	米詩特論			担当教員 : Meghan Kuckelman Beverage	
	科目名 (英語)	Survey of American Poetry			E-mail: m.kuckelman@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	学部棟	研究室	オフィスアワー
2	1・2				404	Tu 1 Tu 4

Class content

This course will focus on 20th and 21st century American poetry. Part of the course will explore the texts and contexts associated with the Modernism of the early 20th century, with attention to different avant-garde poetics, World War I verse, and poetry out of the Harlem Renaissance. In the Post-War (WWII) poetry, attention will be given to the role of the subject, as the confessional “I” and the language-dependent subject of the Language Poets. In the 21st century, the situated, intersectional, identity-based poetic subject will be considered, along with new forms of online and media-based poetry.

Class objectives

- Students will be able to identify and articulate differences in poetic forms across the 20th century.
- Students will be able to articulate connections between form, language, and poetic subject.
- Students will use research to craft an original thesis about a poet’s work and present that thesis in both spoken and written form.

Class schedule

Class 1: Introductions

Class 2: The Avant-Garde—Imagism, Futurism, Surrealism

Class 3-5: 1922-1923—Williams, Eliot, and Pound

Class 6-7: Alternatives—Gertrude Stein

Class 7-8: The Harlem Renaissance—Langston Hughes, Claude McKay

Class 9-10: The Evolving I—Elizabeth Bishop, Allen Ginsberg, Sylvia Plath, and Phyllis Webb

Class 11: The Death of the Author—Language Poetry

Class 12-13: The Situated Subject—Fatimah Asghar, Julia Alvarez, Dennis Etzel,

Class 14-15: Writing Conferences

Class 16: Conclusions

Textbook

Dennis Etzel, *Sum of Two Mothers*, ¥1555 at amazon.co.jp

Other texts will be photocopied by the instructor.

Assessment

Participation 30 points

- Students will be expected to offer comments and interpretations of the text; ask questions about literary features, context, and language; and to propose topics and themes for each day’s discussion

Conference Style Presentation 30 points

- Students will each give a 15-minute presentation about any text from Class 7-Class 13. The presentation should offer an interpretation of the text based on research of 1-2 secondary texts. The student should outline the researched text and apply it to the primary text in order to make the interpretation.

Conference Paper 40 points

- Students will revise the conference presentation, using the ensuing discussion and comments, into a 10-page Conference Paper.

Total: 100 points

Note

- This course will be conducted entirely in English, including all reading, writing, and discussion.
- Students who take this course should be comfortable with written and spoken English communication.

class	class	米小説特論			担当教員: Meghan Kuckelman Beverage	
	科目名 (英語)	Survey of American Fiction			E-mail: m.kuckelman@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	学部棟	研究室	オフィスアワー
					404	Tu 1 Tu 4

Class content

This course will explore in detail both the conventions and experimentations in English fiction writing. The course will focus on American short fiction from the 19th to the 20th century, considering authors from various socio-cultural backgrounds, including indigenous writers, and writing across multiple genres. Considerations will be given to narrative style, cultural and historical context, the ways that narrative can be used to make political statements, and graphic fiction.

Class objectives

Students will be able to:

- identify common narrative techniques and articulate the impact of those techniques on the story's theme
- identify and discuss the impact of innovations and experimentations in narrative
- using research, articulate the cultural contexts influencing the text, both from a theoretical and historical perspective
- write and give a conference-style presentation on a piece of literature

Class schedule

Class 1: Introductions

Class 2: "The Tell-Tale Heart" by Edgar Allen Poe—first person narration, American Romanticism, psychological horror

Class 3: "A Rose for Emily," by William Faulkner—American Gothic, modernism,

Class 4-5: "Sweat" by Zora Neale Hurston—African-American fiction, use of local dialect, treatment of women's domestic lives, Black culture

Class 6-7: Critical Reading: "The God in the Snake, the Devil in the Phallus: Biblical Revision and Radical Conservatism in Hurston's "Sweat" by Catherine Carter—Critical approaches to literature

Class 8: "Never Marry a Mexican" by Sandra Cisneros—Mexican American fiction, borderlands identity, feminist issues

Class 9: "Night Women," by Edwidge Danticat—Haitian-American fiction, motherhood, feminist issues, sex work

Class 10: "The Constellation of Angels" by Anita Endrezze—American Indian fiction, Native issues, feminism

Class 11: "Who's Political Here?" by Lee Maracle—American Indian fiction, feminism, radical politics and motherhood

Class 12: "Happy Endings," by Margaret Atwood—Canadian fiction, metafiction, gender issues

Class 13: "Miss Furr and Miss Skeene" by Gertrude Stein—American fiction, experimental prose, Queer studies

Class 14-15: selections from *Fun Home* by Alison Bechdel—American memoir, graphic narrative, Queer Studies

Class 16: Conclusions

Textbook

Photocopies will be provided by the instructor.

Assessment

Participation 30 points

- Students will be expected to offer comments and interpretations of the text; ask questions about literary features, context, and language; and to propose topics and themes for each day's discussion

Conference Style Presentation 30 points

- Students will each give a 15-minute presentation about any text from Class 7-Class 15. The presentation should offer an interpretation of the text based on research of 1-2 secondary texts. The student should outline the researched text and apply it to the primary text in order to make the interpretation.

Conference Paper 40 points

- Students will revise the conference presentation, using the ensuing discussion and comments, into a 10-page Conference Paper.

Total: 100 points

Note

- This course will be conducted entirely in English, including all reading, writing, and discussion.
- Students who take this course should be comfortable with written and spoken English communication.

科目名	地域言語学特論 I			担当教員：石原 昌英	
科目名(英語)	Regional linguistics I			メールアドレス：ishihara@eve.u-ryukyu.ac.jp 研究室電話番号：098-895-8301 (琉球大学)	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期 (集中講義)	10	非常勤講師控室	講義終了後
<p>1. 授業の概要</p> <p>琉球諸島で話されている地域言語（琉球諸語とその下位方言）が消滅に危機に瀕していることについて考察する。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) なぜ消滅の危機に陥ったのか。 2) どのように復興するのか。 3) なぜ復興するのか。 4) 他の言語との比較 <p>を通して消滅の危機に瀕した言語の現状把握と言語復興の研究について学ぶ。</p> <p>2. 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 琉球列島で話されている地域言語の危機の状況を理解する。 (2) 当該言語がなぜ衰退したのかを理解する。 (3) 言語復興の意義・方法を理解する <p>3. 授業の計画と内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 第 1 週 琉球をめぐる言語政策（石原 2010） 第 2 週 琉球諸語研究—現在と将来（第 1 章） 第 3 週 「言語」と「方言」—本質主義と調査倫理をめぐる方法論的論理（第 2 章） 第 4 週 日本の琉球諸語と韓国の済州語の国際標準にむけて（第 3 章） 第 5 週 北琉球諸語の存続力と危機度（第 4 章） 第 6 週 先島の言語危機と言語存続性（第 5 章） 第 7 週 琉球諸語の継承を取り戻す—ハワイ語復興運動の例から（第 6 章） 第 8 週 言語使用領域を維持および復興する（第 7 章） 第 9 週 琉球諸島における言語作成と導入（第 8 章） 第 10 週 言語意識を言語使用の変革（第 9 章） 第 11 週 琉球弧のメディアを巻き込む（第 10 章） 第 12 週 琉球諸語教育の教材を作るために（第 11 章） 第 13 週 うちなーぐち継承活動の動向と課題 第 14 週 琉球方言とその記録、再生の試み—学校教育における宮古方言教育の可能性（かりまた 2013） 第 15 週 討論：なぜ琉球諸語を復興するのか <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>下地理則・パトリック ハイシリヒ（編著）（2014）『琉球諸語の保持を目指して 消滅危機言語をめぐる議論と取り組み』ココ出版。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>指定された章を事前に十分に読んでおいて、コメント・疑問などをまとめておく。3 時間 x5 日間の集中講義となるので、一日に 3 章読むことになる。集中講義が始まる前に読み終えておくことが望ましい。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教室での討論 30点 ②各授業の感想（3回分をまとめて提出する）30点 ③レポート 40点 <p>合計 100点</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

科目名	地域言語学特論II			担当教員：仲原 穰 (非常勤講師)							
科目名(英語)	Special Lectures in Area Linguistics II			メールアドレス：isjatu07@yahoo.co.jp							
	研究室電話番号：										
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	前期	5	非常勤講師控室	講義終了後						
<p>1. 講義内容</p> <p>琉球列島の地域言語である「琉球語」が消滅の危機に瀕している。同様に言語消滅の危機にある言語は全世界に2,500言語以上あると言われる。これらのうち、例えばハワイ語は言語復興で良い結果を残しているが、彼らの復興運動の成功には教材作成や言語教育プログラムの構築が欠かせない要素の一つである。一方、琉球列島では教材の作成と言語教育プログラムのどちらもまだ十分とは言えない状況になる。琉球語の言語復興の現状と課題について学ぶ。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>地域言語の復興のための教材作成や教育プログラムの構築について養成する。</p> <p>3. 講義予定</p> <p>第1週 消滅の危機に瀕した言語について</p> <p>第2週 琉球語の現状と言語差</p> <p>第3週 世界の言語復興のとりくみ1</p> <p>第4週 世界の言語復興のとりくみ2</p> <p>第5週 言語復興のために必要な教材について</p> <p>第6週 琉球語の教材の現状—沖縄語のとりくみ1 (個人)</p> <p>第7週 琉球語の教材の現状—沖縄語のとりくみ2 (行政)</p> <p>第8週 琉球語の教材の現状—国頭語・奄美語のとりくみ</p> <p>第9週 琉球語の教材の現状—宮古語・八重山語・与那国語のとりくみ</p> <p>第10週 琉球語の教育プログラムの紹介1—大学のとりくみ—</p> <p>第11週 琉球語の教育プログラムの紹介2—行政のとりくみ—</p> <p>第12週 琉球語の教育プログラムの紹介3—地域のとりくみ—</p> <p>第13週 琉球語の教材作成と教育プログラムの課題 (まとめ)</p> <p>第14週 研究発表1</p> <p>第15週 研究発表2</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】【参考文献】 適宜配布する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>上記3の「授業の計画の内容」に記載されている内容を事前に学習すること。</p> <p>6. 評価方法</p> <table border="0"> <tr> <td>課題レポート・試験等</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>期末報告論文</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>受講生の研究テーマに応じて講義の内容を一部変更することもありうる。</p>						課題レポート・試験等	50点	期末報告論文	50点	合計	100点
課題レポート・試験等	50点										
期末報告論文	50点										
合計	100点										

科目名	英文法特論			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Special lectures in English Grammar			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1224	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	2-3	研 501	月曜日 6 限, 木曜日 6 限
<p>1. 授業の概要 英語の文法に関する専門的かつ網羅的な内容の文献を読み、英文法の諸問題を検討する。</p> <p>2. 到達目標 研究対象としての「英文法」の諸相に関する知識、関心を深め、興味を抱く。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 1. Preliminaries, 2. Word classes 第 2 週 3. Constituents and Phrases (1) 第 3 週 3. Constituents and Phrases (2) 第 4 週 4. Basic Clauses (1) 第 5 週 4. Basic Clauses (2) 第 6 週 5. Coordination and Embedding 第 7 週 6. Clausal Variation 第 8 週 7. Underlying Relationships 第 9 週 8. Rules and Principles 第 10 週 9. Sounds and Systems 第 11 週 10. Phonetic Realization 第 12 週 11. Word Formation 第 13 週 12. Words and Sounds 第 14 週 13. Sounds in Context 第 15 週 Summary of the class (1) 第 16 週 Summary of the class (2)</p> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 Wardhaugh, Ronald . (2012) <i>Understanding English Grammar</i>, Second edition, Wiley Blackwell. 【参考文献】 講義中に適宜紹介する。</p> <p>5. 準備学習 毎回の授業で指名された受講者が担当範囲を要約し、問題点を指摘するので、各自準備しておく。</p> <p>6. 成績評価の方法 クラスでのプレゼンテーション 50 点 期末報告レポート（この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する） 50 点 合計 100 点</p> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					

科目名	英語音声学特論			担当教員：川原繁人							
科目名(英語)	Special Lectures in English Phonetics			メールアドレス：kawahara@icl.keio.ac.jp 研究室電話番号：NA							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	後期	1～2								
<p>1. 授業の概要</p> <p>音声学の前提知識はまったく想定せず、音声学の概要を基礎から学ぶ。調音音声学、音響音声学、知覚音声学を順番に学んでいく。話者がどのように口を動かし音をだすのか(調音音声学)、その動きがどのような空気の振動として現れるのか(音響音声学)、そして聞き手はそれをどのように知覚するのか(知覚音声学)。これらのトピックを受講生の興味に関連付けながら講義する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>楽しく音声学というものを理解し、自分なりの音声学分析ができるようになること。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 序論 第2週 調音音声学 第3週 調音音声学 第4週 調音音声学 第5週 音響音声学 第6週 音響音声学 第7週 音響音声学 第8週 音響音声学 第9週 知覚音声学 第10週 知覚音声学 第11週 知覚音声学 第12週 音声学と社会 第13週 音声学と社会 第14週 音声学と音韻論 第15週 音声学と言語学 第16週 まとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 川原繁人 (2017) 『「あ」は「い」より大きい!?:音象徴で学ぶ音声学入門』。東京: ひつじ書房。 【主要参考文献】 川原繁人 (2018) 『ビジュアル音声学』。東京: 三省堂。 川原繁人 (2015) 『音とことばのふしぎな世界』。岩波サイエンスライブラリー 244。東京: 岩波書店。</p> <p>5. 準備学習 授業に積極的に参加すること。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">授業に対する態度</td> <td style="text-align: right;">50点</td> </tr> <tr> <td>期末報告レポート</td> <td style="text-align: right;">50点</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						授業に対する態度	50点	期末報告レポート	50点	合計	100点
授業に対する態度	50点										
期末報告レポート	50点										
合計	100点										

科目名	英語教授法特論 I			担当教員：与那覇 恵子 (非常勤講師)	
科目名(英語)	Advanced TESOL Theories and Methodology I			メールアドレス：k.yonaha@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	非常勤講師控室	講義終了後
<p>1. 授業の概要</p> <p>英語教授法に関わる分野についての知識と理解を深め、特に英語を母語としない学習者を対象とした英語教授法に焦点をあてる。第二言語教育や外国語教育の歴史を振り返るなかで、時代を代表する教授法について、及び教授法の発展について学び、今日幅広く受け入れられている教授法について理解を深める。また、同時に英語の4技能を向上させるための過去、現在の教授法について、さらに評価法や教材、授業方法、シラバスなど具体的項目について学習する。教材は英語で書かれた教材を使用し、授業は殆ど英語で行われる。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>本コースは将来英語教育に携わる目的をもって大学院に学ぶ学生を対象とする。本コースの到達目標は、英語教授法の分野においての知識と理解を深めることによって、その専門力を養成すると同時に教授力や英語力を習得させることである。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 シラバスや授業内容、教材についての紹介・説明 第2週 英語教育の専門用語 復習① 第3週 英語教授法の歴史 復習② 第4週 言語・学習・教授 ① 1章 第5週 言語・学習・教授 ② 1章 第6週 第一言語習得 ① 2章 第7週 第一言語習得 ① 2章 第8週 年齢と習得 ① 3章 第9週 年齢と習得 ① 3章 第10週 人間と学習 ① 4章 第11週 人間と学習 ② 4章 第12週 形式とストラテジー ① 5章 第13週 形式とストラテジー ① 5章 第14週 個人的要素 6章 第15週 まとめと小テスト</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 Principles of Language Learning and Teaching (H. Douglas Brown) Longman Teaching English as a Second or Foreign Language. (Marianne Celce-Murcia, Editor) HEINLE & HEINLE</p> <p>【参考文献】 授業内容に合わせて適切な副教材からプリント教材が提供される。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>授業内容は事前に教材を読んだものとしての質疑・応答の討議形式であるため課せられた章を予習しておく。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>授業での質疑への応答：40% 課題・プレゼンテーション：35% 小テスト：25%</p> <p>7. 履修要件</p> <p>英語で書かれた専門書を教材とするため、英語の専門書が理解できる読解力が必要であり、授業内容は英語による質疑・応答の討議形式であるため英語で意見・考えを述べることができる能力が求められる。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし</p>					

科目名	英語教授法特論Ⅱ			担当教員：与那覇 恵子（非常勤講師） メールアドレス：k.yonaha@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：	
科目名(英語)	Advanced TESOL Theories and Methodology II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	非常勤講師控室	講義終了後
<p>1. 授業の概要</p> <p>英語教授法に関わる分野についての知識と理解を深め、特に英語を母語としない学習者を対象とした英語教授法に焦点をあてる。第二言語教育や外国語教育の歴史を振り返るなかで、時代を代表する教授法について、及び教授法の発展について学び、今日幅広く受け入れられている教授法について理解を深める。また、同時に英語の4技能を向上させるための過去、現在の教授法について、さらに評価法や教材、授業方法、シラバスなど具体的項目について学習する。教材は英語で書かれた教材を使用し、授業は殆ど英語で行われる。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>本コースは将来英語教育に携わる目的をもって大学院に学ぶ学生を対象とする。本コースの到達目標は、英語教授法の分野においての知識と理解を深めることによって、その専門力を養成すると同時に教授力や英語力を習得させることである。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 シラバス・授業内容・評価・教材などについての紹介・説明 第2週 討議：社会文化的要素 ① 7章 第3週 討議：社会文化的要素 ② 7章 第4週 討議：コミュニケーション能力 ① 8章 第5週 討議：コミュニケーション能力 ② 8章 第6週 討議：言語間影響と学習言語 ① 9章 第7週 討議：言語間影響と学習言語 ② 9章 第8週 討議：第二言語習得論 ① 10章 第9週 討議：第二言語習得論 ② 10章 第10週 討議：言語習得技能 リスニング・スピーキング 第11週 討議：言語習得技能 リーディング・ライティング 第12週 討議：統合的アプローチ 第13週 討議：学習者に焦点を当てる 第14週 討議：教師の技能・教授力 第15週 討議：教師の技能・専門力</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 Principles of Language Learning and Teaching (H. Douglas Brown) Longman. Teaching English as a Second or Foreign Language. (Marianne Celce-Murcia, Editor) HEINLE & HEINLE</p> <p>【参考文献】 授業内容に合わせて適切な副教材からプリント教材が提供される。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>授業内容は事前に教材を読んだものとしての質疑・応答の討議形式であるため課せられた章を予習しておく</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>授業での質疑への応答：40% 課題・プレゼンテーション：35% 小テスト：25%</p> <p>7. 履修要件</p> <p>英語で書かれた専門書を教材とするため、英語の専門書が理解できる読解力が必要であり、授業内容は英語による質疑・応答の討議形式であるため英語で意見・考えを述べる能力が求められる。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

科目名	英語教育評価特論			担当教員：渡慶次 正則							
科目名(英語)	Assessment in TESOL			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp 研究室電話番号：0980-51-1235							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1.2	前期	10	研 512	月曜日 6 時限						
<p>1. 授業の概要</p> <p>4 技能の評価方法を中心に、評価の妥当性や信頼性、実用性を話し合う。教室や教室外における現在の評価の問題 (issues) を取り上げる。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>(1) 英語能力測定の妥当性、信頼性、実用性についての理論と実践を理解する。 (2) 既存の代表的な英語能力テストの分析能力を身に着ける。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 回 オリエンテーション、登録、評価についての issues (Chaps 1&2)</p> <p>第 2 回 Kinds of tests and testing (Chap. 3)</p> <p>第 3 回 Validity, reliability, practicality (Chaps.4&5)</p> <p>第 4 回 Achieving beneficial backwash (Chap.6)</p> <p>第 5 回 Stages of test development (Chap.7)</p> <p>第 6 回 Common test techniques (Chap.8)</p> <p>第 7 回 Testing writing (Chaps.9)</p> <p>第 8 回 Testing oral ability (Chaps.10)</p> <p>第 9 回 Testing reading (Chaps.11)</p> <p>第 10 回 Testing listening (Chap.12)</p> <p>第 11 回 Testing grammar and vocabulary (Chap. 13)</p> <p>第 12 回 Testing overall ability (Chaps.14)</p> <p>第 13 回 Tests for young learners (Chaps.15)</p> <p>第 14 回 テスト ESP の評価</p> <p>第 15 回 口頭発表 (TOEIC, TOEFLiBT, 英語検定をいずれかを分析、口頭発表する)</p> <p>4. テキスト</p> <p>【テキスト】</p> <p>“Testing for language teachers (2nd ed.)” CPU</p> <p>【参考文献】</p> <p>「言語テスト作成法」バックマン&パーマー著、大修館書店</p> <p>「英語教育評価論」金谷憲編、桐原書店</p> <p>5. 準備学習</p> <p>事前に、教科書の指定された部分を理解しておく。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table> <tr> <td>授業参加態度</td> <td>30点</td> </tr> <tr> <td>口頭発表</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>英語能力の高い学生の受講が望ましい。</p>						授業参加態度	30点	口頭発表	70点	合計	100点
授業参加態度	30点										
口頭発表	70点										
合計	100点										

科目名	リサーチ方法特論			担当教員：渡慶次 正則	
科目名(英語)	Research methodology			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp 研究室電話番号：0980-51-1235	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1.2	後期	10	研 512	月曜日 6時限
<p>1. 授業の概要 社会科学や人文科学における質的研究と量的研究の基礎的な知識と技能を身に付け、リサーチプロポーザル完成の支援をするリサーチの概論コース。修士論文の構成や論文作成上の留意点を話し合う。</p> <p>2. 到達目標 (1) 質的研究と量的研究について理解する。 (2) リサーチプロポーザルの基本的なコンセプトを構築できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 オリエンテーション、登録、リサーチ・トピックと概要の発表 第 2 週 リサーチとは、リサーチ・デザイン、リサーチ・クエスション (Chap.1,2,3) 第 3 週 質的研究と量的研究 (Chap.4) リサーチ・プロポーザルの形式 第 4 週 質的研究 (1) (Chaps.8,9) 第 5 週 質的研究 (2) (Chaps.9,10) 質的研究と量的研究の相違 (宿題提出) 第 6 週 統計分析のプランと方法 (descriptive statistics) (Chaps.5,6) 第 7 週 統計 (t-test, ANOVA, chi-square, Pearson's r, など) (Chaps.6,7) 第 8 週 Mixed research design 第 9 週 量的、質的補講、論文構成 (Research Methodology) 第 10 週 量的、質的補講、論文構成 (Results, Discussion) 質的か量的方法によるリサーチ・デザイン (宿題提出) 第 11 週 量的、質的補講、論文構成 (Literature Review) 第 12 週 量的、質的補講、論文構成 (Introduction, Conclusion) 第 13 週 統計処理 (Excel, SPSS) リサーチプロポーザルの提出 (宿題提出) 第 14 週 リサーチ・プロポーザルの発表 (1) 第 15 週 リサーチ・プロポーザルの発表 (2)</p> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 “Introduction to Social Research (2nd ed.)” By Keith Punch, SAGE 社 【参考文献】 「社会調査法入門」 盛山和夫著、有斐閣ブックス</p> <p>5. 準備学習 テキストの課題を事前に読んでおく。</p> <p>6. 成績評価の方法 ・参加 20点 ・質的・量的研究の相違 (課題) 10点 ・質的か量的研究方法によるリサーチ・デザイン 20点 ・リサーチ・プロポーザル 50点 ・合計 100点</p> <p>7. 履修の条件： 前期に、「英語教育評価特論」を受講していることが望ましい。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					

科目名	理論言語学特論			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Special Lectures in Theoretical Linguistics			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1224	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	1～2	研 501	月曜日 6 限・木曜日 6 限
<p>1. 授業の概要 理論研究の対象としての言語に関する知識・関心を深めるために、世界の諸言語の様々な現象について検討する。</p> <p>2. 到達目標 理論言語学の研究に関する方法論を身につけ、世界の諸言語に関する知識・関心を深め、分析の方法論を身につける。</p> <p>3. 授業の計画と内容 第 1 週 はじめに：理論研究の対象としての言語: The scientific Study of Language 第 2 週 Diagnostics for Syntactic Structure (1) 第 3 週 Diagnostics for Syntactic Structure (2) 第 4 週 Diagnostics for Syntactic Structure (3) 第 5 週 Diagnostics for Syntactic Structure (4) 第 6 週 Lexical Projections and Functional Projections (1) 第 7 週 Lexical Projections and Functional Projections (2) 第 8 週 Lexical Projections and Functional Projections (3) 第 9 週 Refining Structures : From One Subject Position to Many (1) 第 10 週 Refining Structures : From One Subject Position to Many (2) 第 11 週 Refining Structures : From One Subject Position to Many (3) 第 12 週 The Periphery of the Sentence (1) 第 13 週 The Periphery of the Sentence (2) 第 14 週 The Periphery of the Sentence (3) 第 15 週 The Periphery of the Sentence (4) 第 16 週 学期のまとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 Haegeman, Liliane (2006) <i>Thinking Syntactically: A Guide to Argumentation and Analysis</i>. Wiley Blackwell. 【主要参考文献】 北川義久・上山あゆみ(2004)『生成文法の考え方』東京：研究社出版 他、適宜授業中に紹介する。</p> <p>5. 準備学習 毎回の授業でテキストの担当範囲を決め、内容を要約し問題点を指摘するので、予め準備しておく。</p> <p>6. 成績評価の方法 クラスでのプレゼンテーション 50点 期末報告レポート（この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する） 50点 合計 100点</p> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					

科目名	第2言語習得特論			担当教員：渡慶次 正則	
科目名(英語)	Second Language Acquisition Theory			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp 研究室電話番号：0980-51-1235	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1.2	後期	10	研512	月曜日 6時限
<p>1. 授業の概要</p> <p>過去の研究成果から次の点を学ぶ。</p> <p>(1) 第2言語がどのような過程で習得され、どんな種類のインプットやインタラクションが習得につながるのか</p> <p>(2) 社会的な要因と第2言語習得についての研究成果を学ぶ。</p> <p>(3) 第2言語習得の個人差はどのようにして生じるか。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>英語学習者の習得についての基本的な理論や研究成果を理解できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 オリエンテーション、登録、言語教授法と第2言語習得の歴史</p> <p>第2週 Second Language learning: key concepts and issues (Chap. 1)</p> <p>第3週 The recent history of second language learning research (Chap. 2)</p> <p>第4週 The recent history of second language learning research (Chap. 2)</p> <p>第5週 The Universal Grammar (Chap.3)</p> <p>第6週 Cognitive approaches to SLL (Chap.4)</p> <p>第7週 Functional/pragmatic perspectives on SLL (Chap.5)</p> <p>第8週 Input and interaction in SLL (Chap.6)</p> <p>第9週 Input and interaction in SLL (Chap. 6)</p> <p>第10週 Socio-cultural perspectives on SLL (Chap. 7)</p> <p>第11週 Sociolinguistic perspectives (Chap.8)</p> <p>第12週 Conclusion (Chap. 9)</p> <p>第13週 Individual differences in SLL</p> <p>第14週 Focus on form in SLL</p> <p>第15週 Complexity, accuracy and fluency</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>“Second Language Learning Theories” (2nd edition) Mitchell & Myles ARNOLD</p> <p>5. 準備学習</p> <p>テキストを事前に読んで準備をしておく。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義への参加 30点 ・課題 70点(Input, interaction, acquisition についてレポート) ・合計 100点 <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

科目名	教育学特論			担当教員：嘉納 英明	
科目名(英語)	Advanced Course of Education			メールアドレス：kano@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1233	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	3	研510	火2・木3
<p>1. 授業の概要 戦後日本の教育学研究の基礎的な文献を分析的に読み進めながら、特に、「問題・論争」となった点について受講生の「発表」を行ってもらい、それをもとに討議を行う。占領下の沖縄の教育（制度）問題も視野に入れる。</p> <p>2. 到達目標 ①戦後日本の教育学研究の知見の習得の作業を行い、基礎的な知識を学ぶ。 ②論文作成の基礎技能である、先行研究や一次資料を活用したテキストの作成、読みを図る。</p> <p>3. 授業の計画と内容（予定の変更があり得る）</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週 戦後教育学の論争課題① 第3週 戦後教育学の論争課題② 第4週 教育学の文献紹介① 第5週 教育学の文献紹介② 第6週 沖縄の教育史① 第7週 沖縄の教育史② 第8週 教育学の文献を読む（受講生の発表①） 第9週 教育学の文献を読む（受講生の発表②） 第10週 教育学の文献を読む（受講生の発表③） 第11週 教育学の文献を読む（受講生の発表④） 第12週 教育学の文献を読む（受講生の発表⑤） 第13週 教育学の文献を読む（受講生の発表⑥） 第14週 教育学の文献を読む（受講生の発表⑦） 第15週 教育学の文献を読む（受講生の発表⑧） 第16週 教育学の文献を読む（受講生の発表⑨）及び最終レポート提出</p> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 なし（適宜資料を配布する） 【参考文献】 適宜指示する。</p> <p>5. 準備学習 「発表」する学生は事前にレジメを準備する。他の学生も事前に文献を読み、積極的に討議に参加する。</p> <p>6. 成績評価の方法 活動状況：70点 レポート：30点 合計：100点</p> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					

科目名	比較教育文化思想特論			担当教員：嘉納 英明	
科目名(英語)	Comparative Education			メールアドレス：kano@meio-u.ac.jp	
				研究室電話番号：0980-51-1560	
単位数	受講年次	開講予定学期	受講予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	3	研 510	月曜日 10:30～12:00 火曜日 10:30～12:00
<p>1. 授業の概要</p> <p>本授業では、人間の成長・発達に大きな影響を及ぼす教育的営みについて考える。教育という営みは、社会全体の諸事象と密接に関わるものであるから、授業の内容は、まず現代に至るまでの社会における子ども観の変容を概観する。次に、近代の公教育確立以降の教育制度改革と教育権利論、生涯学習社会の到来を導いたラングランの思想を読み解き、今後の日本教育の進むべき方向を考える。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>①子ども観の変容の過程について理解することができる。 ②公教育制度の成り立ちやそれに関わる教育思想について理解することができる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 人間形成と教育、人間とは何か、教育の目的 第 3 週 子どもの発見—ルソーの『エミール』— 第 4 週 現代教育の思想—新教育運動の起こり— 第 5 週 教育改革への志向—デューイー— 第 6 週 近代教育に対する批判的まなざし—イリッチとフレイレ— 第 7 週 小さな大人から子どもへ—アリエスの『<子供>の誕生』— 第 8 週 近代公教育と義務教育制度 第 9 週 教育の義務から教育を受ける権利へ 第 10 週 義務教育制度の今日的課題—通学区域の弾力化— 第 11 週 学校選択制と教育バウチャー制度 第 12 週 堀尾輝久『現代教育の思想と構造』を読む 第 13 週 生涯学習社会に向けて—ラングラン— 第 14 週 現在日本における生涯学習社会と学習機会 第 15 週 学期末試験</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 特定のテキストはない。ただし、毎回、資料（学術論文等を含む）を配布する。 【参考文献】 参考文献は、授業の内容に応じて、適宜、紹介する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>講義の中で扱う文献は事前に配付するので、熟読しておくこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>①関連する文献の読み取り、討論への参加 2.0点 ②講義内容に関するレポート 3.0点 ③学期末試験の結果 5.0点 合計 10.0点</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>①学群・学部の教職科目を複数履修していることが望ましい。 ②日本や沖縄の教育、歴史、文化に対して関心を持つ者を歓迎する。</p> <p>8. その他</p> <p>自己の教育体験・教育事情を紹介してもらい、講義内容と重ねて議論することもあります。</p>					

科目番号	科目名	東南アジア文化特論		担当教員：坪井 祐司	
	科目名（英語）	Seminar on SEA culture		y.tsuboi@meio-u.ac.jp	080-8027-5269
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2			509	火3、木3
1. 授業の概要					
人文・社会科学の研究の方法論の多くは、欧米社会の分析を前提に発展してきたものである。一方で、アジアには寒帯から熱帯までさまざまな地域があり、社会のあり方は必ずしも一様ではない。授業では、アジアで唯一の熱帯地域である東南アジアの社会をさまざまな角度から検討することで、既存の学問の方法論そのものについて再検討する。テキストの論文集からいくつかの論文を選んでテーマを設定し、それをもとに議論を行う。					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアという地域について、多角的に理解を深める。 ・授業における議論を通じて、地域研究の方法論に対する理解を深め、自身の研究に活かす。 					
3. 授業の計画と内容					
第 1 週 インTRODクシヨン 第 2 週 熱帯の自然環境と地域の形成 (1) 第 3 週 熱帯の自然環境と地域の形成 (2) 第 4 週 環境と人口動態 (1) 第 5 週 環境と人口動態 (2) 第 6 週 熱帯における農業 (1) 第 7 週 熱帯における農業 (2) 第 8 週 中間討論 第 9 週 東南アジアにおける村落社会 (1) 第 10 週 東南アジアにおける村落社会 (2) 第 11 週 文化・宗教の交流 (1) 第 12 週 文化・宗教の交流 (2) 第 13 週 政治と植民地 (1) 第 14 週 政治と植民地 (2) 第 15 週 まとめ 第 16 週					
4. テキスト					
テキスト：『歴史のなかの熱帯生存圏：温帯パラダイムを超えて（講座 生存基盤論 1）』（2012、京都大学学術出版会） これ以外の参考文献については、授業時に指示する。					
5. 準備学習					
テキストは事前に配布するので、それを読み、疑問点や論点をまとめてくること。					
6. 成績評価の方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・レポート 50% ・授業への取り組み 50% 					
7. 履修の条件					
とくになし。					
8. その他					
授業の内容は、参加者の関心等に応じて変更の可能性はある。					

科目名	中南米文化特論			担当教員：住江 淳司	
科目名(英語)	Latin American Cultures			メールアドレス：j.sumie@meio-u.ac.jp	
				研究室電話番号：0980-51-1228	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	研 505	火曜日 10:30～12:10 木曜日 10:30～12:10
<p>1. 授業の概要</p> <p>ラテンアメリカは、日本から地理的に最も遠いという理由で馴染みの浅い地域でありました。しかし、世界的に見た場合そのプレゼンスは大きいものです。たとえば経済の規模は東アジアに匹敵しますし、混血社会は対立をはらみながらも人間社会の一つのあるべき姿を代表としています。今日の民族的、宗教的な地域紛争の解決のモデル地域になる可能性を含んでいるかも知れません。また、ラテンアメリカは数多くの独創性に富んだ思想、文学、芸術を生む舞台でもあります。政治、経済、社会研究においても多くの優れた成果を生み出してきました。つまり、我々はラテンアメリカから多くのことを学びえるのです。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>修士論文を執筆する上で、中南米に関する基本的な知識の取得を到達目標とする。</p> <p>3. 講義予定</p> <p>第1週 講義概要の説明 第2週 ラテンアメリカの自然と人 第3週 ラテンアメリカの開発体制 第4週 ラテンアメリカの政治と民主化 第5週 輸入代替工業化とインフレーション 第6週 対外債務累積問題 第7週 ラテンアメリカの土地制度 第8週 労働市場の二重化とインフォーマル・セクター 第9週 ラテンアメリカの所得分配 第10週 工業化と都市化による社会生活の変化 第11週 社会格差とスラム問題 第12週 カトリック教会と解放の神学 第13週 悪化する都市環境 第14週 小さな政府（民主化と地方分権化） 第15週 ネオリベラリズム</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 小池洋一著 『図説ラテンアメリカ』、日本評論社、1999年。 【参考文献】 国本伊代・中川文雄編著 『ラテンアメリカ研究への招待』、新評論、1997年。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>事前に、図書館で中南米に関する基本的文献をレファレンスコーナーで最低10冊探し熟読する。</p> <p>6. 評価方法</p> <p>期末試験 70点 レポート 30点 合計 100点</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

科目名	日本古典文学特論			担当教員：小番 達							
科目名(英語)	Japanese Classical Literature			メールアドレス：t.kotsugai@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1212							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	前期	5	研 504	火曜・木曜 4 限目						
<p>1. 授業の概要</p> <p>『平家物語』の注釈的作業を通して、本文分析・批評、受容と享受、資料調査など古典文学研究の基礎的な方法を修得する。また、歴史や思想史など近接学問領域の研究成果にも学びながら、中世文化の体系、とりわけ〈知〉の体系の一端を把握する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>①『平家物語』の特質、文学史的な位置づけを理解し、説明できる。 ②『平家物語』に関連する作品・資料の内容を理解し、説明できる。 ③『平家物語』が成立・展開した時代の位相を概括的に理解し、説明できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 オリエンテーション (報告要領の説明、報告箇所 の 分担・順番決めなど) 第 2 週 『平家物語』概説 (1) : 中世文学の概要 第 3 週 『平家物語』概説 (2) : 成立・作者 第 4 週 『平家物語』概説 (3) : 諸本 第 5 週 報告 (1) 第 6 週 報告 (2) 第 7 週 報告 (3) 第 8 週 報告 (4) 第 9 週 報告 (5) 第 10 週 報告 (6) 第 11 週 報告 (7) 第 12 週 報告 (8) 第 13 週 報告 (9) 第 14 週 報告 (10) 第 15 週 総括</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 適宜プリントを配付する。</p> <p>【参考文献】 新日本古典文学大系『平家物語 上・下』岩波書店、『延慶本平家物語全注釈 第一～ (刊行中)』汲古書院 *購入する必要なし</p> <p>5. 準備学習 報告資料の作成。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>報告内容</td> <td>50 点</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>50 点</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>100 点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 授業の計画と内容は状況に応じて変更することがある。</p>						報告内容	50 点	レポート	50 点	合 計	100 点
報告内容	50 点										
レポート	50 点										
合 計	100 点										

科目名	日本近代文学特論			担当教員:小嶋 洋輔	
科目名(英語)	Japanese Modern Literature			メールアドレス:y.kojima@meio-u.ac.jp 研究室電話番号:0980-51-1092	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	研 415	木3・金2

1. 授業の概要
日本近現代文学、とくに第二次世界大戦後の文学における「代表作」(本講義では短篇=芥川賞受賞作中心)を取り上げ、その「研究方法」について学ぶ。とくに、作品が生成された背景を知る「方法」及び、作品の一文字一文字を読む「方法」を知る。小説作品とは書かれた同時代社会の問題が色濃く表れているものであり、社会制度の変遷を小説から読み解くこともその目的とする。具体的には、扱う作品に対して「発表」を行ってもらい、それをもとにして討議を行うものである。

2. 教育目標
①文化交流に役立つ知識の習得の作業といえる、日本近現代文学を読むうえでの基礎的な知識を学ぶ
②論文作成の基礎技能である、先行研究や資料を活用したテキストの読みができる。

3. 授業の計画と内容(予定の変更があり得る)
第1週 ガイダンス
第2週 「近代」の「文学」ということ
第3週 文学史まとめ
第4週 扱う小説とその時代:概説①
第5週 扱う小説とその時代:概説②
第6週 太宰治と戦争
第7週 太宰治と戦後
第8週 戦後文学を読む(受講生発表)①
第9週 戦後文学を読む(受講生発表)②
第10週 戦後文学を読む(受講生発表)③
第11週 戦後文学を読む(受講生発表)④
第12週 戦後文学を読む(受講生発表)⑤
第13週 戦後文学を読む(受講生発表)⑥
第14週 戦後文学を読む(受講生発表)⑦
第15週 戦後文学を読む(受講生発表)⑧
第16週 戦後文学を読む(受講生発表)⑨及びレポート提出

4. テキスト・参考文献
【テキスト】
なし(適宜プリントなどを配付する)。
【参考文献】
なし(適宜プリントなどを配付する)。

5. 準備学習
「発表」する担当者以外の学生も必ず小説作品を読み、積極的に討議に参加してもらう必要がある。

6. 成績評価の方法
活動状況:70点
レポート:30点
合計:100点

7. 履修の条件
特になし。

8. その他
特になし。

科目名	日本史特論			担当教員：屋良 健一郎									
科目名(英語)	Japanese History			メールアドレス：k.yara@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1211									
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー								
2	1・2	後期	5	研 402	水2, 木3								
<p>1. 授業の概要</p> <p>日本史を学ぶ上で重要なことは、史料を読解すること、史料に基づいて思考することである。この講義では、史料をどのように読み、どのような史実（あるいは仮説）を導き出せるのかを考える。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>①前近代の史料の読み方を学ぶ。 ②史料に基づいて思考する力を身につける。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週 古代の文書を読む ―律令国家の仕組み― 第3週 貴族の日記を読む ―平安時代の社会― 第4週 鎌倉時代の文書を読む ―将軍と御家人― 第5週 室町時代の文書を読む ―将軍と守護大名― 第6週 戦国大名の文書を読む ―領国支配の仕組み― 第7週 江戸時代の文書を読む① ―幕府と朝廷― 第8週 江戸時代の文書を読む② ―百姓の暮らし― / 中間試験 第9週 中国・朝鮮の史料を読む ―外国人が見た日本― 第10週 古地図を読む ―前近代の国境― 第11週 歴史書を読む ―後世の人々は歴史をどう記したか― ① 『島津国史』と嘉吉附庸論 第12週 歴史書を読む ―後世の人々は歴史をどう記したか― ② 『中山世鑑』と三山時代 第13週 系図・家譜を読む ―先祖はどう語られたか― 第14週 偽文書を読む ―なぜ「歴史」は作られなくてはならなかったのか― 第15週 まとめ ―様々な史料との向き合い方―</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 特になし（プリントを配布する）。 【参考文献】 講義中に随時紹介する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>翌週の講義で扱う内容をテキストや随時紹介する参考文献を読んで予習しておくこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table> <tr> <td>活動状況</td> <td>30点</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>30点</td> </tr> <tr> <td>タームペーパー</td> <td>40点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						活動状況	30点	中間試験	30点	タームペーパー	40点	合計	100点
活動状況	30点												
中間試験	30点												
タームペーパー	40点												
合計	100点												

科目名	沖縄地域文化研究特論			担当教員：照屋 理	
科目名(英語)	Special Issues Culture Studies of Okinawa			メールアドレス：m.teruya@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1231	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	研508	火・木1限
<p>1. 授業の概要</p> <p>現在、沖縄の伝統文化として三線音楽や琉球舞踊、ハーリー（爬龍舟）やエイサーなどがよく挙げられる。本島北部地域では、安田のシヌグ、塩屋のウンガミ、各地のウシデークなどといった無形民俗文化財が挙げられよう。これらは実は近世あるいはそれ以前の古琉球期における農耕、漁撈、航海等に関わる儀礼もしくは派生した文化とされる。</p> <p>古琉球・近世期から続く文化が多く散見される現代沖縄・奄美諸島地域を研究するに重要なアプローチの一つとして、各地で伝承されている古謡や民謡・まじない、説話（伝説やむかし話）などの口頭伝承の解析、あるいはムラ芝居や儀礼舞踊などの民俗芸能の解析がある。古琉球・近世期における人々の様々な活動や心情を活写した口頭伝承や民俗事象を読み解くことなしには、そこから今につながる現代沖縄の地域文化研究は覚束ないものとなる。</p> <p>本特論では、特に沖縄本島北部地域の口頭伝承および民俗事象に焦点を当て、底流する地域の諸相を汲み上げる為の基本的な分析方法を身につけることを目指す。なお、受講生には主体性を求める。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>沖縄本島北部をはじめ琉球文化圏における口頭伝承群について、解釈の手助けとして各種方言辞典や論考等を読みこなす力、および伝承や民俗事象等から様々な情報を汲み上げ分析する方法を身につけることを目標とする。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 登録・オリエンテーション</p> <p>第2週 研究基礎事項の確認①（琉球文化・言語史概説1）</p> <p>第3週 研究基礎事項の確認②（琉球文化・言語史概説2）</p> <p>第4週 研究基礎事項の確認③（口頭伝承および民俗事象概説1）</p> <p>第5週 研究基礎事項の確認④（口頭伝承および民俗事象概説2）</p> <p>第6週 琉球・沖縄地域文化研究方法論①（モチーフ・パラレリズム1）</p> <p>第7週 琉球・沖縄地域文化研究方法論②（モチーフ・パラレリズム2）</p> <p>第8週 琉球・沖縄地域文化研究方法論③（モチーフ・パラレリズム3）</p> <p>第9週 研究各論（受講生発表）①</p> <p>第10週 研究各論（受講生発表）②</p> <p>第11週 研究各論（受講生発表）③</p> <p>第12週 研究各論（受講生発表）④</p> <p>第13週 研究各論（受講生発表）⑤</p> <p>第14週 研究各論（受講生発表）⑥</p> <p>第15週 研究各論（受講生発表）⑦</p> <p>第16週 研究各論（受講生発表）⑧&レポート提出</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>適宜指示する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>参考文献を事前に読むこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>活動状況 50点</p> <p>課題レポート 50点</p> <p>合計 100点</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>担当教員は特論科目を大学院において本格的な研究方法等を身につける科目と考えている。受講生には徹底的な事前学習・調査を求める。またフィールドワークを課す場合がある。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし</p>					

科目名	琉球文学特論			担当教員：照屋 理	
科目名(英語)	Ryukyu Literature			メールアドレス：m.teruya@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1231	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	10	研 508	火・木1限
<p>1. 授業の概要</p> <p>琉球とは、かつて琉球国があった時代とその地域、琉球文学とは、基本的に琉球国時代に琉球国内で生まれ、育まれた文学を意味する。具体的に挙げると、オモロ（『おもろさうし』）に代表される呪術文学、奄美・沖縄・宮古・八重山地域で歌い継がれている古謡や琉歌に代表される叙事・抒情文学、そして組踊に代表される劇文学等である。</p> <p>本特論では、いわゆる日本文学とは異なる琉球文学の特徴や広く文学の普遍性について追究し、最終的には受講生の足元を掘り下げる試みを行う。なお、受講生には主体性を求める。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>①琉球文学の独特の発想法・表現法について追究する方法を身につける。 ②琉球文学の研究を通して、文学の誕生、展開について追究する方法を身につける。 ③琉球文学の研究を通して、古琉球人の神概念、世界観について追究する方法を身につける。 ④琉球文学の研究を通して、沖縄語・方言の成立過程について追究する方法を身につける。 ⑤琉球文学の研究を通して、“文学”の普遍性について追究する方法を身につける。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 登録とオリエンテーション 第2週 琉球語の特質（オモロ及び南島歌謡研究のための基礎的事項の確認） 第3週 琉球文学の全体像について、基礎的理解と研究の方法を学ぶ。 第4週 琉球文学研究の歴史的背景 第5週 琉球文学の成立とさまざまジャンルの概要 第6週 琉球文学の表記・表現法① 第7週 琉球文学の表記・表現法② 第8週 琉球文学のモチーフの展開 第9週 研究各論（受講生発表）① 第10週 研究各論（受講生発表）② 第11週 研究各論（受講生発表）③ 第12週 研究各論（受講生発表）④ 第13週 研究各論（受講生発表）⑤ 第14週 研究各論（受講生発表）⑥ 第15週 研究各論（受講生発表）⑦ 第16週 研究各論（受講生発表）⑧&レポート提出</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 なし。適宜プリント等を配布する。</p> <p>【参考文献】 『新編 沖縄の文学』（波照間永吉監修 高教組教育資料センター発行）*購入する必要はない。</p> <p>5. 準備学習 参考文献を事前に読むこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>活動状況 50点 課題レポート 50点 計 100点</p> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					

科目番号	科目名	中琉関係史基礎特論		担当教員： 赤嶺 守	
	科目名 (英語)	The History of Sino-Ryukyu Relations		E-mail: m.akamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後		研究所2F 研修室4	
1. 授業の概要					
琉球・沖縄の歴史的なターニングポイントは、同時に東アジア社会全体の構造的変動というターニングポイントに重なっている。授業では、そうした東アジア社会の一員としての琉球・沖縄社会における歴史的諸相を詳しく考察する。					
2. 到達目標					
東アジアにおけるコーナーストーンとしての琉球・沖縄の歴史的な位置づけについて理解を深める。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 Introduction : 中国琉球関係史研究序論					
第2週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第3週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第4週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第5週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第6週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第7週 基礎一次史料の解析及び引用の手法					
第8週 基礎一次史料の解析及び引用の手法					
第9週 基礎一次史料の解析及び引用の手法					
第10週 基礎一次史料の解析及び引用の手法					
第11週 期末研究論文テーマの設定及び学術意義・独創性の検討					
第12週 期末研究論文テーマの理論構築・展開のプロパーザル・指導					
第13週 期末研究論文テーマの理論構築・展開のプロパーザル・指導					
第14週 期末研究論文テーマの理論構築・展開のプロパーザル・指導					
第15週 期末研究論文の最終討論					
4. テキスト					
参考文献：内容が多岐にわたるので、担当教員が授業の前に必要な文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
紹介された授業に関わる文献を受講前に一通り目を通しておくこと。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み（報告、討論等）によって評価する。					
7. 履修の条件					
基礎一次史料については、多くが漢文史料であることから、それを読み込む一定の読解力を有すること。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	琉球・沖縄文化特論序説		担当教員：波照間 永吉	
	科目名(英語)			Email: e.hateruma@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後		研究所 2F 研究室 4	
1. 授業の概要					
<p>琉球語を母語とする奄美・沖縄・宮古・八重山地域は“琉球文化圏”と呼ばれ、歴史的に、日本や中国、東南アジアなど周辺諸国との交流によって、個性的な文化を育んできた。例えば、この地域には、ニライカナイ（海の彼方の万物の淵源の地）という海上世界の観念があるが、同時に、オボツカグラなどの天上他界観もある。さらには地下他界観を有する地域もあり、現実的にはこれらが重層しているといえる。これらの他界観を元に御嶽信仰と呼ばれる固有信仰が発達しているわけであるが、これらの他界観と固有信仰・民俗文化がどのように展開しているかを見定めることは、琉球・沖縄文化と日本および周辺地域の文化との比較研究のために不可欠なことである。本講座では、これら琉球文化圏で創造・享受されてきた文学（首里王府編『おもろさうし』〈1531～1623〉など）を素材として、この地域の人々が有する他界観・神観念などの民俗文化と想念世界について考えていく。</p>					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義で使用する『おもろさうし』や『琉球国由来記』、「(琉球国) 碑文記」など、琉球国時代の文献・金石文資料を読むこととおして、古琉球以来の沖縄文化の基層にある問題について考える力を養う。 ・ 祭祀を実際に見学する機会を積極的にもち、琉球・沖縄の祭祀文化の基本的な構造や特徴を理解するとともに、その社会的意味についても考える力をつける。 					
3. 授業の計画と内容					
第1週	講義の進め方、学習方法について説明。本講座に使う資料について説明する。				
第2週	琉球・沖縄における祭祀と文芸（琉球文化圏の固有信仰に、特に、御嶽、神女組織などについて概説する）。				
第3週	『おもろさうし』概説				
第4週	オモロ解読法について①				
第5週	オモロ解読法について②				
第6週	『おもろさうし』に現れた固有信仰①(御嶽)				
第7週	『おもろさうし』に現れた固有信仰②(神)				
第8週	『おもろさうし』に現れた固有信仰③(他界観)				
第9週	『おもろさうし』に現れた固有信仰④(ヲナリ神・女神)				
第10週	『おもろさうし』に現れた固有信仰⑤(ヲナリ神・女神)				
第11週	『おもろさうし』に現れた固有信仰⑥(王府の神女組織)				
第12週	『おもろさうし』の憑霊表現①				
第13週	『おもろさうし』の中の憑霊表現②				
第14週	碑文とオモロからみる古琉球の王府祭儀				
第15週	『おもろさうし』や碑文などからみる古琉球の宗教的世界				
4. テキスト					
【テキスト】					
外間守善『校注おもろさうし』（2000年・岩波書店）					
【参考文献】					
外間守善・波照間永吉『定本おもろさうし』（2002年・角川書店）、外間守善・波照間永吉『定本琉球国由来記』（1997年・角川書店）、外間守善『沖縄の神歌』（1994年・中公文庫）、比嘉康雄『神々の古層』（写真集・全12巻）（1990年～1994年・ニライ社）、比嘉康雄『沖縄 久高島』（1997年・第一書房）、沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』（1995年・角川書店）、外間守善他『南島歌謡大成 I～V』（1980年・角川書店）、玉城政美『南島歌謡論』（1991年・砂子屋書房）、外間守善『南島文学論』（1994年・角川書店）、波照間永吉『南島祭祀歌謡の研究』（1999年・砂子屋書房）、玉城政美『琉球歌謡論』（2010年・砂子屋書房）					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。特に講師（波照間永吉）の既発表論文などによって事前の学習をすること。地域における伝統的祭祀について可能な限り実地に観察する。					
6. 成績評価の方法					
講義時間における知識習得のレベルおよび期末のレポートで総合的に判断する。講義の取り組み（報告、討論等）など平常の受講態度についても評価する。					
7. 履修の条件					
特にない。但し、テキストの準備は万全であること。また、事前学習を十全に行うこと。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	琉球精神文化特論		担当教員：山里 純一	
	科目名(英語)			Email: j.yamazato@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後		研究所 2F 研究室 3	
1. 授業の概要					
南島(奄美・沖縄)の民俗文化について、まじない、星と風、信仰習俗などを主たるテーマとして取り上げる。特有の精神風土に根ざしたまじない習俗について、文献史料の発掘とフィールドワークの成果を活かし、中国・日本との比較も視野に入れながら考察する。また南島の地理的環境がもたらす天文・自然と人々の暮らしについて、さらに中国・日本などの外来文化が受容され独自の展開を見せる民俗文化についても見ていく。					
2. 到達目標					
日本本土と違った南島社会の民俗文化の有り様について知識を深める。 固有の文化と外来文化が織りなす南島の民俗文化について理解する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 オリエンテーション - 南島の民俗文化 -					
第2週 呪文と呪歌					
第3週 呪物と様態					
第4週 文字の呪力と呪符木簡					
第5週 沖縄のフーフダ(符札) ① 種類と機能					
第6週 沖縄のフーフダ② 起源と変容					
第7週 まじないと民俗① 人生儀礼をめぐるまじない					
第8週 まじないと民俗② 建築儀礼とまじない					
第9週 まじないと民俗③ 自然とまじない					
第10週 星と人々の暮らし① 北斗信仰					
第11週 星と人々の暮らし② 農業と星					
第12週 風の用語と伝承					
第13週 天文知識と風の関係					
第14週 外来の神々と信仰習俗					
第15週 『四本堂家礼』と沖縄の民俗					
4. テキスト					
参考文献：山里純一『沖縄のまじない』(ポーターインク、2017)、山里純一『呪符の文化史 - 習俗に見る沖縄の精神文化』(三弥井書店、2004)、山里純一「沖縄における星の信仰」『沖縄民俗研究』34号、窪徳忠『中国文化と南島』(第一書房、1981)、窪徳忠『目でみる沖縄の民俗とそのルーツ』(沖縄出版、1990)、花部英雄『まじないの文化誌』(三弥井書店、2014)					
5. 準備学習					
参考文献に目を通しておく。					
6. 成績評価の方法					
レポートと授業への取り組み(報告、討論等)によって評価する。 レポート (70%) 授業への取り組み (30%)					
7. 履修の条件					
なし					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

シラバス

(社会制度政策教育研究領域科目)

科目名	社会制度政策研究演習 I			担当教員：高嶺 司																											
科目名(英語)	MA Thesis Writing I			メールアドレス：t.takamine@okinawa-ct.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1226																											
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																										
4	1	通年	2	研 503	月：3限目、木：3限目																										
<p>1. 授業の概要</p> <p>修士論文の作成へ向けた準備段階のセミナーで、修士論文のタイプ、作成目的、研究を進める上での予見できる問題点、主題の選定、研究計画（リサーチ・プロポーザル）、論文の構成、論文の書式などについて、関連文献やディスカッションを用いながら学ぶ。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>修士論文のタイプ、作成目的、予見できる問題点、主題、構成、書式などについての理解を深め、修士論文を完成させるために必要な能力を養成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 週</td> <td>ガイダンス：修士論文とは</td> </tr> <tr> <td>第 2-3 週</td> <td>修士論文のタイプ</td> </tr> <tr> <td>第 4-5 週</td> <td>修士論文の目的</td> </tr> <tr> <td>第 6-10 週</td> <td>予見される問題</td> </tr> <tr> <td>第 11-16 週</td> <td>主題の選定</td> </tr> <tr> <td>第 17-20 週</td> <td>研究計画（リサーチ・プロポーザル）</td> </tr> <tr> <td>第 21-24 週</td> <td>論文の構成</td> </tr> <tr> <td>第 25-28 週</td> <td>論文の書式</td> </tr> <tr> <td>第 29 週</td> <td>中間発表準備</td> </tr> <tr> <td>第 30 週</td> <td>中間発表</td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 特定の教科書は定めない。</p> <p>【参考文献】 講義にそって参考文献や参考資料を配布する。</p> <p>5. 準備学習 特になし。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>レポート</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>履修の条件は特にないが、専門分野に精通するため「国際政治特論Ⅰ」「国際政治特論Ⅱ」「国際関係特論Ⅰ」「国際関係特論Ⅱ」などの科目を同時履修することが望ましい。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						第 1 週	ガイダンス：修士論文とは	第 2-3 週	修士論文のタイプ	第 4-5 週	修士論文の目的	第 6-10 週	予見される問題	第 11-16 週	主題の選定	第 17-20 週	研究計画（リサーチ・プロポーザル）	第 21-24 週	論文の構成	第 25-28 週	論文の書式	第 29 週	中間発表準備	第 30 週	中間発表	レポート	50点	ディスカッション	50点	合計	100点
第 1 週	ガイダンス：修士論文とは																														
第 2-3 週	修士論文のタイプ																														
第 4-5 週	修士論文の目的																														
第 6-10 週	予見される問題																														
第 11-16 週	主題の選定																														
第 17-20 週	研究計画（リサーチ・プロポーザル）																														
第 21-24 週	論文の構成																														
第 25-28 週	論文の書式																														
第 29 週	中間発表準備																														
第 30 週	中間発表																														
レポート	50点																														
ディスカッション	50点																														
合計	100点																														

科目名	社会制度政策研究演習Ⅱ			担当教員：高嶺 司																							
科目名(英語)	MA Thesis Writing Ⅱ			メールアドレス：t.takamine@okinawa-ct.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1226																							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																						
4	2	通年	2	研 503	月：3 限目、木：3 限目																						
<p>1. 授業の概要 修士論文の完成へ向けたセミナーで、社会制度政策研究演習Ⅰで終了した作業を踏まえ、修士論文の総仕上げと校正を行う。</p> <p>2. 到達目標 修士論文を完成させ最終口述試験の準備をすること。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr><td>第 1－4 週</td><td>文献・資料の調べ方</td></tr> <tr><td>第 5－10週</td><td>文献・資料の分析方法</td></tr> <tr><td>第11－14週</td><td>理論的枠組みの構築</td></tr> <tr><td>第15－18週</td><td>ITの活用</td></tr> <tr><td>第19－22週</td><td>論文構成の検討</td></tr> <tr><td>第23－26週</td><td>参考文献・資料の引用</td></tr> <tr><td>第27－29週</td><td>最終発表の準備</td></tr> <tr><td>第 30 週</td><td>最終発表</td></tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 特定の教科書は定めず、講義にそって参考文献や参考資料を配布する。 【参考文献】 ハワード・S・ベッカー 「社会学の技法」 恒星社厚生閣、2012年 戸田山和久著「論文の教室」NHKブックス、2005年 谷岡一郎著、「『社会調査のウソ』リサーチ・リテラシーのすすめ」文春新書、2000年</p> <p>5. 準備学習 特になし。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr><td>レポート</td><td>50点</td></tr> <tr><td>ディスカッション</td><td>50点</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100点</td></tr> </table> <p>7. 履修の条件 社会制度政策研究演習Ⅰを履修していること。また、専門分野に精通するため「国際政治特論Ⅰ」「国際政治特論Ⅱ」「国際関係特論Ⅰ」「国際関係特論Ⅱ」などの科目を同時履修することが望ましい。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						第 1－4 週	文献・資料の調べ方	第 5－10週	文献・資料の分析方法	第11－14週	理論的枠組みの構築	第15－18週	ITの活用	第19－22週	論文構成の検討	第23－26週	参考文献・資料の引用	第27－29週	最終発表の準備	第 30 週	最終発表	レポート	50点	ディスカッション	50点	合計	100点
第 1－4 週	文献・資料の調べ方																										
第 5－10週	文献・資料の分析方法																										
第11－14週	理論的枠組みの構築																										
第15－18週	ITの活用																										
第19－22週	論文構成の検討																										
第23－26週	参考文献・資料の引用																										
第27－29週	最終発表の準備																										
第 30 週	最終発表																										
レポート	50点																										
ディスカッション	50点																										
合計	100点																										

科目名	国際政治特論 I			担当教員：高嶺 司							
科目名(英語)	International Politics I			メールアドレス：t.takamine@okinawa-ct.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1226							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	前期	5	研 503	月：4 限目、火：2 限目						
<p>1. 授業の概要</p> <p>過去30年間、政治経済から文化や科学や環境に至るあらゆる領域において、グローバリゼーションと称される「地球規模のスケールをともなった相互接続」が顕著となってきている。本講義では、グローバリゼーション(Globalization)をキーワードに国際政治経済の動向と問題点を深く考察する。具体的には、地域統合、国際貿易と金融、安全保障、民主化と人権、貧困と開発、環境問題、NGO 運動、情報通信革命、テロリズム、捕鯨問題、文明の衝突といった問題に焦点をあてながら現代の国際情勢を解説する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>グローバル時代の国際政治経済の動向と問題点を理解するとともに、それら問題の解決能力を養成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 はじめにーグローバリゼーションと国際政治 第2週 EUの地域統合と地域主義 第3週 国際貿易と金融システム 第4週 情報通信技術革命と国際政治 第5週 グローバル市民社会 第6週 多国籍企業、NGO、国境なき医師団 第7週 地球温暖化と国際環境政治 第8週 国際捕鯨政治と日本の調査捕鯨 第9週 戦争の科学 第10週 テロリズムと国際安全保障 第11週 貧困と開発問題 第12週 民主化と基本的人権問題 第13週 人間の安全保障 第14週 文明の衝突論と現代国際社会 第15週 まとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 特定の教科書は定めず、講義にそって参考文献や参考資料を配布する。</p> <p>【参考文献】 添谷芳秀編 『21世紀国際政治の展望』 慶応義塾大学出版会 1999年 日本国際政治学会編 『新しいヨーロッパー拡大EUの諸相』 有斐閣 2005年 日本国際政治学会編 『周縁からの国際政治』 有斐閣 2007年 John Baylis, Steve Smith and Patricia Owens (eds.), <i>The Globalization of World Politics</i>, OUP, 2008.</p> <p>5. 準備学習 特になし。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>課題レポート</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						課題レポート	50点	ディスカッション	50点	合計	100点
課題レポート	50点										
ディスカッション	50点										
合計	100点										

科目名	国際政治特論II			担当教員：高嶺 司	
科目名(英語)	International Politics II			メールアドレス：t.takamine@okinawa-ct.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1226	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	研 503	月：3 限目、木：3 限目
<p>1. 授業の概要</p> <p>21世紀の時代を生きる私たちは、次から次へと発生する国際問題についてどのように理解し、また、どのように対処すべきなのか。こうした問いを念頭に、本特論では、私たちが現在の国際問題を理解するための有効な手段としての「国際政治理論」、及び、そうした問題にどのように対処し、平和で繁栄しかつ住みやすい国際社会を実現するための政策を作る上で重要な「国際政治の分析アプローチ」を、下記講義テーマごとに詳しく解説する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>21世紀の国際問題を理解し解決するための有効な手段としての国際政治理論と分析アプローチに精通する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 はじめにー国際政治の理論と分析アプローチ</p> <p>第2週 国際政治理論と私たち</p> <p>第3週 リアリズム (Realism)</p> <p>第4週 リベラリズム (Liberalism)</p> <p>第5週 構造現実主義 (Structural Realism)</p> <p>第6週 ネオリベラル制度主義 (Neoliberal Institutionalism)</p> <p>第7週 コンストラクティビズム (Constructivism)</p> <p>第8週 対外政策決定のしくみ</p> <p>第9週 ジェンダーからみる世界</p> <p>第10週 安全保障とは</p> <p>第11週 国際政治経済とは</p> <p>第12週 国際関係における文化</p> <p>第13週 シュミレーション</p> <p>第14週 戦略的思考法</p> <p>第15週 まとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <p>特定の教科書は定めず、講義にそって参考文献や参考資料を配布する。</p> <p>【参考文献】</p> <p>日本国際政治学会編『日本の国際政治学』有斐閣 2009年</p> <p>藤原帰一・リー・ジョンウオン・古城佳子・石田淳編『経済のグローバル化と国際政治』東京大学出版会 2004年</p> <p>日本国際政治学会編『国境なき国際政治』有斐閣 2009年</p> <p>John Baylis, Steve Smith and Patricia Owens (eds.), <i>The Globalization of World Politics</i>, OUP, 2008.</p> <p>5. 準備学習</p> <p>特になし。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>課題レポート 50点</p> <p>ディスカッション 50点</p> <p>合計 100点</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>できれば国際政治特論Iを履修しているほうが望ましい。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

科目名	地域開発政策特論			担当教員：宮城 敏郎	
科目名(英語)	Regional Development Policy			メールアドレス：t.miyagi@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1083	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	2～3	研204	月曜日 16：30～18:00

1. 授業の概要
 経済のグローバル化、高度情報化（IT 革命）の急速な進展に伴って地域の経済環境は大きく変化しており、従来の中央集権的タテワリ行政システムの中で地域の開発政策を考えるのは困難である。
 本講義においてはこうした状況を踏まえ、経済的自立の条件とは何か、産業集積のメカニズムとは、競争優位を創出するためには何が必要か等、地域の視点（「地方の時代」）から経済の発展について考えていく。後半は実際に沖縄振興開発計画等にふれつつ、開発政策が沖縄の経済的自立にどう影響しているかについて考察していく。

2. 到達目標
 現代の経済・社会状況を把握する能力を養うと同時に、地域の経済的自立に何が求められているか、思考できる能力を養う。

3. 授業の計画と内容
 第1週 オリエンテーション
 第2週 グローバル化と「地域経済学」
 第3週 経済自立の条件とは
 第4週 経済発展と産業立地
 第5週 「外部経済」と「取引費用」
 第6週 「低次元の競争優位」と「高次元の競争優位」
 第7週 シュンペーターの『経済発展の理論』
 第8週 技術革新と産業構造の変化
 第9週 アナリー・サクソニアンの『現代の二都物語』
 第10週 IT 革命と地域経済
 第11週 地域インキュベータと企業の創出
 第12週 「外発的発展」と内発的発展
 第13週 ジェイン・ジェイコブズ『発展する地域 衰退する地域』
 第14週 全国総合開発計画と沖縄振興開発計画1
 第15週 全国総合開発計画と沖縄振興開発計画2

4. テキスト・参考文献
【テキスト】
 プリントを配布する。
【参考文献】
 宮城辰男編『沖縄・自立への設計』同文館、平成9年 価格2500円
 伊藤正昭『地域産業論』学文社、1997年 価格2800円
 宮本憲一他編『地域経済学』有斐閣、1990年 価格2500円
 ジェイソン・ジェイコブズ『発展する地域 衰退する地域』ちくま学芸文庫、2012年 価格1500円

5. 準備学習
 経済学の基本概念について押さえる。

6. 成績評価の方法
 発表（30点）＋ディスカッション（30点）＋課題レポート（40点）＝100点

7. 履修の条件
 特になし。

8. その他
 特になし。

科目名	都市政策特論			担当教員：高嶺 晃 (非常勤講師)	
科目名(英語)	City planning policy			メールアドレス：akitaka2006@yahoo.co.jp	
				研究室電話番号：	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	2～3	非常勤講師控室	講義終了後
<p>1. 授業の概要 都市計画（まちづくり）の「基本理念」をもとに「事例視察」を相互に行い計画と実例を実感させる。また、時代のニーズによる「まちづくりの変遷」等から「計画論」と「実現性」を講義する。 「まちづくりのプレゼンテーション」の作成をゼミナール形式で行う。</p> <p>2. 到達目標 都市計画の一般論を、講義と実例を現地視察等により「計画」から「実践」についての理解をさせる。</p> <p>3. 授業の計画と内容 第 1 週 履修者との意見交換により講義の進め方「講義のポイント」の確認 第 2 週 都市計画（まちづくり）の概論「都市の成り立ち」 第 3 週 都市計画（まちづくり）の概論「都市と農村等と関係性」 第 4 週 都市計画（まちづくり）の概論「時代の変化と都市の変遷」 第 5 週 実例「沖縄県における基地返還跡地利用・那覇新都心地区」 第 6 週 実例「沖縄県における基地返還跡地利用・那覇市小禄金城地区」 第 7 週 実例「沖縄県における基地返還跡地利用・アワセゴルフ場地区」 第 8 週 実例「那覇市における再開発事業」 久茂地地区再開発事業（パレット久茂地） 牧志安里地区（サイオンスケアー） 泊港地区（とまりん） 第 9 週 現地視察（学外）那覇市・北中城村「軍用地跡地利用地区・再開発地区等」 第 10 週 同上継続 第 11 週 実例「日本風景街道（やんばる風景花街道）国土交通省登録」の計画から登録までの取り組み 第 12 週 現地視察（学外）「やんばる風景花街道ルート」 第 13 週 同上継続 第 14 週 現地視察を踏まえて「計画」から「実践」そして「その後の展開」について 第 15 週 まちづくり計画のプレゼンテーション策定のポイント</p> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 講義にそって参考文献および参考資料をテキストとする。 【参考文献】 「タイム is タイム」：高嶺 晃著 「沖縄の景観」：高嶺 晃共著 「沖縄建設論壇」：高嶺 晃共著 「やんばる風景花街道・新聞連載記事」：高嶺 晃</p> <p>5. 準備学習 講義の過程において次週の講義の提案をする。</p> <p>6. 成績評価の方法 レポート提出による評価と講義におけるディスカッションで評価する。</p> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					

科目名	地方自治特論			担当教員：大城 渡	
科目名(英語)	Local Government			メールアドレス：w.oshiro@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1219	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後		410	
<p>1. 講義内容</p> <p>本講義では、地方政府とも言われる地方公共団体について、「地方自治特論」という講義名称のもとで、日本国憲法による地方自治の保障の意義、自治体の仕事（これは一般に「事務」といわれる）とこれを行う組織の仕組みや特徴、自治体の仕事の中でも特に重要な役割をもっている条例制定の問題、自治体における住民の地位や権利の種類や内容について、それぞれの制度趣旨・制度内容を明らかにするという観点から、講述していきたい。これらのことを学ぶことを通じて、地方の政治・行政への理解を一層深めることができるようにしたい。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>上記に記述した講義内容を理解し、今後の研究に活用できるようにする。</p> <p>3. 講義予定</p> <p>第1週 自治・地方自治とは何か 第2週 憲法と地方自治—日本国憲法が地方自治を保障しているのは何故なのだろうか 第3週 自治体論—自治体にはどのようなものがあるのだろうか 第4週 自治体の事務（仕事）—住民の生活に関わる仕事が多い 第5週 自治体の組織（1）—議会は何のためにあるのだろうか 第6週 自治体の組織（2）—長などの執行機関はどのような特徴をもっているのだろうか 第7週 N市長選挙を振り返って 第8週 八重山教科書採択問題を考える 第9週 条例（1）—条例って何？ 第10週 自治体の条例（2）—条例にはどのようなものがあるのだろうか 第11週 自治体と住民（1）—自治体において住民はどのような地位にあるのだろうか 第12週 自治体と住民（2）—自治体において住民はどのような権利を持っているのだろうか 第13週 議会の傍聴—市議会を実際に傍聴してみよう 第14週 教育委員会ヒヤリング—教科書採択の仕組みはどうなっているのだろうか 第15週 議会の傍聴・教育委員会ヒヤリングを終えて（総括的とりまとめ）</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 渡名喜庸安・白藤博行ほか『アクチュアル地方自治法』（法律文化社、2010年） 【参考文献】 原田尚彦『地方自治の法と仕組み』（学陽書房）</p> <p>5. 履修要件</p> <p>特になし。地方の政治・行政に関心を持っている諸君の受講を歓迎したい。</p> <p>6. 評価方法</p> <p>講義における質疑内容および講義終了後に提出してもらった課題レポート（A4[40×40行]4枚程度）を総合的に評価する。</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

科目名	地域活性化特論			担当教員：宮平 栄治	
科目名(英語)	Regional Vitalization Studies			メールアドレス：s.miyahira@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	2～3	研 315	火・木 14：45～16：15
<p>1. 授業の概要</p> <p>沖縄県は島嶼県であり、地域活性化においても他地域とは異なる手法が必要である。そのため沖縄県においては一般的な地域活性化策を踏まえ沖縄県の特徴を加味した地域活性のあり方が必要である。本講義においては、前述の沖縄県の地域特性を踏まえつつ、地域の概念と活性化の概念について経済理論、マーケティング論およびわが国や諸外国の地域活性化策の推移から把握し、地域活性化についての概念と目標を確定する。確定後は、事例研究をとおして地域活性化においては、その地域の持つ地域資源の発見と商品化と産業化の必要性を理解する。商品化と産業化における比較優位性理論とマーケティングによる販売促進の重要性を学ぶ。また、地域活性化の担い手としての官・民・企業およびNPOの目標の共有化、リスク分散と協業の必要性を理解することである。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>地域の概念、活性化の概念、内発的発展論と外発的発展論など地域活性化に必要な知識を学ぶ。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 地域の概念—国際経済と国内経済の比較から—</p> <p>第2週 地域経済の主体と地域活性を見る視点</p> <p>第3週 経済発展できない理由—経路依存性、不完全な情報と複雑性、インフォーマルな制度の漸進性</p> <p>第4週 輸入代替</p> <p>第5週 経済自立と自律</p> <p>第6週 IS分析</p> <p>第7週 産業連関分析</p> <p>第8週 クラスタモデル</p> <p>第9週 ハロッド・モデル</p> <p>第10週 内発的発展理論と外発的発展理論</p> <p>第11週 ブランド化</p> <p>第12週 地域ブランド化</p> <p>第13週 コミュニティビジネス、農商工連携など</p> <p>第14週 地域活性化例①—東京都三鷹市、北海道伊達市、ニセコ町</p> <p>第15週 地域活性化例②—沖縄県</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <p>適宜、資料を配布する予定である。</p> <p>【参考文献】</p> <p>(1) ジェイン・ジェイコブス著 中村達也訳『発展する地域衰退する地域』(筑摩書房 2012年)</p> <p>(2) 山浦晴男著『住民・行政・NPO 協働で進める最新地域再生マニュアル』(朝日新聞出版 2010年)</p> <p>(3) 西村幸夫・野澤康編『まちの見方・調べ方—地域づくりのための調査法入門—』(朝倉書店 2010年)</p> <p>5. 準備学習</p> <p>上記の参考文献の他、『日本経済新聞』等を読み、地域経済の実情を把握するように。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>① 講義中における口頭発表およびディスカッション</p> <p>② 適宜行なうレポート</p> <p>③ 適宜行なう小テスト</p> <p>以上の合計点で評価する。</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>口頭発表の際は、レジュメを用意する。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

科目名	経済政策特論			担当教員：宮平 栄治	
科目名(英語)	Economic Policy			メールアドレス：s.miyahira@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1201	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	4	研 315	火・木 14：45～16：15

1. 授業の概要
 経済政策は、他の経済学分野と違い、極めて現実的課題を扱う。例えば、自然科学においては実験等を通じてデータを収集し、再生可能な情報を、他の社会科学においてはアンケート等を通じてデータを収集し、再生の可能性が高い情報を得、理論構築と展開を行うが、経済政策では実験を行い、失敗をする事はできない。この点を踏まえ、この講義では、経済政策の決定に関する諸課題を扱い、日本および世界経済の診断を行なう。

2. 到達目標
 経済政策を理解するためには、経済哲学、経済政策理論、およびビジョンが必要となる。また、実行するためには、政府、法令、予算および人員が必要となる。この講義では、経済政策が、発案され実行するまでにこれらの事柄がどのように関連するかを学ぶことで、将来の政策立案者としての基礎を確立する。

3. 授業の計画と内容
 第1週 経済政策と他の社会科学との相違点
 第2週 経済政策の発動要因および政策主体
 第3週 経済政策過程と種類
 第4週 政策手段と政策変数
 第5週 法律と行政指導
 第6週 財政政策
 第7週 金融政策
 第8週 マクロ経済と経済構造
 第9週 マクロ経済政策
 第10週 成長政策①ーハロッド・ドーマー理論
 第11週 成長政策②ー新古典派成長理論
 第12週 成長政策③ーデュアリズムの経済発展理論(マルサス、Hingpins、Lewis など)
 第13週 ミクロ経済と経済
 第14週 ミクロ経済政策
 第15週 日本の産業政策

4. テキスト・参考文献
【テキスト】
 適宜、資料を配布する予定である。
【参考文献】
 (1) 後藤昭八郎著『経済政策原理の研究』(世界書院 2000年)
 (2) 鳥居泰彦著『経済発展理論』(東洋経済新報社 1979年)
 (3) 小宮隆太郎・奥野正寛・鈴木興太郎編『日本の産業政策』(東大出版会 1984年)
 (4) 伊藤元重・清野一治・奥野正寛・鈴木興太郎著『産業政策の経済分析』(東大出版会 1988年)

5. 準備学習
 上記の参考文献の他、『日本経済新聞』等を読み、政策が立案される過程等を調査するように。

6. 成績評価の方法
 ① 講義中における口頭発表およびディスカッション
 ② 適宜行なうレポート
 ③ 適宜行なう小テスト
 以上の合計点で評価する。

7. 履修の条件
 口頭発表の際は、レジュメを用意する。

8. その他
 特になし。

科目名	国際経済特論			担当教員：宮城 和宏 (非常勤講師)	
科目名(英語)	International Economics			メールアドレス：kazuhirom@oki.u.ac.jp 研究室電話番号：	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	非常勤講師控室	講義終了後

1. 授業の概要

この授業は、国際経済の基本概念について学ぶことを目的としています。テーマは大別して、国際貿易に関するものと国際金融及び外国為替に関するものに分かれます。授業ではこれらについて幅広く包括的に学習することになります。なお、この講義を受講することにより、受講者が国際経済に関する新聞やニュース記事等の内容が以前よりも容易に理解できるようになることが期待されます。なお、以下のシラバスの内容は完全なものではなく、授業の進展度や学生の理解度に応じて若干の変更もありえることに留意してください。

2. 到達目標

- ・ヒト・モノ・カネの国際的な流れからみる国際経済と日本経済の関係が理解できるようになること。
- ・国際経済の基本的な概念や理論の学習を通じて国際経済に関する新聞記事、ニュース等が理解できるようになること。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 回 インTRODakション
- 第 2 回 国際収支とは何か1
- 第 3 回 国際収支とは何か2
- 第 4 回 国際収支とは何か3
- 第 5 回 外国為替市場のしくみ1
- 第 6 回 外国為替市場のしくみ2
- 第 7 回 外国為替市場のしくみ3
- 第 8 回 相互依存と貿易からの利益 (絶対優位と比較優位) 1
- 第 9 回 相互依存と貿易からの利益 (絶対優位と比較優位) 2
- 第10回 相互依存と貿易からの利益 (絶対優位と比較優位) 3
- 第11回 生産要素賦存と貿易のパターン (ヘクシャー＝オリーン・モデル) 1
- 第12回 生産要素賦存と貿易のパターン (ヘクシャー＝オリーン・モデル) 2
- 第13回 新貿易理論と新貿易理論1
- 第14回 新貿易理論と新貿易理論2
- 第15回 まとめ

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に指定せず、毎回レジメを配布する。

【参考文献】

参考文献として以下のものをあげる。

田中鮎夢 (2015) 『新貿易理論とは何か』 ミネルヴァ書房

5. 準備学習

特に必要としない。

6. 成績評価の方法

授業態度、授業時間における発言、そしてレポートあるいはテストで総合的に評価する。

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	産業政策特論			担当教員：宮城 和宏 (非常勤講師) メールアドレス：kazuhirom@okiu.ac.jp 研究室電話番号：	
科目名(英語)	Industrial Policy				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	非常勤講師控室	講義終了後
<p>1. 授業の概要</p> <p>後発国が産業を生成・発展させ先進国に追いつくためには、市場の失敗等により、市場メカニズムを利用するだけでは難しいことが東アジアの経験より明らかになっています。この講義では、日本を始めとする東アジア各国が先進国へ移行する過程で採用してきた産業政策や先進国でも行われている産業政策について勉強していく予定です。また「沖縄振興体制」下の政府からの補助金の仕組みや制度の役割等についても触れていきます。</p> <p>2. 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業政策の基本的な概念、理論が理解できるようになること。 東アジア諸国のキャッチアップに果たした産業政策の役割について理解を深める。 沖縄における「振興体制」の仕組み、制度について理解できるようになること。 <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 市場の失敗、政府の失敗と産業政策1</p> <p>第3回 市場の失敗、政府の失敗と産業政策2</p> <p>第4回 雁行形態論と幼稚産業保護論1</p> <p>第5回 雁行形態論と幼稚産業保護論2</p> <p>第6回 市場メカニズムと技術政策1</p> <p>第7回 市場メカニズムと技術政策2</p> <p>第8回 市場メカニズムと技術政策3</p> <p>第9回 技術導入と研究開発1</p> <p>第10回 技術導入と研究開発2</p> <p>第11回 技術導入と研究開発3</p> <p>第12回 戦略的通商政策1</p> <p>第13回 戦略的通商政策2</p> <p>第14回 産業政策と経済発展のモデル1</p> <p>第15回 産業政策と経済発展のモデル2</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>特に指定せず、毎回レジメを配布する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>特に必要としない。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>授業態度、授業時間内における発言、そしてレポートあるいはテストで総合的に評価する。</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

科目名	公法学特論			担当教員：大城 渡	
科目名(英語)	Public Legal System and Policies			メールアドレス：w.oshiro@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	研 410	火曜・4限，金曜・4限

1. 授業の概要

本科目では、主として国や地方公共団体が法に基づき実施している施策や制度等（例えば、受講生の研究関心も参考にしながら、その法的ありようの評価について賛否が分かれていたり、あるいは、その法的あり方について根本的な議論がなされていたりするもの等を積極的に採り上げてみたい）について、担当教員が指示あるいは提供する関連文献を事前に講読し、受講生の発表・報告を基にして、公法学的観点から検討・考察する。また、公法学に関する学術論文等をできる限り多く読み解く経験を積むことによって、将来の学術論文執筆に際しての作法習得にも資したい。

2. 到達目標

- ①公法学（憲法学・行政法学）の識見を深め、その高度な運用能力を育む。
- ②法学分野の学術論文執筆に際しての作法習得を図る。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 公法学特論 オリエンテーション
- 第 2 週 I 人権領域①
- 第 3 週 I 人権領域②
- 第 4 週 I 人権領域③
- 第 5 週 II 統治制度領域①
- 第 6 週 II 統治制度領域②
- 第 7 週 II 統治制度領域③
- 第 8 週 II 統治制度領域④
- 第 9 週 III 地方自治領域①
- 第 10 週 III 地方自治領域②
- 第 11 週 III 地方自治領域③
- 第 12 週 IV 沖縄領域①
- 第 13 週 IV 沖縄領域②
- 第 14 週 IV 沖縄領域③
- 第 15 週 IV 沖縄領域④

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

特定ものは定めず、院生の関心にも配慮しつつ、講義内容に沿って、諸資料を適宜配布することとする。

【参考文献】

例えば、公法領域も含んだ、わが国の施策や法制度等について幅広く論じた、学界最前線の研究成果が多く掲載されている専門雑誌として、例えば、研究者・実務家向けには『ジュリスト』（有斐閣）や『法律時報』（日本評論社）等があり、学習者向けには『法学教室』（有斐閣）や『法学セミナー』（日本評論社）等がある。

わが国の法制度等をめぐる裁判例を専門的に多く掲載している専門雑誌としては、『判例時報』（判例時報社）や『判例タイムズ』（判例タイムズ社）等がある。また、裁判例検索としては、最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp> 等も有用である。その他にも、古今東西・国内外の法制度等について考究した多様な論考が編まれている各種大学紀要（例えば、『国家学会雑誌』（東京大学）、『法学論叢』（京都大学）等）も重要である。

5. 準備学習

担当教員が指示あるいは提供する関連文献を事前に講読する。

これまで公法学の科目を履修したことがない者は、講義内容に関わる箇所を事前に公法学の概説書等で確認する。

6. 成績評価の方法

評価の目安として、講義における発表・報告内容（50点）や、講義への積極的な関与（発言等）（20点）、全講義終了後に提出してもらった課題レポート（A4[40文字×40行]で5枚程度）（30点）を個別に評価することも考えてはいるが、最終的な成績評価はこれらの総合評価で行う。

7. 履修の条件

これまでに公法学の科目（「憲法」や「行政法」等）を履修した経験があることが望ましいが、本科目のシラバス（特に講義内容や講義計画等）を確認し、自分は興味・関心があり対応できると自己評価した院生であれば、何人でも歓迎する。

8. その他

大学院生としてふさわしい学問研究への真摯な取り組みや熱い思いに期待する。

科目名	東アジア地域特論			担当教員：菅野 敦志	
科目名(英語)	East Asian Studies			メールアドレス：sugano@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1230	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	研 507	火6、木3

1. 授業の概要
 本講義は東アジア地域の政治・社会について、特に戦後から近年までの当該地域における国民国家形成と政治変容をとり上げ、政権党の政治的イデオロギーが教育政策や言語政策を含む広義の意味での文化政策にどのように反映されてきたのか—国家・政治・文化の不可分の関係性—に焦点を当てて検討してみたい。本講義では、主に中華圏の社会とする東アジア地域とするが、中国大陸だけではなく、台湾や香港といった“周縁”的な地域を沖縄との比較の視座において検討することで、周辺からの地域研究とその手法について考える糸口としたい。

2. 到達目標
 東アジアの国・地域における戦後から近年にいたるまでの個々の事例の検討と比較を通じて、政治と文化の密接な関係および個々の地域がダイナミックな変容を遂げてきた地域独自のプロセスとその影響に対する理解を深める。

3. 授業の計画と内容

第1週 インTRODクシヨン
 第2週 中国の政治・社会変容 (1)：国民党と共産党の政治対立
 第3週 中国の政治・社会変容 (2)：新中国と教育・文化政策の政治化
 第4週 中国の政治・社会変容 (3)：毛沢東による文化大革命の衝撃
 第5週 中国の政治・社会変容 (4)：冷戦の崩壊と現代中国政治の変容
 第6週 台湾の政治・社会変容 (1)：戦後初期台湾と国共内戦
 第7週 台湾の政治・社会変容 (2)：国民党・蒋介石と中華文化復興運動
 第8週 台湾の政治・社会変容 (3)：民進党の誕生と蔣経国・李登輝
 第9週 台湾の政治・社会変容 (4)：本土化と台湾政治の変容
 第10週 台湾の政治・社会変容 (5)：中台関係と国内政治
 第11週 香港の政治・社会変容 (1)：中国返還と香港の政治変容
 第12週 香港の政治・社会変容 (2)：政治をめぐる歴史叙述と香港人意識
 第13週 文字政策にみる政治：中国語・中国文字の改革
 第14週 教育政策にみる政治：「国史」とアイデンティティ形成
 第15週 まとめ

4. テキスト・参考文献
 菅野敦志『台湾の国家と文化—「脱日本化」・「中国化」・「本土化」』(勁草書房、2011年)
 菅野敦志『台湾の言語と文字—「国語」・「方言」・「文字改革」』(勁草書房、2012年)
 西村茂雄『20世紀中国の政治空間』(青木書店、2004年)
 毛利和子『新版 現代中国政治』(名古屋大学出版会、2012年)
 林泉忠『「辺境東アジア」のアイデンティティ・ポリティクス—沖縄・台湾・香港』(明石書店、2005年)
 その他については授業中に提示する。

5. 準備学習
 事前にテキスト課題を读了し、ディスカッションに備えられるようにすること。

6. 成績評価の方法
 活動状況【出席・授業への参加度】(40点)、レポート(30点)プレゼンテーション(30点)
 上記を総合して評価します。

7. 履修の条件
 特になし。

8. その他
 授業内容は状況に応じて変更の可能性がある。

科目名	国際協力・ボランティア特論			担当教員：小川 寿美子									
科目名(英語)	Advanced course of International Cooperation & Volunteerism			メールアドレス：sumiko@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1060									
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー								
2	1・2	前期	5	研 608	研究室前に掲示								
<p>1. 講義内容</p> <p>地球上から貧困と紛争をなくすために、国際協力は必須の活動である。その現状と動向を組織・分野別に整理し、新しい課題に取り組むための方途をさぐる。また人間の根源的な支えあい（サブシステム）の理念を基盤に、国際ボランティア活動の定着化、システム化について考える。</p> <p>It is available to provide the lecture in English, if it is strongly requested.</p> <p>2. 到達目標</p> <p>上記に記述した講義内容を理解し、今後の研究に活用できるようにする。</p> <p>3. 講義予定</p> <p>第 1 週 What is International Cooperation ? 第 2 週 History of International Cooperation 第 3 週 Trends of International Cooperation 第 4 週 Japan's Development Assistance 第 5 週 Volunteering and Values 第 6 週 Perceptions of Volunteering Across Eight Countries 第 7 週 Volunteering in Global Perspective 第 8 週 Modernization and Volunteering 第 9 週 Institutional Roots of Volunteering 第 10 週 Do People Who Volunteer Have a Distinctive Ethics? 第 11 週 Humanistic Perspective on the Volunteer Recipient Relationship 第 12 週 From Restitution to Innovation: Volunteering in Post-communist Countries 第 13 週 Generations and Organizational Change 第 14 週 Volunteering, Democracy, and Democratic Attitudes 第 15 週 Cultivation Apathy in Voluntary Associations 第 16 週 Final Exam</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <p>内海成治（編）『国際協力論を学ぶ人のために』（世界思想社 2,376 円、2005 年 1 月） 山田恒夫（編）『国際ボランティアの世紀』放送大学 2,700 円＋税、2014 年 3 月 中村安秀（編）「グローバル人間学の世界」大阪大学出版会、2,400 円＋税、2011 年 黒崎卓・大塚啓二郎『これからの日本の国際協力』日本評論社、2,916 円、2015 年</p> <p>【参考文献】</p> <p>Paul Dekker. The Values of Volunteering. Kluwer Academic/Plenum Publishers. JPY11,898, 2012</p> <p>5. 準備学習</p> <p>テキストを事前に読んでまとめること。</p> <p>6. 評価方法</p> <table> <tr> <td>活動（発表など）</td> <td>30 点</td> </tr> <tr> <td>ポートフォリオ</td> <td>30 点</td> </tr> <tr> <td>期末テスト</td> <td>40 点</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>100 点</td> </tr> </table> <p>7. 履修要件</p> <p>英語の理解力のある者（英検 2 級、TOEIC700 点以上）。</p> <p>8. その他</p> <p>将来、国際的な仕事に従事したい、意欲ある学生の受講を期待する。</p>						活動（発表など）	30 点	ポートフォリオ	30 点	期末テスト	40 点	計	100 点
活動（発表など）	30 点												
ポートフォリオ	30 点												
期末テスト	40 点												
計	100 点												

シラバス

(経営情報教育研究領域科目)

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：アリ, ファテヘルアリム F. メールアドレス：ali@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1207																																	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I																																				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																
4	1	通年	4	研 313	火曜 10:40~12:10																																
<p>1. 授業の概要 情報システム構築と活用 (Web アプリケーション, 計算知能, ネットワーク等) に関する研究を行う。</p> <p>2. 到達目標 明確な研究方法に沿って、研究目的を達成その研究成果は学会等に発表すること。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">前学期</th> <th style="text-align: left;">後学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>第 1 週</td><td>オリエンテーション</td></tr> <tr><td>第 2 週</td><td>研究構想検討</td></tr> <tr><td>第 3 週</td><td>関連論文・文献レビュー</td></tr> <tr><td>第 4 週</td><td>関連論文・文献レビュー</td></tr> <tr><td>第 5 週</td><td>関連論文・文献レビュー</td></tr> <tr><td>第 6 週</td><td>研究課題関連発表</td></tr> <tr><td>第 7 週</td><td>研究方法</td></tr> <tr><td>第 8 週</td><td>研究枠組みの検討</td></tr> <tr><td>第 9 週</td><td>研究枠組みの検討</td></tr> <tr><td>第 10 週</td><td>研究調査と基本データ収集</td></tr> <tr><td>第 11 週</td><td>研究調査と基本データ収集</td></tr> <tr><td>第 12 週</td><td>研究調査と基本データ収集</td></tr> <tr><td>第 13 週</td><td>研究調査と基本データ収集</td></tr> <tr><td>第 14 週</td><td>研究課題と計画</td></tr> <tr><td>第 15 週</td><td>研究総合計画</td></tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 各自の研究テーマに合わせて決める。 【参考文献】 各自の研究テーマに合わせて決める。</p> <p>5. 準備学習 自主的に研究を行なうこと。 M1 の研究成果が M2 において修士論文へと結実できる内容である。</p> <p>6. 成績評価の方法 研究取り組み (10点), 研究内容 (40点), 研究成果 (50点) によって評価する。</p> <p>7. 履修の条件 特になし。英文講読の経験があることが望ましい。</p> <p>8. その他 学会発表も目指すこと。</p>						前学期	後学期	第 1 週	オリエンテーション	第 2 週	研究構想検討	第 3 週	関連論文・文献レビュー	第 4 週	関連論文・文献レビュー	第 5 週	関連論文・文献レビュー	第 6 週	研究課題関連発表	第 7 週	研究方法	第 8 週	研究枠組みの検討	第 9 週	研究枠組みの検討	第 10 週	研究調査と基本データ収集	第 11 週	研究調査と基本データ収集	第 12 週	研究調査と基本データ収集	第 13 週	研究調査と基本データ収集	第 14 週	研究課題と計画	第 15 週	研究総合計画
前学期	後学期																																				
第 1 週	オリエンテーション																																				
第 2 週	研究構想検討																																				
第 3 週	関連論文・文献レビュー																																				
第 4 週	関連論文・文献レビュー																																				
第 5 週	関連論文・文献レビュー																																				
第 6 週	研究課題関連発表																																				
第 7 週	研究方法																																				
第 8 週	研究枠組みの検討																																				
第 9 週	研究枠組みの検討																																				
第 10 週	研究調査と基本データ収集																																				
第 11 週	研究調査と基本データ収集																																				
第 12 週	研究調査と基本データ収集																																				
第 13 週	研究調査と基本データ収集																																				
第 14 週	研究課題と計画																																				
第 15 週	研究総合計画																																				

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員:宮平 栄治																																	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I			メールアドレス:s.miyahira@meio-u.ac.jp																																	
研究室				研究室電話番号:0980-51-1201(2706)																																	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																
4	1	通年	2~3	研 315	火・木 14:45~16:15																																
<p>1. 授業の概要 経営情報研究演習 I では、修士号学位請求論文に必要なテーマ選定、研究方法、参考文献収集の仕方、批判的読解および発表の方法を学ぶ。</p> <p>2. 到達目標 修士号学位論文は、対象となる学問領域の全体像を理解する。要素還元論に基づいて可能な限り原著論文を批判的読解後、同じテーマで論を展開、比較・検討することで先達の到達点、改善点等を学ぶことになるので、本講義において叙述の 2 点を到達目標とする。</p> <p>3. 授業計画と内容</p> <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">前期</th> <th style="text-align: left;">後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 週 科学的思考(ポパーとトーマス・S・クーン)、社会科学と自然科学の相違点</td> <td>第 1 週 関連論文文献研究報告①</td> </tr> <tr> <td>第 2 週 既存理論研究の意義について関連論文文献研究と発表②</td> <td>第 2 週 関連論文文献研究報告②</td> </tr> <tr> <td>第 3 週 オリジナルな論文ー現象の発見・概念化・理論化・計測方法の確立・分析方法の確立</td> <td>第 3 週 関連論文文献研究報告③</td> </tr> <tr> <td>第 4 週 純粹理論研究・分野別研究・概念別研究・応用研究</td> <td>第 4 週 関連論文文献研究報告③</td> </tr> <tr> <td>第 5 週 静学分析・比較静学分析・動学分析</td> <td>第 5 週 関連論文文献研究報告④</td> </tr> <tr> <td>第 6 週 原因と相関関係、尺度と量質概念</td> <td>第 6 週 関連論文文献研究報告⑤</td> </tr> <tr> <td>第 7 週 問題とは</td> <td>第 7 週 中間報告①</td> </tr> <tr> <td>第 8 週 問題発見と解決</td> <td>第 8 週 関連論文文献研究報告⑥</td> </tr> <tr> <td>第 9 週 クリティカルリーディングと引用上の諸注意</td> <td>第 9 週 関連論文文献研究報告⑦</td> </tr> <tr> <td>第 10 週 修士論文テーマ設定と手順(関連論文収集と精読優先順位決定)</td> <td>第 10 週 関連論文文献研究報告⑧</td> </tr> <tr> <td>第 11 週 関連論文文献研究と発表①</td> <td>第 11 週 関連論文文献研究報告⑨</td> </tr> <tr> <td>第 12 週 関連論文文献研究と発表②</td> <td>第 12 週 関連論文文献研究報告⑩</td> </tr> <tr> <td>第 14 週 関連論文文献研究と発表③</td> <td>第 13 週 関連論文文献研究報告⑪</td> </tr> <tr> <td>第 14 週 関連論文文献研究と発表④</td> <td>第 14 週 関連論文文献研究報告⑫</td> </tr> <tr> <td>第 15 週 関連論文文献研究と発表⑤</td> <td>第 15 週 中間報告②</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 各自の研究テーマに沿った文献を指示する。 【参考文献】 各自の研究テーマにあった文献を指示する。</p> <p>5. 準備学習 演習時間までに原著論文の内容をまとめ、レジюмеにまとめる。</p> <p>6. 成績評価の方法 ①報告レジюме ②報告内容</p> <p>7. 履修条件 口頭発表の際は、レジюмеを用意する。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						前期	後期	第 1 週 科学的思考(ポパーとトーマス・S・クーン)、社会科学と自然科学の相違点	第 1 週 関連論文文献研究報告①	第 2 週 既存理論研究の意義について関連論文文献研究と発表②	第 2 週 関連論文文献研究報告②	第 3 週 オリジナルな論文ー現象の発見・概念化・理論化・計測方法の確立・分析方法の確立	第 3 週 関連論文文献研究報告③	第 4 週 純粹理論研究・分野別研究・概念別研究・応用研究	第 4 週 関連論文文献研究報告③	第 5 週 静学分析・比較静学分析・動学分析	第 5 週 関連論文文献研究報告④	第 6 週 原因と相関関係、尺度と量質概念	第 6 週 関連論文文献研究報告⑤	第 7 週 問題とは	第 7 週 中間報告①	第 8 週 問題発見と解決	第 8 週 関連論文文献研究報告⑥	第 9 週 クリティカルリーディングと引用上の諸注意	第 9 週 関連論文文献研究報告⑦	第 10 週 修士論文テーマ設定と手順(関連論文収集と精読優先順位決定)	第 10 週 関連論文文献研究報告⑧	第 11 週 関連論文文献研究と発表①	第 11 週 関連論文文献研究報告⑨	第 12 週 関連論文文献研究と発表②	第 12 週 関連論文文献研究報告⑩	第 14 週 関連論文文献研究と発表③	第 13 週 関連論文文献研究報告⑪	第 14 週 関連論文文献研究と発表④	第 14 週 関連論文文献研究報告⑫	第 15 週 関連論文文献研究と発表⑤	第 15 週 中間報告②
前期	後期																																				
第 1 週 科学的思考(ポパーとトーマス・S・クーン)、社会科学と自然科学の相違点	第 1 週 関連論文文献研究報告①																																				
第 2 週 既存理論研究の意義について関連論文文献研究と発表②	第 2 週 関連論文文献研究報告②																																				
第 3 週 オリジナルな論文ー現象の発見・概念化・理論化・計測方法の確立・分析方法の確立	第 3 週 関連論文文献研究報告③																																				
第 4 週 純粹理論研究・分野別研究・概念別研究・応用研究	第 4 週 関連論文文献研究報告③																																				
第 5 週 静学分析・比較静学分析・動学分析	第 5 週 関連論文文献研究報告④																																				
第 6 週 原因と相関関係、尺度と量質概念	第 6 週 関連論文文献研究報告⑤																																				
第 7 週 問題とは	第 7 週 中間報告①																																				
第 8 週 問題発見と解決	第 8 週 関連論文文献研究報告⑥																																				
第 9 週 クリティカルリーディングと引用上の諸注意	第 9 週 関連論文文献研究報告⑦																																				
第 10 週 修士論文テーマ設定と手順(関連論文収集と精読優先順位決定)	第 10 週 関連論文文献研究報告⑧																																				
第 11 週 関連論文文献研究と発表①	第 11 週 関連論文文献研究報告⑨																																				
第 12 週 関連論文文献研究と発表②	第 12 週 関連論文文献研究報告⑩																																				
第 14 週 関連論文文献研究と発表③	第 13 週 関連論文文献研究報告⑪																																				
第 14 週 関連論文文献研究と発表④	第 14 週 関連論文文献研究報告⑫																																				
第 15 週 関連論文文献研究と発表⑤	第 15 週 中間報告②																																				

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：金城 亮	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I			メールアドレス：a.kinjo@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1203	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	2	研 314	火曜 4 限・木曜 2 限

1. 授業の概要
 本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。修士論文執筆に備えて関連研究等の幅広いリサーチを行い、理論的枠組みの強化をはかる。同時に、修士論文研究に使用する妥当性・信頼性の高い調査尺度や実験課題等の収集／開発を行うために、予備的なデータ収集を実施する。さらに、種々の統計分析手法に関する理解を深めることを目的とする。

2. 到達目標
 修士論文執筆に向けて、妥当性・信頼性の高い調査尺度や実験課題等の収集／開発を行いつつ予備的なデータ収集を実施する。さらに SPSS 等の統計分析アプリケーションを研究目的に沿って使いこなせるようになる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	オリエンテーション	第 16 週	予備調査／実験データの収集①
第 2 週	研究テーマ・仮説設定	第 17 週	予備調査／実験データの収集②
第 3 週	研究テーマ・仮説設定	第 18 週	予備調査／実験データの収集③
第 4 週	課題関連研究の文献検索①	第 19 週	予備調査／実験データの収集④
第 5 週	課題関連研究の文献検索②	第 20 週	データ入力・集計①
第 6 週	課題関連研究の文献講読①	第 21 週	データ入力・集計②
第 7 週	課題関連研究の文献講読②	第 22 週	統計分析①
第 8 週	統計分析の基礎知識	第 23 週	統計分析②
第 9 週	統計分析ソフト：SPSS の使用法①	第 24 週	図表作成①
第 10 週	統計分析ソフト：SPSS の使用法②	第 25 週	図表作成②
第 11 週	尺度／実験課題の検討①	第 26 週	結果の解釈・考察①
第 12 週	尺度／実験課題の検討②	第 27 週	結果の解釈・考察②
第 13 週	研究計画の策定①	第 28 週	研究レポート作成①
第 14 週	研究計画の策定②	第 29 週	研究レポート作成②
第 15 週	研究計画の策定③	第 30 週	研究成果報告

4. テキスト・参考文献
 【テキスト】
 研究テーマに応じて適宜指定
 【参考文献】
 研究領域に応じて適宜指定

5. 準備学習
 自身の研究テーマに沿った先行研究の収集、講読を十分に行うこと。

6. 成績評価の方法
 ①ゼミ研究活動状況： 30点
 ②研究報告書等提出物： 70点
 計 100点

7. 履修の条件：
 ・学群／学部における心理学関連科目の単位を履修済みであることが望ましい。
 ・学群／学部において心理学分野の卒業研究論文を執筆済みであることが望ましい。

8. その他
 演習生には、受動的な研究姿勢に留まることなく、自らの問題意識、研究テーマの解明に向けて主体的・積極的に取り組んでいただきたい。

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：中里 収	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I			メールアドレス：s.nakazato@mail.meio-u.ac.jp	
	研究室電話番号：0980-51-1206				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	2	研 312	火曜・木曜 3限 (13:00～14:30)

1. 授業の概要

本演習では、音声対話・表情・ジェスチャーといったコミュニケーションに関する現象を扱う。
前半は主に文献研究、発表練習などを行う。
後半はシステム設計、プログラミング技法、システム評価などについて演習する。

2. 到達目標

コミュニケーションシステムの開発を題材にして、実験計画、データ分析、プログラミング技法およびプレゼンテーション方法を習得する。

3. 授業の計画と内容

前学期

第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	文献検索方法
第 3 週	〃
第 4 週	文献研究・論文講読
第 5 週	〃
第 6 週	〃
第 7 週	〃
第 8 週	〃
第 9 週	レポート作成法
第 10 週	〃
第 11 週	プレゼンテーション練習
第 12 週	〃
第 13 週	〃
第 14 週	〃
第 15 週	〃

後学期

第 1 週	回研究計画
第 2 週	システム設計法
第 3 週	〃
第 4 週	プログラミング方法
第 5 週	〃
第 6 週	〃
第 7 週	〃
第 8 週	〃
第 9 週	システム評価方法
第 10 週	〃
第 11 週	評価実験
第 12 週	〃
第 13 週	データ処理法
第 14 週	〃
第 15 週	〃

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

講義の中で資料を配布する。

【参考文献】

堂下 修司 他	「音声による人間と機械の対話」	オーム社	(4500 円)
田窪行則 他	「言語の科学2 音声」	岩波書店	(3800 円)

5. 準備学習

自分の修士論文研究の進捗状況を説明できるようにしておくこと。

6. 成績評価の方法

レポート課題 (50 点) 発表内容 (50 点) で評価する。

7. 履修の条件

プログラミングの経験があることが望ましい。

8. その他

特になし。

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：木村 堅一 メールアドレス：k.kimura@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1205																																																	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I																																																				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																																
4	1	通年	2	研 310	月曜日 3時限目 火曜日 3時限目																																																
<p>1. 授業の概要</p> <p>本演習は、社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て、それらの先行研究の読解・分析、仮説の発展、研究目的と手法の選択、行動の数量化、仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で、各自で研究計画を決定、実行を指導する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>社会心理学的な研究を行う上で必要な方法論に関する基本的な知識と技能を理解できる。 自らの修士論文における研究計画の立案において、得られた知識を活用できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">前期</th> <th style="text-align: center;">後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 週</td> <td>各自の研究実績の紹介</td> <td>予備実験あるいは予備調査 (1)</td> </tr> <tr> <td>第 2 週</td> <td>文献収集・先行研究の紹介 (1)</td> <td>〃 (2)</td> </tr> <tr> <td>第 3 週</td> <td>〃 (2)</td> <td>〃 (3)</td> </tr> <tr> <td>第 4 週</td> <td>〃 (3)</td> <td>発表会リハーサル</td> </tr> <tr> <td>第 5 週</td> <td>〃 (4)</td> <td>研究計画発表会</td> </tr> <tr> <td>第 6 週</td> <td>〃 (5)</td> <td>データ収集 (1)</td> </tr> <tr> <td>第 7 週</td> <td>問題設定 (1)</td> <td>〃 (2)</td> </tr> <tr> <td>第 8 週</td> <td>〃 (2)</td> <td>〃 (3)</td> </tr> <tr> <td>第 9 週</td> <td>〃 (3)</td> <td>〃 (4)</td> </tr> <tr> <td>第 10 週</td> <td>〃 (4)</td> <td>〃 (5)</td> </tr> <tr> <td>第 11 週</td> <td>〃 (5)</td> <td>論文添削 (1)</td> </tr> <tr> <td>第 12 週</td> <td>研究計画 (1)</td> <td>〃 (2)</td> </tr> <tr> <td>第 13 週</td> <td>〃 (2)</td> <td>〃 (3)</td> </tr> <tr> <td>第 14 週</td> <td>〃 (3)</td> <td>〃 (4)</td> </tr> <tr> <td>第 15 週</td> <td>〃 (4)</td> <td>〃 (5)</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト・参考文献 適宜、紹介する。</p> <p>5. 準備学習 日頃から、自らの興味・関心あるテーマについて問題意識を深めておくこと。 先行文献の収集・整理を行い、先行研究の成果や問題点をレビューしておくこと。 研究計画を具体化すること。 予備調査・予備実験のデータを分析しておくこと。</p> <p>6. 成績評価方法 ・ 論文本体 (50 点) ・ 発表会 (50 点) ・ 合計 (100 点)</p> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>							前期	後期	第 1 週	各自の研究実績の紹介	予備実験あるいは予備調査 (1)	第 2 週	文献収集・先行研究の紹介 (1)	〃 (2)	第 3 週	〃 (2)	〃 (3)	第 4 週	〃 (3)	発表会リハーサル	第 5 週	〃 (4)	研究計画発表会	第 6 週	〃 (5)	データ収集 (1)	第 7 週	問題設定 (1)	〃 (2)	第 8 週	〃 (2)	〃 (3)	第 9 週	〃 (3)	〃 (4)	第 10 週	〃 (4)	〃 (5)	第 11 週	〃 (5)	論文添削 (1)	第 12 週	研究計画 (1)	〃 (2)	第 13 週	〃 (2)	〃 (3)	第 14 週	〃 (3)	〃 (4)	第 15 週	〃 (4)	〃 (5)
	前期	後期																																																			
第 1 週	各自の研究実績の紹介	予備実験あるいは予備調査 (1)																																																			
第 2 週	文献収集・先行研究の紹介 (1)	〃 (2)																																																			
第 3 週	〃 (2)	〃 (3)																																																			
第 4 週	〃 (3)	発表会リハーサル																																																			
第 5 週	〃 (4)	研究計画発表会																																																			
第 6 週	〃 (5)	データ収集 (1)																																																			
第 7 週	問題設定 (1)	〃 (2)																																																			
第 8 週	〃 (2)	〃 (3)																																																			
第 9 週	〃 (3)	〃 (4)																																																			
第 10 週	〃 (4)	〃 (5)																																																			
第 11 週	〃 (5)	論文添削 (1)																																																			
第 12 週	研究計画 (1)	〃 (2)																																																			
第 13 週	〃 (2)	〃 (3)																																																			
第 14 週	〃 (3)	〃 (4)																																																			
第 15 週	〃 (4)	〃 (5)																																																			

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：田邊 勝義	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I			メールアドレス：k.tanabe@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1202	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	2	研 307	月 3 限、木 3 限

1. 授業の概要

本演習は、情報処理分野における情報検索、画像処理、医療情報処理の研究活動に焦点を当て、先行研究の文献講読、課題抽出、テーマ選定、研究目的、研究方法の検討を行い、計画を策定し、研究活動を行う。

2. 到達目標

- ・研究分野に関する文献、研究テーマに関する内容を理解し、当該研究分野の現状を把握すると共に説明できること。
- ・研究テーマに関する研究活動を実施するための環境を整え、論理的な研究計画を立てられるようになること。

3. 授業の計画と内容

前期		後期	
第 1 週	オリエンテーション	第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	これまでの研究活動状況の紹介	第 2 週	研究計画に基づき PC 環境、実験環境整備
第 3 週	研究テーマ候補の選定指導	第 3 週	実験プログラム作成・データ収集指導 (1)
第 4 週	研究テーマ候補の選定指導	第 4 週	実験プログラム作成・データ収集指導 (2)
第 5 週	研究テーマ関連分野の文献収集・文献講読 (1)	第 5 週	実験プログラム作成・データ収集指導 (3)
第 6 週	研究テーマ関連分野の文献収集・文献講読 (2)	第 6 週	実験プログラム作成・データ収集指導 (4)
第 7 週	研究テーマ関連分野の文献講読・文献紹介 (1)	第 7 週	実験プログラム作成・データ収集指導 (5)
第 8 週	研究テーマ関連分野の文献講読・文献紹介 (2)	第 8 週	研究進捗状況中間報告会
第 9 週	研究課題設定指導 (1)	第 9 週	再研究計画策定指導 (1)
第 10 週	研究課題設定指導 (2)	第 10 週	再研究計画策定指導 (2)
第 11 週	研究課題設定指導 (3)	第 11 週	再実験プログラム作成・データ収集指導 (1)
第 12 週	研究課題設定指導 (4)	第 12 週	再実験プログラム作成・データ収集指導 (2)
第 13 週	研究テーマ選定・計画策定指導 (1)	第 13 週	再実験プログラム作成・データ収集指導 (3)
第 14 週	研究テーマ選定・計画策定指導 (2)	第 14 週	再実験プログラム作成・データ収集指導 (4)
第 15 週	研究計画発表会	第 15 週	研究成果発表会

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

各自の研究テーマに合わせて指定する。

【参考文献】

各自の研究テーマに合わせて指定する。

5. 準備学習

興味関心のある研究テーマについて先行研究の文献調査をし、文献収集・講読を十分行っておくこと。
研究計画の青写真を予め描いておくこと。

6. 成績評価の方法

- ①ゼミの研究活動状況：30 点
- ②報告書：40 点
- ③発表会：30 点

7. 履修の条件

指導教員とのディスカッション、口頭発表の際にはレジメを用意し説明すること。

8. その他

特になし。

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：仲尾次 洋子 メールアドレス：y.nakaoji@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1093																																																																	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information sciences I																																																																				
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																																																
4	1	通年	若干人	研 302	火2限・木1限																																																																
<p>1. 講義内容 本演習では、会計分野（財務会計や国際会計）における文献研究を行うとともに、修士論文の作成方法を修得する。</p> <p>2. 到達目標 修士論文のテーマに関する先行研究サーベイや論点管理がしっかりできていること。</p> <p>3. 講義予定</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">前学期</th> <th colspan="2">後学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1週</td> <td>オリエンテーション</td> <td>第1週</td> <td>研究進捗確認</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>卒業研究の紹介</td> <td>第2週</td> <td>論文作成</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>文献収集</td> <td>第3週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>先行研究サーベイ</td> <td>第4週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>〃</td> <td>第5週</td> <td>研究計画発表会</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>〃</td> <td>第6週</td> <td>論文作成</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>〃</td> <td>第7週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>〃</td> <td>第8週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>論点整理</td> <td>第9週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>〃</td> <td>第10週</td> <td>論文添削指導</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>問題設定</td> <td>第11週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>研究計画</td> <td>第12週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>論文作成</td> <td>第13週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>〃</td> <td>第14週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>前学期総括</td> <td>第15週</td> <td>後学期総括</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト・参考文献 適宜指示する。</p> <p>5. 準備学習 適宜課題を課す。</p> <p>6. 成績評価方法 活動状況 40点 研究成果 60点 計 100点</p> <p>7. 履修の条件 簿記の基本的なスキルを有すること。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						前学期		後学期		第1週	オリエンテーション	第1週	研究進捗確認	第2週	卒業研究の紹介	第2週	論文作成	第3週	文献収集	第3週	〃	第4週	先行研究サーベイ	第4週	〃	第5週	〃	第5週	研究計画発表会	第6週	〃	第6週	論文作成	第7週	〃	第7週	〃	第8週	〃	第8週	〃	第9週	論点整理	第9週	〃	第10週	〃	第10週	論文添削指導	第11週	問題設定	第11週	〃	第12週	研究計画	第12週	〃	第13週	論文作成	第13週	〃	第14週	〃	第14週	〃	第15週	前学期総括	第15週	後学期総括
前学期		後学期																																																																			
第1週	オリエンテーション	第1週	研究進捗確認																																																																		
第2週	卒業研究の紹介	第2週	論文作成																																																																		
第3週	文献収集	第3週	〃																																																																		
第4週	先行研究サーベイ	第4週	〃																																																																		
第5週	〃	第5週	研究計画発表会																																																																		
第6週	〃	第6週	論文作成																																																																		
第7週	〃	第7週	〃																																																																		
第8週	〃	第8週	〃																																																																		
第9週	論点整理	第9週	〃																																																																		
第10週	〃	第10週	論文添削指導																																																																		
第11週	問題設定	第11週	〃																																																																		
第12週	研究計画	第12週	〃																																																																		
第13週	論文作成	第13週	〃																																																																		
第14週	〃	第14週	〃																																																																		
第15週	前学期総括	第15週	後学期総括																																																																		

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：アリ，ファテヘルアリム F. メールアドレス：ali@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1207	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	4	研 313	火 10:40～12:10

1. 授業の概要

修士論文作成に向けた研究とその成果を発表し，修士論文を完成させる。

2. 到達目標

明確な研究方法に沿って、研究目的を達成その研究成果は学会等に発表すること

3. 授業の計画と内容

前学期		後学期	
第 1 週	オリエンテーション	第 1 週	中間報告
第 2 週	研究実験とその成果の報告	第 2 週	中間報告
第 3 週	研究実験とその成果の報告	第 3 週	論文作成
第 4 週	研究実験とその成果の報告	第 4 週	論文作成
第 5 週	研究実験とその成果の報告	第 5 週	論文作成
第 6 週	研究実験とその成果の報告	第 6 週	論文作成
第 7 週	研究実験とその成果の報告	第 7 週	論文作成
第 8 週	研究実験とその成果の報告	第 8 週	論文作成
第 9 週	研究実験とその成果の報告	第 9 週	論文作成
第 10 週	研究実験とその成果の報告	第 10 週	論文作成
第 11 週	研究実験とその成果の報告	第 11 回	研究成果発表
第 12 週	研究実験とその成果の報告	第 12 週	研究成果発表
第 13 週	研究実験とその成果の報告	第 13 週	研究成果発表
第 14 週	研究実験とその成果の報告	第 14 週	研究成果発表
第 15 週	研究実験とその成果の報告	第 15 週	研究成果発表

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

各自の研究テーマに合わせて決める。

【参考文献】

各自の研究テーマに合わせて決める。

5. 準備学習

自主的に研究を行なうこと。

M1 の研究成果が M2 において修士論文へと結実できる内容である。

6. 成績評価の方法

研究取り組み（10点），研究内容（40点），研究成果（50点）によって評価する。

7. 履修の条件

特になし。英文講読の経験があることが望ましい。

8. その他

学会発表も目指すこと。

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：宮平 栄治																																	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences Ⅱ			メールアドレス：s.miyahira@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1201																																	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																
4	2	通年	2～3	研 315	火・木 14：45～16：15																																
<p>1. 授業の概要</p> <p>研究演習Ⅱでは研究演習Ⅰで学んだ理論的枠組みから修士論文テーマに関する論文を作成する。修士論文の作成に当たって常に理論的枠組みのどの部分を体系立てているのかという全体と部分を意識し、また、現実との比較を通して、理論の限界を認識するとともに、理論化できない諸現象へのアプローチ方法も学ぶ。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>修士号学位請求に資する論文を作成する。そのためには、修士論文のテーマに即した原著論文を批判的に読解し、まとめ、課題等を発見する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th>前 期</th> <th>後 期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 関連論文文献研究と発表①</td> <td>第1回 修士論文第1章報告①</td> </tr> <tr> <td>第2回 関連論文文献研究と発表②</td> <td>第2回 修士論文第1章報告②</td> </tr> <tr> <td>第3回 関連論文文献研究と発表③</td> <td>第3回 修士論文第2章報告①</td> </tr> <tr> <td>第4回 関連論文文献研究と発表④</td> <td>第4回 修士論文第2章報告②</td> </tr> <tr> <td>第5回 関連論文文献研究と発表⑤</td> <td>第5回 修士論文第3章報告①</td> </tr> <tr> <td>第6回 テーマ選定と中間発表</td> <td>第6回 修士論文第3章報告②</td> </tr> <tr> <td>第7回 関連論文文献研究と発表⑥</td> <td>第7回 修士論文第4章報告①</td> </tr> <tr> <td>第8回 関連論文文献研究と発表⑦</td> <td>第8回 修士論文第4章報告②</td> </tr> <tr> <td>第9回 関連論文文献研究と発表⑧</td> <td>第9回 中間報告</td> </tr> <tr> <td>第10回 関連論文文献研究と発表⑨</td> <td>第10回 修士論文結論報告①</td> </tr> <tr> <td>第11回 関連論文文献研究と発表⑩</td> <td>第11回 修士論文結論報告②</td> </tr> <tr> <td>第12回 修士論文章立て</td> <td>第12回 修士論文の全体構成確認①</td> </tr> <tr> <td>第13回 修士論文章立てとクロッキー</td> <td>第13回 修士論文の全体構成確認②</td> </tr> <tr> <td>第14回 修士論文章立てと具体例</td> <td>第14回 修士論文の校正</td> </tr> <tr> <td>第15回 修士論文の構成</td> <td>第15回 修士論文結論報告①</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 各自の修士論文のテーマに即した文献を指示する。</p> <p>【参考文献】 修士論文のテーマに関した優れた先行研究を指示する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>演習時間までに原著論文の内容をまとめ、レジюмеにまとめる。</p> <p>6. 評価方法</p> <p>①報告レジюме ②報告内容</p> <p>7. 履修条件</p> <p>口頭発表の際は、レジюмеを用意する。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						前 期	後 期	第1回 関連論文文献研究と発表①	第1回 修士論文第1章報告①	第2回 関連論文文献研究と発表②	第2回 修士論文第1章報告②	第3回 関連論文文献研究と発表③	第3回 修士論文第2章報告①	第4回 関連論文文献研究と発表④	第4回 修士論文第2章報告②	第5回 関連論文文献研究と発表⑤	第5回 修士論文第3章報告①	第6回 テーマ選定と中間発表	第6回 修士論文第3章報告②	第7回 関連論文文献研究と発表⑥	第7回 修士論文第4章報告①	第8回 関連論文文献研究と発表⑦	第8回 修士論文第4章報告②	第9回 関連論文文献研究と発表⑧	第9回 中間報告	第10回 関連論文文献研究と発表⑨	第10回 修士論文結論報告①	第11回 関連論文文献研究と発表⑩	第11回 修士論文結論報告②	第12回 修士論文章立て	第12回 修士論文の全体構成確認①	第13回 修士論文章立てとクロッキー	第13回 修士論文の全体構成確認②	第14回 修士論文章立てと具体例	第14回 修士論文の校正	第15回 修士論文の構成	第15回 修士論文結論報告①
前 期	後 期																																				
第1回 関連論文文献研究と発表①	第1回 修士論文第1章報告①																																				
第2回 関連論文文献研究と発表②	第2回 修士論文第1章報告②																																				
第3回 関連論文文献研究と発表③	第3回 修士論文第2章報告①																																				
第4回 関連論文文献研究と発表④	第4回 修士論文第2章報告②																																				
第5回 関連論文文献研究と発表⑤	第5回 修士論文第3章報告①																																				
第6回 テーマ選定と中間発表	第6回 修士論文第3章報告②																																				
第7回 関連論文文献研究と発表⑥	第7回 修士論文第4章報告①																																				
第8回 関連論文文献研究と発表⑦	第8回 修士論文第4章報告②																																				
第9回 関連論文文献研究と発表⑧	第9回 中間報告																																				
第10回 関連論文文献研究と発表⑨	第10回 修士論文結論報告①																																				
第11回 関連論文文献研究と発表⑩	第11回 修士論文結論報告②																																				
第12回 修士論文章立て	第12回 修士論文の全体構成確認①																																				
第13回 修士論文章立てとクロッキー	第13回 修士論文の全体構成確認②																																				
第14回 修士論文章立てと具体例	第14回 修士論文の校正																																				
第15回 修士論文の構成	第15回 修士論文結論報告①																																				

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：金城 亮	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences II			メールアドレス：a.kinjo@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1203	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	2	研 314	火曜 4 限・木曜 2 限

1. 授業の概要

本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。当分野の研究演習Ⅰを履修済みであることを前提としている。本演習では研究演習Ⅰにおいて設定したテーマと予備分析に基づき、実証科学的アプローチによってデータを収集・分析し、修士論文にまとめることを課題とする。また、研究成果について少なくとも3回の報告発表（テーマ発表・中間発表・最終発表）を義務づける。

2. 到達目標

産業・組織心理学分野に独自の研究知見を提供しうる修士論文を執筆する。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	研究計画①：研究テーマ	第 1 6 週	結果の解釈・考察①
第 2 週	研究計画②：研究の背景と目的	第 1 7 週	結果の解釈・考察②
第 3 週	研究計画③：仮説の設定	第 1 8 週	修士論文まとめ
第 4 週	研究計画④：研究方法（手続き）	第 1 9 週	修士論文まとめ
第 5 週	研究計画⑤：研究方法（要因計画／尺度）	第 2 0 週	修士論文まとめ
第 6 週	本実験／本調査実施	第 2 1 週	修士論文まとめ
第 7 週	本実験／本調査実施	第 2 2 週	修士論文まとめ
第 8 週	本実験／本調査実施	第 2 3 週	今後の課題検討
第 9 週	本実験／本調査実施	第 2 4 週	今後の課題検討
第 1 0 週	データ入力・集計①	第 2 5 週	修士論文提出
第 1 1 週	データ入力・集計②	第 2 6 週	審査・報告会準備（要旨作成）
第 1 2 週	統計分析①	第 2 7 週	審査・報告会準備（プレゼン資料作成）
第 1 3 週	統計分析②	第 2 8 週	審査・報告会準備（プレゼン資料作成）
第 1 4 週	図表作成①	第 2 9 週	修士論文審査・報告会
第 1 5 週	図表作成②	第 3 0 週	総まとめ

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

研究テーマに応じて適宜指定

【参考文献】

研究領域に応じて適宜指定

5. 準備学習

自身の研究テーマに沿った先行研究の収集、講読を十分に行うこと。

6. 成績評価の方法

①ゼミ研究活動状況： 20点

②口頭発表報告： 30点

③修士論文： 50点

計 100点

7. 履修の条件

経営情報研究演習Ⅰ（産業・組織心理学領域）の単位を修得済みであること。

8. その他

演習生には、受動的な研究姿勢に留まることなく、自らの問題意識、研究テーマの解明に向けて主体的・積極的に取り組んでいただきたい。

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：中里 収	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences Ⅱ			メールアドレス：s.nakazato@mail.meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1206	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	2	研 312	火曜・木曜 3限 (13:00～14:30)

1. 授業の概要

本演習では、音声対話・表情・ジェスチャーといった、コミュニケーションに関する現象を扱う。コミュニケーションシステムの開発を題材にして、研究方法や論文執筆の手順を習得する。前半はシステム設計、システム評価実験などの演習を行い、後半は修士論文の執筆法を演習する。

2. 到達目標

音声対話研究の基礎知識を身に付ける。
研究者に必要な技能を身に付ける。

3. 授業の計画と内容

前学期

第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	システム設計法
第 3 週	〃
第 4 週	プログラミング方法
第 5 週	〃
第 6 週	〃
第 7 週	システム評価
第 8 週	〃
第 9 週	実験計画法
第 10 週	〃
第 11 週	評価実験
第 12 週	〃
第 13 週	データ処理法
第 14 週	〃
第 15 週	〃

後学期

第 1 週	オリエンテーション・研究計画
第 2 週	論文執筆方法
第 3 週	〃
第 4 週	〃
第 5 週	〃
第 6 週	〃
第 7 週	〃
第 8 週	プレゼンテーション
第 9 週	論文執筆方法
第 10 週	〃
第 11 週	〃
第 12 週	〃
第 13 週	〃
第 14 週	プレゼンテーション
第 15 週	〃

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

講義の中で資料を配布する。

【参考文献】

堂下 修司 他	「音声による人間と機械の対話」	オーム社	(4500 円)
田窪行則 他	「言語の科学2 音声」	岩波書店	(3800 円)

5. 準備学習

自分の修士論文研究の進捗状況を説明できるようにしておくこと。

6. 成績評価の方法

修士論文内容 (80 点) 口頭発表内容 (20 点) で評価する。

7. 履修の条件

原則として、経営情報研究演習Ⅰからの継続である。

8. その他

特になし。

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：木村 堅一																																																	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences II			メールアドレス：k.kimura@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1205																																																	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																																
4	2	通年	2	研 310	月曜日 3時限目 火曜日 3時限目																																																
<p>1. 授業の概要</p> <p>本演習は、経営情報研究演習Ⅰ（木村担当）に引き続き、社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て、それらの先行研究の読解・分析、仮説の発展、研究目的と手法の選択、行動の数量化、仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で、各自で研究計画を決定、実行を指導する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>社会心理学的な研究を行う上で必要な方法論に関する基本的な知識と技能を理解できる。 自らの修士論文における研究計画の実行・文章化において、得られた知識を活用できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">前期</th> <th style="text-align: center;">後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1週</td> <td>各自の研究実績の紹介</td> <td>修士論文の概要作成（1）</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>関連する先行研究の紹介（1）</td> <td>〃（2）</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>〃（2）</td> <td>〃（3）</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>〃（3）</td> <td>報告会リハーサル（1）</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>〃（4）</td> <td>〃（2）</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>〃（5）</td> <td>論文コメントと修正（1）</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>問題の再構成（1）</td> <td>〃（2）</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>〃（2）</td> <td>〃（3）</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>〃（3）</td> <td>〃（4）</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>〃（4）</td> <td>〃（5）</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>〃（5）</td> <td>論文コメントと修正（1）</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>追加的な研究計画（1）</td> <td>〃（2）</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>〃（2）</td> <td>〃（3）</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>〃（3）</td> <td>〃（4）</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>〃（4）</td> <td>〃（5）</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト・参考文献 適宜、紹介する。</p> <p>5. 準備学習 日頃から、自らの興味・関心あるテーマについて問題意識を深めておくこと。 先行文献の収集・整理を行い、先行研究の成果や問題点をレビューしておくこと。 研究計画を具体化すること。 予備調査・予備実験のデータを分析しておくこと。</p> <p>6. 成績評価方法 ・論文本体（50点） ・発表会（50点） ・合計（100点）</p> <p>7. 履修の条件 「経営情報研究演習Ⅰ」の単位取得者であり、指導の可否を担当教員から事前に承諾を受けた者に限る。</p> <p>8. その他 特になし。</p>							前期	後期	第1週	各自の研究実績の紹介	修士論文の概要作成（1）	第2週	関連する先行研究の紹介（1）	〃（2）	第3週	〃（2）	〃（3）	第4週	〃（3）	報告会リハーサル（1）	第5週	〃（4）	〃（2）	第6週	〃（5）	論文コメントと修正（1）	第7週	問題の再構成（1）	〃（2）	第8週	〃（2）	〃（3）	第9週	〃（3）	〃（4）	第10週	〃（4）	〃（5）	第11週	〃（5）	論文コメントと修正（1）	第12週	追加的な研究計画（1）	〃（2）	第13週	〃（2）	〃（3）	第14週	〃（3）	〃（4）	第15週	〃（4）	〃（5）
	前期	後期																																																			
第1週	各自の研究実績の紹介	修士論文の概要作成（1）																																																			
第2週	関連する先行研究の紹介（1）	〃（2）																																																			
第3週	〃（2）	〃（3）																																																			
第4週	〃（3）	報告会リハーサル（1）																																																			
第5週	〃（4）	〃（2）																																																			
第6週	〃（5）	論文コメントと修正（1）																																																			
第7週	問題の再構成（1）	〃（2）																																																			
第8週	〃（2）	〃（3）																																																			
第9週	〃（3）	〃（4）																																																			
第10週	〃（4）	〃（5）																																																			
第11週	〃（5）	論文コメントと修正（1）																																																			
第12週	追加的な研究計画（1）	〃（2）																																																			
第13週	〃（2）	〃（3）																																																			
第14週	〃（3）	〃（4）																																																			
第15週	〃（4）	〃（5）																																																			

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：田邊 勝義	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences II			メールアドレス：k.tanabe@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1202	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	2	研 307	月3限、木3限

1. 授業の概要
 本演習では、経営情報研究演習Ⅰ（田邊ゼミ）に引き続き、各自の研究テーマの学術的必要性、研究背景、研究課題、研究計画に基づき実験を行い、データを収集・分析し、考察した研究成果を修士論文にまとめる。研究の進捗状況について適宜報告し、ディスカッションを通じて、より完成度の高い研究成果としてまとめることを目指す。

2. 到達目標
 ・論理的な研究報告書を作成することができること。
 ・同じ分野の研究者と専門性に基づいた研究テーマに関する議論を行う力を身に付けること。

3. 授業の計画と内容

前期		後期	
第1週	オリエンテーション	第1週	オリエンテーション
第2週	これまでの研究成果の報告	第2週	研究成果の考察検討指導(1)
第3週	研究計画の再設定指導(1)	第3週	研究成果の考察検討指導(2)
第4週	研究計画の再設定指導(2)	第4週	修士論文概要作成・報告・指導
第5週	再実験プログラム作成・データ収集指導(1)	第5週	修士論文作成・報告・指導(1)
第6週	再実験プログラム作成・データ収集指導(2)	第6週	修士論文作成・報告・指導(2)
第7週	データ分析とまとめ指導(1)	第7週	修士論文作成・報告・指導(3)
第8週	データ分析とまとめ指導(2)	第8週	修士論文のまとめ
第9週	研究進捗状況中間報告会	第9週	修士論文初版完成
第10週	研究成果指導(1)	第10週	審査・報告会準備指導(要旨作成)
第11週	研究成果指導(2)	第11週	審査・報告会準備指導(報告資料作成)
第12週	修士論文章立て検討指導	第12週	審査・報告会準備指導(報告資料作成)
第13週	修士論文の構成指導	第13週	審査・報告会準備指導(プレゼン資料作成)
第14週	追加研究データ収集の計画策定と収集指導	第14週	審査・報告会準備指導(プレゼン練習)
第15週	研究成果発表会	第15週	修士論文審査・報告会

4. テキスト・参考文献
【テキスト】
 各自の研究テーマに合わせて指定する。
【参考文献】
 各自の研究テーマに合わせて指定する。

5. 準備学習
 研究の進捗状況をレジメに基づいて説明できるように準備すること。

6. 成績評価の方法
 ①ゼミの研究活動状況：20点
 ②修士論文内容：60点
 ③発表会：20点

7. 履修の条件
 原則として経営情報研究演習Ⅰ（田邊ゼミ）の単位取得者であること。
 指導教員とのディスカッション、口頭発表の際にはレジメを用意し説明すること。

8. その他
 研究成果を積極的に学会発表すること。

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：仲尾次 洋子																																																																	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Ⅱ			メールアドレス：y.nakaoji@meio-u.ac.jp																																																																	
				研究室電話番号：0980-51-1093																																																																	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																																																
4	2	通年	若干名	研 302	火2限・木2限																																																																
<p>1. 授業の概要 本演習では、研究演習Ⅰで学んだ理論的枠組みをベースに修士論文を作成する。</p> <p>2. 到達目標 修士論文について、明確なストーリーラインと客観的な裏付けに基づく結論を見出すこと。</p> <p>3. 講義予定</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th colspan="2">前学期</th> <th colspan="2">後学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1週</td> <td>オリエンテーション</td> <td>第1週</td> <td>論文再構成</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>論文の進捗確認</td> <td>第2週</td> <td>論文作成</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>論文作成</td> <td>第3週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>〃</td> <td>第4週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>〃</td> <td>第5週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>〃</td> <td>第6週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>〃</td> <td>第7週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>〃</td> <td>第8週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>〃</td> <td>第9週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>〃</td> <td>第10週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>〃</td> <td>第11週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>〃</td> <td>第12週</td> <td>最終発表の準備</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>中間発表の準備</td> <td>第13週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>〃</td> <td>第14週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>前期の総括</td> <td>第15週</td> <td>総括</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト・参考文献 適宜指示する。</p> <p>5. 準備学習 研究計画に沿って毎回報告できる準備を行うこと。</p> <p>6. 成績評価の方法 活動状況 20点 研究成果 80点</p> <p>7. 履修の条件 原則として、経営情報研究演習Ⅰからの継続である。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						前学期		後学期		第1週	オリエンテーション	第1週	論文再構成	第2週	論文の進捗確認	第2週	論文作成	第3週	論文作成	第3週	〃	第4週	〃	第4週	〃	第5週	〃	第5週	〃	第6週	〃	第6週	〃	第7週	〃	第7週	〃	第8週	〃	第8週	〃	第9週	〃	第9週	〃	第10週	〃	第10週	〃	第11週	〃	第11週	〃	第12週	〃	第12週	最終発表の準備	第13週	中間発表の準備	第13週	〃	第14週	〃	第14週	〃	第15週	前期の総括	第15週	総括
前学期		後学期																																																																			
第1週	オリエンテーション	第1週	論文再構成																																																																		
第2週	論文の進捗確認	第2週	論文作成																																																																		
第3週	論文作成	第3週	〃																																																																		
第4週	〃	第4週	〃																																																																		
第5週	〃	第5週	〃																																																																		
第6週	〃	第6週	〃																																																																		
第7週	〃	第7週	〃																																																																		
第8週	〃	第8週	〃																																																																		
第9週	〃	第9週	〃																																																																		
第10週	〃	第10週	〃																																																																		
第11週	〃	第11週	〃																																																																		
第12週	〃	第12週	最終発表の準備																																																																		
第13週	中間発表の準備	第13週	〃																																																																		
第14週	〃	第14週	〃																																																																		
第15週	前期の総括	第15週	総括																																																																		

科目名	経営戦略特論			担当教員：林 優子	
科目名(英語)	Management Strategy			メールアドレス：y.hayashi@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1094	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	6	研 308	月3限、木2限

1. 授業の概要
この講義では、基本的な経営戦略に関する理論を体系的に理解することを目的として進めていく。企業を取り巻く環境は常に変化し続けているため、その中で採るべき戦略も変化・進化をしていると考えられる。そこで基本的な論点を踏まえながら、企業競争や企業革新を遂げていくための戦略とはどのようなものかを研究していく。

2. 到達目標
経営戦略論の理論的発展の経緯をはじめとして、企業事例を通して企業競争や革新的な展開について理解と分析ができる。

3. 授業の計画と内容
第1週 オリエンテーション
第2週 経営戦略とは①
第3週 経営戦略とは②
第4週 競争戦略①
第5週 競争戦略②
第6週 事業システム戦略
第7週 ドメイン定義・次元
第8週 経営資源展開の戦略①
第9週 経営資源展開の戦略②
第10週 経営資源展開の戦略③
第11週 経営戦略と組織①
第12週 経営戦略と組織②
第13週 企業文化
第14週 知識創造①
第15週 知識創造②

4. テキスト・参考文献
【テキスト】
オリエンテーション時に受講学生との相談によって決定する。そのため、講義予定が変更になることもある。
【参考文献】
石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論（新版）』2002年（有斐閣）3,150円
M. E. ポーター著土岐坤・中辻萬治・小野寺武夫訳『競争優位の戦略』1985年（ダイヤモンド社）8,190円
など、ただし、必要に応じて紹介していく。

5. 準備学習
本講義は、基本的に受講学生によるプレゼンテーションを中心に行うため、与えられたテーマに沿って必要な情報収集や、事前準備は行うこと。

6. 成績評価の方法
・プレゼンテーション（レジュメ提出含む） 75点
・レポート 25点
・合計 100点

7. 履修の条件
特になし。

8. その他
特になし。

科目名	比較経営学特論			担当教員：宮城 敏郎	
科目名(英語)	Comparative Management			メールアドレス：t.miyagi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	2～3	研 204	月曜日 14：50～16：30

1. 授業の概要

経営学は企業の戦略・組織・行動を分析する際に、企業の経済的合理性すなわち企業の目的は利潤の追求であるという「資本の理論」を軸に分析してきた。たとえば、R.H.コースは「企業と市場」論において企業は取引費用を節約するために市場でなされていた取引を組織化したと述べた。また、O.E.ウィリアムは階層的組織の優位性が市場メカニズムより優れている点を挙げ、A.D.チャンドラーは近代大企業の成立と発展において内部組織が市場メカニズムより優越していることを歴史的分析によって明らかにした。しかし、比較制度分析の視点に立てば、アングロ・アメリカン・モデルが唯一無二の最適組織とは言えない。経済システムには多様性があり、歴史的経路と社会の制度体系に依存することは明らかである。

本講義では企業・市場（経済システム）・社会システムという総合的視点と比較経営学的視点に立ち、各国の企業組織について考察していく。

2. 到達目標

比較経営学を通して異なった国家や文化の中でビジネスが発展するにあたって、何が普遍的であり、何が特殊であるのかを考える力を養う。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 比較経営学の課題と方法 1
- 第 3 週 比較経営学の課題と方法 2
- 第 4 週 変化する制度レジームとビジネスシステム
- 第 5 週 アメリカ企業社会とステイクホルダー論
- 第 6 週 変貌するアメリカ企業と社会
- 第 7 週 中国の社会主義市場経済体制と国有企業の再編
- 第 8 週 EU 社会の変貌と企業
- 第 9 週 ロシアにおける企業社会の変貌
- 第 10 週 日本のコーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任
- 第 11 週 コーポレート・ガバナンスから見た企業と社会
- 第 12 週 社会的ネットワークから見た企業と社会
- 第 13 週 グローバル化における企業と社会
- 第 14 週 持続可能な発展と企業経営
- 第 15 週 現代企業社会の行方

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

日本比較経営学会編『会社と社会比較経営学のすすめ』文理閣、2006年 価格 3150円

【参考文献】

太田正孝『多国籍企業と異文化マネジメント』同文館出版、平成20年 価格 3675円

5. 準備学習

経済学・経営学の基本概念を押さえておくこと。

6. 成績評価の方法

発表（30点）＋ディスカッション（30点）＋課題レポート（40点）＝100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	産業組織特論			担当教員:宮平 栄治	
科目名(英語)	Advanced Course of Industrial Organization			メールアドレス:s.miyahira@meio-u.ac.jp 研究室電話番号:0980-51-1201	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	3	研315	火・木 14:45~16:15

1. 講義内容
産業組織特論は、カルテルや独占企業などの競争市場の弊害の対策や理論化から誕生しています。そのため現実志向的で政策思考的な学問分野である。理論面では、ミクロ経済学、計量経済学やゲーム理論の知識を利用して産業組織や企業行動を分析する。

2. 到達目標
この講義では、何が産業組織を決定するのかを SCP パラダイムから学ぶ。何が、産業構造を変えるかについては、シカゴ学派、消費者行動やエージェンシー理論等から学ぶ。

3. 講義予定

第1週	なぜ産業組織が存在するのか
第2週	古典的産業組織論の成立と SCP パラダイム
第3週	SCP パラダイムへのシカゴ学派の批判
第4週	新産業組織論への発展
第5週	完全競争市場と不完全競争市場
第6週	消費者行動と産業組織
第7週	参入の経済効果
第8週	コンテストブル市場理論
第9週	取引コスト理論
第10週	エージェンシー理論
第11週	固体群生態学理論
第12週	制度化理論
第13週	コンティジェンシー理論
第14週	組織学習理論
第15週	レントシーキング

4. テキスト・参考文献
【テキスト】
適宜、資料を配布する予定である。
【参考文献】
(1) 長岡貞男・平尾由紀子著『産業組織の経済学―第2版―』、日本評論社、2013年
(2) スマトラ・ゴジャール/D.エレナ・ウエストニー編著 江夏健一監訳「組織理論と多国籍企業」(文真堂 1998年)
(3) 柳川範之著「契約と組織の経済学」(東洋経済新報社 2000年)
(4) 佐々木広夫著「情報の経済学」(日本評論社 1991年)
(5) ロナルド・H・コース著 宮沢健一/後藤晃/藤垣芳文訳「企業・市場・法」(東洋経済新報社 1992年)

5. 準備学習
上記の参考書の他、マイケル・ポーターの著作や経営戦略論の基本書を事前に読む。

6. 評価方法
①講義中における口頭発表およびディスカッション…50点
②適宜行なうレポート…50点
合計……………100点
以上の合計点で評価する。

7. 履修の条件
口頭発表の際は、レジュメを用意する。

8. その他
特になし。

科目名	小集団心理学特論			担当教員：金城 亮	
科目名(英語)	Psychology of Small Groups			メールアドレス：a.kinjo@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1203	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	6	研 314	火曜 4 限・木曜 2 限
<p>1. 授業の概要</p> <p>本特論では、集団、特に継続的な対面的相互作用のある「小集団」のダイナミクスに焦点をあてた議論を展開する。講義計画の前半では、小集団のグループ・ダイナミクス研究において、重要な諸変数を扱った研究事例をレビューする。後半はクラスで選定したテーマに沿って、実際の研究計画を策定し、データ収集ならびに統計分析を行なう演習を実施する。それらを通して、効果的な集団活動のあり方について検討する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>小集団心理学研究領域における基礎的研究事例を理解するとともに、そこで用いられた研究手法を活用・応用して実際の小集団過程に関するデータを収集し、分析・考察ができるようになる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 オリエンテーション：小集団研究の意義と目的</p> <p>第 2 週 小集団研究の方法</p> <p>第 3 週 研究事例検討Ⅰ</p> <p>第 4 週 研究事例検討Ⅱ</p> <p>第 5 週 研究事例検討Ⅲ</p> <p>第 6 週 研究事例検討Ⅳ</p> <p>第 7 週 研究事例検討Ⅴ</p> <p>第 8 週 課題演習Ⅰ：研究テーマの選定</p> <p>第 9 週 課題演習Ⅱ：研究計画</p> <p>第 10 週 課題演習Ⅲ：研究手続きの検討、実施準備</p> <p>第 11 週 データ収集Ⅰ（実験／調査／観察）</p> <p>第 12 週 データ収集Ⅱ（実験／調査／観察）</p> <p>第 13 週 データ集計と統計分析</p> <p>第 14 週 考察、研究報告書作成</p> <p>第 15 週 研究報告書提出・ディスカッション</p> <p>毎週、受講生各自が選んだ研究事例について、レジュメ作成と発表・討論</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 斎藤勇 編（1987）『対人社会心理学重要研究集 1－社会的勢力と集団組織の心理－』 誠信書房</p> <p>【参考文献】 A. Zander 著 黒川正流・金川智恵・坂田桐子 訳 1996 『集団を活かす』 北大路書房 その他、適宜指定</p> <p>5. 準備学習</p> <p>初回講義において分担する研究事例について、テキストのみならず第一次資料や関連文献にもあたりつつ理解を深めて発表報告に臨むこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>①研究事例報告における分担発表：30点 ②課題研究における活動状況：20点 ③研究報告書：50点 計 100点</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主的・自立的な参加を求める。 ・演習課題は講義時間以外の時間も利用してデータ収集、分析を行なうことになる。他の受講生と協力しながら共同研究を進めることのできる協調的な姿勢も要求される。 					

科目名	人的資源管理特論			担当教員：金城 亮	
科目名(英語)	Human Resource Management			メールアドレス：a.kinjo@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1203	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	6	研314	火曜4限・木曜2限

1. 授業の概要
この講義科目では、人的資源をいかに管理するかというテーマに関して、人的資源管理論および組織行動論の見地から問題を発見・考察すると同時に、効果的な管理方法を学習する。さらに産業組織心理学の知見に基づき、ワーク・モチベーションや組織コミットメントなど被雇用者の観点からみた人的資源管理の課題を検討する。また、組織の情報化に伴って変化しつつある人事情報管理についても考察を深める。

2. 到達目標
多様化しつつある雇用・労働環境のもとで、効果的な人的資源管理を行うための方法論について考察し、実践上の課題について分析評価することができるようになる。

3. 授業の計画と内容
第1週 オリエンテーション：人的資源管理の特徴
第2週 組織の論理①：人的資源管理の課題
第3週 組織の論理②：雇用制度と賃金制度の変化
第4週 組織の論理③：能力開発と教育訓練
第5週 組織の論理④：人的資源管理とジェンダー
第6週 組織の論理⑤：管理職者のリーダーシップとその効果
第7週 被雇用者の観点①：働くことの意味とキャリア発達
第8週 被雇用者の観点②：働くことへの動機づけ
第9週 被雇用者の観点③：組織コミットメント
第10週 被雇用者の観点④：新規就職者の組織適応と態度変容
第11週 被雇用者の観点⑤：サイバー就職コミュニティと就職活動
第12週 人的資源管理における情報化①：情報・知識共有
第13週 人的資源管理における情報化②：人事情報管理
第14週 ディスカッション：人的資源管理
第15週 まとめ・課題レポート

4. テキスト・参考文献
【テキスト】
適宜指定する。
【参考文献】
岩内亮・梶原 豊 2004 現代の人的資源管理 学文社
山下洋史 2006 情報化時代の人的資源管理 東京経済情報出版
田尾雅夫 1999 組織の心理学〔新版〕 有斐閣ブックス

5. 準備学習
雇用する側と雇用される側の両方の視点から人的資源管理の問題を俯瞰し考察しつつ授業に参加すること。

6. 成績評価の方法
①講義参加・報告発表：30点
②課題レポート：70点
計 100点

7. 履修の条件
特になし。

8. その他
教員からの一方的な講義とならぬよう、課題研究の報告、ディスカッション等を交えながら進めていきたい。

科目名	経営活動情報特論			担当教員：田邊 勝義							
科目名(英語)	Advanced Lecture in Information Management Activities			メールアドレス：k.tanabe@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1202							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	後期	6	研 307	木曜日 13:00 ~ 14:30 金曜日 13:00 ~ 14:30						
<p>1. 講義の概要</p> <p>情報化社会における企業経営のかかえる課題と解決策を考察する。毎回ある課題をとりあげ、その課題に関する資料を講読してまとめを発表し、意見交換する形式および最近のトピックの中から選定した題材を調べ、発表し意見交換する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>情報化社会における経営活動の変化を絶えず推し進めてくる大きな力を感じ取り、それが動いていく方向を読み取る目を養う。伝統的な理論に対し疑問点を見つけ、自分なりの切り口や独自性を出した理論を考える姿勢を身につける。</p> <p>3. 講義の計画と内容</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 情報経済社会 第 3 週 コンピュータの歴史 第 4 週 電子取引とBTO (Built to Order) 第 5 週 マルチメディアと生活 第 6 週 マルチメディアとビジネス 第 7 週 データベースマーケティング 第 8 週 ビジネスインテリジェント (データマイニング) 第 9 週 ネット広告 第10週 広告ターゲティング 第11週 RFID (Radio Frequency Identification) 第12週 センサーネットワーク 第13週 クラウド・コンピューティング 第14週 ビジネスモデル特許 第15週 まとめ・課題レポート</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 ポーター博士の競争戦略の授業 かんき出版 (1600 円+税)</p> <p>【参考文献】 適宜指示する。 図解「通販業界ハンドブック」、店舗システム協会、(1600 円+税)</p> <p>5. 準備学習</p> <p>事前に指示したテキストや資料について受講者で担当するページを分担し、担当部分についてよく読んで、レジュメ or プレゼン資料を作成してくる。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table> <tr> <td>課題レポートと報告発表</td> <td>60点</td> </tr> <tr> <td>活動状況 (ディスカッション、参加積極性等)</td> <td>40点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>授業は、事前に指示したテキスト、資料や最近のトピックの中から選定した題材について予め調べ、その内容を発表し、ディスカッションする形式をとる。</p>						課題レポートと報告発表	60点	活動状況 (ディスカッション、参加積極性等)	40点	合計	100点
課題レポートと報告発表	60点										
活動状況 (ディスカッション、参加積極性等)	40点										
合計	100点										

科目名	e-ビジネス特論			担当教員：田邊 勝義							
科目名(英語)	Advanced Lecture in e-Business			メールアドレス：k.tanabe@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1202							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	前期	6	研 307	木曜日 13:00 ~ 14:30 金曜日 13:00 ~ 14:30						
<p>1. 講義の概要</p> <p>インターネットをインフラとしたビジネスが一般化してきており、ビジネスの形態が変わってきた。本講義では、インターネットビジネスの基礎からオンライン・ビジネスへの参入方法、Webマーケティング、e-ビジネス、e-コマースの背景にあるテクノロジー等を学ぶと共に、インターネットにおけるビジネスモデルについて考察していく。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>e-ビジネスの現状と課題を理解する。課題が起きている要因の分析、および解決案の検討を自ら出来るようにする。</p> <p>3. 講義の計画と内容</p> <p>第1週 オリエンテーション 第2週 インターネットビジネス入門 第3週 オンライン・ビジネスの準備 第4週 テクノロジー 第5週 訴訟問題 第6週 Webマーケティング戦略 第7週 検索エンジン 第8週 ショッピングとORM (Operation Resource Management) ソリューション 第9週 インタラクティブ・コミュニケーション 第10週 Webテクノロジー 第11週 セキュリティ 第12週 ネット上の画像・映像 第13週 ネットでの支払い 第14週 オープンソース 第15週 まとめ・課題レポート</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 よくわかる Web&モバイルマーケティングの教科書 マイナビ (2400 円+税)</p> <p>【参考文献】 適宜指示する。 The e-Business Revolution (2nd Edition), Daniel Amor 著、 デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム編、「ネット広告ハンドブック」、日本能率協会マネジメントセンター (1890 円+税)</p> <p>5. 準備学習</p> <p>事前に指示したテキストや資料について受講者で担当するページを分担し、担当部分についてよく読んで、レジュメ or プレゼン資料を作成してくる。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>課題レポートと報告発表</td> <td>60点</td> </tr> <tr> <td>活動状況(ディスカッション、参加積極性等)</td> <td>40点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>授業は、事前に指示したテキスト、資料や最近のトピックの中から選定した題材について予め調べ、その内容を発表し、ディスカッションする形式をとる。</p>						課題レポートと報告発表	60点	活動状況(ディスカッション、参加積極性等)	40点	合計	100点
課題レポートと報告発表	60点										
活動状況(ディスカッション、参加積極性等)	40点										
合計	100点										

科目名	情報交流特論			担当教員：中里 収	
科目名(英語)	Information Interaction			メールアドレス：s.nakazato@mail.meio-u.ac.jp	
				研究室電話番号：0980-51-1206	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	3	研 312	火曜・木曜 3限 (13:00～14:30)

1. 授業の概要

本講では、人間同士の音声対話および人とコンピュータとの音声対話について研究する。
前半は文献購読を中心に、対話に関する理論やコンピュータでデータを処理する方法を学習する。
後半は、分析のテーマを設定し、実際に対話データを収集・分析してみる。
人が対話している場面で、音声情報や視覚情報がどのように利用されているかを研究する。

2. 到達目標

音声対話研究の基礎知識を身に付ける。
研究に必要な「文献検索」、「データ処理」、「プレゼンテーション技法」を身に付ける。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション・研究計画
- 第 2 週 「話し言葉」と「書き言葉」の研究について
- 第 3 週 コンピュータと音声 1・音声の物理的特徴
- 第 4 週 コンピュータと音声 2・音素音節について
- 第 5 週 コンピュータと音声 3・音声認識システムのしくみ
- 第 6 週 コンピュータと音声 4・音声対話の特徴
- 第 7 週 コンピュータと音声 5・音声言語処理
- 第 8 週 文献研究
- 第 9 週 //
- 第 10 週 対話データの収集方法
- 第 11 週 //
- 第 12 週 対話データの処理方法
- 第 13 週 //
- 第 14 週 プレゼンテーション(成果発表)
- 第 15 週 //

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

講義の中で資料を配布する。

【参考文献】

- | | | | |
|------------|-------------|---------|----------|
| 海保博之 原田悦子 | 「プロトコル分析入門」 | 新曜社 | (2500 円) |
| 泉子・K・メイナード | 「会話分析」 | くろしお出版 | (4300 円) |
| 石崎雅人・伝康晴 | 「談話と対話」 | 東京大学出版会 | (3800 円) |

5. 準備学習

自分の修士論文のテーマを他人に説明できるようにしておくこと。

6. 成績評価の方法

レポート課題 (50 点) 発表内容 (50 点) で評価する。

7. 履修の条件

特になし (プログラミングと英語講読の経験があることが望ましい)。

8. その他

特になし。

科目名	情報知能特論			担当教員：アリ，ファテヘルアリム F. メールアドレス：ali@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1207	
科目名(英語)	Information Intelligence				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	4	研 313	火 10:40～12:10
<p>1. 授業の概要 計算機による知識情報処理の基本的考え方，方法論，応用，更にはその論文等の読みとまとめについて学ぶ。</p> <p>2. 到達目標 計算知能の実用化と技術について学び，応用の事例に検討する。</p> <p>3. 授業の計画と内容 第1週 計算知能 (Computational Intelligence) とは 第2週 ソフトコンピューティング 第3週 ソフトコンピューティング 第4週 ニューラルネット 第5週 ニューラルネット 第6週 ニューラルネット 第7週 遺伝的アルゴリズム 第8週 遺伝的アルゴリズム 第9週 進化プログラミング 第10週 ファジイ推論とファジイ制御 第11週 ファジイ推論とファジイ制御 第12週 計算知能の実用化応用技術 第13週 計算知能の実用化応用技術 第14週 計算知能の実用化応用技術 第15週 計算知能の実用化論文のまとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 適宜指示する。 【参考文献】 IT Text 人工知能、松本・宮原・永井(共著)、オーム社 Amit Konar - Computational Intelligence: Principles, Techniques, and Applications (2005)</p> <p>5. 準備学習 特になし。</p> <p>6. 成績評価の方法 課題・学習態度 50点 期末レポート 50点 合計100点</p> <p>7. 履修の条件 特になし。プログラミングと英語講読の経験があることが望ましい。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					

科目名	情報・通信技術特論			担当教員：アリ，ファテヘルアリム F.	
科目名(英語)	Information and Telecommunication Technology			メールアドレス：ali@meio-u.ac.jp	
				研究室電話番号：0980-51-1207	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	4	研 313	火 10:40～12:10

1. 授業の概要

Theoretical and experimental design of telecommunication and data communication systems are discussed. Standards for systems and networks, and regulations governing various issues in telecommunication sectors are explained. Legal issues related to applications are also investigated.

2. 到達目標

計算知能の実用化と技術について学び，応用の事例に検討する

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 Introduction to data and communication systems
- 第 2 週 Standards and role of related organizations
- 第 3 週 Radio communication and spectrum
- 第 4 週 Broadcast Communications
- 第 5 週 Broadcast Co
- 第 6 週 Wireless Communications
- 第 7 週 Wireless Communications
- 第 8 週 Modern Data Communications
- 第 9 週 Modern Data Communications 2
- 第 10 週 Communication Industry Culture
- 第 11 週 Legal issues
- 第 12 週 ICT Industry and Market
- 第 13 週 Regulations in Telecommunication Sector
- 第 14 週 Regulations in Telecommunication Sector
- 第 15 週 ICT Assignment

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

1. Com Master Advance, NTT communications NTT 出版, 2013
2. Computer Networks (5th Edition) by Andrew S. Tanenbaum and David J. Wetherall (2010)
3. Data Communications and Networking, Behrouz Forouzan, McGraw-Hill (2012)

5. 準備学習

特になし。

6. 成績評価の方法

課題・学習態度	50点
期末レポート	50点
合計	100点

7. 履修の条件

特になし。英文講読の経験があることが望ましい。

8. その他

特になし。

科目名	会計学特論			担当教員：仲尾次 洋子	
科目名(英語)	Advanced Accounting			メールアドレス：y.nakaoji@meio-u.ac.jp	
				研究室電話番号：0980-51-1093	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	1~2	研 302	火曜日 2 限・木曜日 2 限
<p>1. 講義内容 企業活動や投資活動のグローバル化に伴い、企業の業績を国際的に比較可能にするためのグローバルスタンダードとして IFRS (国際財務報告基準) の導入が必要とされている。本講義では、IFRS を念頭に置きながら、英文財務諸表の読み方について学び、財務諸表分析のケーススタディを行う。</p> <p>2. 到達目標 グローバルな企業評価の基礎を習得する。</p> <p>3. 授業計画と内容 第 1 週 インTRODクシヨン 第 2 週 Balance Sheet の読み方① 第 3 週 Balance Sheet の読み方② 第 4 週 Income Statement の読み方① 第 5 週 Income Statement の読み方② 第 6 週 Cash Flow Statement の読み方 第 7 週 収益性の分析 第 8 週 効率性の分析 第 9 週 安全性の分析 第 10 週 成長性の分析 第 11 週 総合力の分析 第 12 週 ケーススタディ① 第 13 週 ケーススタディ② 第 14 週 ケーススタディ③ 第 15 週 まとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献 適宜指示する。</p> <p>5. 準備学習 適宜テキストの要約や事例研究の紹介を指示するので、これに関する準備学習を行うこと。</p> <p>6. 成績評価の方法 活動状況 50点 課題 50点 合計 100点</p> <p>7. 履修の条件 簿記の基本的知識を有すること。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					

科目名	マーケティング特論			担当教員：平敷 徹男（非常勤講師）	
科目名(英語)	Marketing			メールアドレス： 研究室電話番号：	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	2～3	非常勤講師控室	講義終了後
<p>1. 授業の概要</p> <p>本講の主眼は、マーケティング概念の理解をもとに、ボーダーレスに展開されるマーケティング問題の考察にある。否応なく、国際競争に巻き込まれるグローバル化時代における各種組織のマーケティング問題を実践に即しつつ、理論的・体系的に学ぶ。また文化、経済、政治的環境等々国内マーケティングと違う複雑な環境下におけるマーケティングの展開を国・地域間の共生を視野に入れて考えてみたい。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>マーケティング環境分析（SWOT, 3C分析等）、STP、4C等のマーケティング用語になじみ、マーケティング・コンセプトおよびマーケティング戦略体系を一通り把握し、国内・国外における戦略展開の相違を理解する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 オリエンテーション：マーケティング発想について</p> <p>第2週 マーケティングの基礎（マーケティングとは？）：定義・基礎概念</p> <p>第3週 マーケティング戦略</p> <p>第4週 経営戦略との関係性</p> <p>第5週 マーケティング環境</p> <p>第6週 マーケティング機会の探索</p> <p>第7週 市場と競争の分析</p> <p>第8週 市場進出戦略</p> <p>第9週 製品戦略</p> <p>第10週 価格戦略</p> <p>第11週 流通（チャネル）戦略</p> <p>第12週 プロモーション戦略</p> <p>第13週 企業のグローバル展開とマーケティング</p> <p>第14週 市場開拓とプロモーション戦略</p> <p>第15週 マーケティングの将来展望</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 講義開始時に決定する</p> <p>【参考文献】 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（第4版）』有斐閣 Fコトラー/Kケラー著恩蔵直人監修『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント（第12版）』ピアソン 大石芳裕・山口夕妃子編『グローバル・マーケティングの新展開』白桃書房（2013）。 諸上茂登・藤沢武史『グローバル・マーケティング』中央経済社。 パンカジ・ゲマワット『コークの味は国ごとに違うべきか』文芸春秋。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>国内外で事業展開している（例：ユニクロ、H&M）商品などを日常的に観察してもらいたい。（商品の品揃え、陳列、価格、情報伝達方法（店頭やメディアCM）等々）</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>①講義での発表・質疑・討論への参加の程度（70点） （大学院は発表とその後の質疑・討論で学びあう場であり、毎回の積極的な発言・参加は必須です。）</p> <p>②小レポート（30点）</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>経営関連科目の履修もしておくことが望ましい。（同時履修でも可）</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

シラバス

(観光環境教育研究領域科目)

科目名	観光環境研究演習 I			担当教員:新垣 裕治	
科目名(英語)	Tourism and Environment Seminar I			メールアドレス: y.arakaki@meio-u.ac.jp	
研究室				研究室電話番号: 0980-51-1081	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	3	研 202	火 (4時限)・木 (2時限)

1. 授業の概要

新たな観光の分野としてエコツーリズム (Ecotourism) が世界的に注目を浴びている。日本では '90 年になり一般的に使われるようになってきた用語で、一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り・学び、自然・文化の保護・保全と地域の振興に寄与する観光形態」と理解される体験型の観光を示す概念である。沖縄県では、1996 年に日本初の西表島エコツーリズム協会が設立、その後 '99 年には日本で 2 番目の東村エコツーリズム協会が設立され、エコツーリズムの取組みが比較的早くから起こった先進地域と捉えられている。しかし、現状としてはエコツーリズムの導入 (エコツアー実施) による環境の悪化等様々な問題が顕在化し、必ずしもいい状態であるとは言えない。本演習では、このような様々な現状の分析や課題・問題を解決するための調査研究を主に環境の側面から行うことを目的として行われる。

2. 到達目標

エコツーリズムの現状について理解を深めるとともに、現状の課題 (テーマ) の把握し研究に繋げていく。

3. 授業の計画と内容

【前期】

第 1 週 オリエンテーション

第 2 週～7 週 研究テーマの検討及び研究計画作成

第 8 週 前期中間まとめ・発表研

第 9 週～14 週 研究テーマの検討及び研究計画作成

第 15 週 前期末まとめ・発表研 (課題テーマ及び研究計画の決定)

【後期】

第 1 週 オリエンテーション

第 2 週～7 週 研究計画及び実施

第 8 週 後期中間まとめ・発表研

第 9 週～14 週 研究計画及び実施

第 15 週 後期末まとめ・発表研 (研究の中間発表)

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

「エコツーリズム さあ、はじめよう！」日本交通公社 1500 円

「地域からのエコツーリズム」学芸出版 「エコツーリズム教本」平凡社

「エコツーリズムの世紀へ」日本エコツーリズム協会

「Ecotourism A practical guide for rural communities」Land Links 等

5. 準備学習

参考文献等を読む。沖縄に関することが研究対象になるので、特に、沖縄の事情については精通しておく。

6. 成績評価の方法

研究発表: 60 点

活動状況 (課題への取組の積極性): 40 点

*2/3 以上の出席が無ければ評価の対象にならないので要注意。

7. 履修の条件

「エコツーリズム特論」を受講すること。エコツーリズムに於いて理解をしていること。

8. その他

特になし。

科目名	観光環境研究演習 I			担当教員：大谷 健太郎																																																																					
科目名(英語)	Tourism and Environment Seminar I			メールアドレス：otani@meio-u.ac.jp																																																																					
				研究室電話番号：0980-51-1088																																																																					
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																																																				
4	1	通年	1~2	研 209	月曜 5 限・木曜 3 限																																																																				
<p>1. 授業の概要</p> <p>本演習のテーマは「地域における望ましい観光のあり方」であり、地域振興やまちづくりの中で観光を位置づけ、政策立案ができる能力を身に付ける。そのためには、観光学はもちろん、基本的な経済学の知識が必要であり、統計分析ができる能力や政策科学の学習も必要である。さらに、問題を細微にわたって分析できることと、常に広い視野を持ってポイントを押さえることも要求される。</p> <p>したがって、本演習では、理論と実践の意味連関を重視し、フィールドワークによって実践力を身に付け、単なるレポートや論文でない、「生きた」方策が論理的に組み上げられるように訓練する。また、論文の基本的なルールからはじまり、構成や引用、先行研究のまとめ方など修士論文に必要な基礎力もあわせて指導する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>修士論文執筆に必要な基礎力を身につけ、発表会に向けた研究計画および修士論文概要を作成すること。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 週</td> <td>演習の概要、オリエンテーション I</td> <td>第 1 6 週</td> <td>中間報告に向けた確認</td> </tr> <tr> <td>第 2 週</td> <td>演習の概要、オリエンテーション II</td> <td>第 1 7 週</td> <td>論文テーマ検討 III</td> </tr> <tr> <td>第 3 週</td> <td>論文報告のスケジュール確認</td> <td>第 1 8 週</td> <td>論文テーマ検討 IV</td> </tr> <tr> <td>第 4 週</td> <td>研究計画確認</td> <td>第 1 9 週</td> <td>フィールドワーク計画 I</td> </tr> <tr> <td>第 5 週</td> <td>論文テーマ検討 I</td> <td>第 2 0 週</td> <td>フィールドワーク計画 II</td> </tr> <tr> <td>第 6 週</td> <td>論文テーマ検討 II</td> <td>第 2 1 週</td> <td>フィールドワーク計画 III</td> </tr> <tr> <td>第 7 週</td> <td>研究計画の作成方法指導</td> <td>第 2 2 週</td> <td>フィールドワーク計画 IV</td> </tr> <tr> <td>第 8 週</td> <td>研究計画の作成 I</td> <td>第 2 3 週</td> <td>一次資料の扱い方</td> </tr> <tr> <td>第 9 週</td> <td>研究計画の作成 II</td> <td>第 2 4 週</td> <td>統計分析 I</td> </tr> <tr> <td>第 1 0 週</td> <td>論文の書き方 I</td> <td>第 2 5 週</td> <td>統計分析 II</td> </tr> <tr> <td>第 1 1 週</td> <td>論文の書き方 II</td> <td>第 2 6 週</td> <td>研究計画の修正 I</td> </tr> <tr> <td>第 1 2 週</td> <td>先行研究や関連研究の報告 I</td> <td>第 2 7 週</td> <td>研究計画の修正 II</td> </tr> <tr> <td>第 1 3 週</td> <td>先行研究や関連研究の報告 II</td> <td>第 2 8 週</td> <td>修士論文概要報告準備 I</td> </tr> <tr> <td>第 1 4 週</td> <td>タイトル発表会準備指導 I</td> <td>第 2 9 週</td> <td>修士論文概要報告準備 II</td> </tr> <tr> <td>第 1 5 週</td> <td>タイトル発表会準備指導 II</td> <td>第 3 0 週</td> <td>修士論文概要報告準備 III</td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <p>必要に応じて論文や書籍などで対応する。</p> <p>【参考文献】</p> <p>酒井聡樹 (2006) 『これから論文を書く若者のために』 大改訂増補版、共立出版、2,808 円。</p> <p>土居英二編 (2009) 『はじめよう観光地づくりの政策評価と統計分析—熱海市と静岡県における新公共経営 (NPM) の実践—』 日本評論社、3,024 円。</p> <p>宮嶋勝 (1990) 『公共政策論』 学陽書房、1,500 円。</p> <p>佐野亘 (2010) 『公共政策規範』 ミネルヴァ書房、3,500 円、など、その他、講義中に紹介する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>周辺分野に関する自発的、意欲的な自習を心がけて欲しい。観光政策関連または各自研究テーマに関する論文(英語、日本語)を精読し要約しておく。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>・活動状況(ディスカッション、参加積極性など)</td> <td>40点(欠席6回以上は対象外)</td> </tr> <tr> <td>・修士論文、研究の内容</td> <td>30点</td> </tr> <tr> <td>・プレゼンテーション</td> <td>30点 論文形式(特定テーマ)で発表</td> </tr> <tr> <td>・合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>観光学および経済学、政策科学などの知識を有すること。学部において観光開発論や観光政策論、観光調査法などを履修していることが望ましい。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						第 1 週	演習の概要、オリエンテーション I	第 1 6 週	中間報告に向けた確認	第 2 週	演習の概要、オリエンテーション II	第 1 7 週	論文テーマ検討 III	第 3 週	論文報告のスケジュール確認	第 1 8 週	論文テーマ検討 IV	第 4 週	研究計画確認	第 1 9 週	フィールドワーク計画 I	第 5 週	論文テーマ検討 I	第 2 0 週	フィールドワーク計画 II	第 6 週	論文テーマ検討 II	第 2 1 週	フィールドワーク計画 III	第 7 週	研究計画の作成方法指導	第 2 2 週	フィールドワーク計画 IV	第 8 週	研究計画の作成 I	第 2 3 週	一次資料の扱い方	第 9 週	研究計画の作成 II	第 2 4 週	統計分析 I	第 1 0 週	論文の書き方 I	第 2 5 週	統計分析 II	第 1 1 週	論文の書き方 II	第 2 6 週	研究計画の修正 I	第 1 2 週	先行研究や関連研究の報告 I	第 2 7 週	研究計画の修正 II	第 1 3 週	先行研究や関連研究の報告 II	第 2 8 週	修士論文概要報告準備 I	第 1 4 週	タイトル発表会準備指導 I	第 2 9 週	修士論文概要報告準備 II	第 1 5 週	タイトル発表会準備指導 II	第 3 0 週	修士論文概要報告準備 III	・活動状況(ディスカッション、参加積極性など)	40点(欠席6回以上は対象外)	・修士論文、研究の内容	30点	・プレゼンテーション	30点 論文形式(特定テーマ)で発表	・合計	100点
第 1 週	演習の概要、オリエンテーション I	第 1 6 週	中間報告に向けた確認																																																																						
第 2 週	演習の概要、オリエンテーション II	第 1 7 週	論文テーマ検討 III																																																																						
第 3 週	論文報告のスケジュール確認	第 1 8 週	論文テーマ検討 IV																																																																						
第 4 週	研究計画確認	第 1 9 週	フィールドワーク計画 I																																																																						
第 5 週	論文テーマ検討 I	第 2 0 週	フィールドワーク計画 II																																																																						
第 6 週	論文テーマ検討 II	第 2 1 週	フィールドワーク計画 III																																																																						
第 7 週	研究計画の作成方法指導	第 2 2 週	フィールドワーク計画 IV																																																																						
第 8 週	研究計画の作成 I	第 2 3 週	一次資料の扱い方																																																																						
第 9 週	研究計画の作成 II	第 2 4 週	統計分析 I																																																																						
第 1 0 週	論文の書き方 I	第 2 5 週	統計分析 II																																																																						
第 1 1 週	論文の書き方 II	第 2 6 週	研究計画の修正 I																																																																						
第 1 2 週	先行研究や関連研究の報告 I	第 2 7 週	研究計画の修正 II																																																																						
第 1 3 週	先行研究や関連研究の報告 II	第 2 8 週	修士論文概要報告準備 I																																																																						
第 1 4 週	タイトル発表会準備指導 I	第 2 9 週	修士論文概要報告準備 II																																																																						
第 1 5 週	タイトル発表会準備指導 II	第 3 0 週	修士論文概要報告準備 III																																																																						
・活動状況(ディスカッション、参加積極性など)	40点(欠席6回以上は対象外)																																																																								
・修士論文、研究の内容	30点																																																																								
・プレゼンテーション	30点 論文形式(特定テーマ)で発表																																																																								
・合計	100点																																																																								

科目名	観光環境研究演習Ⅱ			担当教員：新垣 裕治	
科目名(英語)	Tourism and Environment Seminar II			メールアドレス：y.arakaki@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1081	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	3	研202	火(4時限)・木(2時限)
<p>1. 授業の概要 同演習Ⅰで行ってきた内容を充実発展させ修士論文としてまとめることを目的として行われる。</p> <p>2. 到達目標 エコツーリズムの現状について理解を深め、修論としてまとめ上げる。</p> <p>3. 授業の計画と内容 【前期】 第1週 オリエンテーション 第2週～7週 調査・研究実施及びまとめ(データの整理分析等) 第8週 前期中間まとめ・発表研 第9週～14週 調査・研究実施及びまとめ(データの整理分析等) 第15週 前期末まとめ・発表研(この段階で殆どの調査・研究は終了していること) 【後期】 第1週 オリエンテーション 第2週～10週 修士論文作成 第11週 後期中間まとめ・発表研(この段階で論文は殆ど完成していること) 第12週～15週 最終発表のスライド作成等</p> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 特に指定しない。 【参考文献】 「エコツーリズム さあ、はじめよう！」日本交通公社 1500円 「地域からのエコツーリズム」学芸出版 「エコツーリズム教本」平凡社 「エコツーリズムの世紀へ」日本エコツーリズム協会 「Ecotourism A practical guide for rural communities」Land Links 等</p> <p>5. 準備学習 参考文献等を読む。沖縄に関することが研究対象になるので、特に、沖縄の事情については精通しておく。</p> <p>6. 成績評価の方法 研究発表：60点 活動状況(課題への取組の積極性)：40点 *2/3以上の出席が無ければ評価の対象にならないので要注意。</p> <p>7. 履修の条件 「エコツーリズム特論」及び同演習Ⅰを受講済みであること。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					

科目名	観光環境研究演習Ⅱ			担当教員：大谷 健太郎																																																																					
科目名(英語)	Tourism and Environment Seminar II			メールアドレス：otani@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1088																																																																					
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																																																				
4	2	通年	1~2	研 209	月曜5限・木曜3限																																																																				
<p>1. 授業の概要</p> <p>演習Ⅰに引き続き、同様のテーマで修士論文を執筆する。演習Ⅰで得た内容を発展させ修士論文にまとめ上げることを最終的な目標とする。</p> <p>また、修士論文の途中経過をまとめ、学会発表などに投稿する論文の指導も併せて行い、論文に必要な基礎力もあわせて指導する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>修士論文執筆に必要な基礎力を身につけ、学会発表論文および修士論文を作成すること。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週</td> <td>オリエンテーションⅠ</td> <td>第16週</td> <td>研究計画再検討Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>オリエンテーションⅡ</td> <td>第17週</td> <td>研究計画再検討Ⅳ</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>修士論文のスケジュール確認</td> <td>第18週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅣ</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>研究計画再検討Ⅰ</td> <td>第19週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅤ</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>研究計画再検討Ⅱ</td> <td>第20週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅥ</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅠ</td> <td>第21週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅦ</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅡ</td> <td>第22週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅧ</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅢ</td> <td>第23週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅨ</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>フィールドワーク計画Ⅰ</td> <td>第24週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅩ</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>フィールドワーク計画Ⅱ</td> <td>第25週</td> <td>修士論文の完成、確認</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>フィールドワーク計画Ⅲ</td> <td>第26週</td> <td>修士論文最終報告準備Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>進捗状況の確認と指導</td> <td>第27週</td> <td>修士論文最終報告準備Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>中間発表準備および指導Ⅰ</td> <td>第28週</td> <td>修士論文最終報告準備Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>中間発表準備および指導Ⅱ</td> <td>第29週</td> <td>演習内修士論文発表</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>中間発表準備および指導Ⅲ</td> <td>第30週</td> <td>まとめ</td> </tr> </table> <p>4. テキスト</p> <p>必要に応じて論文や書籍などで対応する。</p> <p>各自のテーマにあわせた論文や書籍などを使用する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>周辺分野に関する自発的、意欲的な自習を心がけて欲しい。観光政策関連または各自研究テーマに関する論文(英語、日本語)を精読し要約しておく。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>・活動状況(ディスカッション、参加積極性など)</td> <td>20点(欠席6回以上は対象外)</td> </tr> <tr> <td>・修士論文、研究の内容</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>・プレゼンテーション</td> <td>10点 論文形式(特定テーマ)で発表</td> </tr> <tr> <td>・合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>演習Ⅰを履修していること。演習Ⅰと同様に、観光学および経済学、政策科学などの知識を有すること。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						第1週	オリエンテーションⅠ	第16週	研究計画再検討Ⅲ	第2週	オリエンテーションⅡ	第17週	研究計画再検討Ⅳ	第3週	修士論文のスケジュール確認	第18週	修士論文の作成と読み合わせⅣ	第4週	研究計画再検討Ⅰ	第19週	修士論文の作成と読み合わせⅤ	第5週	研究計画再検討Ⅱ	第20週	修士論文の作成と読み合わせⅥ	第6週	修士論文の作成と読み合わせⅠ	第21週	修士論文の作成と読み合わせⅦ	第7週	修士論文の作成と読み合わせⅡ	第22週	修士論文の作成と読み合わせⅧ	第8週	修士論文の作成と読み合わせⅢ	第23週	修士論文の作成と読み合わせⅨ	第9週	フィールドワーク計画Ⅰ	第24週	修士論文の作成と読み合わせⅩ	第10週	フィールドワーク計画Ⅱ	第25週	修士論文の完成、確認	第11週	フィールドワーク計画Ⅲ	第26週	修士論文最終報告準備Ⅰ	第12週	進捗状況の確認と指導	第27週	修士論文最終報告準備Ⅱ	第13週	中間発表準備および指導Ⅰ	第28週	修士論文最終報告準備Ⅲ	第14週	中間発表準備および指導Ⅱ	第29週	演習内修士論文発表	第15週	中間発表準備および指導Ⅲ	第30週	まとめ	・活動状況(ディスカッション、参加積極性など)	20点(欠席6回以上は対象外)	・修士論文、研究の内容	70点	・プレゼンテーション	10点 論文形式(特定テーマ)で発表	・合計	100点
第1週	オリエンテーションⅠ	第16週	研究計画再検討Ⅲ																																																																						
第2週	オリエンテーションⅡ	第17週	研究計画再検討Ⅳ																																																																						
第3週	修士論文のスケジュール確認	第18週	修士論文の作成と読み合わせⅣ																																																																						
第4週	研究計画再検討Ⅰ	第19週	修士論文の作成と読み合わせⅤ																																																																						
第5週	研究計画再検討Ⅱ	第20週	修士論文の作成と読み合わせⅥ																																																																						
第6週	修士論文の作成と読み合わせⅠ	第21週	修士論文の作成と読み合わせⅦ																																																																						
第7週	修士論文の作成と読み合わせⅡ	第22週	修士論文の作成と読み合わせⅧ																																																																						
第8週	修士論文の作成と読み合わせⅢ	第23週	修士論文の作成と読み合わせⅨ																																																																						
第9週	フィールドワーク計画Ⅰ	第24週	修士論文の作成と読み合わせⅩ																																																																						
第10週	フィールドワーク計画Ⅱ	第25週	修士論文の完成、確認																																																																						
第11週	フィールドワーク計画Ⅲ	第26週	修士論文最終報告準備Ⅰ																																																																						
第12週	進捗状況の確認と指導	第27週	修士論文最終報告準備Ⅱ																																																																						
第13週	中間発表準備および指導Ⅰ	第28週	修士論文最終報告準備Ⅲ																																																																						
第14週	中間発表準備および指導Ⅱ	第29週	演習内修士論文発表																																																																						
第15週	中間発表準備および指導Ⅲ	第30週	まとめ																																																																						
・活動状況(ディスカッション、参加積極性など)	20点(欠席6回以上は対象外)																																																																								
・修士論文、研究の内容	70点																																																																								
・プレゼンテーション	10点 論文形式(特定テーマ)で発表																																																																								
・合計	100点																																																																								

科目名	観光開発特論			担当教員：大谷 健太郎													
科目名(英語)	Tourism Development & Management			メールアドレス：otani@meio-u.ac.jp													
研究室				研究室電話番号：0980-51-1088													
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー												
2	1・2	前期	5	研 209	月曜5限、木曜3限												
<p>1. 授業の概要</p> <p>観光開発は、地域振興を目的とした観光政策であるので、本講義では公共の利益を重視した公共政策的アプローチを採用する。したがって、観光開発の目的を社会的厚生を最大化とし、観光開発が経済社会や環境、文化に与える影響をはじめとする開発と地域との関係に重点を置き、望ましい開発の理念と手法の説明を中心として講義を進める。</p> <p>本講義では、まず、国内的・国際的に汎用性のある観光開発の概念や仕組みを総論的に学ぶ。その後、方法論として観光開発の計画評価に必要な社会的費用便益分析や多基準分析、地域計画実践の際の需要予測手法や多変量解析手法などについての考え方を説明し、具体的事例を用いながら評価方法の技術的側面の理解をめざす。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>観光開発が経済社会や環境、文化に与える影響を分析し、望ましい観光開発の理念を理解すること。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 オリエンテーション</p> <p>第2週 観光開発に関わる基礎知識 (1) ー観光・リゾート開発と観光地開発</p> <p>第3週 観光開発に関わる基礎知識 (2) ー観光資源と観光施設</p> <p>第4週 観光開発に関わる基礎知識 (3) ー社会的、文化的インパクト① (経済効果)</p> <p>第5週 観光開発に関わる基礎知識 (4) ー社会的、文化的インパクト② (生活の質への影響)</p> <p>第6週 観光需要と需要予測、入込と月別変動、観光需要の予測手法</p> <p>第7週 プレゼンテーション (観光開発関連分野における論文精読など)</p> <p>第8週 観光開発と社会資本の整備 (1) ー観光交通の特性</p> <p>第9週 観光開発と社会資本の整備 (2) ー観光交通政策</p> <p>第10週 観光開発の目標設定と計画策定</p> <p>第11週 開発計画の評価手法 (1) プロジェクトの評価と費用便益・費用対効果分析</p> <p>第12週 開発計画の評価手法 (2) 環境の経済的評価と旅行費用法、仮想市場法</p> <p>第13週 海洋リゾート、温泉、文化観光、エコツーリズムの開発事例</p> <p>第14週 プレゼンテーション (各自研究分野における論文精読など)</p> <p>第15週 観光開発の課題と方向性ー望ましい観光と理念 (沖縄県を中心として)</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <p>講義毎に資料を配布する。</p> <p>【参考文献】</p> <p>羽田耕治監修 (2008) 『地域振興と観光ビジネス』 ジェイティービー能力開発、佐藤俊雄 (2009) 『現代観光事業論ー地域経営的視点からの考察ー』 同友館、(社) 日本観光協会 (1983) 『観光計画の手法』 日本観光協会、尾家建生・金井萬造 (2008) 『これでわかる！ 着地型観光ー地域が主役のツーリズム』 学芸出版社、藤井聡 (2008) 『土木計画学ー公共選択の社会科学』 学芸出版社、藤野公孝・高橋一夫編著 (2014) 『CSV 観光ビジネスー地域とともに価値をつくるー』 学芸出版社。</p> <p>Gee, C. Y. (1996) <i>Resort Development and Management</i>, Educational Institute of the Amer Hotel.</p> <p>Hall, C. M. (2008) <i>Tourism Planning: Policies, Processes & Relationships</i>, Prentice Hall.</p> <p>Mason, P (2008) <i>Tourism Impacts, Planning and Management</i>, Butterworth-Heinemann.</p> <p>5. 準備学習</p> <p>周辺分野に関する自発的、意欲的な自習を心がけて欲しい。観光開発関連または各自研究テーマに関する論文 (英語、日本語) を精読し要約しておく。</p> <p>6. 評価方法</p> <table border="0"> <tr> <td>・活動状況 (ディスカッション、参加積極性など)</td> <td>40点</td> <td>欠席6回以上は評価対象外</td> </tr> <tr> <td>・レポート (1回予定、演習課題)</td> <td>30点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・プレゼンテーション</td> <td>30点</td> <td>論文形式 (特定テーマ) で発表</td> </tr> <tr> <td>・合計</td> <td>100点</td> <td></td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>学部において観光開発論や観光政策論、観光調査法などを履修していることが望ましい。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						・活動状況 (ディスカッション、参加積極性など)	40点	欠席6回以上は評価対象外	・レポート (1回予定、演習課題)	30点		・プレゼンテーション	30点	論文形式 (特定テーマ) で発表	・合計	100点	
・活動状況 (ディスカッション、参加積極性など)	40点	欠席6回以上は評価対象外															
・レポート (1回予定、演習課題)	30点																
・プレゼンテーション	30点	論文形式 (特定テーマ) で発表															
・合計	100点																

科目名	観光政策特論			担当教員：大谷 健太郎													
科目名(英語)	Policy Science for Tourism			メールアドレス：otani@meio-u.ac.jp													
				研究室電話番号：0980-51-1088													
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー												
2	1・2	後期	5	研 209	月曜 5 限、木曜 3 限												
<p>1. 授業の概要</p> <p>近年、観光基本法を全面的に改正し、インバウンド・ツーリズムの推進や地域活性化などをキーワードにして観光立国推進基本法が施行された。観光による地域活性化の目的は、国および地域の魅力増大によって来訪者が増加し、観光の地域経済的社会的効果を最大化することであり、その効果を予測および検証する政策評価の過程が重要である。</p> <p>本講義では、第一に国内外における観光政策立案方法と事例を概観する。その後、政策立案に関わる事前評価および政策実行の効果に関わる事後評価の政策マネジメントサイクルを理解し、地域の活性化を目的とした観光政策の評価手法の講義を行う。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>観光政策に関する政策科学アプローチの方法を理解し、政策研究および政策評価の基礎的分析手法の習得をめざす。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 オリエンテーション</p> <p>第 2 週 観光開発と観光振興、地域政策について、観光の経済的効果および社会的効果</p> <p>第 3 週 観光政策の検証とその実効性、期待される効果—観光基本法、観光立国推進基本法</p> <p>第 4 週 観光立国推進基本法における政策展開—具体的内容と政策目的</p> <p>第 5 週 地域の観光政策の検証—沖縄県観光振興計画、三重県観光振興プランなど</p> <p>第 6 週 プレゼンテーション（観光政策関連分野における論文精読など）</p> <p>第 7 週 政策マネジメントサイクル①—政策立案と事前評価</p> <p>第 8 週 政策マネジメントサイクル②—効果の測定と事後評価</p> <p>第 9 週 事前評価①—価値基準と客観性</p> <p>第 10 週 事前評価②—需要予測、住民意向調査と地域の将来像</p> <p>第 11 週 事後評価—アウトプットとアウトカム業績測定と費用対効果分析</p> <p>第 12 週 観光政策評価①—社会調査と結果の分析、観光地魅力度の測定（因子分析、AHP など）</p> <p>第 13 週 観光政策評価②—施設・基盤整備計画（費用便益分析、便益価分析など）</p> <p>第 14 週 観光政策評価③—観光政策の事後評価（達成度、総合評価など）</p> <p>第 15 週 プレゼンテーション（各自研究分野における論文精読など）</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <p>宮嶋勝（1990）『公共政策論』学陽書房、1,500 円。講義毎の資料も配布する。</p> <p>【参考文献】</p> <p>足立幸男（2009）『公共政策学とは何か』ミネルヴァ書房、相川哲夫・栗原伸一（2001）『政策評価手法論—農村地域のソフトシステム型計画における—』農林統計協会、室谷正裕（1998）『新時代の国内観光—魅力度評価の試み』運輸政策研究機構、寺前秀一（2006）『観光政策・制度入門』ぎょうせい、土居英二編（2009）『はじめよう観光地づくりの政策評価と統計分析—熱海市と静岡県における新公共経営（NPM）の実践—』、山谷清志（2012）『政策評価』ミネルヴァ書房。</p> <p>Hatry, H. P. (1999) <i>Performance Measurement: Getting Result</i>, The Urban Institute.</p> <p>Levin, H. M. (1985) <i>Cost-Effectiveness: A Primer</i>, Sage.</p> <p>5. 準備学習</p> <p>周辺分野に関する自発的、意欲的な自習を心がけて欲しい。観光政策関連または各自研究テーマに関する論文（英語、日本語）を精読し要約しておく。</p> <p>6. 評価方法</p> <table border="0"> <tr> <td>・活動状況（ディスカッション、参加積極性など）</td> <td>40 点</td> <td>欠席 6 回以上は評価対象外</td> </tr> <tr> <td>・レポート（1 回予定、演習課題）</td> <td>30 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・プレゼンテーション</td> <td>30 点</td> <td>論文形式（特定テーマ）で発表</td> </tr> <tr> <td>・合計</td> <td>100 点</td> <td></td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>学部において観光事業論や観光政策論、観光調査法などを履修していることが望ましい。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						・活動状況（ディスカッション、参加積極性など）	40 点	欠席 6 回以上は評価対象外	・レポート（1 回予定、演習課題）	30 点		・プレゼンテーション	30 点	論文形式（特定テーマ）で発表	・合計	100 点	
・活動状況（ディスカッション、参加積極性など）	40 点	欠席 6 回以上は評価対象外															
・レポート（1 回予定、演習課題）	30 点																
・プレゼンテーション	30 点	論文形式（特定テーマ）で発表															
・合計	100 点																

科目名	観光文化特論			担当教員：許点淑							
科目名(英語)	Special Studies in Tourism and Culture			メールアドレス：HEO@meio-u.ac.jp							
				研究室電話番号：0980-51-1087							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1	後期	5	研201	火・金 3限 (13:00~14:30)						
<p>1. 授業の概要</p> <p>本講義では、観光という人間行為の本質的なトピックを文化と関連づける研究成果に学びながら、前半では、観光と文化に関する理論的枠組みのディスカッションを中心に、後半では、世界の地域別事例研究から観光と文化の有機的動態を読み取っていくものである。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>観光における文化の商品化の課題と観光と周辺領域との関係性を構築することができる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 オリエンテーション 第2週 儀礼としての観光 第3週 観光と巡礼 第4週 観光の多様性 第5週 観光文化と真正性(1) 第6週 観光文化と真正性(2) 第7週 ホストとゲスト 第8週 贈与と観光(1) 第9週 贈与と観光(2) 第10週 地域文化と観光文化(1) 第11週 地域文化と観光文化(2) 第12週 文化の商品化(1) 第13週 文化の商品化(2) 第14週 バリ芸能の生成 第15週 まとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料は随時配布する(予定)。 <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> 青木保 1990 『「日本文化論」の変容』中央公論社 遠藤英樹・堀野正人編著 2004 『「観光のまなざし」の転回』春風社 永淵康之 1998 『バリ島』講談社 橋本和也 1999 『観光人類学の戦略—文化の売り方、売られ方』世界思想社 橋本和也・佐藤幸男編 2003 『観光開発と文化』世界思想社 前川啓治・梶原景昭他訳 1992 『創られた伝統』紀伊国屋書店 安村克己 2001 『観光 新時代をつくる社会現象』学文社 安村克己・塚本圭一・朝水宗彦編著 2001 『地域・観光・文化』嵯峨野書院 エドワード・M・ブルーナー 2007 『観光と文化 旅の民族誌』学文社 スミス、バーレン・L. 編著、三村浩史監訳 1991 『観光・リゾート開発の人類学』勁草書房 <p>5. 準備学習</p> <p>配布資料を用いて、予習・復習を行うこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="1"> <tr> <td>・活動状況(授業への参加の積極性)</td> <td>30点</td> </tr> <tr> <td>・レポート</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>・合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						・活動状況(授業への参加の積極性)	30点	・レポート	70点	・合計	100点
・活動状況(授業への参加の積極性)	30点										
・レポート	70点										
・合計	100点										

科目名	観光資源特論			担当教員：許 点淑							
科目名(英語)	Tourism Resources			メールアドレス：HEO@meio-u.ac.jp							
				研究室電話番号：0980-51-1087							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	前期	5	研 201	火・金 3限 (13:00～14:30)						
<p>1. 授業の概要</p> <p>観光資源には自然景観などの自然資源と文化的・社会的資源の人文資源に大別できる。本講義は主として後者に「文化」の視点からスポットを当てる。有形・無形観光資源の歴史の変遷とそれを取り巻く社会変化を連動させながら、世界各地の事例から観光資源への人類学的意味づけを行なうものである。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>文化が観光の中でどのように開発されかつ商品化されていくのかが理解できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 オリエンテーション</p> <p>第 2 週 観光資源と文化 (1)</p> <p>第 3 週 観光資源と文化 (2)</p> <p>第 4 週 戦跡と観光 (1)</p> <p>第 5 週 戦跡と観光 (2)</p> <p>第 6 週 植民地と観光 (1)</p> <p>第 7 週 植民地と観光 (2)</p> <p>第 8 週 エスニック文化と観光：中国の事例を中心に (1)</p> <p>第 9 週 エスニック文化と観光：中国の事例を中心に (2)</p> <p>第 10 週 観光地イメージの形成：商品としてのハワイ (1)</p> <p>第 11 週 観光地イメージの形成：商品としてのハワイ (2)</p> <p>第 12 週 文化イメージの受容と価値の生産 (1)</p> <p>第 13 週 文化イメージの受容と価値の生産 (2)</p> <p>第 14 週 考古学遺跡と観光：カナダの事例</p> <p>第 15 週 まとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料は随時配布する。 <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江口信清 1998 『観光と権力—カリブ海地域の観光現象—』 多賀出版 ・神崎宣武 1990 『観光民俗学への旅』 河出書房新社 ・橋本和也 1999 『観光人類学の戦略—文化の売り方、売られ方』 世界思想社 ・橋本和也・佐藤幸男編 2003 『観光開発と文化』 世界思想社 ・石森秀三編 1996 『観光の二〇世紀—二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容 3』 ドメス出版 ・スミス、バーレン・L. 編著、三村浩史監訳 1991 『観光・リゾート開発の人類学』 勁草書房 ・山下晋司 1999 『バリー—観光人類学のレッスン』 東京大学出版会 ・吉川彰・松田素二編 2003 『観光と環境の社会学』 新曜社 ・吉田春生 2003 『エコツーリズムとマス・ツーリズム—現代観光の象徴』 <p>5. 準備学習</p> <p>配布資料を用いて、予習・復習を行うこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table> <tr> <td>・活動状況 (授業への参加の積極性)</td> <td>30点</td> </tr> <tr> <td>・レポート</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>・合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>積極的に研究活動に取り組むこと。</p>						・活動状況 (授業への参加の積極性)	30点	・レポート	70点	・合計	100点
・活動状況 (授業への参加の積極性)	30点										
・レポート	70点										
・合計	100点										

科目名	観光市場分析特論			担当教員：朴 在徳 (非常勤講師)	
科目名(英語)	Marketing Analysis in Tourism			メールアドレス：j.park@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	非常勤控室	

1. 授業の概要
本講義では、観光市場分析のために必要な基礎理論として、行動科学や経営学等のマーケティング基礎知識と市場分析の諸方法を理解し、観光・ホスピタリティ産業やリゾートなどの市場分析へ応用するための方法を学ぶ。日本における国内観光と海外観光に関する観光市場の現状と動向、観光産業と観光関連産業や観光地などの動向等、観光統計データに解説を加えながら、その分析手法について理解する。

2. 到達目標
・観光市場分析の基礎知識であるマーケティング超さ・分析の基礎理論を理解し、研究で実践できる能力を習得する。
・特に、沖縄観光の現状と課題に対して、観光市場動向の現状分析を概論的に理解する。

3. 授業の計画と内容
第1週 オリエンテーション、観光市場分析とは
第2週 観光市場と市場分析の方法
第3週 国内観光の市場分析
第4週 海外観光の市場分析
第5週 訪日外国人観光の動向
第6週 沖縄を訪れる観光客の現状
第7週 観光市場分析1—国内—
第8週 観光市場分析2—海外—
第9週 観光市場分析3—沖縄—
第10週 観光産業データによる市場分析
第11週 観光関連産業データの市場分析
第12週 観光地データによる市場分析
第13週 リゾートデータによる市場分析
第14週 ホスピタリティ産業による市場分析
第15週 まとめ

4. テキスト・参考文献
「観光白書」内閣府
「観光要覧」沖縄県
「JTB レポート—日本人の海外旅行の実態—」(株) JTB
「観光の実態と志向」(社) 日本観光協会
Stephen L.J. Smith., Tourism Analysis : A Handbook ,Longman House 2001年

5. 準備学習
・市場分析用の統計データは各自必ず調査すること。

6. 成績評価の方法
レポート 50%
課題提出 50%
合計 100%

7. 履修の条件
学部の観光・マーケティングなどの関連科目の履修が望ましい。

8. その他
特になし。

科目名	観光調査法特論			担当教員：朴 在徳（非常勤講師）	
科目名(英語)	Tourism Analysis			メールアドレス：j.park@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	非常勤控室	

1. 授業の概要
本講義では、観光データの解析のために必要な諸分析技法として、特に多変量解析（Multivariate Analysis）等の基礎知識を理解し、それをツールとして観光・ホスピタリティ研究分野へ応用するための方法を学ぶ。統計学上の理論よりも、むしろ調査分析への利用方法に慣れることを目的とする。

2. 到達目標
受講者は各自の具体的な観光関連データをもとにコンピュータによる統計的解釈や調査分析を行う。

3. 授業の計画と内容
第 1 週 オリエンテーション、観光調査・分析とは
第 2 週 観光調査・分析の方法について
第 3 週 観光現象の測定、観光データの解釈方法
第 4 週 観光分析の方法について—多変量解析—
第 5 週 観光を予測する—観光データによる重回帰分析、回帰診断—
第 6 週 観光需要予測の実際—数量化Ⅰ類—
第 7 週 観光地の構造を簡潔にする—主成分分析 1—
第 8 週 観光関連データによる実例—主成分分析 2—
第 9 週 観光者の心理構造を探る—因子分析／数量化Ⅲ類—
第 10 週 観光データによる実例—因子分析、数量化Ⅲ類—
第 11 週 観光データの分析—数量化Ⅳ類、多次元尺度法—
第 12 週 決定木、独立成分分析による観光関連データの分析
第 13 週 自己組織化マップによるホスピタリティ情報の分析
第 14 週 ニューラルネットワーク法による観光データの分析
第 15 週 まとめ

4. テキスト・参考文献
菅民郎著『Excel で学ぶ多変量解析入門』オーム社 2013 年
田中豊・垂水共之著『統計解析ハンドブック（多変量解析）』共立出版 2001 年
涌井良幸・涌井貞美著『図解でわかる共分散構造分析』日本実業出版社 2003 年
樺山忠雄著『アナリティカル・マーケティング』創成社 2002 年
Stephen L.J. Smith., Tourism Analysis : A Handbook ,Longman House 2001 年

5. 準備学習
テキストの付録に統計分析用の CD-ROM があるので必ず購入すること。

6. 成績評価の方法
レポート 50%
課題提出 50%
合計 100%

7. 履修の条件
学群・学部の統計学、調査法などの関連科目の履修者を対象とする。

8. その他
特になし。

科目名	ホテル実務特論			担当教員：黒江 浩紹 (非常勤講師)									
科目名(英語)	Hotel Management			メールアドレス：curoe@bell.ocn.ne.jp									
				研究室電話番号：									
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー								
2	1・2	後期	2～3	非常勤講師控室	講義終了後								
<p>1. 授業の概要</p> <p>沖縄の観光業の発展と、その中核であるホテル業がどのように変化し発展してきたかを学びながら、グローバルな視点から、優位性、問題点を大学院生と論じていきたい。</p> <p>その中で、ホテル業のマネジメントスキル、オペレーションスキルを講義していきたい。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>マネジメントスキルの基本テーマ、オペレーションスキルの概論を身につけること</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 ガイダンス</p> <p>第2週 復帰前から海洋博までの沖縄の観光とホテルの推移</p> <p>第3週 海洋博から1995年までの沖縄の観光とホテルの推移</p> <p>第4週 1995年から2007年までと、2007年から現在までの沖縄の観光とホテルの推移</p> <p>第5週 ホテルマーケティング1</p> <p>第6週 ホテルマーケティング2</p> <p>第7週 ホテルマーケティング3</p> <p>第8週 ホテルマーケティング4</p> <p>第9週 ホテルマーケティング5</p> <p>第10週 ホテルマーケティング6</p> <p>第11週 ホテルファイナンス1</p> <p>第12週 ホテルファイナンス2</p> <p>第13週 ホテルサービス1</p> <p>第14週 ホテルサービス2</p> <p>第15週 まとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <p>毎回授業内容のレジメを配布</p> <p>【参考文献】</p> <p>サービスマーケティング原理 クリスファーラブロック+ローレンライト著 (白桃書房)</p> <p>5. 準備学習</p> <p>授業計画と内容に記載されている内容を予習しておくこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>調査レポート</td> <td>30点</td> </tr> <tr> <td>授業内ディスカッション</td> <td>30点</td> </tr> <tr> <td>最終レポート</td> <td>40点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>観光産業、ホテル産業に興味のある人が望ましい</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						調査レポート	30点	授業内ディスカッション	30点	最終レポート	40点	合計	100点
調査レポート	30点												
授業内ディスカッション	30点												
最終レポート	40点												
合計	100点												

科目名	異文化接触特論			担当教員：李 鎮榮	
科目名(英語)	Cultures in Contact			メールアドレス：j.lee@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1091	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	研 213	火・金 15:00-17:00
<p>1. 授業の概要 構造主義の観点から、「他者」について概観し、異質なものとの接触により起きる文化変容と受講生の日常と「異化」について講義する。また、「他者との接触」を通して人起こりうる化学反応について、沖縄の問題と絡めて考察する。</p> <p>2. 到達目標 個人や社会の発展とはつまるところ「異化」能力に左右される側面を理解してもらい、沖縄の観光政策立案につなげてもらいたい。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 自己紹介と方針, 予備知識のチェック, 発表の分担者を決める。 第 2 週 文化 (言語) 人類学の考え方 第 3 週 多文化主義・多言語主義の現在 第 4 週 文化の神話を超えて 第 5 週 カナダの多文化主義 第 6 週 フランスの多文化主義とケベックの選択 第 7 週 北部ケベックの先住民 第 8 週 カナダにおける先住民族と先住民権 第 9 週 多文化国家オーストラリアの誕生とその現在 第 10 週 多文化主義と法の役割 第 11 週 先住権の行方 第 12 週 文化を創造する人々 Stranger & Outsider 第 13 週 非英語圏からの移住者にとっての課程と世代間変容 第 14 週 ポスト・エスニック・マルチカルチュラルイズム 第 15 週 総括</p> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 矢野暢, 『国際化の意味』, NHK ブックス 西川長夫他, 『多文化主義・多言語主義の現在』, 人文書院 ミシェル・ヴィブィオルカ, 『差異』, バラン書店 【参考文献】 課題により適宜紹介する。</p> <p>5. 準備学習 事前に課題を適宜紹介する。</p> <p>6. 成績評価の方法 発表内容と授業への貢献度 50点 レポート (発表など) 50点 合 計 100点</p> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					

科目名	島嶼開発特論			担当教員:	
科目名(英語)	Special Lectures on Island Economies			メールアドレス: 研究室電話番号:	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2				

Course Goals and Methods :

Welcome to my special lecture on island sustainability focusing on islands of Okinawa. Upon completing this class, students should be able to learn various concepts and tools or model cases to analyze the current issues facing island sustainability such as socio-economic development and environmental conservation, work-life balance, sustainable community, sustainable agriculture, sustainable tourism, networking and human resources development and sustainable policies and management. Learn actual methods and practices of sustainability through visiting local communities, industry, typical tourism sites and public authorities. Construct your own sustainable models or arguments based on data / interviews/case studies. You are requested to present your field research findings and in-depth analysis toward the end of class. You are requested to submit a quality term paper at the end of this semester. This course aims at three Es, namely, **Empowerment, encouragement, and Enjoyment.**

1. Course Goals :

Upon completing this course, students should be able to conduct independent research on the subject.

2. Required and Optional Texts:

Hiroshi Kakazu, *Island Sustainability: Challenges and Opportunities for the Pacific Islands in a Globalized World*, Canada: Trafford Publishing, 2009.

Hiroshi Kakazu, *Sustainable Development of Small Island Economies*, Boulder: Westview Press, 1994.

Copies of these two books are reserved at the Meio library. You will be assigned reading materials from the above books and from other sources related to the subject. Reading materials will also be posted on my MEIO MEMBERS SNS site. You are expected to read these materials before your presence at my class.

3. Course Contents:

Week 1-Week 2: What is Nissology (study of islands)? Definitions, characteristics, and Sustainability

Week 3 -Week 4: Approach for Island Development, Global Issues and Island Societies

Week 5-Week 6: Networking Island Societies

Week 7-Week 8: Sustainable Development of Okinawa's Small Islands

Week 9-Week 10: Sustainable Island Community and Culture

Week 11-Week 12: Challenges for Sustainable Development

Week 13-Week 15: Class Presentations based on Field Studies

4. Grading Policy Based on 100 Points :

Class Participation, including class activities and discussion (50point)

Presentation and Term Paper (50point). Otherwise, Meio University's general grading rules will be applied.

Term papers must be submitted one week after your presentations through email or in hard copy in my office. Failure to submit by the deadline will constitute late submission. Late papers will be penalized 5 points for each

5. Class Rules : You are expected to abide by your university rules and academic standard. Particularly you should aware of the university Policy of Academic Honesty.

科目名	島嶼文化特論			担当教員：李 鎮榮							
科目名(英語)	Island Cultures			メールアドレス：j.lee@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1091							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	後期	5	研 213	火・金 15：00－17：00						
<p>1. 授業の概要</p> <p>日本の周辺に位置する沖縄県のような島嶼社会の場合、中央に対する求心力と「外」に対する遠心力の両方の力が作用している。島嶼社会は規範文化から「周辺の位置」に在るだけでなく、市場経済においても中央の支配を受けやすい。沖縄のような島嶼群からなる社会が持つローカリティー性について学習し、どういう開発の仕方が望ましいのか考察していく。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>島嶼社会の周辺性の特徴を理解することにより、島嶼社会を論じる上で、より生産的な思考ができるようになってもらいたい。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 自己紹介と方針、予備知識のチェック、発表の分担者を定める。</p> <p>第 2 週 「ではの杜」のロジック</p> <p>第 3 週 「島嶼」とは、島嶼社会の定義と課題</p> <p>第 4 週 倫理的消費・開発</p> <p>第 5 週 中心と周辺：遠心性と求心性</p> <p>第 6 週 資本と貧困：GDP と社会的共通資本</p> <p>第 7 週 開発しない開発</p> <p>第 8 週 境界性と境界理論</p> <p>第 9 週 Localization と里山資本主義</p> <p>第 10 週 成功事例研究；タンザニア</p> <p>第 11 週 国境ビジネス事例研究；中ソ</p> <p>第 12 週 国境ビジネス事例研究：多民族国家の一国二制度</p> <p>第 13 週 開発と破壊</p> <p>第 14 週 従属経済の脱皮を目指して</p> <p>第 15 週 総括</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <p>矢野暢、『国際化の意味』、NHK ブックス</p> <p>Helen Norberg-Hodge、<i>Joint local is the answer</i> 、Ancient Future</p> <p>藻谷浩介、『里山資本主義』、NHK その他、授業中適宜提供する。</p> <p>【参考文献】</p> <p>課題により適宜紹介する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>事前に課題を適宜紹介する。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>発表内容と授業への貢献度</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>レポート（発表など）</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						発表内容と授業への貢献度	50点	レポート（発表など）	50点	合計	100点
発表内容と授業への貢献度	50点										
レポート（発表など）	50点										
合計	100点										

科目名	島嶼生態学特論			担当教員:新垣 裕治	
科目名(英語)	Island Ecology			メールアドレス: arakaki@mail.meio-u.ac.jp	
研究室	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
研 202	1・2	令和2年は未開講とする。	2~3	研 202	火 (4時限)・木 (2時限)
<p>1. 講義内容</p> <p>島に棲息する生物と環境の関連、あるいは生物同士の関わりを生物の適応・進化・多様性などの観点から扱う分野が島嶼生態学である。本講義では、島嶼県である沖縄を島嶼生態学の観点から捉え、生物・自然・環境等の特徴を明らかにしていく。また、これら特徴は沖縄の観光資源としても極めて重要であるので、観光との関連についても言及を試みる。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>島嶼環境の環境的特徴を生物学的な側面から理解できるようにする。</p> <p>3. 講義予定</p> <p>第1週 講義概要・評価方法他について 第2週 琉球列島の生い立ち 第3週 サンゴ礁地形 第4週 サンゴ・サンゴ礁とは 第5週 サンゴ礁の生物たち (1) 第6週 サンゴ礁の生物たち (2) 第7週 マングローブとは 第8週 マングローブの生物たち (1) 第9週 マングローブの生物たち (2) 第10週 沖縄の川と生物たち (1) 第11週 沖縄の川と生物たち (2) 第12週 沖縄の森と生物たち (1) 第13週 沖縄の森と生物たち (2) 第14週 外来種をめぐる問題 (1) 第15週 外来種をめぐる問題 (2) 第16週 試験</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 特に指定しない。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> 池原貞雄・加藤祐三 編著 1997 『沖縄の自然を知る』 築地書館 西平守孝 編著 1991 『沖縄のサンゴ礁』 沖縄環境科学センター 中村武久・中須賀常雄 1998 『マングローブ入門―海に生える緑の森―』 めこん 安間繁樹 2001 『琉球列島―生物の多様性と列島のおいたち―』 東海大学出版会 幸地良仁 1991 『沖縄の川魚』 沖縄出版 嵩原健二・当山昌直・小浜継雄・幸地良仁・知念盛俊・比嘉ヨシコ 1997 『沖縄の帰化動物―海をこえてきた生きものたち』 沖縄出版 <p>5. 準備学習</p> <p>参考文献等を読む。また、講義では沖縄の事情について多く語られるので、日常的に沖縄県の環境的（主に生物学的観点から）について情報収集をしておく。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>試験 80点、レポート 20点 *2/3以上の出席が無ければ評価の対象にならないので要注意。</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

科目名	エコツーリズム特論			担当教員：新垣 裕治	
科目名(英語)	Ecotourism			メールアドレス：y.arakaki@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	10	研 202	火 (4時限)・木 (2時限)
<p>1. 授業の概要</p> <p>エコツーリズムとは、一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り、学び、自然・文化の保護・保全と地域振に貢献する観光形態」と理解される。エコツーリズムは従来の観光の反省に立って考えられた観光の一形態であり、これまでの観光のイメージを大きく変える可能性を持っている。</p> <p>本講義では、エコツーリズムの概念、ツアー事例、エコツーリズム資源と構成要素等を通してエコツーリズムへの現状についての理解を深め、これを基にエコツーリズムの課題について考察していく。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>エコツーリズムについての理解を深めるとともに、観光における環境の重要性について理解できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 講義概要・評価方法他について</p> <p>第 2 週 沖縄県の観光の現状について</p> <p>第 3 週 エコツーリズムとは (1)</p> <p>第 4 週 エコツーリズムとは (2)</p> <p>第 5 週 海外のエコツーリズム事情 (1)</p> <p>第 6 週 海外のエコツーリズム事情 (2)</p> <p>第 7 週 エコツーリズムへの取り組み (1)</p> <p>第 8 週 エコツーリズムへの取り組み (2)</p> <p>第 9 週 エコツーリズムとルール</p> <p>第 10 週 エコツーリストとは</p> <p>第 11 週 エコツアーと人材育成 (1)</p> <p>第 12 週 エコツアーと人材育成 (2)</p> <p>第 13 週 エコツーリズムと持続可能性 (1)</p> <p>第 14 週 エコツーリズムと持続可能性 (2)</p> <p>第 15 週 エコツーリズムの課題 (まとめ)</p> <p>第 16 週 試験</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <p>特に指定しない。</p> <p>【参考文献】</p> <p>「エコツーリズム さあ、はじめよう！」日本交通公社 1500 円</p> <p>「地域からのエコツーリズム」学芸出版 「エコツーリズム教本」平凡社</p> <p>「エコツーリズムの世紀へ」日本エコツーリズム協会 等</p> <p>5. 準備学習</p> <p>参考文献等を読む。また、講義では沖縄の事情について多く語られるので、日常的に沖縄県の観光やエコツーリズムの現状について観光要覧やメディアを通し情報収集をしておく。</p> <p>6. 成績評価の方法：下記のとおり</p> <p>試験 80 点, レポート 20 点</p> <p>*2/3 以上の出席が無ければ評価の対象にならないので要注意。</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

シラバス

(健康科学教育研究領域科目)

科目名	健康科学研究演習 I			担当教員：小川 寿美子	
科目名(英語)	Research Seminar in Health Sciences I			メールアドレス：sumiko@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1060	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	通年	2	研 608	研究室前に掲示

1. 授業の概要
 “健康とは何か”を広く考える学問である公衆衛生学を広く捉える力を養うことを目標とする。初年次である演習 I では、論理的な文章力と文献の読解力を養うための基礎固めをするため、論理的な日本語を書く技術の修得と、人間健康科学、とりわけ公衆衛生学や国際保健に関する数多くの論文、資料を精読し、多方面からの知識を涵養する。

2. 到達目標
 前期の演習 I の構成は、前半 90 分が、毎回ゼミ生が準備する課題である 200 字エッセイをゼミの仲間同士のエディティングを通じて（第 1~7 回は日本語エッセイ、第 9~14 回は英語エッセイ）論理的な国語力を養うことができる。後半 90 分が、毎回ゼミ生が準備する課題である興味のある研究論文を 200 字でレビューを提出、その内容に関して仲間同士でクリティカルディスカッションをすることを通じ、専門分野の最新情報を取得すると同時に、批判的な思考を養うことができる。後期の演習 I の構成は、定性データ分析のツールとして NVIVO を駆使し、実際インタビュー調査を分析することを通じて、修士論文に使用する分析ツールを習得することができる。

3. 授業の計画と内容

前期 (Interactive Writing 「IW」+Paper Review 「PR」)	後期 (Qualitative Data Analysis + Paper Review)
第 1 週 演習 I 前期の目標・概要説明	第 1 週 演習 I 後期の目標・概要説明
第 2 週 テキスト①、参考書②の説明	第 2 週 テキスト④の説明、インタビュー起こし
第 3 週 「IW」日本語 1 + 「PR」-1	第 3 週 テキスト④ 1~5 章
第 4 週 「IW」-日本語 2 + 「PR」-2	第 4 週 テキスト④ 6 章
第 5 週 「IW」-日本語 3 + 「PR」-3	第 5 週 テキスト④ 7 章
第 6 週 「IW」-日本語 4 + 「PR」-4	第 6 週 テキスト④ 8 章
第 7 週 「IW」-日本語 5 + 「PR」-5	第 7 週 テキスト④ 9 章
第 8 週 第 1~7 週のポートフォリオをもとに振り返り	第 8 週 第 1~7 週のポートフォリオをもとに振り返り
第 9 週 「IW」-英語 5 + 「PR」-5	第 9 週 テキスト④ 10 章
第 10 週 「IW」-英語 6 + 「PR」-6	第 10 週 テキスト④ 11 章
第 11 週 「IW」-英語 7 + 「PR」-7	第 11 週 テキスト④ 12 章
第 12 週 「IW」-英語 8 + 「PR」-8	第 12 週 Nvivo の応用 1
第 13 週 「IW」-英語 9 + 「PR」-9	第 13 週 Nvivo の応用 2
第 14 週 「IW」-英語 10 + 「PR」-10	第 14 週 修士論文概要発表会準備 1
第 15 週 第 9~14 週のポートフォリオをもとに振り返り	第 15 週 修士論文概要発表会準備 2

4. テキスト・参考文献
【テキスト】
 ①阿部紘久「文章力の基本 100 題」光文社、2010 年、1,300 円+税
 ②野矢茂樹「論理学トレーニング」東京大学出版 2006 年 2,200 円+税
 ③野矢茂樹「論理学トレーニング 101 題」東京大学出版 2006 年 2,000 円+税
 ④Bazeley & Jackson. Qualitative Data Analysis with NVIVO, SAGE, 2013, ¥5,381
【参考文献】
 ①石崎秀穂「あなたの文章がみるみるわかりやすくなる本」
 ②福嶋隆史「ふくしま式 200 字メソッドで書く力は驚くほど伸びる！」大和出版、2010 年、1,500 円+税
 その都度、提示する。

5. 準備学習
 各週に出される課題、宿題をすること。

6. 成績評価の方法
 演習ポートフォリオ 50 点
 課題レポート (IW, PR) 50 点
 合計 100 点

7. 履修の条件
 将来、公衆衛生学および国際保健（グローバル・ヘルス）分野を専門としたい意思がある学生。

8. その他
 特になし。

科目名	健康科学研究演習 I			担当教員：平野 貴也			
科目名(英語)	Research Seminar in Health Sciences I			メールアドレス：t.hirano@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1532			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー		
4	1	通年	2	人研 205	研究室に掲示		
<p>1. 授業の概要</p> <p>我が国ではスポーツ・レジャーレクリエーションの普及振興において、指導者の多様なかわり方が求められている。演習 I ではまずスポーツ・レジャーレクリエーション研究の動向について理解する。さらに文献ベースでの検討を進めると同時に、スポーツ・レジャーレクリエーションの普及振興もしくはコーチング現場での課題や問題点を見つける。問題点や課題を解決するための技法について調べ、学び、実践し、課題解決のための方法を探究する。</p> <p>2. 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツコーチング・普及振興に関する国内及び海外の文献講読を行い、研究の動向を把握することができる。 ○スポーツ・レジャーの行事・イベントの企画と運営に参画し、実施上の課題を見つけることができる。 ○スポーツ・レジャーの技能を向上させるための指導法や安全管理に関する問題点を探求できる。 ○スポーツ・レジャーにおける調査・実験研究の方法を知り、エビデンスを用いたコーチングを実践できる。 <p>3. 授業の計画と内容</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学術研究の概要① 2. 文献購読&ディスカッション① 3. 文献購読&ディスカッション② 4. 文献購読&ディスカッション③ 5. 文献購読&ディスカッション④ 6. 事例研究ー野外スポーツ 7. 事例研究ーマリンスポーツ 8. 事例研究ーレジャー・レクリエーション 9. コーチング実践ー計画立案① 10. コーチング実践ー計画立案② 11. コーチング実践ー指導実習① 12. コーチング実践ー指導実習② 13. コーチング実践の評価 14. コーチング実践のまとめ 15. 前期のまとめと後期の課題設定 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学術研究の概要②と後期の進め方 2. 夏期テーマ研究の分析① 3. 夏期テーマ研究の分析② 4. 研究方法論① 5. 研究方法論② 6. 調査と分析① 7. 調査と分析② 8. スポーツイベントの実践ー計画立案① 9. スポーツイベントの実践ー計画立案② 10. スポーツイベントの実践ー運営&調査① 11. スポーツイベントの実践ー運営&調査② 12. 運営&調査の評価、発表準備 13. 調査発表とディスカッション 14. 修士論文概要発表準備① 15. 修士論文概要発表準備② </td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>テーマや内容に合わせて指定する。 適時、プリント等の配布を行う</p> <p>5. 準備学習</p> <p>授業時間以外のフィールドワークを大切に、スポーツ指導や普及振興を実践する中から常に課題を見つけ、課題を持って講義に取り組むこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業への取り組み状況 (50点) ○レポート課題・発表内容 (50点) <p style="text-align: right;">計 (100点)</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>将来、スポーツ・レジャーレクリエーションの研究に携わりたい、もしくは指導現場で働く意思のある学生であること。スポーツの指導、企画、組織の運営など、実践活動を適宜行うので積極的に参加すること。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学術研究の概要① 2. 文献購読&ディスカッション① 3. 文献購読&ディスカッション② 4. 文献購読&ディスカッション③ 5. 文献購読&ディスカッション④ 6. 事例研究ー野外スポーツ 7. 事例研究ーマリンスポーツ 8. 事例研究ーレジャー・レクリエーション 9. コーチング実践ー計画立案① 10. コーチング実践ー計画立案② 11. コーチング実践ー指導実習① 12. コーチング実践ー指導実習② 13. コーチング実践の評価 14. コーチング実践のまとめ 15. 前期のまとめと後期の課題設定 	<p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学術研究の概要②と後期の進め方 2. 夏期テーマ研究の分析① 3. 夏期テーマ研究の分析② 4. 研究方法論① 5. 研究方法論② 6. 調査と分析① 7. 調査と分析② 8. スポーツイベントの実践ー計画立案① 9. スポーツイベントの実践ー計画立案② 10. スポーツイベントの実践ー運営&調査① 11. スポーツイベントの実践ー運営&調査② 12. 運営&調査の評価、発表準備 13. 調査発表とディスカッション 14. 修士論文概要発表準備① 15. 修士論文概要発表準備②
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学術研究の概要① 2. 文献購読&ディスカッション① 3. 文献購読&ディスカッション② 4. 文献購読&ディスカッション③ 5. 文献購読&ディスカッション④ 6. 事例研究ー野外スポーツ 7. 事例研究ーマリンスポーツ 8. 事例研究ーレジャー・レクリエーション 9. コーチング実践ー計画立案① 10. コーチング実践ー計画立案② 11. コーチング実践ー指導実習① 12. コーチング実践ー指導実習② 13. コーチング実践の評価 14. コーチング実践のまとめ 15. 前期のまとめと後期の課題設定 	<p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学術研究の概要②と後期の進め方 2. 夏期テーマ研究の分析① 3. 夏期テーマ研究の分析② 4. 研究方法論① 5. 研究方法論② 6. 調査と分析① 7. 調査と分析② 8. スポーツイベントの実践ー計画立案① 9. スポーツイベントの実践ー計画立案② 10. スポーツイベントの実践ー運営&調査① 11. スポーツイベントの実践ー運営&調査② 12. 運営&調査の評価、発表準備 13. 調査発表とディスカッション 14. 修士論文概要発表準備① 15. 修士論文概要発表準備② 						

科目名	健康科学研究演習 II			担当教員：小川 寿美子	
科目名(英語)	Research Seminar in Health Sciences II			メールアドレス：sumiko@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1060	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	通年	2	研 608	研究室前に掲示

1. 授業の概要
最終年次である演習 II では、論理的な文章力と文献の読解力を養うための基礎固めをするため、論理的な英語を書く技術の修得と、人間健康科学、とりわけ公衆衛生学や国際保健に関する数多くの論文、資料を精読し、多方面からの知識を涵養する。併せて、修士論文の執筆を完成させる。

2. 到達目標
演習 II の構成は、前半 90 分が、毎週ゼミ生が準備する課題である英文エッセイをゼミの仲間同士のエディティングを通じて、英作文力を養うことができる。後半 90 分が、毎週ゼミ生が準備する課題である興味のある先行研究論文を 200 字でレビューを提出、その内容に関して仲間同士でクリティカルディスカッションを通じて、専門分野での最先端の研究内容の理解と批判的思考力を養うことができる。

3. 授業の計画と内容

前期 (Interactive Writing 「IW」+Paper Review 「PR」)	後期 (Master thesis + Paper Review 「PR」)
第 1 週 演習 II 前期の目標・概要説明	第 1 週 演習 II 後期の目標・概要説明
第 2 週 テキスト①、参考書②の説明	第 2 週 修士論文+ 「PR」 -1
第 3 週 「IW」-英語 1 + 「PR」 -1	第 3 週 同上 + 「PR」 -2
第 4 週 「IW」-英語 2 + 「PR」 -2	第 4 週 同上 + 「PR」 -3
第 5 週 「IW」-英語 3 + 「PR」 -3	第 5 週 同上 + 「PR」 -4
第 6 週 「IW」-英語 4 + 「PR」 -4	第 6 週 同上 + 「PR」 -5
第 7 週 「IW」-英語 5 + 「PR」 -5	第 7 週 同上 + 「PR」 -6
第 8 週 第 1~7 週のポートフォリオをもとに振り返り	第 8 週 第 1~7 週のポートフォリオをもとに振り返り
第 9 週 「IW」-英語 5 + 「PR」 -5	第 9 週 修士論文最終発表準備 + 「PR」 -7
第 10 週 「IW」-英語 6 + 「PR」 -6	第 10 週 同上 + 「PR」 -8
第 11 週 「IW」-英語 7 + 「PR」 -7	第 11 週 同上 + 「PR」 -9
第 12 週 「IW」-英語 8 + 「PR」 -8	第 12 週 同上 + 「PR」 -10
第 13 週 「IW」-英語 9 + 「PR」 -9	第 13 週 同上 + 「PR」 -11
第 14 週 「IW」-英語 10 + 「PR」 -10	第 14 週 同上 + 「PR」 -12
第 15 週 第 9~14 週のポートフォリオをもとに振り返り	第 15 週 修士論文最終発表 本番

4. テキスト・参考文献
【テキスト】
①Zemach, Dorothy E. Paragraph Writing: From Sentence to Paragraph, Macmillan Education, 2004. ¥2,469
②Macmillan, Writing Essays, Education Australia, 2011 ¥3,510
③Colin Robson. Real World Research: A Resource for Social Scientists and Practitioner – Researchers. Blackwell Pub. 2002. ¥4,624
【参考文献】
その都度、提示する。

5. 準備学習
各週に出される課題、宿題をすること。

6. 成績評価の方法
演習ポートフォリオ 50点
課題レポート(IW,PR) 50点
合計 100点

7. 履修の条件
将来、公衆衛生学および国際保健（グローバル・ヘルス）分野を専門としたい意思がある学生。
原則として演習 I で小川ゼミを取得している学生に限る。

8. その他
特になし。

科目名	健康科学研究演習Ⅱ			担当教員：平野 貴也			
科目名(英語)	Research Seminar in Health Sciences II			メールアドレス：t.hirano@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1532			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー		
4	2	通年	2	人研 205	研究室に掲示		
<p>1. 授業の概要</p> <p>演習Ⅱではこれまで研究を進めてきたテーマに基づき、スポーツ・レジャー・レクリエーションの普及振興、スポーツ指導、コーチングに関する論文、文献を数多く精読する。研究計画を作成し、調査、分析を行い、修士論文を完成させる。発表と論議を通じてリサーチ力とプレゼンテーション力、実践力の向上を図る。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>○科学的方法に則った一般的な学術論文を書けるようになる。 ○研究成果を発表できるようになる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの設定 1 2. 研究テーマの設定 2 3. 研究計画の確認 4. 先行研究の分析と検討 1 5. 先行研究の分析と検討 2 6. 先行研究の分析と検討 3 7. 先行研究の分析と検討 4 8. 調査実験の実施 1 9. 調査実験の実施 2 10. 調査実験の実施 3 11. 調査実験の実施 4 12. データの分析 1 13. データの分析 2 14. データの分析 3 15. 夏休みの研究の進捗と課題設定 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究結果の報告と論議 1 2. 研究結果の報告と論議 2 3. 研究結果の報告と論議 3 4. 研究結果の報告と論議 4 5. 研究結果の報告と論議 5 6. 研究結果の報告と論議 6 7. 論文執筆の報告と吟味 1 8. 論文執筆の報告と吟味 2 9. 論文執筆の報告と吟味 3 10. 論文執筆の報告と吟味 4 11. 論文発表の準備 1 12. 論文発表の準備 2 13. 論文発表に準備 3 14. 論文発表の準備 4 15. 論文の発表 </td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>テーマや内容に合わせて指定する。 適時、プリント等の配布を行う</p> <p>5. 準備学習</p> <p>各週に出される課題、進度に合わせて進めること。 授業時間以外のフィールドワークを大切に、研究テーマについて学部生、院生と積極的にディスカッションを行う。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>○授業への取り組み状況 (50点) ○レポート課題・発表内容 (50点) 計 (100点)</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>将来、スポーツ・レジャー・レクリエーションの研究に携わりたい、もしくは指導現場で働く意思のある学生であること。 原則として平野の演習Ⅰを履修していること。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの設定 1 2. 研究テーマの設定 2 3. 研究計画の確認 4. 先行研究の分析と検討 1 5. 先行研究の分析と検討 2 6. 先行研究の分析と検討 3 7. 先行研究の分析と検討 4 8. 調査実験の実施 1 9. 調査実験の実施 2 10. 調査実験の実施 3 11. 調査実験の実施 4 12. データの分析 1 13. データの分析 2 14. データの分析 3 15. 夏休みの研究の進捗と課題設定 	<p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究結果の報告と論議 1 2. 研究結果の報告と論議 2 3. 研究結果の報告と論議 3 4. 研究結果の報告と論議 4 5. 研究結果の報告と論議 5 6. 研究結果の報告と論議 6 7. 論文執筆の報告と吟味 1 8. 論文執筆の報告と吟味 2 9. 論文執筆の報告と吟味 3 10. 論文執筆の報告と吟味 4 11. 論文発表の準備 1 12. 論文発表の準備 2 13. 論文発表に準備 3 14. 論文発表の準備 4 15. 論文の発表
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの設定 1 2. 研究テーマの設定 2 3. 研究計画の確認 4. 先行研究の分析と検討 1 5. 先行研究の分析と検討 2 6. 先行研究の分析と検討 3 7. 先行研究の分析と検討 4 8. 調査実験の実施 1 9. 調査実験の実施 2 10. 調査実験の実施 3 11. 調査実験の実施 4 12. データの分析 1 13. データの分析 2 14. データの分析 3 15. 夏休みの研究の進捗と課題設定 	<p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究結果の報告と論議 1 2. 研究結果の報告と論議 2 3. 研究結果の報告と論議 3 4. 研究結果の報告と論議 4 5. 研究結果の報告と論議 5 6. 研究結果の報告と論議 6 7. 論文執筆の報告と吟味 1 8. 論文執筆の報告と吟味 2 9. 論文執筆の報告と吟味 3 10. 論文執筆の報告と吟味 4 11. 論文発表の準備 1 12. 論文発表の準備 2 13. 論文発表に準備 3 14. 論文発表の準備 4 15. 論文の発表 						

科目名	グローバル・ヘルス特論			担当教員：小川 寿美子									
科目名(英語)	Advanced Course of Global Health			メールアドレス：sumiko@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1148									
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー								
2	1・2	後期	2	研 608	研究室前に掲示								
<p>1. 講義内容</p> <p>グローバルヘルスは、グローバルな規模の健康課題であり、各国の考え方や関心事を超越するものである。国境を超える健康問題や、グローバルな政治的及び経済的な影響を取り上げ、またそれについて研究する公衆衛生、疫学、医学、人口学、医療人類学、医療経済学、開発経済学、政治学、社会学などからなる複合的な学問領域を指し、様々な学問領域から、国際的コンテキストにおける健康の決定要因や配分を学ぶ。</p> <p>It is available to provide the lecture in English, if it is strongly requested.</p> <p>2. 到達目標</p> <p>地球規模の健康に関わる諸問題について理解できるようになる。また健康問題について、英語で理解・表現できるようになる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 What is Global Health ? The Principles, Measurements, and the Health-Development Link 第 2 週 Health Developments, Measurements, and Trends 第 3 週 Health, Education, Poverty, and the Economy 第 4 週 Ethical and Human Rights Concerns in Global Health 第 5 週 An Introduction to Health System 第 6 週 Culture and Health 第 7 週 The Environment and Health 第 8 週 Nutrition and Global Health 第 9 週 Women's and Child Health 第 10 週 Communicable Diseases 第 11 週 Non-communicable Diseases 第 12 週 Natural Disasters and Complex Humanitarian Emergencies 第 13 週 Working Together to Improve Global Health 第 14 週 Science, Technology, and Global Health 第 15 週 Working in Global Health 第 16 週 Final Exam</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <p>Skolnick, R. Global Health 101. Jones & Bartlett Learning. ¥7,542. 2012 「グローバル人間学の世界」中村安秀（編）大阪大学出版会、2,400 円＋税。2011 年 「A Look at Global Health & Environment with VOA」松柏社、1,900 円＋税。2009 年</p> <p>【参考文献】</p> <p>(DVD) 「VOA で知る健康と環境―屋上菜園から牛ゲノム解読まで」安浪 誠祐 2010 年 CLIL 英語で学ぶ国際問題―CLIL GLOBAL ISSUES」笹島 茂 2,052 円 2014 年 小川寿美子（責任編集）、「沖縄の保健医療の経験」シリーズ（8 編：DVD3 枚）国際協力機構。2000。¥700/枚</p> <p>5. 準備学習</p> <p>テキストを事前に読んでまとめること（発表をしてもらうこともある）。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>活動（発表など）</td> <td>30 点</td> </tr> <tr> <td>ポートフォリオ</td> <td>30 点</td> </tr> <tr> <td>期末テスト</td> <td>40 点</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>100 点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>共通科目「健康科学特論」を受講したもの。 英語の理解力のある者（英検 2 級、TOEIC700 点以上）。</p> <p>8. その他</p> <p>将来、国際的な仕事に従事したい、意欲ある学生の受講を期待する。</p>						活動（発表など）	30 点	ポートフォリオ	30 点	期末テスト	40 点	計	100 点
活動（発表など）	30 点												
ポートフォリオ	30 点												
期末テスト	40 点												
計	100 点												

科目名	健康心理学特論			担当教員：宮城 政也（非常勤講師） メールアドレス：masaya@edu.u-ryukyu.ac.jp 研究室電話番号：098-895-8438 (琉球大学・宮城研究室直通番号)	
科目名(英語)	Health Psychology				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	3	非常勤講師控室	講義終了後

1. 授業の概要

現代社会における健康問題に関する心理学的な究明ならびに健康教育や健康政策の策定などの心理学的役割について教授する。

2. 到達目標

現代社会における健康の維持,増進についての心理学的考察や心理学的視点を踏まえた健康教育（疾病予防）の基礎的なプログラム作成ができる。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 ガイダンス, 健康心理学とは, 健康心理学の役割
- 第 2 週 健康心理学とヘルスリスク
- 第 3 週 ヘルスリスクとライフスキル
- 第 4 週 Health Risk Behavior に関する文献 (国内外) 講読
- 第 5 週 Health Risk Behavior に関するプレゼンテーション, ディスカッション
- 第 6 週 Vulnerable Populations に関する海外文献講読
- 第 7 週 Vulnerable Populations に関するプレゼンテーション, ディスカッション
- 第 8 週 Social Capital に関する海外文献講読
- 第 9 週 Social Capital に関するプレゼンテーション, ディスカッション
- 第10週 ヘルスプロモーション, ヘルスプロモートイグスクールについて
- 第11週 健康教育, 健康行動理論について
- 第12週 現代社会とストレス I
- 第13週 現代社会とストレス II
- 第14週 ストレスマネジメント教育
- 第15週 臨床健康心理学の基礎
- 第16週 テスト

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

講義中適宜資料配布

5. 準備学習

講義中指定する論文を熟読すること。

6. 成績評価の方法

テ ス ト : 70 点

プレゼンテーション : 30 点

合 計 : 100 点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	健康栄養学特論			担当教員：新城 澄枝（非常勤講師）							
科目名(英語)	Special Topics in Health Nutrition			メールアドレス：shinjots@beach.ocn.ne.jp 研究室電話番号：							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	前期	2～3	非常勤講師控室	講義終了後						
<p>1. 授業の概要</p> <p>食事の意義、食と健康の関係、わが国ならびに諸外国における食の現状・課題と健康問題、健康・栄養政策、食生活指針などについて考究する。さらに、食品の安全・安心、食を選択する能力を培い科学的根拠に基づいた正しい食生活実践のために、四群点数法について学習する。また、沖縄の食文化に触れ長寿との関連で学習を深める。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>生活の中での食事の意義や現代における食生活と健康問題との関連、それをふまえた国や地方の健康・栄養政策について理論・知識を深める。現代の食の課題であるメタボリックシンドロームの概念に基づく生活習慣病予防や食品の安全・安心、食を選択する能力を培い、健康の為の食の自己管理能力を高める。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 食生活の重要性 第2週 健康栄養学・基礎①：食品の成分と機能、安全性 第3週 健康栄養学・基礎②：消化吸収、代謝 第4週 日本の食生活の変遷と健康（食品ならびに栄養素摂取量の変化と疾病構造の変化） 沖縄の食生活の変遷と健康（食品ならびに栄養素摂取量の変化と疾病構造の変化） 第5週 わが国の食をめぐる現状と課題Ⅰ（母性期、乳幼児期の健康栄養問題） 第6週 わが国の食をめぐる現状と課題Ⅱ（青年期：18歳までに育てたい食の自己管理能力） 第7週 わが国の食をめぐる現状と課題Ⅲ（壮年期：食生活と生活習慣病・メタボリックシンドロームの概念） わが国の食をめぐる現状と課題Ⅳ（高齢期、慢性疾患：低栄養の予防） 第8週 沖縄百寿者に学ぶ健康のための食生活 第9週 わが国の健康・栄養政策：「健康日本21（第二次）」と地方施策 第10週 「食育基本法」、「食育推進基本計画（第二次）」と地方施策 第11週 世界の食文化類型と健康問題の特徴、健康・栄養政策、食生活指針 第12週 バランスのとれた食生活の実践（生活習慣病発症予防のための食生活：四群点数法の基礎） 第13週 正しい減量のための食生活実践（生活習慣病の重症化予防、アスリートの減量：四群点数法応用Ⅰ） 第14週 低栄養予防のための食生活実践（貧血、肝疾患、感染症、糖尿病性腎症など：四群点数法応用Ⅱ） 第15週 四群点数法、体重計、血圧計を活用した生活習慣病の発症・重症化予防のための賢い食事管理</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 適宜資料を配布する。四群点数法を活用した糖尿病療養のための賢い食事管理、ニライ社（無償配布）</p> <p>【参考文献】 (1)「新しい食物学—食生活と健康を考える—改訂第2版」加藤陽治/長沼誠子 編集、南江堂、2009年 (2)「標準的な健診・保健指導プログラム（確定版）：全4冊」厚生労働省健康局、平成19年4月 (3)「公衆栄養学」古畑公・松村康弘・鈴木三枝 編著、光生館、2013年4月 (4)「健康の科学シリーズ9 沖縄の長寿」日本栄養・食糧学会監修、学会センター関西学会出版センター</p> <p>5. 準備学習 健康と食生活に関する文献を、幅広く読むこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="1"> <tr> <td>授業での活動状況</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						授業での活動状況	50点	レポート	50点	合計	100点
授業での活動状況	50点										
レポート	50点										
合計	100点										

科目名	社会福祉学特論			担当教員：	
科目名(英語)	Advanced Course of Social Work			メールアドレス： 研究室電話番号：	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	令和2年は未開講とする。	3	非常勤講師控室	講義終了後
<p>1. 講義内容</p> <p>現代社会には、子育て、障害者や高齢者の生活、雇用や労働をめぐる諸問題の他、多様な形態の暴力（虐待、DV、自殺）など、憲法第 25 条が規定する「健康で文化的な最低限度の生活」を脅かす状況が深刻である。本講義では、さまざまな形で健康な生活が疎外されがちな状況にある人々を理解するとともに、すべての人の健康で文化的な生活を創造するために必要な普遍的な価値（values）と地域における実践（practice）のあり方について考察する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>①社会福祉が追求する価値の重要性について理解することができる。 ②地域社会や人々の生活において、社会福祉の価値を実践し、具現化する方法について理解することができる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 回 現代社会の諸問題～健康の概念からの考察～ 第 2 回 日本国憲法第 25 条をめぐる諸議論～「健康で文化的な最低限度の生活」とは？ 第 3 回 健康で文化的な生活のために必要な価値① 個人の尊厳と社会正義① 第 4 回 健康で文化的な生活のために必要な価値② 個人の尊厳と社会正義② 第 5 回 健康で文化的な生活のために必要な価値③ 個人の尊厳と社会正義③ 第 6 回 健康で文化的な生活のために必要な価値④ 貢献①（エンパワメント） 第 7 回 健康で文化的な生活のために必要な価値⑤ 貢献②（ソーシャルアクション） 第 8 回 健康で文化的な生活のために必要な価値をめぐるペーパーの発表・ディスカッション 第 9 回 健康で文化的な生活を疎外する諸問題と地域における実践① 貧困① 第 10 回 健康で文化的な生活を疎外する諸問題と地域における実践② 貧困② 第 11 回 健康で文化的な生活を疎外する諸問題と地域における実践③ 子ども虐待① 第 12 回 健康で文化的な生活を疎外する諸問題と地域における実践④ 子ども虐待② 第 13 回 健康で文化的な生活を疎外する諸問題と地域における実践⑤ 障害者をめぐって 第 14 回 健康で文化的な生活を疎外する諸問題と地域における実践⑥ 高齢者をめぐって 第 15 回 健康で文化的な生活を疎外する諸問題と地域における実践に関するペーパーの発表・ディスカッション 第 16 回 全体のふりかえり</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 講義において指定する。</p> <p>【参考文献】 Adams, Maurianne (Ed.) (2013) <i>Readings for Diversity and Social Justice</i>, Routledge. Gitterman, Alex (2014) <i>Handbook of Social Work Practice with Vulnerable and Resilient Populations</i>, Columbia University Press.</p> <p>5. 準備学習 指定の文献を事前に読んでから授業に臨むこと。</p> <p>6. 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動状況 50点 ・レポート 50点 ・合計 100点 <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					

科目名	地域保健学特論			担当教員：吉川 千恵子 (非常勤講師)	
科目名(英語)	Community health science			メールアドレス： 研究室電話番号：	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	2～3	非常勤講師控室	講義終了後
<p>1. 講義内容</p> <p>健康・ウエルネス、ヘルスプロモーションの概念を基礎として、地域社会・生活・文化から生ずる健康問題や、現在の国の健康政策として展開している「健康日本 21 (第2次)」が沖縄県や市町村でどのように実践されているか、各健康レベルとライフサイクルの視点から考究する。また、地方自治体における健康政策づくり、保健計画策定・施策化と予算のしくみ、それに対応する地域保健医療活動のエレメントやツールを理解し、人々の健康支援などにおいて総合的企画者・協働的实践者の視点から、地域保健医療システムの開発に参画する。さらに教育研究者としての生きる知識と技法を会得し、沖縄の地域における実践例から保健医療問題と解決策を考察する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>教育研究者としての生きる知識と技法を会得する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1回 地域保健学の概念 第2回 地域保健の理論・キーワード 第3回 地域社会・生活・文化と健康問題 第4回 「健康日本 21 (第2次)」と地域保健活動 第5回 「健康おきなわ21」と地域保健活動、事例「健康いへや21」と地域保健活動 第6回 地域保健活動のエレメント 第7回 地域保健医療福祉行政と活動 第8回 地方自治体における健康政策づくり、保健計画策定、施策化と予算のしくみ 第9回 同上 第10回 地域保健活動の実際1 (県保健福祉行政・福祉保健所) 第11回 地域保健活動の実際2 (市町村) 第12回 地域保健活動の実際3 (職域) 第13回 地域保健活動と地域保健システム 第14回 地域健康危機管理 第15回 地域保健管理・健康評価</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 開講時に指定する。</p> <p>【参考文献】 (1) 健康の政策科学 編集：新井宏明他 医学書院 1997年 (2) 地域づくり型保健活動のすすめ 著者：岩永俊博 医学書院 1995年 (3) 公衆衛生学、第3版 看護学 編集：後閑容子他 インターメディカル 2012年</p> <p>5. 準備学習</p> <p>講義の履修に際し、予習と復習を行うこと。</p> <p>6. 評価方法</p> <p>活動状況 50点 課題レポート 50点 合計 100点</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>授業は、講義と受講生との双方向型で進める。 「国民衛生の動向」または「衛生行政大要」の事前学習を勧める。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

科目名	健康・スポーツ指導特論			担当教員：高瀬 幸一																															
科目名(英語)	Instructing Health and Sports			メールアドレス：k_takase@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1082																															
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																														
2	1・2	後期	3	研 203	火 3・木 4																														
<p>1. 授業の概要</p> <p>健康指導やスポーツ指導の現場においては、専門的な知識を如何にして効果的に伝えるかが重要になる。今日の健康科学やスポーツ科学の進歩はめまぐるしいものがあり、「健康科学やスポーツ科学」に関する正しい理論・知識を習得し、それを実践していく手法（スキル）を身につけることが必要となる。</p> <p>また、超高齢化社会の今日、一般健常者や中・高齢者などの運動未経験者の健康・体力特性に視点を置いた運動指導は、十分になされているとは言い難い現状がある</p> <p>本特論は、日進月歩する分野における最新の理論を論じながら、日本における健康・スポーツ理論について考察する。</p> <p>2. 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康指導やスポーツ指導における専門的な知識を習得できる。 2. 健康指導やスポーツ指導における専門的な知識を実践の場で活用できる。 3. 健康指導における取り組みの事例について理解できる。 <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr><td>第 1 週</td><td>オリエンテーション</td></tr> <tr><td>第 2 週</td><td>世界、日本の健康の状況（ライフスタイルに関して）</td></tr> <tr><td>第 3 週</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 4 週</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 5 週</td><td>中・高齢者の機能的特性</td></tr> <tr><td>第 6 週</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 7 週</td><td>ヘルスプロモーションの実際について</td></tr> <tr><td>第 8 週</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 9 週</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 10 週</td><td>健康づくりのための運動（メタボ編）</td></tr> <tr><td>第 11 週</td><td>健康づくりのための運動（ロコモ編）</td></tr> <tr><td>第 12 週</td><td>ソーシャルキャピタルという考え方</td></tr> <tr><td>第 13 週</td><td>発育発達と老化からみた健康・スポーツ指導</td></tr> <tr><td>第 14 週</td><td>スポーツ競技と科学</td></tr> <tr><td>第 15 週</td><td>まとめ</td></tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 青木 高、他編集『健康・スポーツの指導』、建白社、2006年、¥2,205 (2) 成 和子 編著『ライフスキルのための改訂健康科学』、2008年、¥2,100 (3) 西平/文部科学省 21世紀 COE プログラム 『健康・スポーツ科学研究の推進中間成果報告書』2004年 <p>【参考文献】</p> <p>適宜資料として配付する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>講義の履修に際し、予習と復習を行うこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>討論への参加：50点、レポート：50点、合計：100点</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						第 1 週	オリエンテーション	第 2 週	世界、日本の健康の状況（ライフスタイルに関して）	第 3 週	〃	第 4 週	〃	第 5 週	中・高齢者の機能的特性	第 6 週	〃	第 7 週	ヘルスプロモーションの実際について	第 8 週	〃	第 9 週	〃	第 10 週	健康づくりのための運動（メタボ編）	第 11 週	健康づくりのための運動（ロコモ編）	第 12 週	ソーシャルキャピタルという考え方	第 13 週	発育発達と老化からみた健康・スポーツ指導	第 14 週	スポーツ競技と科学	第 15 週	まとめ
第 1 週	オリエンテーション																																		
第 2 週	世界、日本の健康の状況（ライフスタイルに関して）																																		
第 3 週	〃																																		
第 4 週	〃																																		
第 5 週	中・高齢者の機能的特性																																		
第 6 週	〃																																		
第 7 週	ヘルスプロモーションの実際について																																		
第 8 週	〃																																		
第 9 週	〃																																		
第 10 週	健康づくりのための運動（メタボ編）																																		
第 11 週	健康づくりのための運動（ロコモ編）																																		
第 12 週	ソーシャルキャピタルという考え方																																		
第 13 週	発育発達と老化からみた健康・スポーツ指導																																		
第 14 週	スポーツ競技と科学																																		
第 15 週	まとめ																																		

科目名	伝統武道特論			担当教員：盧 姜威 (非常勤講師) メールアドレス：lujiangwei320@gmail.com 研究室電話番号：	
科目名(英語)	Traditional Japanese Martial Arts				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	1～5	非常勤講師控室	講義終了後
<p>1. 授業の概要 この授業科目において、武道に内在する日本文化の本質を理解し、スポーツと異なる日本伝統武道の特質の理解を深めていくと同時に、武道全般にわたる基礎知識を的確に把握する。その上、沖縄伝統空手の歴史的変遷について考察していく。</p> <p>2. 到達目標 武道全般にわたる基礎知識を的確に把握する。文献資料の蒐集、分析、考察などの研究方法の基本を身につける。</p> <p>3. 授業の計画と内容 第1週 受講心得について 第2週 世界武芸文化の概観 第3週 日本伝統武道の諸相 第4週 日本武道成立の歴史的要件 第5週 日本武道の歴史的な歩み 第6週 技芸文化としての武道 第7週 武道とスポーツ 第8週 中国・日本・沖縄の文武両道観 第9週 沖縄伝統空手道の事象①—廃藩置県前 第10週 沖縄伝統空手道の事象②—明治期 第11週 沖縄伝統空手道の事象③—大正期 第12週 沖縄伝統空手道の事象④—昭和期 第13週 沖縄伝統空手道の組織化 第14週 沖縄伝統空手道の国際化 第15週 まとめ 第16週 期末試験 (或いはレポート提出)</p> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 適宜プリントを配布する。 【参考文献】 (1) 中林信二 (著) 『武道のすすめ』 中林信二先生遺作集刊行会 1987年 (2) 高橋富雄 (著) 『武士の心日本の心：武士道評論集』 (上巻) 近藤出版社 1991年 (3) 高宮城繁・比嘉敏雄・比嘉勝芳 (編著) 『沖縄空手道概説—武道空手の諸相—』 沖縄空手道協会北谷道場 1996年 (4) 田中守・[ほか] (著) 『武道を知る』 不昧堂出版 2000年 (5) 高宮城繁・比嘉敏雄 (編著) 『武魂—奥妙在錬心』 沖縄空手道協会北谷道場 2002年 (6) 新渡戸稲造 (著) 奈良本辰也 (訳) 『武士道』 三笠書房 2004年</p> <p>5. 準備学習 事前に配布した資料を予習する。</p> <p>6. 成績評価の方法 受講態度 50点 課題発表 20点 期末試験 30点 合計 100点</p> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>					

科目名	スポーツトレーニング・コーチング特論			担当教員：平野 貴也	
科目名(英語)	Sports Training & Coaching			メールアドレス：t.hirano@meio-u.ac.jp	
				研究室電話番号：0980-51-1532	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	3	人研 205	研究室に掲示
<p>1. 授業の概要</p> <p>種目特性に応じたパフォーマンス向上のためのトレーニングのあり方とコーチングの原則やコーチング理論と方法論について理解し、競技選手はもちろん、ジュニアから高齢者まで生涯を通じての健康で生き生きとした生活を送るためのトレーニング指導・指導方法について学ぶ。テーマを設定し、テーマに関する文献を読み、効果的にトレーニング・コーチングを行うための問題解決法や評価法を取り上げて検討を加えるとともに、実践事例を踏まえながらトレーニング・コーチングについてディスカッションを行う。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>身体的トレーニングおよびコーチングの原則に基づいて健康維持増進、競技力向上に効果的なスポーツの実践法およびトレーニング法・指導方法に関する専門的知識および理論の理解を深める。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 回 オリエンテーション (コーチングの原則)</p> <p>第 2 回 トレーニングの基礎的理解と指導方法 (パフォーマンスの向上、指導者の役割の理解)</p> <p>第 3 回 目標設定とコーチングスタイルの確立 (指導目標の設定、運動者の問題と課題)</p> <p>第 4 回 選手とのコミュニケーション (コーチングにおけるコミュニケーションスキルの理解)</p> <p>第 5 回 コーチングスキル (モチベーションの高揚)</p> <p>第 6 回 運動スキル獲得の特性 (特性の理解と指導方法)</p> <p>第 7 回 トレーニング計画① (年齢、体力、心身の発達に応じた適時性)</p> <p>第 8 回 トレーニング計画② (年間計画や期間計画、ケガの予防と対処)</p> <p>第 9 回 トレーニング方法と指導法① (レジスタンス系)</p> <p>第 10 回 トレーニング方法と指導法② (有酸素系)</p> <p>第 11 回 トレーニング分析と評価 (パフォーマンスの分析と評価方法、フィードバックの活用)</p> <p>第 12 回 コーチング・トレーニング環境の整備 (技術、用具、練習時間、費用、安全管理)</p> <p>第 13 回 トレーニングに関する諸問題 (文献・論文を読みレポートし、事例をあげてディスカッション)</p> <p>第 14 回 コーチングに関する諸問題 (文献・論文を読みレポートし、事例をあげてディスカッション)</p> <p>第 15 回 発表とまとめ (トレーニング・コーチングに関する課題についてまとめ、発表)</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>適時プリントを配布する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>講義の履修に際し、予習と復習を行うこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>受講態度・学習への取り組み 40点</p> <p>発表の内容 30点</p> <p>レポート課題 40点</p> <p>6. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>※予習：次回のテーマについての文献を精読しておくこと。</p> <p>8. その他</p> <p>トレーニング実践及び指導実践を伴う内容については連続した講義時間が必要となるため週末もしくは夏季休暇期間に実施する予定である。</p>					

科目名	ヘルスプロモーション・ウェルネス特論			担当教員：野崎 康明（非常勤講師）	
科目名(英語)	Health Promotion and Wellness			メールアドレス： 研究室電話番号：	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	非常勤講師控室	講義終了後
<p>1. 講義内容</p> <p>より幸福で充実した人生を目標とするウェルネス概念を中心として、ヘルスプロモーション・ウェルネス論の歴史と概念を学び、実習を通してより深く理解し、各自がよりよい健康生活プログラムの作成が可能となる能力を習得することを旨とする。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>上記の講義内容を理解し、ヘルスプロモーション・ウェルネスの計画および実践について活用できるようになることを目標とする。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1回 授業についてのオリエンテーションと自己紹介実習 第2回 ヘルスプロモーション・ウェルネス概念の歴史と三角形実習 第3回 ウェルネス概念の理解と行動変容の実習 第4回 〃 第5回 ストレスマネジメント論とストレスチェック実習 第6回 リラクゼーション理論とリラクゼーション実習 第7回 コミュニケーションの理論と実習 第8回 〃 第9回 タイムマネジメント理論と実習 第10回 人生設計論と実習 第11回 デスラーニング論と実習 第12回 ホスピスについての学び 第13回 余暇の過ごし方と実習 第14回 ウェルネス保養論 第15回 ヘルスプロモーション・ウェルネスプログラムの作成 第16週 まとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 特になし</p> <p>【参考文献】 (1) 島之内憲夫 訳、21世紀の健康戦略3 ヘルスプロモーション～戦略・活動・研究政策～、垣内出版、¥1,800+税 (2) 野崎康明 著、ウェルネスの理論と実践、丸善メイツ、1994年、(現在絶版、ただし、大学図書館に在庫あり) (3) 島之内憲夫 編著、ヘルスプロモーション講座、順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチセンター、2005年 (4) 島之内憲夫 編訳、21世紀の健康戦略4～ヘルシー・ライフ～新しい公衆衛生を目指して～、垣内出版、¥2,000+税 (5) 野崎康明 著 ウェルネスマネジメント メイツ出版</p> <p>5. 準備学習</p> <p>事前に参考文献を読み込んでおくこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>評価は次の視点から総合的に行う</p> <p>(1) 授業への取り組み(30点)：授業態度、討論・グループワークへの積極的参加 (2) 課題レポート(70点)</p> <p>7. 履修の条件要件</p> <p>特にないが、健康政策立案に関心のあることが望ましい。</p> <p>8. その他</p> <p>(1) 集中講義となるので、上記の講義は4回(又は5回)に分けて行う。 (2) 講義の形態は講義と実習を主体とし、討論、グループワークも行う。</p>					

科目番号	科目名	スポーツ文化特論		担当教員：大峰 光博	
	科目名(英語)	Advanced Course of Sport Culture		E-mail：m.omine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後学期	5	人間健康学部実 験実習棟 210	火曜 2 限、木曜 2 限、

1. 授業の概要：
2011年6月にスポーツ基本法が公布され、「スポーツは、世界共通の人類の文化である。」と明記された。スポーツに対する社会的な期待は大きい一方で、2018年にはスポーツ界の不祥事がマスメディアにおいて大きく取り上げられた。本授業ではスポーツ文化の功罪について、哲学と歴史の観点から検討する。スポーツ文化論の知見を提示しつつ、現在進行形で生じているスポーツの諸問題についてディスカッションを行う。

2. 教育目標：
(1) 現在進行形で生じているスポーツの諸問題について理解する。
(2) スポーツ哲学とスポーツ史の学術的成果を理解する。

3. 授業の計画と内容
1 オリエンテーション(授業の概要と進め方、成績評価、受講上の注意点)
2 スポーツ概念の検討(スポーツマンシップ概念の変遷)
3 オリンピックレガシーの検証①(古代オリンピックの終焉と近代オリンピックの復興)
4 オリンピックレガシーの検証②(オリンピックの経済効果)
5 オリンピックレガシーの検証③(1964年の東京オリンピックと沖縄の聖火リレー)
6 ドーピング①(近年のドーピング事例と方法)
7 ドーピング②(スポーツ哲学領域におけるドーピングの是非論)
8 運動部活動の課題(教員の働き方改革)
9 プレゼンテーションとディスカッション
10 スポーツにおける暗黙のルールという文化(野球の報復死球、乱闘)
11 スポーツと暴力①(スポーツにおける体罰、ハラスメント事例)
12 スポーツと暴力②(スポーツと暴力の親和性)
13 スポーツと差別①(スポーツにみる階級差別と人種的ステレオタイプ)
14 スポーツと差別②(能力差別としてのスポーツ、中島義道による差別論)
15 授業の総括

4. 参考文献：
川谷茂樹著『スポーツ倫理学講義』(ナカニシヤ出版、2005年)
大峰光博著『野球における暴力の倫理学』(晃洋書房、2016年)
大峰光博著『スポーツにおける逸脱とは何か：スポーツ倫理と日常倫理のジレンマ』(晃洋書房、2019年)

5. 準備学習：
図書、新聞、雑誌などを通して、スポーツに関する諸問題について調べておくことが望ましい。

6. 成績評価の方法：
授業でのプレゼンテーション・ディスカッション(40点)と期末報告レポート(60点)の結果から評価する。

7. 履修の条件：
特になし。

8. その他：
シラバスはクラスの状況、講義の進行状況によって変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。

科目番号	科目名	バイオメカニクス特論		担当教員：玉城 将	
	科目名(英語)	Advanced Course of Biomechanics		s.tamaki@meio-u.ac.jp 0980-51-1522	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後	5	人206	
1. 授業の概要					
<p>本授業では動きを力学的に定量化することの意義と方法について実践的を通して学ぶ。スポーツ選手の卓越した技術を説明する力学的メカニズム、運動傷害を引き起こす動作要因など、身体運動を力学的に分析することで初めて明らかになる有用な事実は多い。バイオメカニクスは、そのような動きの力学的な分析を扱う学問である。本授業では演習を通してバイオメカニクスの分析手法の習得を目指すと同時に、運動指導におけるバイオメカニクスの意義を理解する。</p>					
2. 到達目標					
(1) ヒトの身体動作をバイオメカニクスの的に分析できる					
(2) バイオメカニクスの意義を説明できる					
3. 授業の計画と内容					
第1週	バイオメカニクスとは				
第2週	モーションキャプチャシステムの使い方				
第3週	キネマティクスのパラメータを用いた動作の数値化				
第4週	垂直跳のキネマティクスの動作分析① 動作の計測				
第5週	垂直跳のキネマティクスの動作分析② 動作の分析				
第6週	歩行のキネマティクスの動作分析① 動作の計測				
第7週	歩行のキネマティクスの動作分析② 動作の分析				
第8週	フォースプレートの使い方				
第9週	垂直跳における地面反力の分析				
第10週	モーションキャプチャシステムとフォースプレートの同期方法				
第11週	垂直跳のキネティクスの動作分析① 動作の計測				
第12週	垂直跳のキネティクスの動作分析② 動作の分析 (上肢の関節トルク算出)				
第13週	垂直跳のキネティクスの動作分析③ 動作の分析 (下肢の関節トルク算出)				
第14週	垂直跳のキネティクスの動作分析④ 動作の分析 (上肢と下肢の関連)				
第15週	まとめ				
4. テキスト					
授業時に、プリントを配布する					
5. 準備学習					
実験データの分析は授業外で行う。					
6. 成績評価の方法					
1) 平常点 (グループワーク、演習への取り組み状況) : 20点					
2) レポート : 80点 (全4回求め、1回最大20点で採点)					
7. 履修の条件					
<ul style="list-style-type: none"> 本講義は以下に示す数学および物理の知識を理解していることが求められる。受講前に十分に復習しておくこと。 高校数学 : 三角関数 (sin, cos, tan)、相関係数 (意味、散布図)、2点間の距離、ベクトル (成分、合成、分解) 高校物理 : 速度、加速度、角速度、角加速度 本講義は Excel を用いた分析を多用する。以下のキーワードを手がかりに、Excel の使い方を事前に学習しておくこと。 四則演算、べき乗の計算、平方根の演算、セル参照、数式のコピー、相対参照と絶対参照、折れ線グラフ、散布図 関数 (AVERAGE, SUM, STDEV.S, MAX, MIN, MEDIAN, QUARTILE.INC, DEGREES 関数, ASIN, ACOS, ATAN) 					
8. その他					
<ul style="list-style-type: none"> 配布資料や実験データは Google ドライブで共有する シラバスは進行状況等により変更することがある 					

履 修 モ デ ル

沖縄県内4大学の人文社会科学系 大学院間単位互換協定

名桜大学大学院教員名簿

建 物 配 置 図

履修モデル

()の数字は単位数を示す

年次, セメスター 他 領域名	1年次		2年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第1セメスター	第2セメスター
言語文化教育研究領域	【共通科目:6単位】 学術研究方法特論(2) 人文科学特論(2) 社会心理学特論(2)			
	【教育研究領域科目:10単位】 言語文化研究演習Ⅰ(2) 言語学特論Ⅰ(2) 米文学特論(2) 沖縄地域文化研究特論(2) 東南アジア文化特論(2)	【教育研究領域科目:10単位】 言語文化研究演習Ⅰ(2) 言語学特論Ⅱ(2) リサーチ方法特論(2) 日本史特論(2) 第2言語習得特論(2)	【教育研究領域科目:2単位】 言語文化研究演習Ⅱ(2)	【教育研究領域科目:2単位】 言語文化研究演習Ⅱ(2)
社会制度政策教育研究領域	【共通科目:6単位】 学術研究方法特論(2) 政策科学特論(2) 社会心理学特論(2)			
	【教育研究領域科目:10単位】 社会制度政策研究演習Ⅰ(2) 国際政治特論Ⅰ(2) 地域開発政策特論(2) 経済政策特論(2) 国際協力・ボランティア特論(2)	【教育研究領域科目:10単位】 社会制度政策研究演習Ⅰ(2) 国際政治特論Ⅱ(2) 都市政策特論(2) 地域活性化特論(2) 公法学特論(2)	【教育研究領域科目:2単位】 社会制度政策研究演習Ⅱ(2)	【教育研究領域科目:2単位】 社会制度政策研究演習Ⅱ(2)
経営情報教育研究領域	【共通科目:6単位】 学術研究方法特論(2) 社会心理学特論(2) 政策科学特論(2)			
	【教育研究領域科目:10単位】 経営情報研究演習Ⅰ(2) 経営戦略特論(2) 情報交流特論(2) 小集団心理学特論(2) e-ビジネス特論(2)	【教育研究領域科目:10単位】 経営情報研究演習Ⅰ(2) 経営活動情報特論(2) 比較経営学特論(2) 情報知能特論(2) マーケティング特論(2)	【教育研究領域科目:2単位】 経営情報研究演習Ⅱ(2)	【教育研究領域科目:2単位】 経営情報研究演習Ⅱ(2)
観光環境教育研究領域	【共通科目:6単位】 学術研究方法特論(2) 環境科学特論(2) 政策科学特論(2)			
	【教育研究領域科目:10単位】 観光環境研究演習Ⅰ(2) エコツーリズム特論(2) 観光開発特論(2) 観光資源特論(2) 観光調査法特論(2)	【教育研究領域科目:10単位】 観光環境研究演習Ⅰ(2) 観光政策特論(2) 島嶼文化特論(2) 観光市場分析特論(2) 観光文化特論(2)	【教育研究領域科目:2単位】 観光環境研究演習Ⅱ(2)	【教育研究領域科目:2単位】 観光環境研究演習Ⅱ(2)
健康科学教育研究領域	【共通科目:6単位】 学術研究方法特論(2) 健康科学特論(2) 社会心理学特論(2)			
	【教育研究領域科目:10単位】 健康科学研究演習Ⅰ(2) スポーツレニング・コーチング特論(2) ヘルスプロモーション・ウェルネス特論(2) 地域保健学特論(2) 伝統武道特論(2)	【教育研究領域科目:10単位】 健康科学研究演習Ⅰ(2) グローバル・ヘルス特論(2) 健康心理学特論(2) 健康栄養学特論(2) 健康・スポーツ指導特論(2)	【教育研究領域科目:2単位】 健康科学研究演習Ⅱ(2)	【教育研究領域科目:2単位】 健康科学研究演習Ⅱ(2)

※各教育研究領域の「研究演習Ⅰ」及び「研究演習Ⅱ」は通年の4単位科目であるが、表記上、第1セメスターを2単位、第2セメスターを2単位として計算している。

名桜大学3つのポリシー
 学則及び諸規程
 授業科目名・単位数・担当教員
 名・授業科目の概要、シラバス
 シラバス
 共通科目
 シラバス
 言語文化
 シラバス
 社会制度
 シラバス
 経営情報
 シラバス
 観光環境
 シラバス
 健康科学
 シラバス
 履修モデル
 互換協定・大学院教員名簿・建物配置図
 県内4大学の大学院間単位

沖縄県内4大学の人文社会科学系大学院間単位互換協定

【担当部署：教務課】

沖縄県内4大学単位互換協定大学院で単位の修得を希望する学生「特別聴講学生」は、各自で担当指導教員と相談し指導を受けた上で、受講を希望する大学院（派遣先）の授業科目担当教員に受講希望を伝え、内諾を得てから派遣先の大学院担当窓口で必要書類を受け取り、各大学院の手続方法に従い登録を行います。

他大学院で修得した単位は、本学大学院で修得した単位とみなし認定されます。

なお、所属する大学以外の協定大学院で履修する場合の登録手続等及び履修開始の時期は、各大学院に委ねられます。

1. 申請資格

単位互換に関する協定を締結した大学院に在籍する者。

2. 授業科目の範囲

原則として全開講科目が対象科目になります。なお、履修できる単位数は、10単位を上限とします。ただし、次の科目は登録できません。

- (1) 修士論文作成を指導する科目。
- (2) 実験設備等で受入れの人数が制約される科目。
- (3) 担当教員または各大学の事情により協定大学の学生を受け入れることが適切でないと認めた科目。

【単位互換科目の例外】

科目提供大学の学生に当該科目の履修希望者がいない場合は、他の協定大学の学生に履修希望者がいても、当該科目は単位互換の対象科目としない。

3. 授業料等について

通常通り本学へ納入して下さい。

4. 履修報告

登録手続後、教務課へ「特別聴講学生」として登録したことを、手続書類（願書・登録カード等）の写しを添えて必ず報告して下さい。

5. 単位認定

派遣先大学院で修得した単位は、学生本人が、成績証明書の交付を受け、「単位認定申請書」を添えて教務課へ提出して下さい。提出された「単位認定申請書」により、本学大学院国際文化研究科委員会の審議を経て学長が単位を認定します。

【沖縄県内4大学大学院の人文社会科学系大学院間単位互換協定大学院一覧】

No.	大学院名（研究科名）
1	沖縄大学大学院（現代沖縄研究科）
2	沖縄国際大学大学院（地域文化研究科・地域産業研究科・法学研究科）
3	名桜大学大学院（国際文化研究科）
4	琉球大学大学院（人文社会科学系研究科前期課程）

※上記協定大学大学院のシラバス等の資料は、教務課窓口でご覧ください。

名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程） 教員名簿
【言語文化教育研究領域】

職名	氏名	主な担当科目	研究室	備考
教授	あかみねまもる 赤嶺守	中流関係史基礎特論		
教授	かのうひであき 嘉納英明	比較教育文化思想特論	研510	
教授	こつがいとおる 小番達	日本古典文学特論	研504	
教授	すみえじゅんじ 住江淳司	中南米文化特論	研505	
教授	とけしまさのり 渡慶次正則	英語教育評価特論	研512	
教授	なかむらこういちろう 中村浩一郎	言語学特論Ⅰ	研501	
教授	はてるまえいきち 波照間永吉	琉球・沖縄文化特論序説		
教授	よなはけいこ 与那覇恵子	英語教授法特論Ⅰ	研513	
教授	やまざとじゅんいち 山里純一	琉球精神文化特論		
教授	りちんよん 李鎮榮	異文化接触特論	研213	
上級准教授	こじまようすけ 小嶋洋輔	日本近代文学特論	研415	
上級准教授	てるやまこと 照屋理	琉球文学特論	研508	
上級准教授	やらけんいちろう 屋良健一郎	日本史特論	研402	
上級准教授	つぼいゆうじ 坪井祐司	東南アジア文化特論		
上級准教授	めーがんくっくるまん メーガンクックルマン	米詩特論	研404	
非常勤講師	いしはらまさひで 石原昌英	地域言語学特論Ⅰ	非常勤講師控室	
非常勤講師	なかはらじょう 仲原穰	地域言語学特論Ⅱ	非常勤講師控室	
非常勤講師	なかがわりょうこ 中川僚子	英文学特論	非常勤講師控室	
非常勤講師	かわはらしげと 川原繁人	英語音声学特論	非常勤講師控室	
非常勤講師	なかむらせいじ 中村誠司	沖縄地域文化研究特論	非常勤講師控室	

【社会制度政策教育研究領域】

職名	氏名	主な担当科目	研究室	備考
教授	たかみねつかさ 高嶺司	国際政治特論	研503	
教授	おおしろわたる 大城渡	公法学特論	研410	
上級准教授	すがのあつし 菅野敦志	東アジア地域特論	研507	
上級准教授	みやぎとしろう 宮城敏郎	地域開発政策特論	研204	
非常勤講師	たかみねあきら 高嶺晃	都市政策特論	非常勤講師控室	

名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程） 教員名簿

【経営情報教育教育研究領域】

職名	氏名	主な担当科目	研究室	備考
教授	ありふあてへるありむえふ アリフアテヘルアリム E	情報知能特論	研313	
教授	きむらけんいち 木村堅一	社会心理学特論	研310	
教授	きんじょうあきら 金城亮	小集団心理学特論	研314	
教授	たなべかつよし 田邊勝義	経営活動情報特論	研307	
教授	なかおじょうこ 仲尾次洋子	会計学特論	研302	
教授	なかざとしゆう 中里収	情報交流特論	研312	
教授	みやひらしげはる 宮平栄治	産業組織特論	研315	
教授	はやしゆうこ 林優子	経営戦略特論	研308	
非常勤講師	へしきてつお 平敷徹男	マーケティング特論	非常勤講師控室	

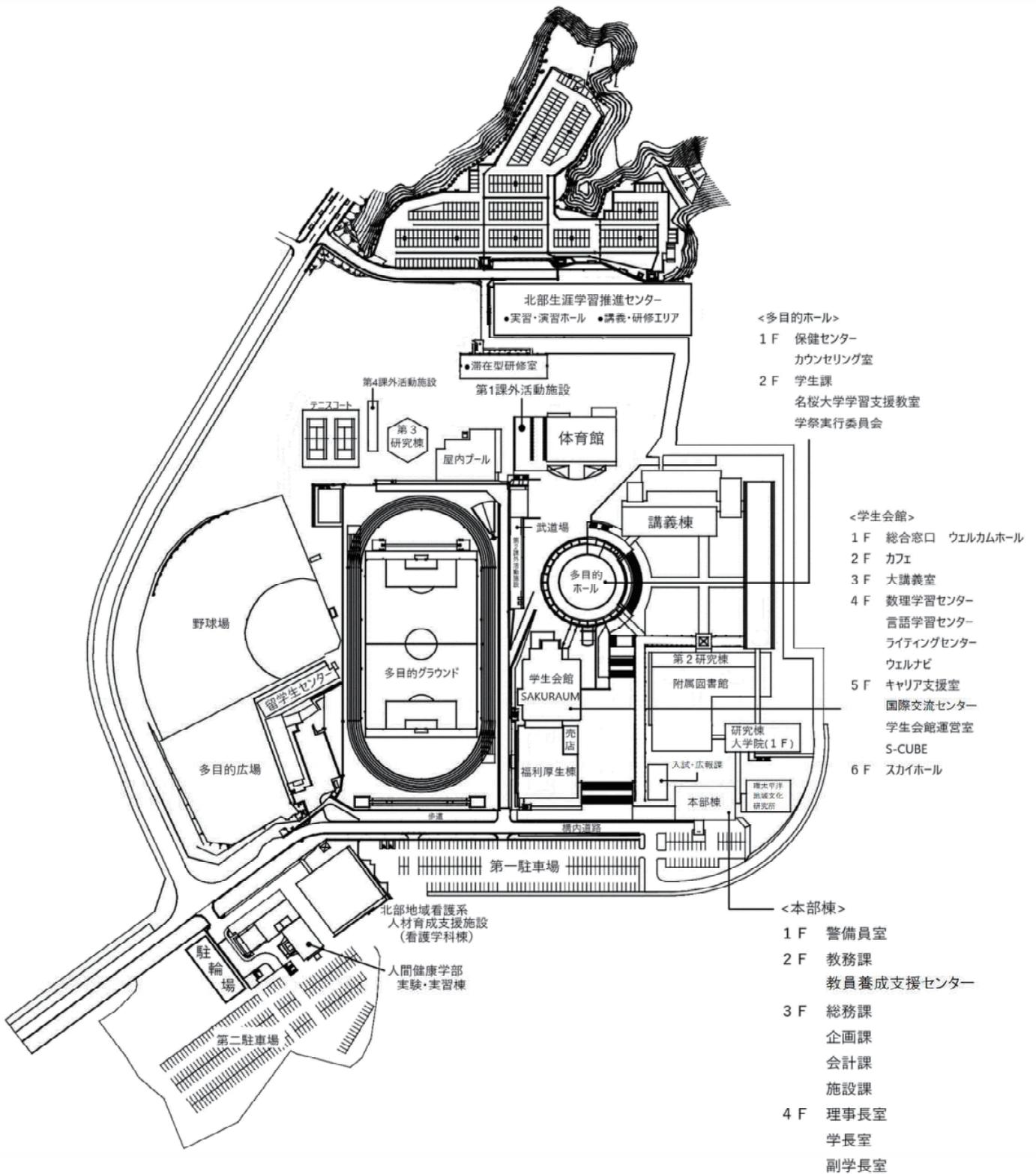
【観光環境教育研究領域】

職名	氏名	主な担当科目	研究室	備考
教授	あらかきゆうじ 新垣裕治	エコツーリズム特論	研202	
教授	たしろゆたか 田代豊	環境科学特論	研207	
上級准教授	おおたにけんたろう 大谷健太郎	観光開発特論	研209	
上級准教授	ほじょんすく 許点淑	観光文化特論	研201	
非常勤講師	ばくじえとく 朴在徳	観光市場分析特論	非常勤講師控室	
非常勤講師	くろえひろあき 黒江浩紹	ホテル実務特論	非常勤講師控室	

【健康科学教育研究領域】

職名	氏名	主な担当科目	研究室	備考
教授	おがわすみこ 小川寿美子	グローバル・ヘルス特論	研608	
教授	ひらのたかや 平野貴也	スポーツトレーニング・コーチング特論	人研205	
教授	たかせこういち 高瀬幸一	健康・スポーツ指導特論	研203	看護学研究科教授
准教授	おおみねみつはる 大峰光博	スポーツ文化特論	人研210	
准教授	たまきしろう 玉城将	バイオメカニクス特論	人研206	
非常勤講師		社会福祉学特論	非常勤講師控室	
非常勤講師	のぎきやすあき 野崎康明	ヘルスプロモーション・ウェルネス特論	非常勤講師控室	
非常勤講師	しんじょうすみえ 新城澄枝	健康栄養学特論	非常勤講師控室	
非常勤講師	みやぎまさや 宮城政也	健康心理学特論	非常勤講師控室	
非常勤講師	よしかわちえこ 吉川千恵子	地域保健学特論	非常勤講師控室	
非常勤講師	ろがい 盧姜威	伝統武道特論	非常勤講師控室	

名桜大学 建物配置図



名桜大学3つのポリシー

学則及び諸規程

授業科目名・単位数・担当教員
名・授業科目の概要、シラバス

シラバス
共通科目

シラバス
言語文化

シラバス
社会制度

シラバス
経営情報

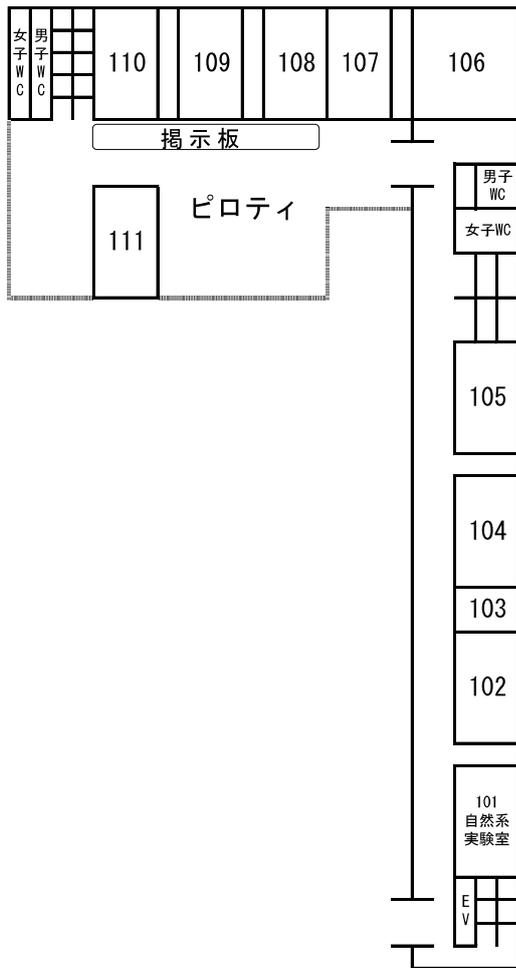
シラバス
観光環境

シラバス
健康科学

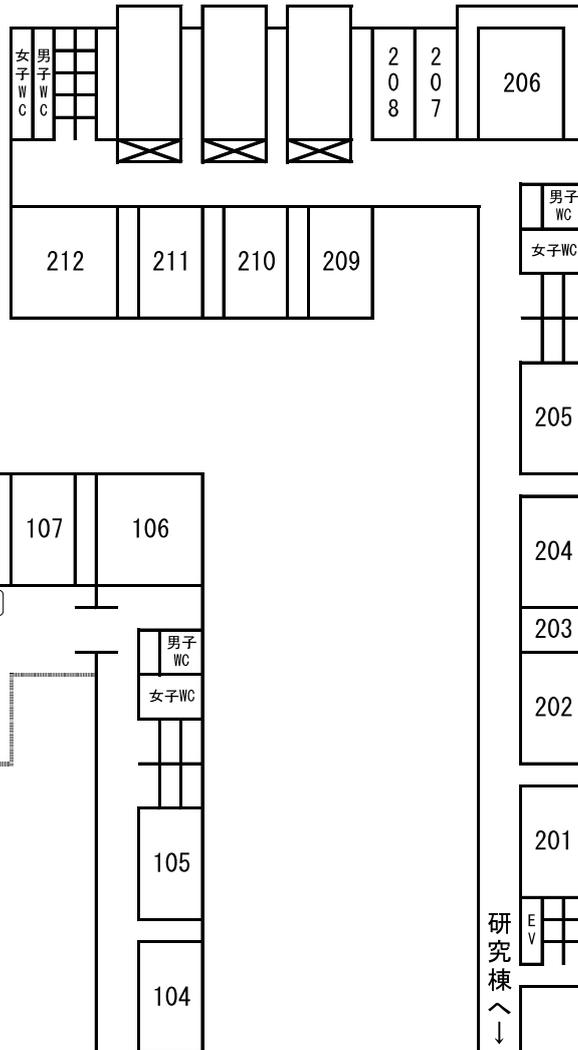
履修モデル・県内4大学の大学院間単位
互換協定・大学院教員名簿・建物配置図

講義棟

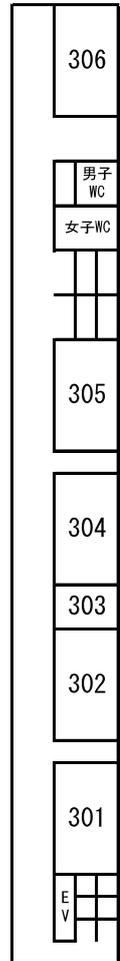
1 F



2 F



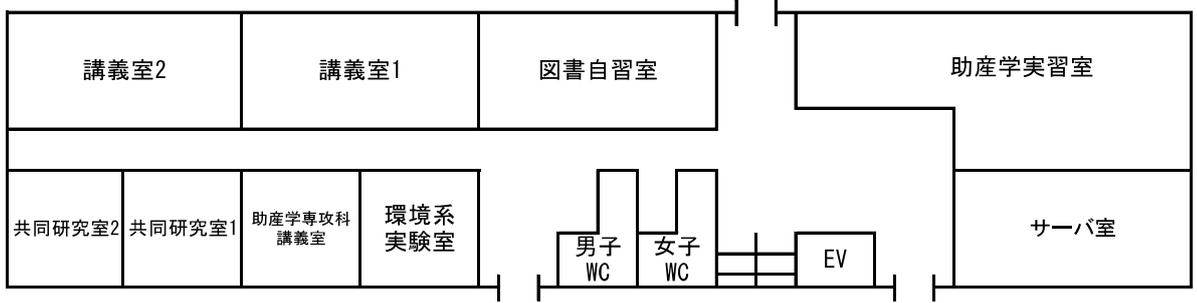
3 F



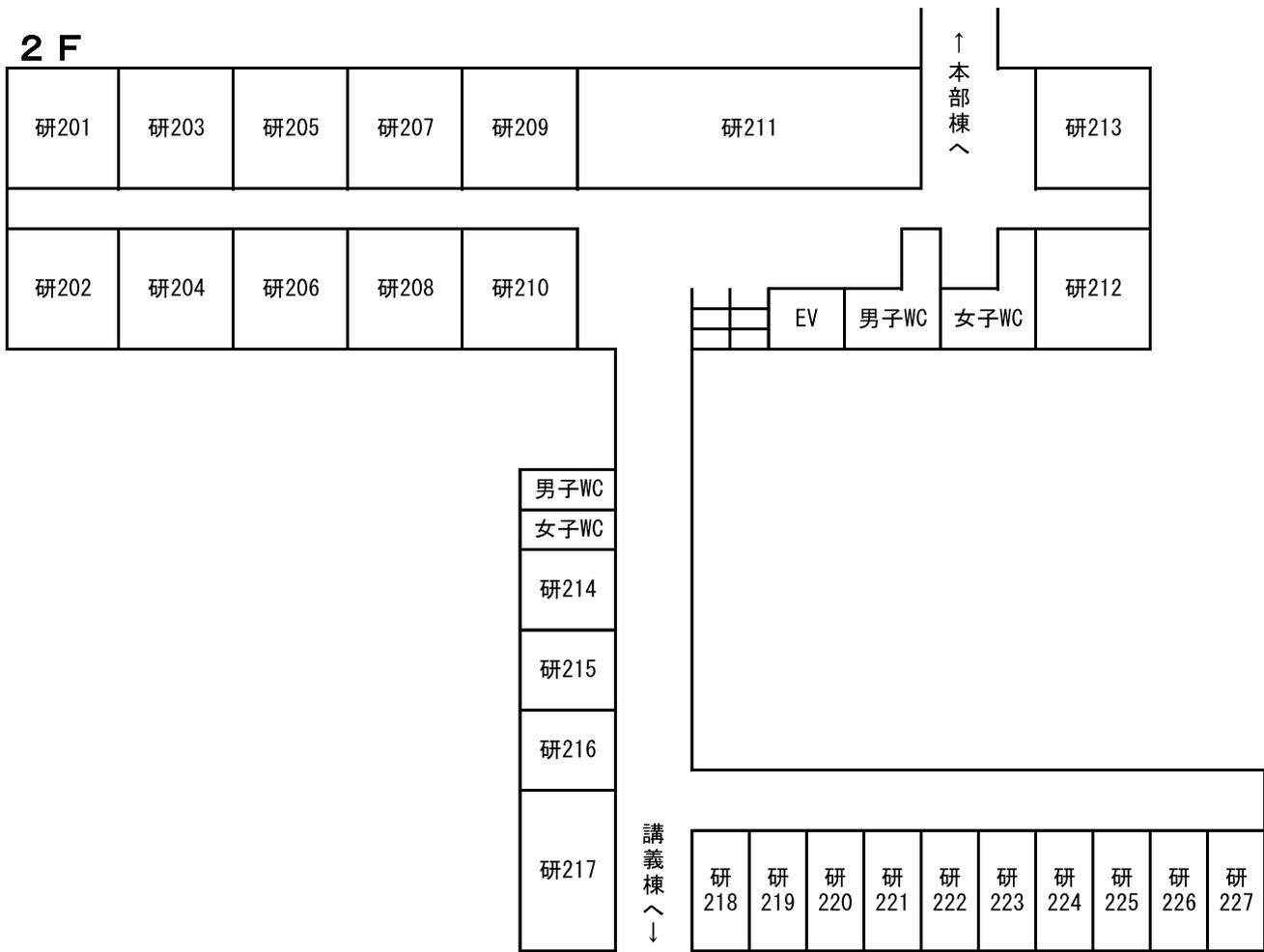
※ 講義棟の講義室は「講***」と略して表記されることがあります

研究棟

1 F (大学院・専攻科)



2 F



※ 教員の研究室は「研***」以外に「人研***」「看研***」等あり、
 「人研***」は人間健康学部実験・実習棟に、「看研***」は看護学科棟にあります

3 F

研301	研303	研305	研307	研309	研311			研313	研315	
研302	研304	研306	研308	研310	研312		EV	男子WC	女子WC	研314

4 F

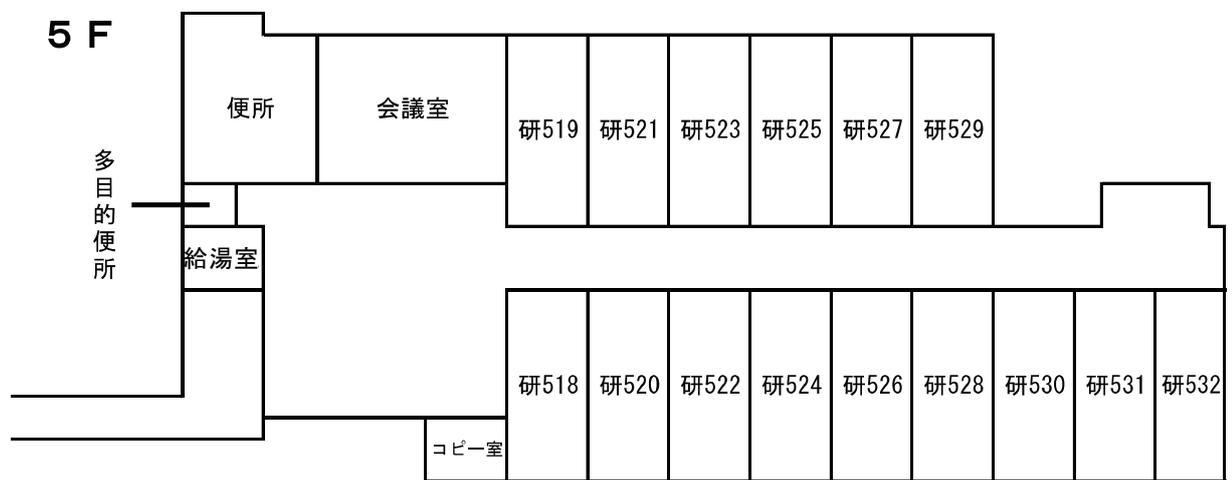
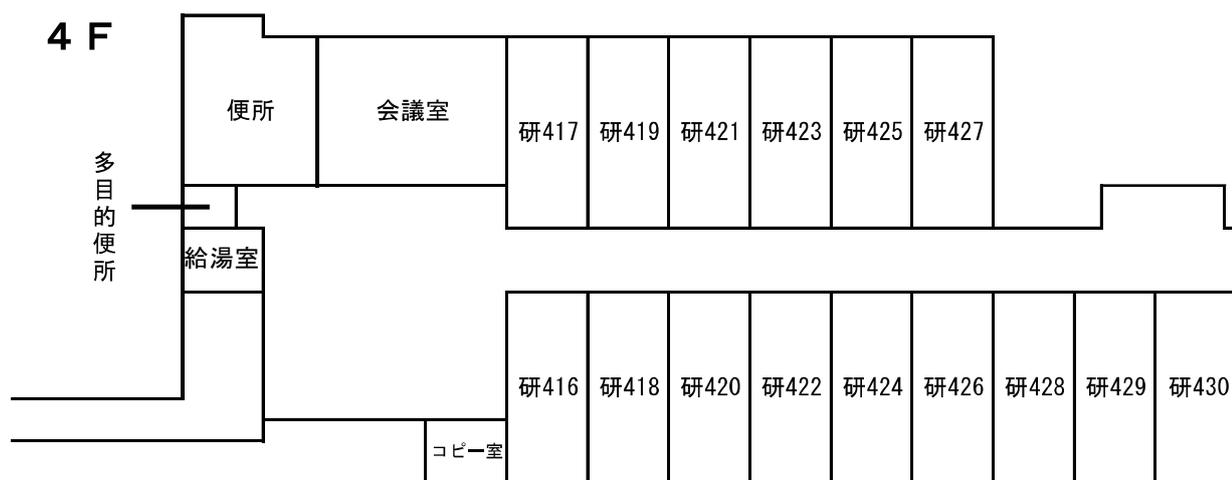
研401	研403	研405	研407	研409	研411			研413	研415	
研402	研404	研406	研408	研410	研412		EV	男子WC	女子WC	研414

5 F

研501	研503	研505	研507	研509	研511	研513	研517	研515	研516	
研502	研504	研506	研508	研510	研512		EV	男子WC	女子WC	研514

※ 教員の研究室は「研***」以外に「人研***」「看研***」等あり、
「人研***」は人間健康学部実験・実習棟に、「看研***」は看護学科棟にあります

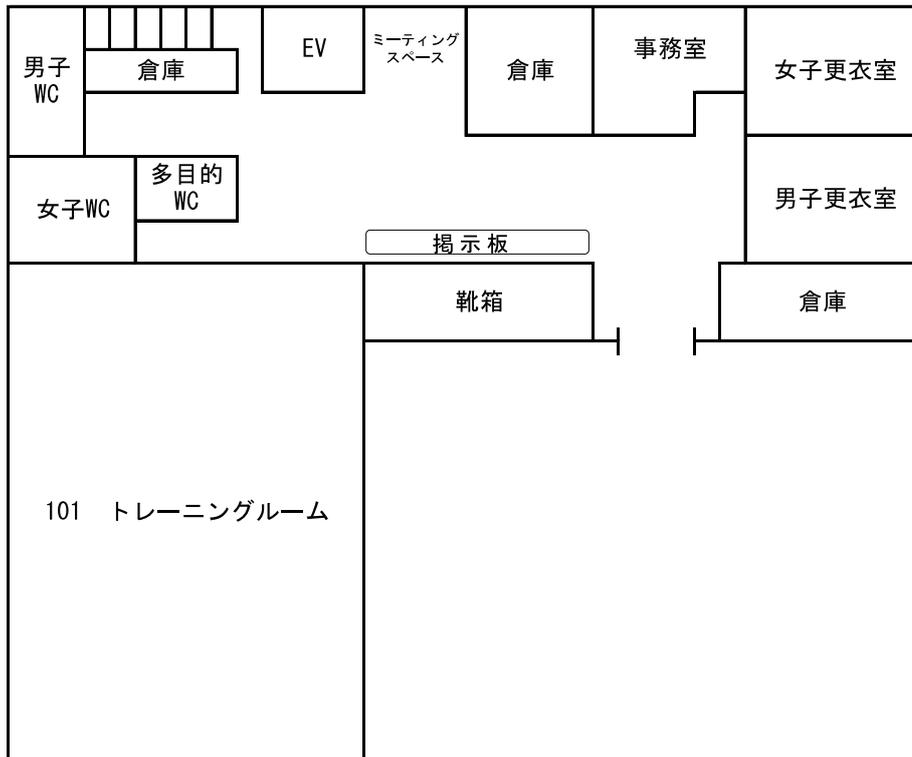
附属図書館



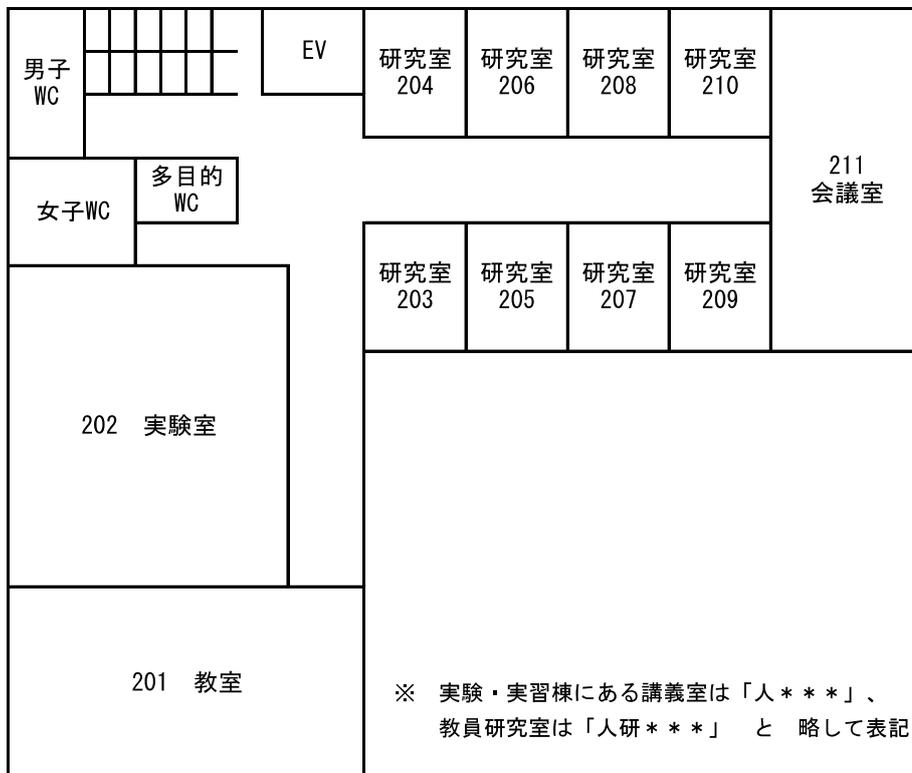
※ 教員の研究室は「研***」以外に「人研***」「看研***」等あり、
 「人研***」は人間健康学部実験・実習棟に、「看研***」は看護学科棟にあります

人間健康学部 実験・実習棟

1 F

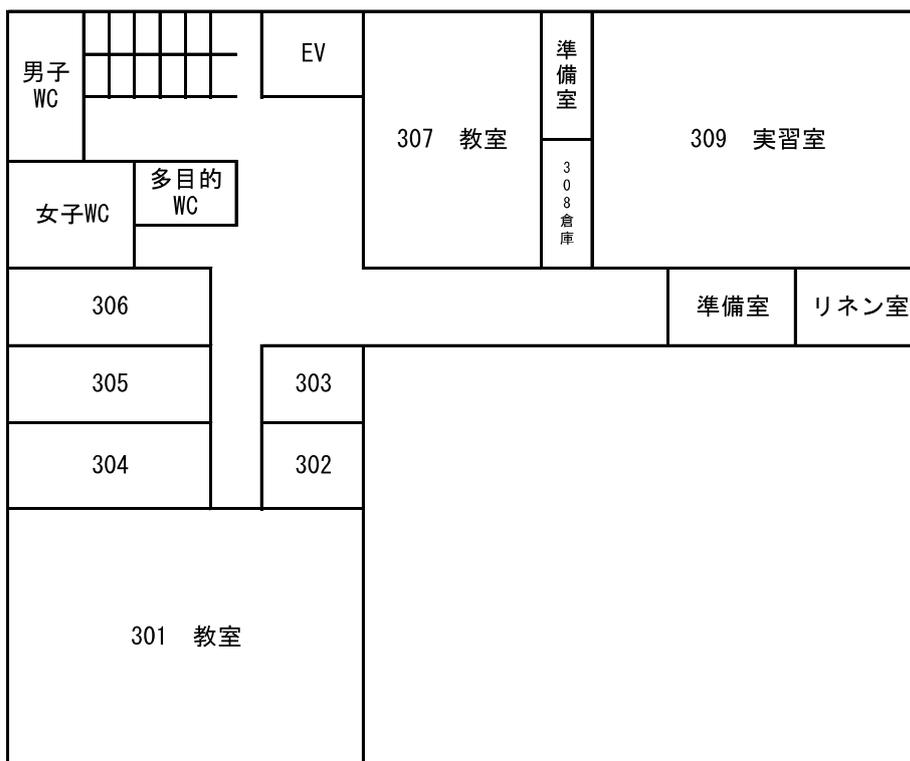


2 F

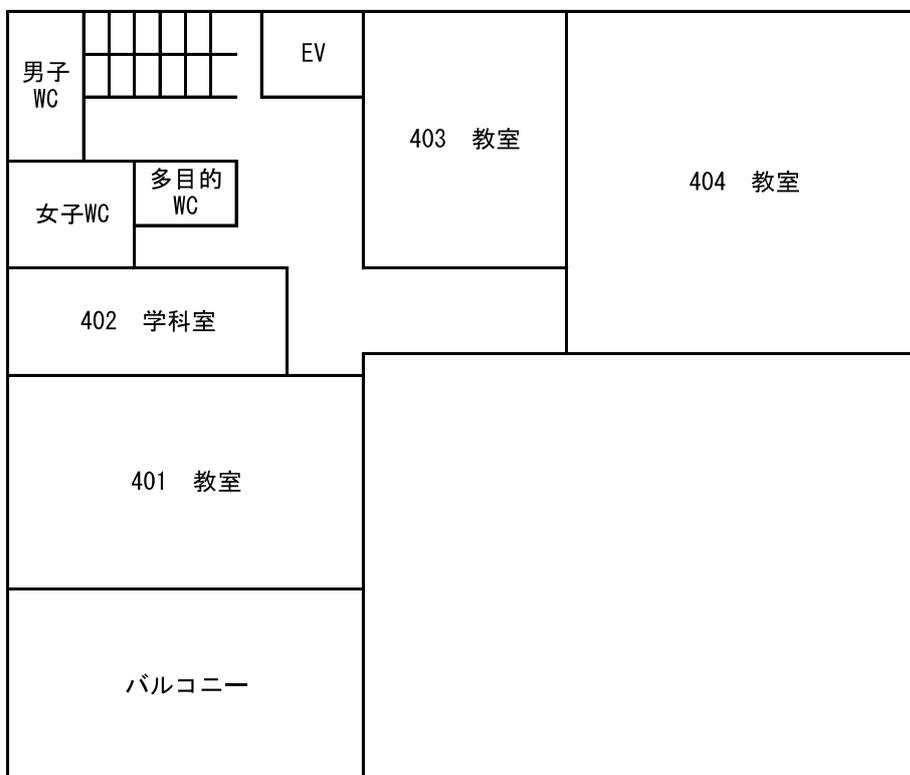


※ 実験・実習棟にある講義室は「人***」、
教員研究室は「人研***」と略して表記されることがあります

3 F

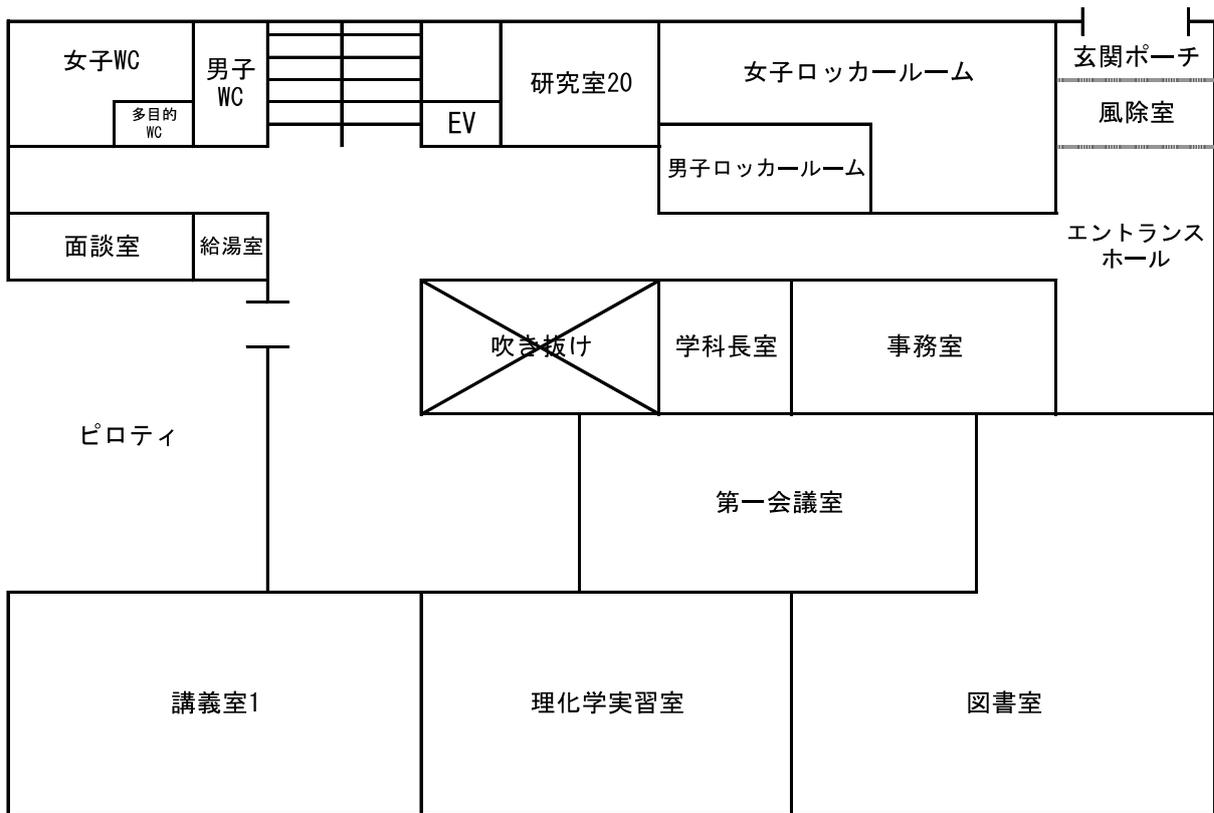


4 F

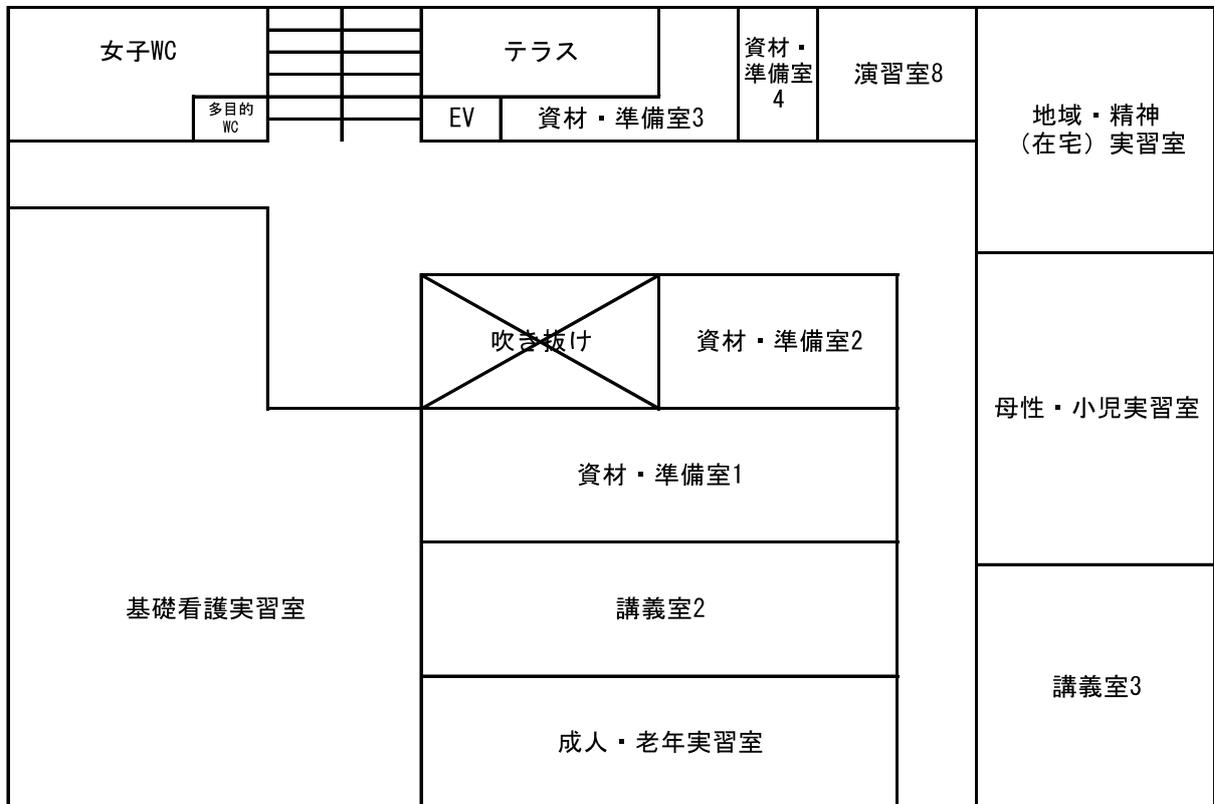


北部地域看護系人材育成支援施設（看護学科棟）

1 F



2 F



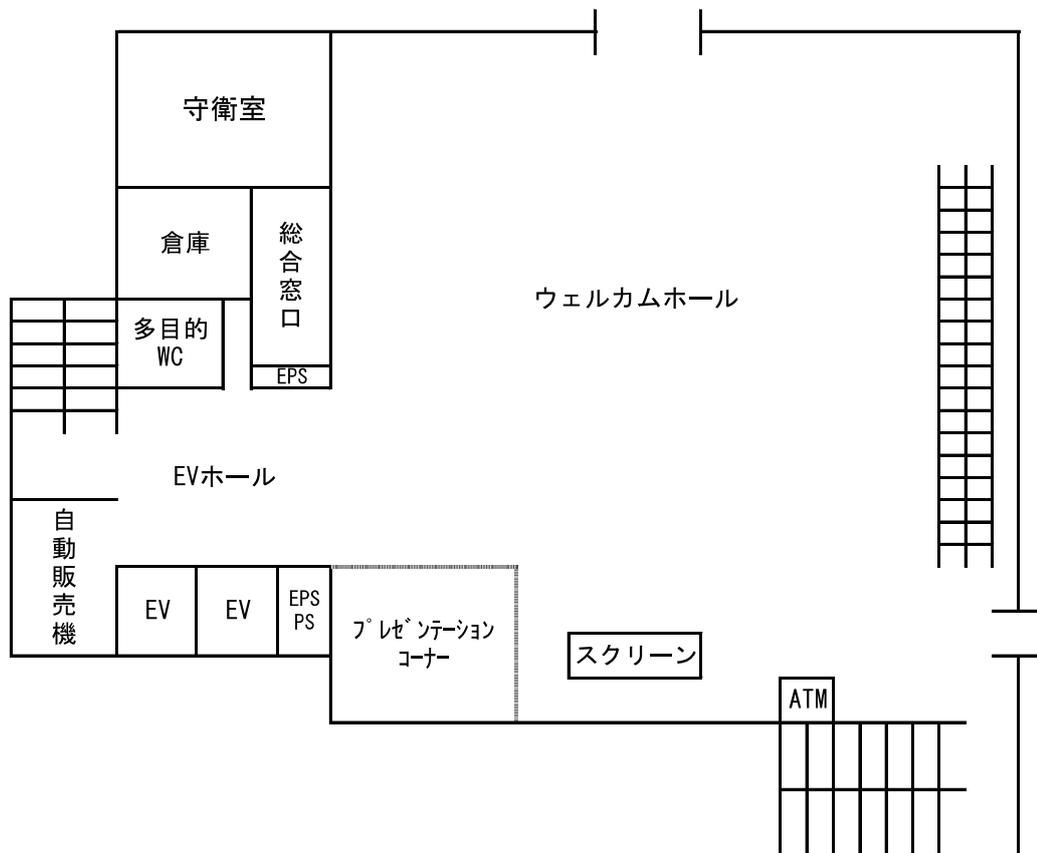
3 F

女子WC	男子WC			助手室	演習室 1	演習室 2		研究室1
多目的WC								EV
								印刷室
研究室19			演習室 3	演習室4	演習室5			研究室4
研究室18			吹き抜け	大学院 看護学研究科 院生研究室・講義室				研究室5
研究室17							研究室6	
研究室16			演習室7					研究室7
研究室15								研究室8
研究室14		給湯室	講義室5		テラス	講義室4		研究室9
研究室13		演習室6						
研究室12		研究室10						
研究室11								

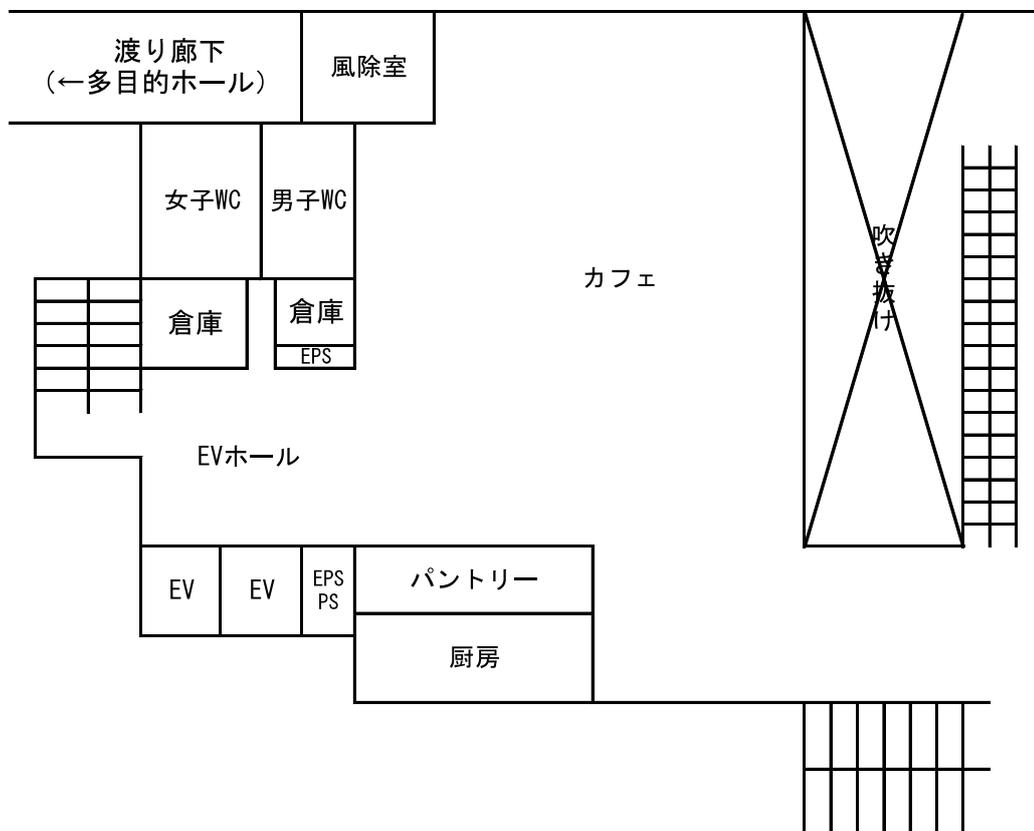
※ 看護学科棟にある教員研究室は「看研***」と略して表記されることがあります

学生会館 SAKURAUM

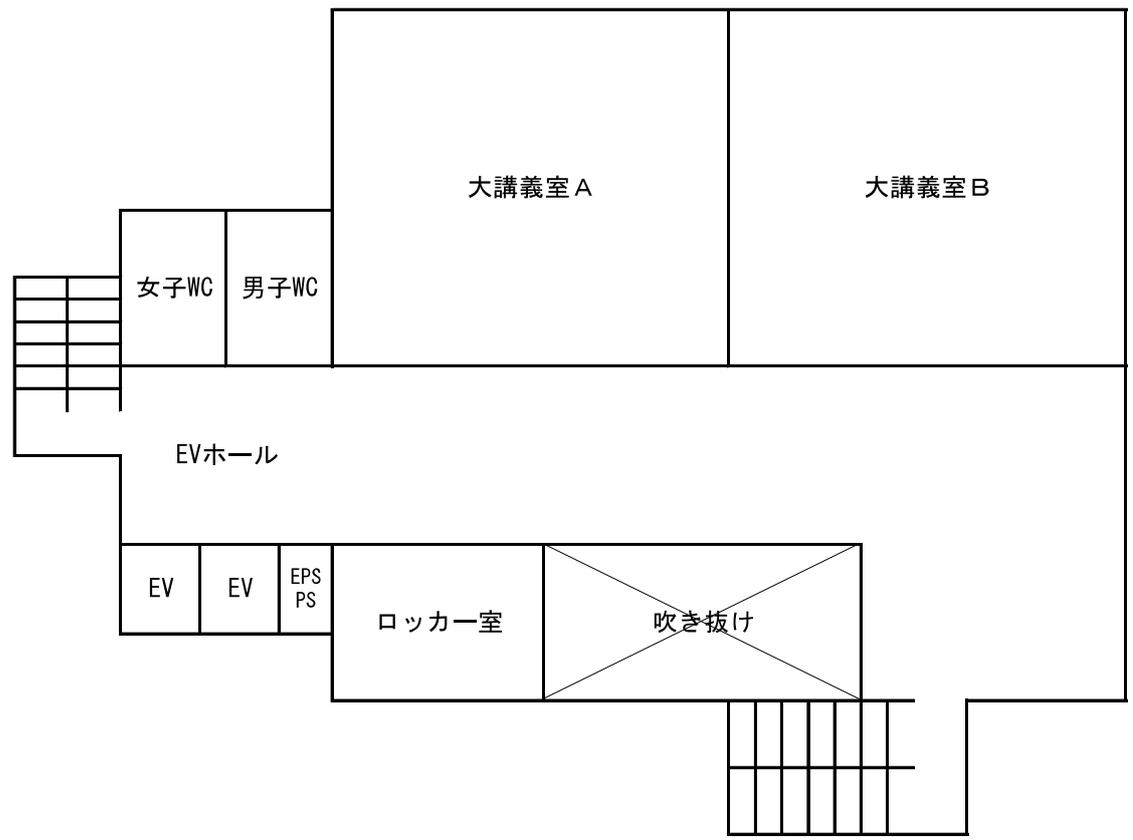
1 F



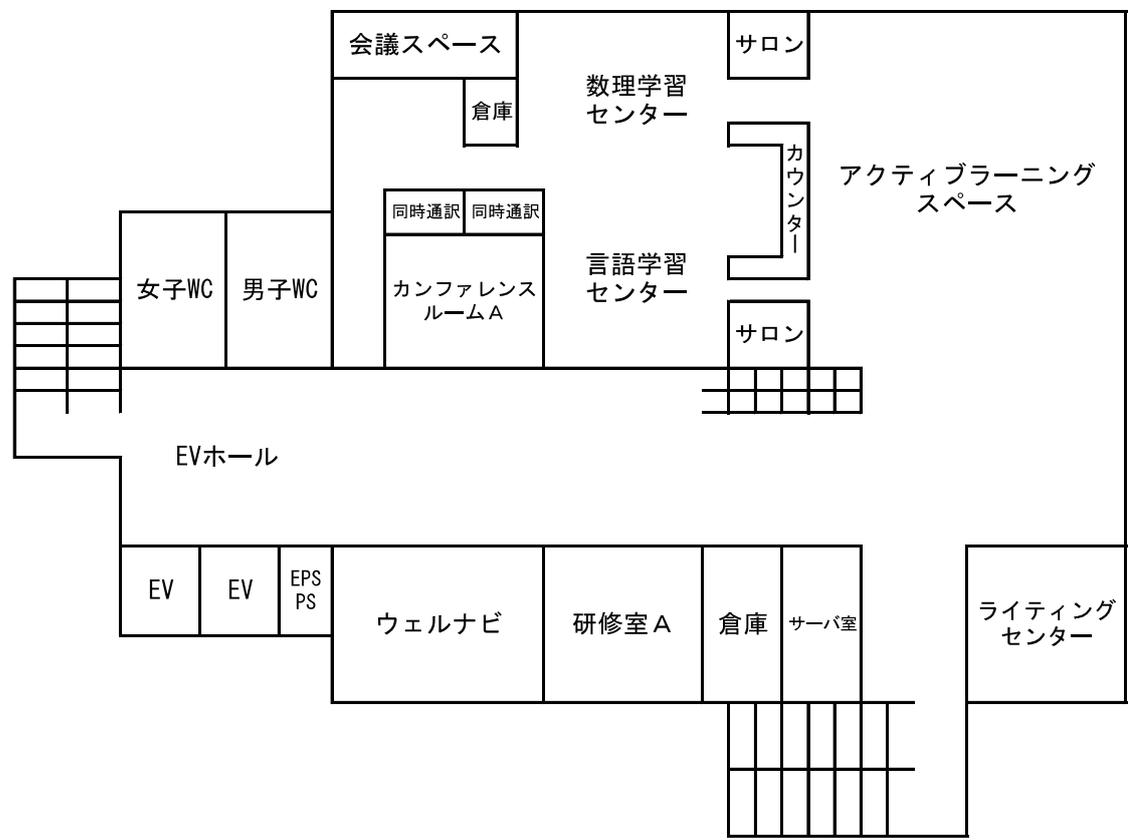
2 F



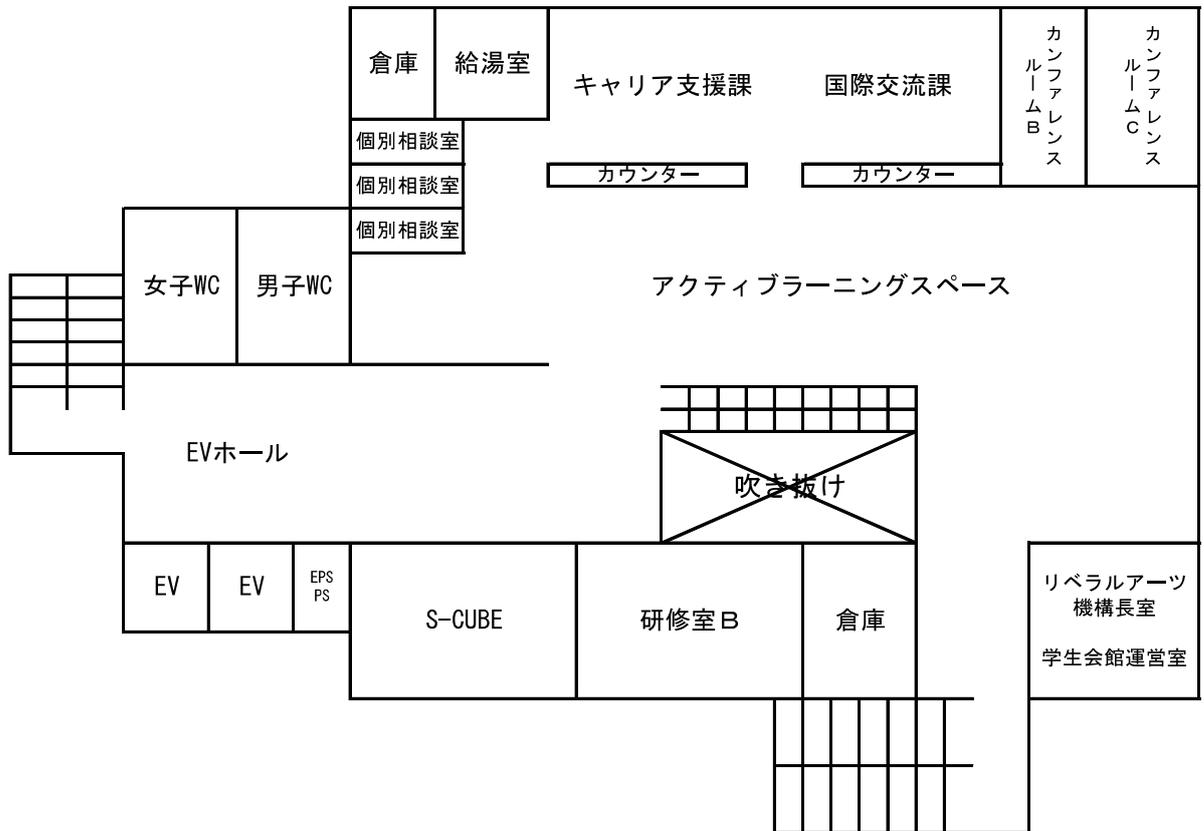
3 F



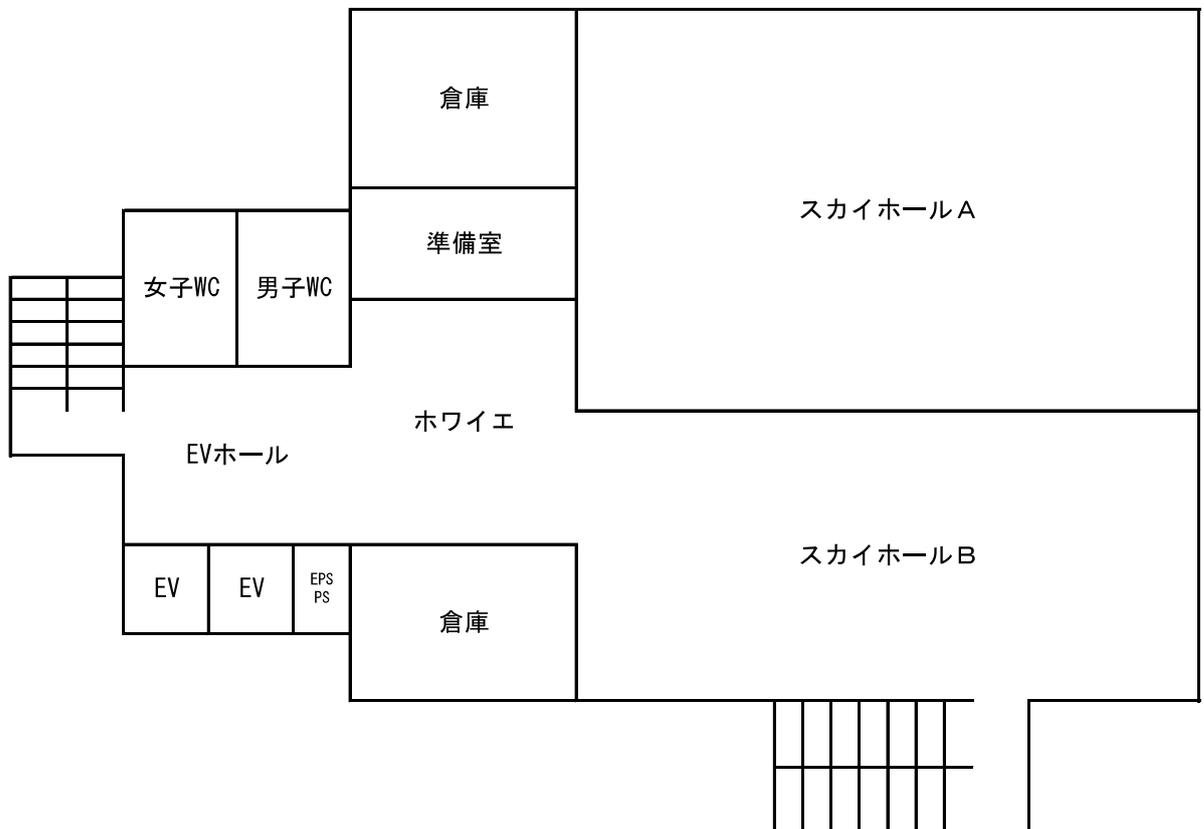
4 F



5 F



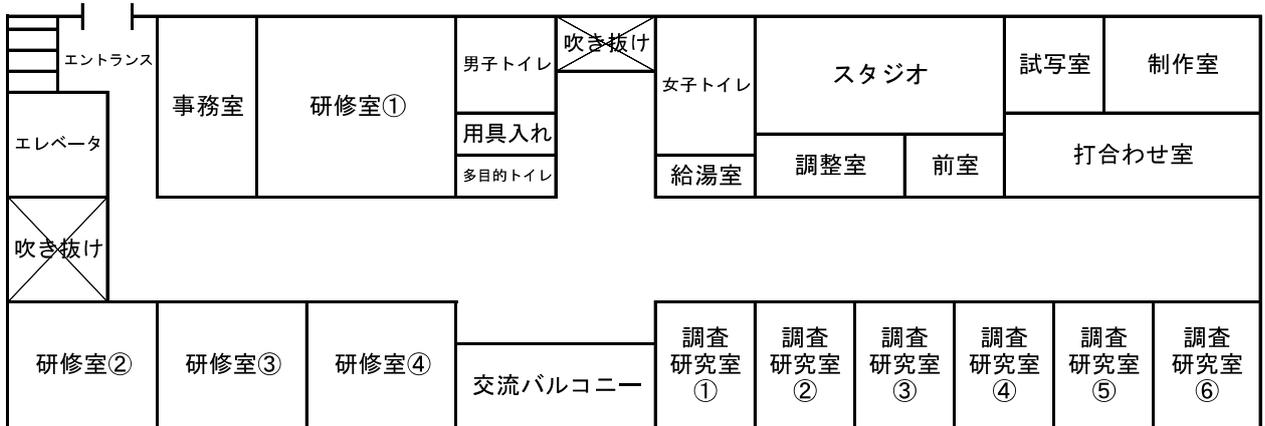
6 F



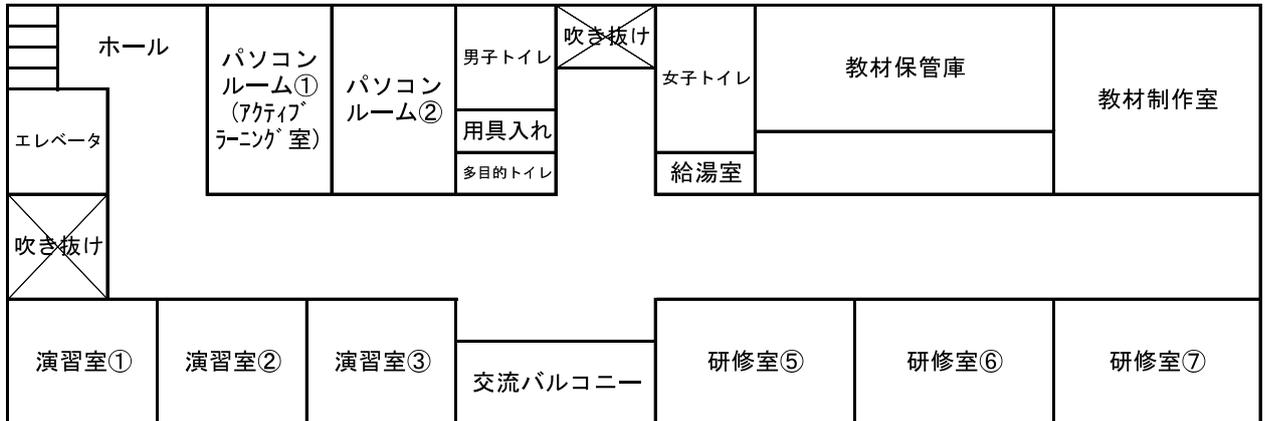
北部生涯学習推進センター

(講義・研修エリア)

1 F



2 F



【名桜大学大学院授業時間】

時 限	時 間
1	8 : 4 5 ~ 1 0 : 1 5
2	1 0 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0
休 憩	1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 0 0
3	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0
4	1 4 : 4 5 ~ 1 6 : 1 5
5	1 6 : 3 0 ~ 1 8 : 0 0
6	1 8 : 1 5 ~ 1 9 : 4 5
7	2 0 : 0 0 ~ 2 1 : 3 0

令和 2 年度 名桜大学大学院国際文化研究科便覧

2020 年 4 月発行

《編集・発行》

名桜大学 教務部教務課

〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1

TEL : 0980-51-1055

